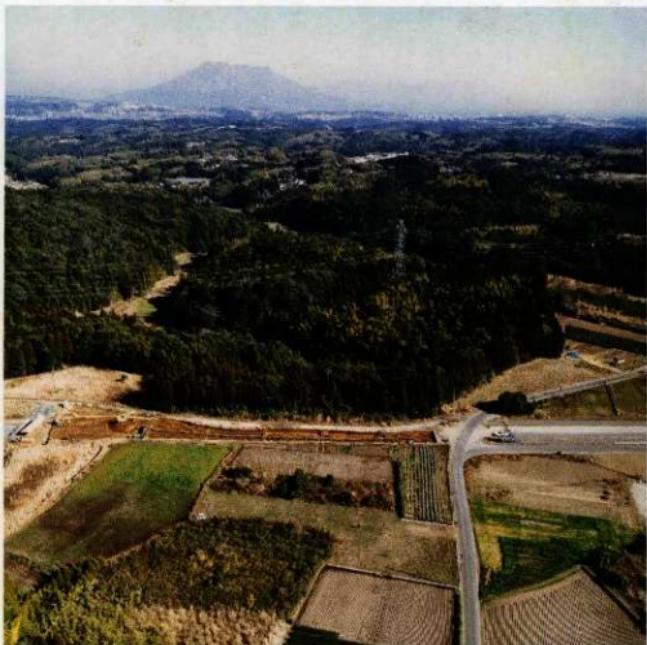


－一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－

瀬戸頭（A・B・C）遺跡



2005年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



瀬戸頭A・B・C遺跡遠景（南から）



瀬戸頭地区航空写真（昭和49年）

「国土画像情報（カラー空中写真） 国土交通省」

序 文

鹿児島県教育委員会では、一般県道小山田谷山線改良工事に伴い、平成7年度から埋蔵文化財の調査を実施してまいりました。

本報告書は、一連の調査の中から平成10年度から平成13年度にかけて本調査を実施しました「瀬戸頭 A, B, C 遺跡」の記録をまとめたものです。

各遺跡からは旧石器時代～古墳時代の遺物が発見されており、各々の時代の移り変わりを示す良好な資料を提供しております。資料の中には縄文時代草創期の丸ノミ形石斧、縄文時代早期の大規模な石錠製作址など、当時の様相を解明するうえで貴重な資料として注目されるものもあります。本書が今後の調査研究に寄与することを願います。

最後に、調査にあたりましてご協力頂いた県土木部道路建設課をはじめ、調査関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 木原俊孝

例　　言

- 1 本書は、鹿児島県立埋蔵文化財センターが、発掘調査・整理作業・報告書作成を行った鹿児島県日置郡伊集院町竹ノ山に所在する瀬戸頭A、B、C遺跡の報告書である。
- 2 発掘調査は鹿児島県立埋蔵文化財センターが、鹿児島県土木部伊集院土木事務所の依頼を受け、県道小山田・谷山線改築工事に伴う事前調査として1998年から2002年まで実施した。
- 3 本書に関する整理作業及び報告書の作成、執筆、編集は、鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて2004年度に実施し、長崎慎太郎、桑波田武志、堂込秀人が担当した。
- 4 A遺跡では調査範囲を20m四方のグリッドで区切り、北から南へはアラビア数字を、西から東へはアルファベットを用いて区分けした。B遺跡では調査範囲を10m四方のグリッドで区切り、北から南へはアラビア数字を、西から東へはアルファベットを用いて区分けした。C遺跡では調査範囲を10m四方のグリッドで区切り、南から北へはアラビア数字を、西から東へはアルファベットを用いて区分けした。遺物座標は縦軸をX、横軸をYとし、グリッドはA-1区左下を(X, Y) = (0, 0)とする。
- 5 本書で用いた標高(Z座標)は全て海拔高度を示す。
- 6 石器の挿図縮尺はⅥ層の遺物は2/3、Ⅶ層の遺物は1/1を基本とし、一部大型石器については1/2としている。縮尺は各図ごとに付してある。
- 7 実測遺物の分布図作成にあたって、データ作成を長崎、桑波田が、作図作業は土器を長崎が行い、石器を馬籠亮造の協力を得て行った。
- 8 遺物挿図番号は、文化層位別連番で、文中・属性表等の番号と一致する。
- 9 旧石器時代の石器実測については大部分を民間業者に委託し、監修は桑波田が行った。その他の石器の実測は整理作業員が行った。土器の実測は堂込、長崎、整理作業員が行った。
- 10 本書における写真撮影は、現場写真については安藤浩、黒川忠広、鶴田静彦、桑波田、藤崎光洋、有馬孝一が、遺物写真については横手浩二郎が行った。
- 11 B遺跡及びA遺跡の一部の発掘調査における労務管理については伊集院土木事務所が新和技術コンサルタントに委託して行った。
- 12 放射性炭素年代測定および樹種同定についてはパリノサーヴェイ株式会社に委託して行った。
- 13 本書における執筆分担は下記のとおりである。
長崎：I、II、III、IV第5章3(1)、V第3章2(1)
桑波田：IV第1～4章、第5章1, 2, 3(2), 4,
V第1～2章、第3章1, 2(2), VI～VII
- 14 本書に掲載した出土遺物、図面、写真等は鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管・活用する。

凡　例

本書で使用している石材の分類名称については、
3 遺跡とも共通で、下記のとおりである。

①黒曜石 A

黒色で炭状を呈する黒曜石である。桶脇町上牛鼻
産、串本野市平木場産の黒曜石に類似する。

②黒曜石 B

アメ色、ガラス質で不純物を含む。鹿児島市三船
産の黒曜石に類似する。

③黒曜石 C

不純物の少ない良質の黒曜石である。黒色のもの、
やや灰色がかったもの、アメ色のもの等様々な
ものを含む。複数の产地によるものが混在し、明確
な分離ができなかった。

④黒曜石 D

青灰色で不純物の少ない良質の黒曜石である。針
尾、淀姫産等西北九州の黒曜石に類似する。

⑤黒曜石 E

黒色、ガラス質で小粒の不純物を多く含む。大口
市日東産の黒曜石に類似する。

⑥黒色安山岩

表面が風化して灰色を呈しているが、内面は漆黒
の石材である。所々に輝石を含む。

⑦硬質頁岩

色調は青灰色を呈する。所々に白い縞状の線がみ
られる。表面は比較的きめが細かい。

⑧鉄石英

赤色を基調とした石英質の石材である。

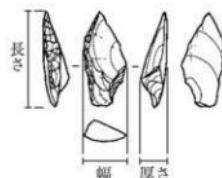
⑨タンパク石

白色を基調とした石英質の石材である。

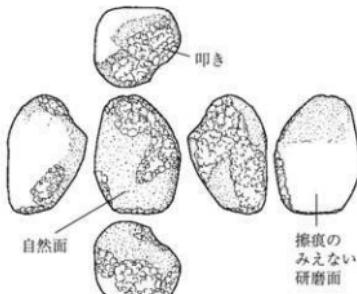
⑩無斑晶質安山岩

サスカイトに類似する石材である。

石器の計測については下記のとおりである。



石器の実測表現については下記のとおりである。



目 次

卷頭図版		
序文		89
例言		92
凡例		92
目次		94
報告書抄録		
I 発掘調査の経過	1	102
第1章 調査に至るまでの経緯	1	102
第2章 調査の組織	1	102
第3章 調査の概要	3	111
第4節 整理・報告書作成	4	115
II 遺跡の位置と環境	5	115
第1章 地理的環境	5	115
第2章 歴史的環境	5	115
III 遺跡の層位	8	122
IV 潤戸頭A遺跡	15	124
第1章 調査の方法	15	124
第2章 Ⅶ層の調査	15	124
1 概要	15	124
2 遺構	15	124
3 出土遺物	15	124
4 接合資料	15	124
第3章 Ⅶb層の調査	19	129
1 概要	19	129
2 遺構	19	129
3 出土遺物	19	129
(1) ナイフ形石器文化期	19	129
(2) 細石器文化期	22	129
第4章 Ⅶa層の調査	26	130
1 概要	26	130
2 遺構	26	130
3 出土遺物	26	130
(1) 土器	26	130
(2) 石器	26	130
第5章 Ⅲ・Ⅳ層の調査	31	130
1 概要	31	130
2 遺構	31	130
3 出土遺物	31	130
(1) 土器	31	130
(2) 石器	61	130
4 接合資料	76	130
V 潤戸頭B遺跡	89	131
第1章 調査の方法	89	131
第2章 Ⅶb～Ⅶa層の調査	89	131
1 概要	89	131

挿 図 目 次

第1図	瀬戸頭遺跡位置図	3	第43図	IV層出土土器 (7)	45
第2図	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う 遺跡位置図	4	第44図	IV層出土土器 (8)	46
第3図	周辺遺跡位置図、薩摩半島中部地形図・ 断面図	6	第45図	IV層出土土器 (9)	47
第4図	土層模式図	8	第46図	IV層出土土器 (10)	48
第5図	瀬戸頭A 遺跡土層断面図 (1)	9	第47図	IV層出土土器 (11)	49
第6図	瀬戸頭A 遺跡土層断面図 (2)	10	第48図	IV層出土土器 (12)	50
第7図	瀬戸頭A 遺跡土層断面図 (3)	11	第49図	IV層出土土器 (13)	51
第8図	瀬戸頭B 遺跡土層断面図 (1)	12	第50図	IV層出土土器 (14)	52
第9図	瀬戸頭B 遺跡土層断面図 (2)	13	第51図	IV層出土土器 (15)	53
第10図	瀬戸頭C 遺跡土層断面図	14	第52図	IV層出土土器 (16)	54
瀬戸頭A 遺跡			第53図	IV層出土土器 (17)	55
第11図	調査区と周辺地形図	16	第54図	IV層出土土器 (18)	56
第12図	V層の出土遺物	17	第55図	IV層出土土器 (19)	56
第13図	接合資料 (1)	17	第56図	IV～III層石器出土状況図	62
第14図	接合資料 (2)	18	第57図	IV～III層石鐵製作関連遺物	
第15図	VII層遺物出土状況図	18		出土状況図	62
第16図	接合状況図	18	第58図	IV～III層実測石器出土位置図	63
第17図	VII b 層遺物出土状況図	20	第59図	IV層出土石器 (1)	64
第18図	VII b 層遺物出土状況図	20	第60図	IV層出土石器 (2)	65
第19図	VII b ~ VII a 層遺物出土状況図	21	第61図	IV層出土石器 (3)	66
第20図	VII b - A ブロック出土遺物	23	第62図	IV層出土石器 (4)	67
第21図	VII b - A ブロック遺物出土状況図	23	第63図	IV層出土石器 (5)	68
第22図	VII b ~ VII a 層出土遺物	24	第64図	IV層出土石器 (6)	69
第23図	VII b - E ブロック遺物出土状況図	25	第65図	IV層出土石器 (7)	70
第24図	縄群	26	第66図	IV層出土石器 (8)	71
第25図	VII b 層出土遺物 (1)	27	第67図	IV層出土石器 (9)	72
第26図	VII b 層出土遺物 (2)	28	第68図	IV層出土石器 (10)	73
第27図	VII a 層出土遺物	29	第69図	IV層出土石器 (11)	74
第28図	土坑 1 ~ 4	32	第70図	IV層出土軽石製品	75
第29図	土坑 5 ~ 7 + ピット 1 ~ 3	33	第71図	接合資料	76
第30図	集石 1 ~ 3	34	第72図	縄文時代前期～後期土器出土状況図	79
第31図	IV層遺構配置図	34	第73図	縄文時代前期～後期土器	80
第32図	縄文時代早期土器出土状況図	35	第74図	縄文時代後期土器	81
第33図	IV層土器出土状況図 (1)	36	第75図	古墳時代土坑 1 ~ 2	82
第34図	IV層土器出土状況図 (2)	37	第76図	II層遺構配置および遺物出土状況図	83
第35図	IV層土器出土状況図 (3)	38	第77図	古代以降の溝状遺構	84
第36図	IV層出土土器 (1)	39	第78図	古代～中世の土坑 1 ~ 3	84
第37図	IV層出土土器 (2)	40	第79図	古代～中世の土坑 4 ~ 5	85
第38図	IV類土器の分類	40	第80図	II層出土遺物 (1)	86
第39図	IV層出土土器 (3)	41	第81図	II層出土遺物 (2)	87
第40図	IV層出土土器 (4)	42	瀬戸頭B 遺跡		
第41図	IV層出土土器 (5)	43	第82図	縄群	89
第42図	IV層出土土器 (6)	44	第83図	調査区と周辺地形図	90
			第84図	VII b ~ VII a 層遺物出土状況図	91
			第85図	VII b ~ VII a 層器種別出土状況図	91

第86図	VII b層～VII a層実測遺物出土状況	93
第87図	VII b層～VII a層出土遺物	94
第88図	VII a層出土遺物（1）	95
第89図	VII a層出土遺物（2）	96
第90図	VII a層出土遺物（3）	97
第91図	VII a層出土遺物（4）	98
第92図	拾遺1（細石刃核）	99
第93図	拾遺2（細石刃核）	100
第94図	縄文時代早期土器出土状況図	103
第95図	IV層出土土器（1）	104
第96図	IV層出土土器（2）	105
第97図	IV層出土土器（3）	106
第98図	IV層出土土器（4）	107
第99図	IV層出土土器（5）	108
第100図	IV層出土土器（6）	109
第101図	IV層出土土器（7）	110
第102図	IV層石器出土状況図	112
第103図	IV層実測石器出土状況図	112
第104図	IV層出土石器（1）	113
第105図	IV層出土石器（2）	114
瀬戸頭C遺跡		
第106図	疊群	115
第107図	調査区と周辺地形図	116
第108図	VIII層遺物出土状況図	117
第109図	VIII層接合図	117
第110図	VIII層出土遺物	118
第111図	VIII層接合資料（1）	119
第112図	VIII層接合資料（2）	120
第113図	VIII層接合資料（3）	121
第114図	VIII層接合資料（4）	122
第115図	石鏃製作模式図	125
第116図	各遺跡の層別石材利用状況	127
第117図	瀬戸頭A,B,C遺跡石器群変遷図	128

表 目 次

表1 一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧	表12 前期～後期実測土器観察表	81
	表13 II層実測遺物観察表	88
表2 漢戸頭A・B・C遺跡周辺遺跡一覧	表14 拾遺細石刃核計測表	100
表3 VII層実測遺物観察表	表15 VII b～VII a層実測遺物観察表	101
表4 VII b・VII a層実測遺物観察表	表16 III・IV層実測土器観察表(1)	102
表5 拾遺遺物観察表	表17 III・IV層実測土器観察表(2)	108
表6 III・IV層実測土器観察表(1)	表18 III・IV層実測土器観察表(3)	110
表7 III・IV層実測土器観察表(2)	表19 III・IV層実測石器観察表	111
表8 III・IV層実測土器観察表(3)	表20 VII層実測石器観察表	123
表9 III・IV層実測土器観察表(4)	表21 漢戸頭A・B遺跡放射性炭素年代測定および樹種同定結果	129
表10 III・IV層実測石器観察表(1)	表22 漢戸頭A・B遺跡暦年較正結果	129
表11 III・IV層実測石器観察表(2)		

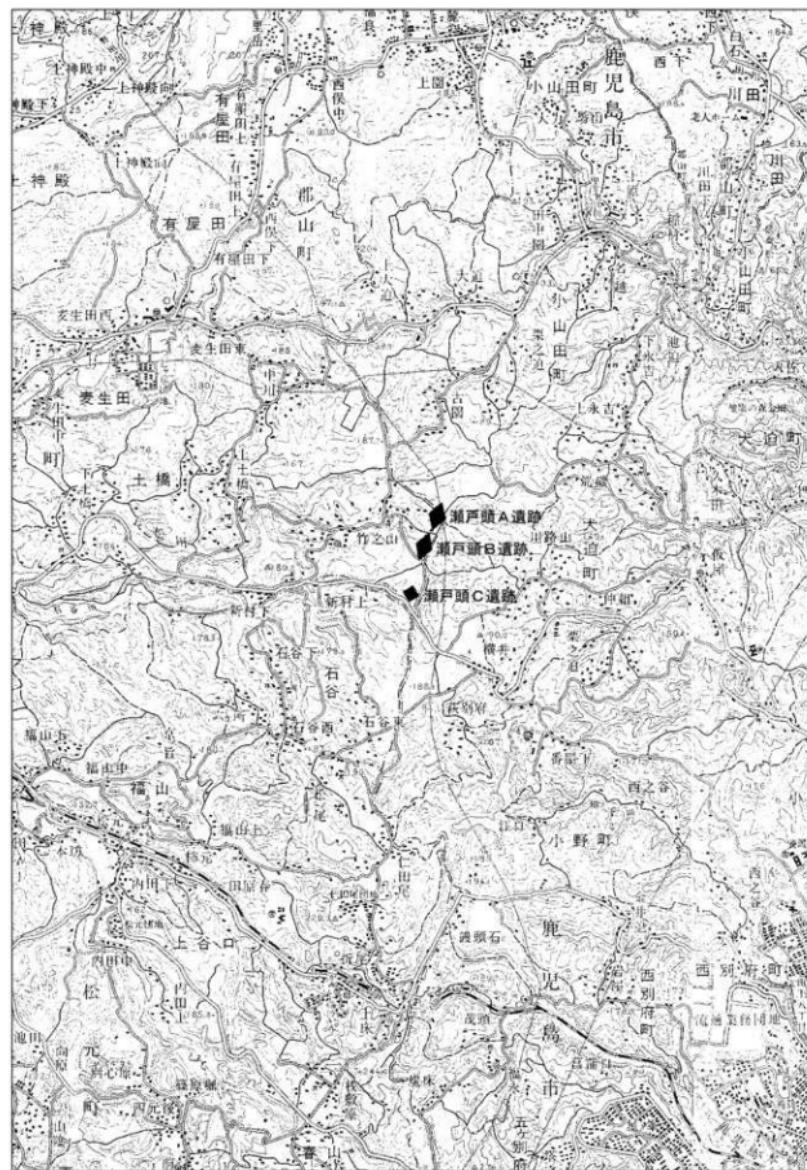
図 版 目 次

Plate1 1 漢戸頭A・B・C遺跡遠景	7 遺跡全景	135
Plate2 1 漢戸頭A遺跡 繩文時代調査風景	Plate6 1 土層断面	136
2 繩文時代早期遺物出土状況	2 前平式土器出土状況	136
3 集石遺構検出状況	3 早期土器出土状況	136
4 土坑調査状況	4 繩文草創期土器出土状況	136
5 塞ノ神式土器出土状況	5 溝状遺構	136
6 石槍出土状況	6 早期土器出土状況	136
7 古代～中世土坑	Plate7 1 漢戸頭C遺跡調査風景	137
8 繩文時代早期土坑	2 磁群と遺物出土状況	137
Plate3 1 土層断面	3 磁群検出状況	137
2 溝状遺構	4 VII層ブロック検出状況	137
3 土坑	5 完掘状況	137
4 鉄石出土状況	Plate8 漢戸頭A遺跡	
Plate4 1 漢戸頭B遺跡	VII層～VII b層出土遺物	138
2 旧石器時代調査風景	Plate9 1 VII層接合資料	139
3 繩文時代草創期磁群検出状況	2 細石刃核	139
4 丸ノミ形石斧出土状況	Plate10 1 石斧・叩石	140
5 VII a層遺物出土状況	2 石鏃	
6 VII b層遺物出土状況	Plate11 復元された早期土器(1)	141
7 台形石器出土状況	Plate12 復元された早期土器(2)	142
8 完掘状況	Plate13 早期土器(II・III類)	143
Plate5 1 VII a層磁群検出状況	Plate14 IV類土器(1)	144
2 早期土器出土状況	Plate15 IV類土器(2)	145
3 異形石器出土状況	Plate16 IV-a類土器	146
4 VII a層遺物出土状況	Plate17 IV-b類土器	147
5 繩文草創期土器出土状況	Plate18 IV類土器(3)	148
6 完掘状況	Plate19 IV類土器(4)	149
	Plate20 IV類土器(5)	150

Plate21 IV - c, IV - d, VI類土器	151
Plate22 IV, V類土器	152
Plate23 石鎌	153
Plate24 石匙, 石槍, スクレイパー	154
Plate25 石斧, スクレイパー, 石皿	155
Plate26 石核	156
Plate27 磨石, 叩石, 凹石	157
Plate28 碓器, 軽石製品	158
Plate29 軽石	159
Plate30 IV, VII, VIII類土器	160
Plate31 縄文時代前～後期土器	161
Plate32 1 縄文時代中～後期土器（底部）	162
2 土師器（墨書）	162
Plate33 成川式土器・土師器	163
Plate34 土師器・須恵器	164
Plate35 1 縄文時代早期接合石器	165
2 潬戸頭B遺跡ナイフ形石器	165
Plate36 潬戸頭B遺跡細石器	166
Plate37 石鎌, スクレイパー, 叩石	167
Plate38 縄文草創期土器	168
Plate39 I, II類土器	169
Plate40 III類土器（1）	170
Plate41 III類土器（2）	171
Plate42 III類土器（3）	172
Plate43 III, V類土器	173
Plate44 IV類土器	174
Plate45 石匙, 異形石器, 叩石, 碓器	175
Plate46 潬戸頭C遺跡VII層出土遺物	176
Plate47 1 発掘作業員	177
2 整理作業員	177

報 告 書 抄 錄

ふりがな	せとがしらうーいせき	せとがしら ひーいせき	せとがしらしーいせき			
書名	瀬戸頭A遺跡 瀬戸頭B遺跡 瀬戸頭C遺跡					
副書名	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II					
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第85集					
編著者名	堂込秀人 長崎慎太郎 桑波田武志					
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター					
所在地	〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1 Tel:0995-48-5811					
発行年月日	2005年3月					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ○○○○ 東経 ○○○○	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
せとがしらうーいせき 瀬戸頭 A 遺跡	かごしまけん 鹿児島県 くわきじゅく 日置郡 ひきぐん 伊集院町 いじゅいんまち 竹之山	463639	30-75-0 130 28 21	31 37 54 19980506- 19980918 19990412- 19990709 20000601- 20001117	6000	一般県道小山田谷山線改良工事
せとがしらうーいせき 瀬戸頭 B 遺跡	タ	463639	30-76-0 130 28 16	31 37 45 20011203- 20020322	2400	タ
せとがしらしーいせき 瀬戸頭 C 遺跡	タ	463639	30-77-0 130 28 12	31 37 33 19990712- 19990928	2000	タ
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
瀬戸頭 A 遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代草創期 縄文時代早期 縄文時代中期 縄文時代後期 古墳時代 古代～中世	ブロック 6基 ブロック 1基 ブロック 5基、礫群 1基 土坑、ヒット、集石 土坑 土坑、薄状遺構	台形石器、ナイフ形石器、スクレイパー、石核 礫石刃核 土器、石器、石斧、叩石 石核式土器、塞ノ神式土器、石器、石器、異形石器 阿高式系土器 指宿式土器 成川式土器 須恵器、土器群、磨光土器		最終末期 野岳、休場型 丸ノミ形石斧 石器製作址
瀬戸頭 B 遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代草創期 縄文時代早期	ブロック 19 基、礫群 1 基 ブロック 1 基	台形石器、ナイフ形石器、三段尖頭器 礫石刃核、礫石器、便器石器 土器、石器、スクレイパー 吉田式土器、石坂式土器、石器、石器、異形石器		最終末期
瀬戸頭 C 遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期	ブロック 2 基、礫群 1 基	台形石器、ナイフ形石器、尖頭器		円筒形条紋土器
要約		瀬戸頭 A 遺跡ではナイフ形石器文化後半期の包含層が 2 枚確認され、特に最終末期の様相が層位的に良好に把握された。細石器文化期では野岳、休場型細石刃核単純の石器群が出土した。縄文時代草創期の丸ノミ形石斧も特筆すべきものである。縄文時代早期後半は塞ノ神式土器を中心とし、それに伴う大規模な石器製作址や異形石器、軽石製品等が確認された。				
		瀬戸頭 B 遺跡はナイフ形石器文化終末期の遺物と細石器文化期の遺物が出土した。縄文時代草創期は土器粒と石器が出土している。縄文時代早期は石坂式土器を中心とし、吉田式、平柄式等も確認された。中九州で特徴的な円筒形条線文土器も特筆される。石器では異形石器の出土が特筆される。				
		瀬戸頭 C 遺跡はナイフ形石器文化後半期の台形石器、ナイフ形石器の製作址が確認され、接合もいくつかみられる。				



遺跡位置図

S=1/50000

I 発掘調査の経過

第1章 調査に至るまでの経緯

鹿児島県土木部（鹿児島土木事務所、伊集院土木事務所）は、県道小山田谷山線改良工事を計画し、鹿児島県教育委員会文化財課に照合した。それを受けた文化財課は平成8年に同事業区内について分布調査を実施した。その結果、日置郡伊集院町竹ノ山瀬戸戸頭地区内の瀬戸戸頭A地区、瀬戸戸頭B地区、瀬戸戸頭C地区において遺物が採集された。

のことから、県土木部と県教育委員会は、その3地区の取り扱いについて協議を行い、9年度に確認調査を実施することとした。

平成9年度の確認調査の結果、瀬戸戸頭A遺跡では歴史時代・縄文時代早期・旧石器時代の3枚、瀬戸戸頭B遺跡では縄文時代早期と旧石器時代の2枚、瀬戸戸頭C遺跡では旧石器時代の1枚の遺物包含層が確認され、着工前に緊急発掘調査が必要となった。

その結果、瀬戸戸頭A遺跡では平成10・11・12年度、瀬戸戸頭B遺跡では平成13年度、瀬戸戸頭C遺跡では平成11年度に緊急発掘調査を実施した。平成16年度は瀬戸戸頭A遺跡はかの整理・報告書作成作業を県立埋蔵文化財センター内で実施した。

第2章 調査の組織

平成9年度 確認調査

事業主体者 鹿児島県土木部（鹿児島土木事務所）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育委員会文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 吉元 正幸

調査企画者

次長兼総務課長 尾崎 進

主任文化財主事 戸崎 勝洋

兼調査課長

調査課長補佐 新東 晃一

兼第一調査係長

文化財主事 中村 耕治

文化財主事 安藤 浩

文化財研究員 黒川 忠広

文化財調査員 西園 勝彦

主査 前屋敷裕徳

主査 政倉 孝弘

主事 追立ひとみ

平成10年度 本調査（A遺跡）

事業主体者 鹿児島県土木部（道路建設課）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育委員会文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 吉永 和人

調査企画者 次長兼総務課長 尾崎 進

調査課長 戸崎 勝洋

調査課長補佐 新東 晃一

兼第一調査係長

主任文化財主事 青崎 和憲

調査担当者 文化財主事 安藤 浩

文化財研究員 黒川 忠広

事務担当者 主査 政倉 孝弘

主査 前屋敷裕徳

主事 深瀬 佳子

平成11年度 本調査（A遺跡・C遺跡）

事業主体者 鹿児島県土木部（伊集院土木事務所）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育委員会文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 吉永 和人

調査企画者 次長兼総務課長 黒木 友幸

主任文化財主事 戸崎 勝洋

兼調査課長補佐 新東 晃一

兼第一調査係長

主任文化財主事 中村 耕治

調査担当者 文化財主事 鶴田 静彦

文化財研究員 桑波田武志

事務担当者 総務係長 有村 貢

主査 政倉 孝弘

主査 今村孝一郎

主事 深瀬 佳子

平成12年度 本調査（A遺跡）

事業主体者 鹿児島県土木部（鹿児島土木事務所）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育委員会文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 井上 明文

調査企画者

次長兼総務課長	黒木 友幸	主任文化財主事	池畠 耕一
主任文化財主事	新東 見一	兼第一調査係長	
兼調査課長		主任文化財主事	中村 耕治
調査課長補佐	立神 次郎	作成担当者	
主任文化財主事	青崎 和憲	文化財主事	堂込 秀人
兼第一調査係長		文化財研究員	長崎慎太郎
主任文化財主事	中村 耕治	文化財研究員	桑波田武志
調査担当者		事務担当者	
文化財主事	藤崎 光洋	総務係長	平野 浩二
文化財研究員	桑波田武志	主 事	福山恵一郎
事務担当者		報告書作成検討委員会	
総務係長	有村 賢	平成16年12月24日	所長他9名
主 事	溜池 佳子	報告書作成指導委員会	
		平成16年12月27日	調査課長他4名
平成13年度 本調査（B遺跡）		企画担当者	
事業主体者	鹿児島県土木部（鹿児島土木事務所）	文化財主事	宮田 栄二
調査主体者	鹿児島県教育委員会	文化財研究員	馬籠 亮道
企画・調整	鹿児島県教育委員会文化財課	整理・報告書作成業従事者（平成16年度）	
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	紙屋広一、河原橋藤子、坂元昭子、田代祐子	
所 長	井上 明文	寺園洋子、須賀マリ子、西内薰、湯之上さゆり	
調査企画者		高橋亨、土井明子、原田純代	
次長兼総務課長	黒木 友幸		
主任文化財主事	新東 見一		
兼調査課長			
調査課長補佐	立神 次郎		
主任文化財主事	青崎 和憲		
兼第一調査係長			
主任文化財主事	中村 耕治		
調査担当者			
文化財主事	藤崎 光洋		
文化財研究員	有馬 孝一		
事務担当者			
総務係長	前田 昭信		
主 査	栗山 和巳		
主 事	池 珠美		
労務管理・作業員雇用（委託）			
新和技術コンサルタント			
平成16年度 報告書作成			
事業主体者	鹿児島県土木部（鹿児島土木事務所）		
調査主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育委員会文化財課		
作成責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター		
所 長	木原 俊孝		
作成企画者			
次長兼総務課長	賞雅 彰		
調査課長	新東 見一		
調査課長補佐	立神 次郎		

第3章 調査の概要

平成9年度は、9月29日から10月9日まで瀬戸頭B地区と瀬戸頭A地区で、翌2月2日から2月20日までは瀬戸頭A地区の残りと瀬戸頭C地区的確認調査を実施した。

瀬戸頭A遺跡では、12箇所のトレチを設定し、うち7箇所から旧石器時代の細石刃、細石核、剥片、碎片、縄文時代早期の窓ノ神式土器、碎片、歴史時代の古道跡、古錢が確認された。瀬戸頭B遺跡では4箇所のトレチを設定し、すべてから遺物が出土した。全域から旧石器時代の細石刃、細石核、剥片、碎片が出土し、一部では縄文時代早期土器が出土した。瀬戸頭C遺跡では、4箇所のトレチを設定し、うち2箇所から旧石器時代の黒曜石剥片が出土した。

瀬戸頭A遺跡は、建設設計図センター杭No.196を基準にして遺跡全体に20m四方のグリッドを設定した。最も北側を1区としB遺跡側のもっとも南側を17区とした。また建設設計図センター杭から西側にむけてA区、Z区とし、東側に向けてB区とした。

本調査は、平成10年度は5月6日から9月18日まで1~8区間で実施し、平成11年度は4月12日から7月9日まで9~13区間で実施し、平成12年度は6月1日から11月17日まで14~17区間で実施した。

遺構は、旧石器時代の礫群・ブロック、縄文時代

早期の集石遺構・土坑・ピット、歴史時代のⅢ層を埋土とするⅢ層上面の溝状遺構・土坑を検出した。遺物では、旧石器時代の台形石器・ナイフ形石器・搔器・細石刃・細石刃核・フレーク・チップ、縄文時代の石板式土器・平格式土器・塞ノ神式土器・指宿式土器、石器は丸ノミ形石斧・石鎌・石槍・石匙・石斧・櫛器・磨石・石皿などが出土している。軽石の中には軽石製加工品と思われるものも見られた。また、古墳時代の成川式土器、古代・中世の土師器、近世の寛永通宝も出土している。

瀬戸頭B遺跡は、建設設計図センター杭No.220を基準にして遺跡全体に10m四方のグリッドを設定した。最も北側を1区としC遺跡側のもっとも南側を15区とした。また建設設計図センター杭から西側にむけてB区、A区とし、東側に向けてC区、D区とした。

平成13年度の12月3日から翌3月22日まで本調査を実施した。

遺構では、旧石器時代のブロック・砾群、歴史時

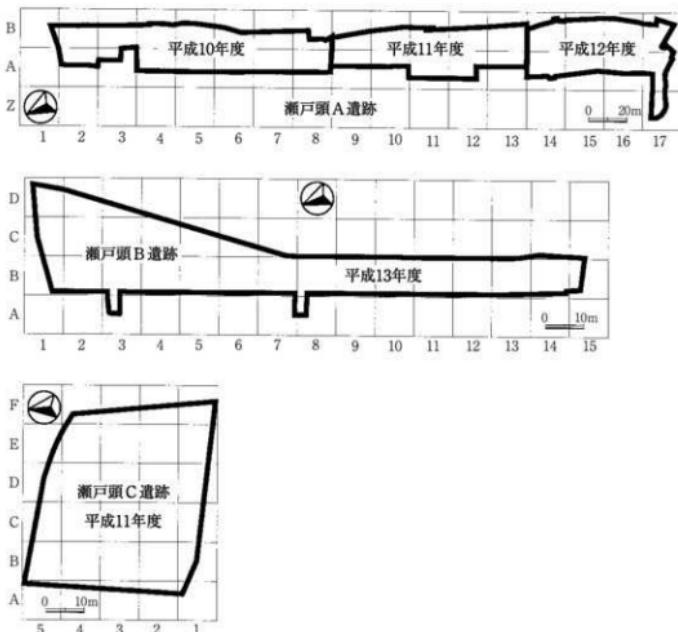
代の古道跡を検出した。遺物では旧石器時代の細石刃・細石刃核・ハンマー・剥片・チップ、縄文時代の草創期土器および早期の石坂式・吉田式・平格式土器と石鎌・磨石・石皿・石匙・異形石器、古代・中世の土師器が出土した。

瀬戸頭C遺跡は、建設設計図センター杭No.245とNo.246の中間の地点を基準にして遺跡全体に10m四方のグリッドを設定した。最も南側を1区としB遺跡側のもっとも北側を5区とした。また建設設計図センター杭から西側にむけてC区、B区、A区とし、東側に向けてD区、E区、F区とした。

本調査は、平成11年度の7月12日から9月28日まで実施した。

遺構では、旧石器時代の砾群・ブロックを検出した。遺物では、旧石器時代の台形石器・剥片が出土した。

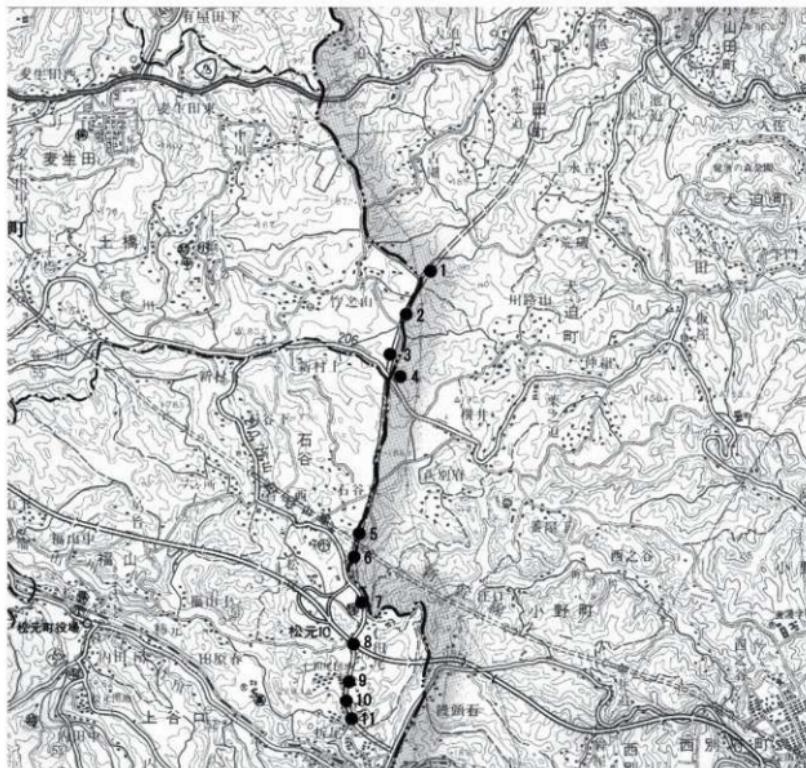
平成16年度は瀬戸頭A遺跡ほかの整理・報告書作成作業を県立埋蔵文化財センター内で実施し、3月末埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。



第1図 瀬戸頭遺跡位置図

表1 一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	確認調査	全面調査	調査面積	時代	備考
1	瀬戸頭 A	伊集院町竹之山	H9	H11・12・13	6,000	旧石器・縄文・古代	本報告書
2	瀬戸頭 B	伊集院町竹之山	H9	H13	2,400	旧石器・縄文	本報告書
3	瀬戸頭 C	伊集院町竹之山	H9	H11	2,000	旧石器	本報告書
4	横井竹ノ山	鹿児島市大迫町横井	H11	H11・12	1,400	旧石器・縄文・古代	H16刊行
5	伏野	鹿児島市石谷町伏野	H12	H14	360	旧石器	
6	隠迫	鹿児島市石谷町隠迫	H12	H14	2,000	旧石器2・縄文・古代	
7	坪堀	鹿児島市石谷町坪堀	H4・12	H8・9・14	2,200	縄文	
8	仁田尾	鹿児島市石谷町仁田尾	H9	H7~11・14・15	4,110	旧石器2・縄文	
9	御飯屋跡	鹿児島市石谷町仁田尾	H14	H14・15	1,800	旧石器2	
10	仁田尾中 A	鹿児島市石谷町仁田尾	H12	H14・15	1,000	旧石器	
11	仁田尾中 B	鹿児島市石谷町仁田尾	H11・12	H12~15	7,800	旧石器2・縄文・古代	



第2図 一般県道小山田谷山線改良工事に伴う遺跡位置図

II 遺跡の位置と環境

第1章 地理的環境

瀬戸頭A・B・C遺跡は、鹿児島県日置郡伊集院町竹之山瀬戸頭に所在する。伊集院町の地形は、北に重平山、南西に矢筈・諸正の両岳があるほか海拔150m前後の火山灰台地（シラス台地）と丘陵からなり。この台地は神ノ川とその支流によって開拓された狭い谷底平野と、これらによって分断された火山灰台地となる。

地質的特徴として、北部の重平山と町中心部の徳重地区南西部が輝石安山岩からなり、南西部の矢筈岳や諸正岳などの山地は中生代の四万十層に属する砂岩と頁岩の互層からなり、町の大部分を占める台地はシラスで構成されることが挙げられる。気候は、海に面しない盆地地形の特徴から内陸気候的で、南国としては冬季の冷え込みが強い。

また、位置的には薩摩半島のほぼ中央で標高の低い地峡部を占める。東は鹿児島市、南は旧松元町、西は日吉町、北は東市来町・旧都山町と接し、その地理的位置から日置郡の中心として発達してきた。近年、隣接する旧日置郡松元町、同郡山町が鹿児島市に編入合併している。

町内を、鹿児島と福岡・熊本を結ぶ鹿児島本線、国道3号線といった交通の大動脈が走り、九州新幹線、南九州西回り自動車道といった高速交通網も近年整備された。交通の利便性から、西部の台地に大型住宅団地が造成され、鹿児島市のベッドタウンとして的一面もある。

遺跡の所在地は、伊集院町、鹿児島市、旧松元町の3市町の境界になり、県道徳重・横井・鹿児島線の北側に位置する。遺跡は海拔約160mの台地で、鹿児島湾側と東シナ海側との分水嶺にあり、東西方向へ複雑に谷が開析している。河川は遺跡を跨るよう東から北に荒磯川、永吉川、古園川、北から西に大倉田川、長松川、石谷川、南側に新川の支流である西之谷川が流れている。

台地は南北に長く、季節によりサツマイモ・蕪が栽培されている。特に遺跡の東側には現在も湧水を利用した追田が営まれており、本遺跡が古来より水の便に恵まれていたことがわかる。なお、遺跡東側の追田と本遺跡との比高差は約100mで急な傾斜地になっている。

第2章 歴史的環境

伊集院町で最も古い時期の遺跡は、ナイフ形石器文化期の遺物が出土した永迫平遺跡（下谷口）や大田城跡（大田）がある。旧石器時代の終わりの細石器文化期には、隣接する旧松元町の仁田尾遺跡が存在するが、伊集院町でも竹之山B遺跡、松ヶ迫遺跡（竹之山）などの遺跡で同時期の石器が出土し、竹之山B遺跡ではおとし穴も発見されている。

縄文時代草創期にも瀬戸頭遺跡や隣接する鹿児島市竹之山、旧松元町の仁田尾などの遺跡で、土器や石器が出土している。早期では永迫平遺跡で竪穴住居跡9軒、連穴土坑3基、集石遺構12基、遺跡などが発見され、初期の定住集落が確認された。これと同じ時期の上山路山遺跡（大田）では、遺跡や集石遺構などが発見され、大田城跡でも土坑・集石遺構が発見されている。稲荷原遺跡（恋之原）や上山路山遺跡では、これらより一段階古い時期の、赤色顔料が塗られた土器が発見されている。早期後半になると遺跡数は少くなり、この傾向は弥生時代・古墳時代まで続く。

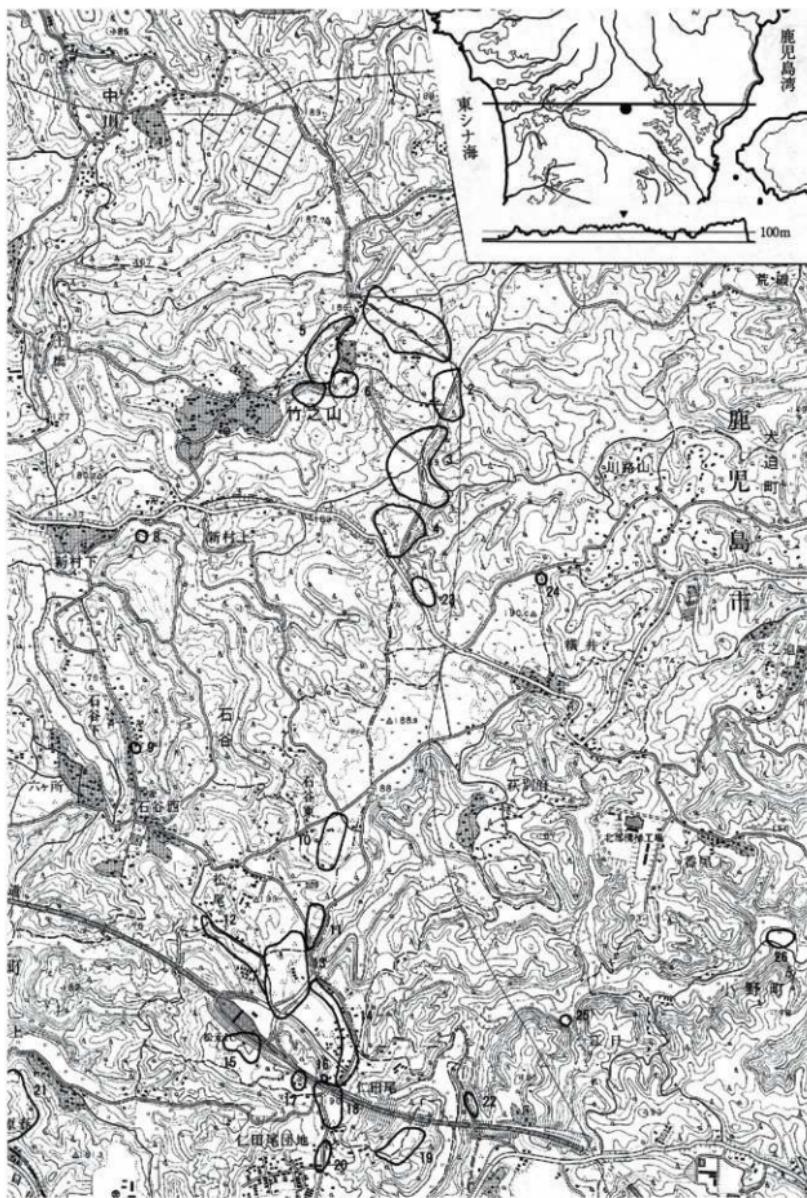
古代は、伊集院町は薩摩国日置郡に属し、郡の納租の品物を管理するための倉庫である「院」がおかれたとみられている。また、郡家所在地によく見られる「郡」の字の、伊集院町郡は日置郡家所在地の可能性も考えられている。郡字内では山ノ脇遺跡や梅落遺跡、西原遺跡などで古代の遺構・遺物が発見されている。他にも、柳原遺跡（下谷口）では土坑・溝などに伴って多くの土師器・須恵器が出土しており、内面や外面に丹が塗られた内赤土器や赤色土器が多く、墨書き土器も含まれている。

中世は、大隅正八幡領と大前氏、紀姓伊集院氏、島津莊島津氏、地頭（伊集院）島津氏などが、所領をめぐり抗争を繰り広げていたようである。「建久図帳」には、町内の地名が多く記されている。その中で大字郡は紀姓伊集院氏が治める国領に属する「末永」に比定する説がある。

南北朝時代には、南朝方の地頭職伊集院島津氏が、守護職島津氏と対立しながら、伊集院での支配を強化したといわれる。また「李朝実錄」とよると、伊集院島津氏は李氏朝鮮との交易を積極的に行い、経済力を背景に強大な勢力を誇ったようである。ところが15世紀半ばに、伊集院島津氏が滅亡すると、守護職島津氏が伊集院を支配し、また対外交易を重視したようである。

15世紀末になると、島津氏の分家などが各地で所領を拡大し、戦国時代の先がけとなつた。出水街道沿いには城が築かれ、石谷城、谷口城等が所在し、町田氏、伊集院氏、肥後氏の居城として利用されている。さらに伊作島津氏の拠点となった一宇治城がある。大きく4つの郭部からなり、郭間には数多くの空堀が掘られていた。また郭の隅に土塁が構築され、井戸が掘られた例が多数調査によって発見されている。この城は戦国大名島津貴久の居城となり、ザビエルと会談した地ともいわれている。

江戸時代には、鹿児島城下から西田橋、水上坂を経て江戸へ向かう参勤交代の官道（出水筋）が町内を東西に横断していた。瀬戸頭C遺跡の南側の県道徳重・横井・鹿児島線がこれにあたる。現在も妙円寺参り等の歴史的行事に利用されている。



第3図 周辺遺跡位置図、薩摩半島中部地形図・断面図

表2 漢戸頭A・B・C遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物など	備考
1	30-55	漢戸頭	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文、中世	土器片	平成11年町埋文報告書(11)
2	30-75	漢戸頭A	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文	ナイフ形石器・細石器	平成10~12年度本調査
3	30-76	漢戸頭B	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文	細石器	平成13年度本調査
4	30-77	漢戸頭C	日置郡伊集院町竹之山	台地	旧石器、縄文	台形石器	平成11年度本調査
5	30-78	竹之山	日置郡伊集院町竹之山	台地	縄文		分布調査
6	30-7	前追	日置郡伊集院町土崎竹山前追熊野神社	台地		磨製石斧	
7	30-14	長崎城跡	日置郡伊集院町竹之山	山地	中世		
8	31-1	小松追	鹿児島市石谷町小竹山	台地	縄文早期	石板式土器	
9	31-2	石谷城跡	鹿児島市石谷町柳原	台地	中世(室町後期)	堀割跡	
10	31-3	伏野	鹿児島市石谷町伏野	台地	旧石器	剥片	平成14年度本調査
11	31-4	隠迫	鹿児島市石谷町瀬ヶ丸	台地	旧石器・縄文	土器・石器	平成14年度本調査
12	31-5	宮ヶ追	鹿児島市石谷町前山	台地	旧石器	ナイフ形石器・細石器	平成8~10年度本調査、町埋文報告書(3)
13	31-6	柳原A	鹿児島市石谷町柳原	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・石礫・石槍・前平式土器	平成4~9年度本調査 一部県埋文報告書(30)
14	31-7	柳原B	鹿児島市石谷町柳原	台地			平成12年度確認調査
15	31-8	前山	鹿児島市石谷町西ノ原	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・ナイフ形石器・或川式土器	平成7~8年度本調査
16	31-9	西ノ原A	鹿児島市石谷町田ノ免	台地	弥生後期	土器(完全小型壺)	「鹿児考古学会紀要」2号、昭和12年発見
17	31-10	西ノ原B	鹿児島市石谷町西ノ原	台地	旧石器	細石器・ナイフ形石器	平成6年度本調査、県埋文報告書(30)
18	31-11	仁田尾	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文	細石器・ナイフ形石器	平成5~9・11年度本調査
19	31-12	宮尾	鹿児島市石谷町宮尾	台地	縄文・古代	土坑・青磁片	県埋文報告書(73)
20	31-13	御飯屋跡	鹿児島市石谷町仁田尾	台地			平成14~15年度本調査
21	31-19	谷口城跡	鹿児島市福山町	丘陵	中世(室町後期)	水無塚跡	
22	1-10	木ヶ暮	鹿児島市西別府町木ヶ暮	台地	縄文中期・後期	阿高式・指宿式・市来式土器・石皿等	昭和27年調査「鹿児考古学会紀要」(2)、市埋文報(4)(9)
23	1-108	横井竹ノ山	鹿児島市犬追町横井竹ノ山	台地	旧石器~縄文	ナイフ・細石器・土器	市埋文報(10)県埋文報(67)
24	1-109	川路山	鹿児島市犬追町川路山	台地	縄文早期・古墳	石板式土器	
25	1-130	尾崎	鹿児島市西別府町尾崎	台地			
26	1-147	広坂下北	鹿児島市小野町西之谷	台地	縄文・古墳		平成14年確認調査

※日置郡松元町は平成16年11月1日に鹿児島市に編入合併した。

※遺跡番号は合併後の番号が未設定のため、旧町時のものである。

III 遺跡の層位

第1節 遺跡の層位

基本層位は A, B, C 遺跡共通である。A 遺跡は東側に傾斜する台地の縁辺にある。西側の高い部分を削平し、東側に押し込むことにより平坦な現地形を作り出しているため、西側の地層は縄文早期以降の層を残さず、東側の傾斜地に純粋な地層を残している状況である。B 遺跡は III 層から残存している。

C 遺跡は茶畑のために上層が削平されており、表土の下位は V ~ VII 層であった。各層の堆積状況は以下の通りである。

I 層

表土及び客土。

II 層

黒色土。A 遺跡の北側に一部みられるのみである。A 遺跡において古代～中世の遺物を包含する。

III 層

黄褐色土。アカホヤ火山灰の二次堆積土と考えられ、所々下位に一次ブロックがみられる。全体に古墳時代の遺物を、下位に縄文時代早期～後期の遺物を包含する。

IV 層

黄褐色土。全体に縄文時代早期の遺物を包含する。

V 層

黒褐色土。無遺物層である。縄文時代早期後半の遺構検出面となる。

VI 層

約11500年前の始良カルデラ噴出物堆積層。薩摩火山灰層。Sz-14。いずれの遺跡でも安定して堆積しているが、所々に V 層の落ち込みが確認される。

縄文時代早期前半の遺構検出面となる。

VIIa 層

黒褐色粘質土。A 遺跡、B 遺跡において全体に縄文時代草創期の遺物を、下位に細石器文化期、ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。

VIIb 層

茶褐色粘質土。A 遺跡、B 遺跡において上位に細石器文化期、ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。

VIIc 層

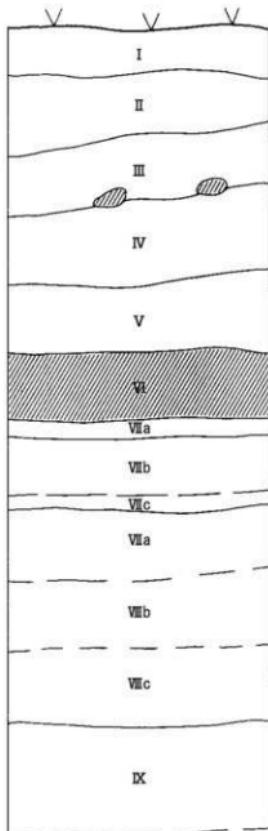
暗茶褐色粘質土。一部 VII 層からの浮き上がりと考えられる遺物を包含するが、基本的に無遺物層。

VIII 層

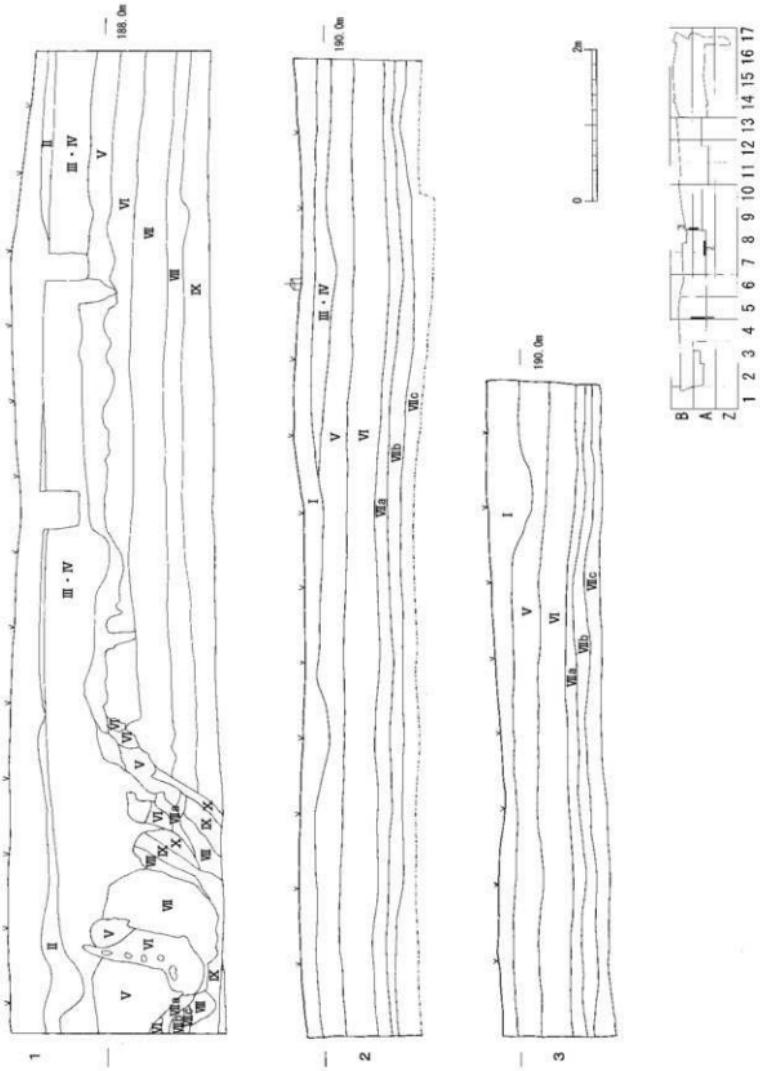
黄褐色土。約24000年前の始良カルデラ噴出物(AT 火山灰)の二次堆積層。A 遺跡、C 遺跡において旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。C 遺跡においては顯著ではないが、色調により3つに細分できる。

IX 層

黄褐色土で、黄色のバミスを含む。当遺跡の基盤層である約24000年前の始良カルデラ噴出物(入戸火碎流(シラス))へと続く。

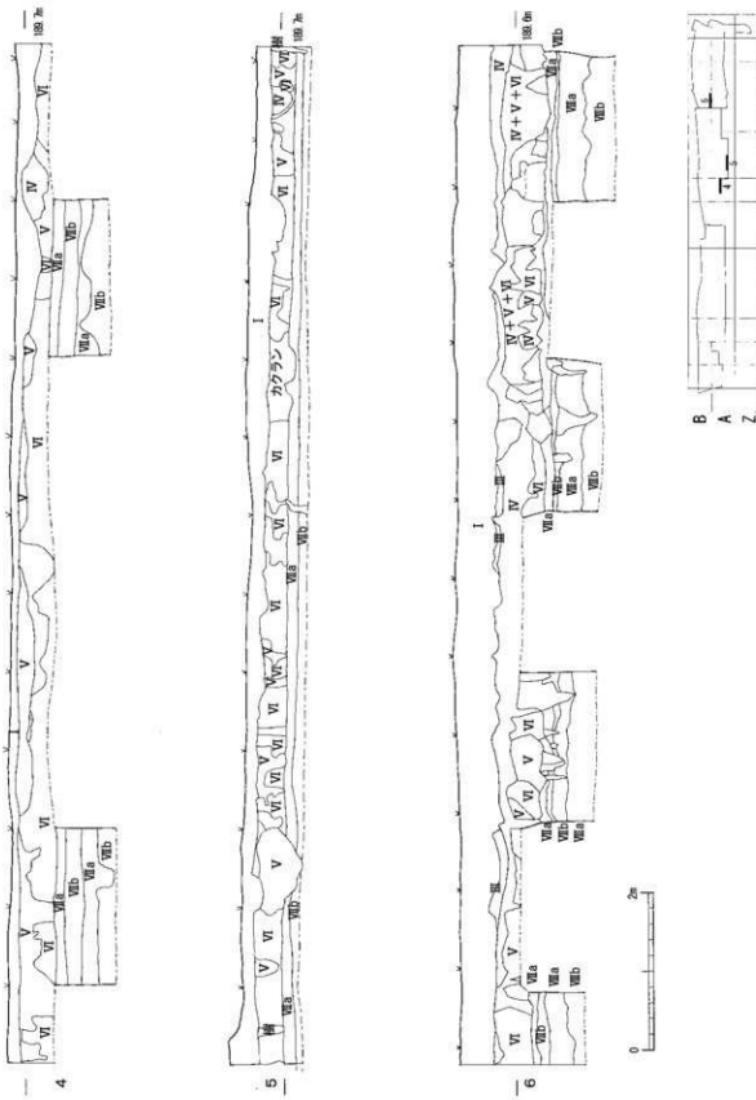


第4図 土層模式図

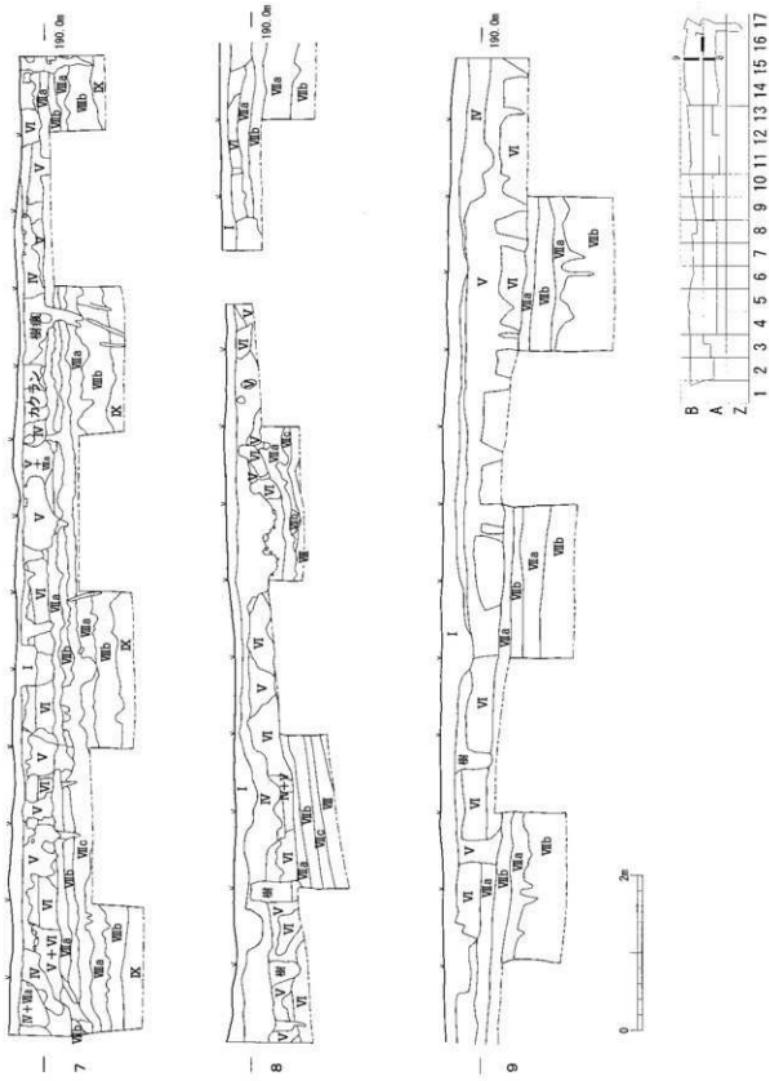


第5図 潟戸頭A遺跡土層断面図(1)

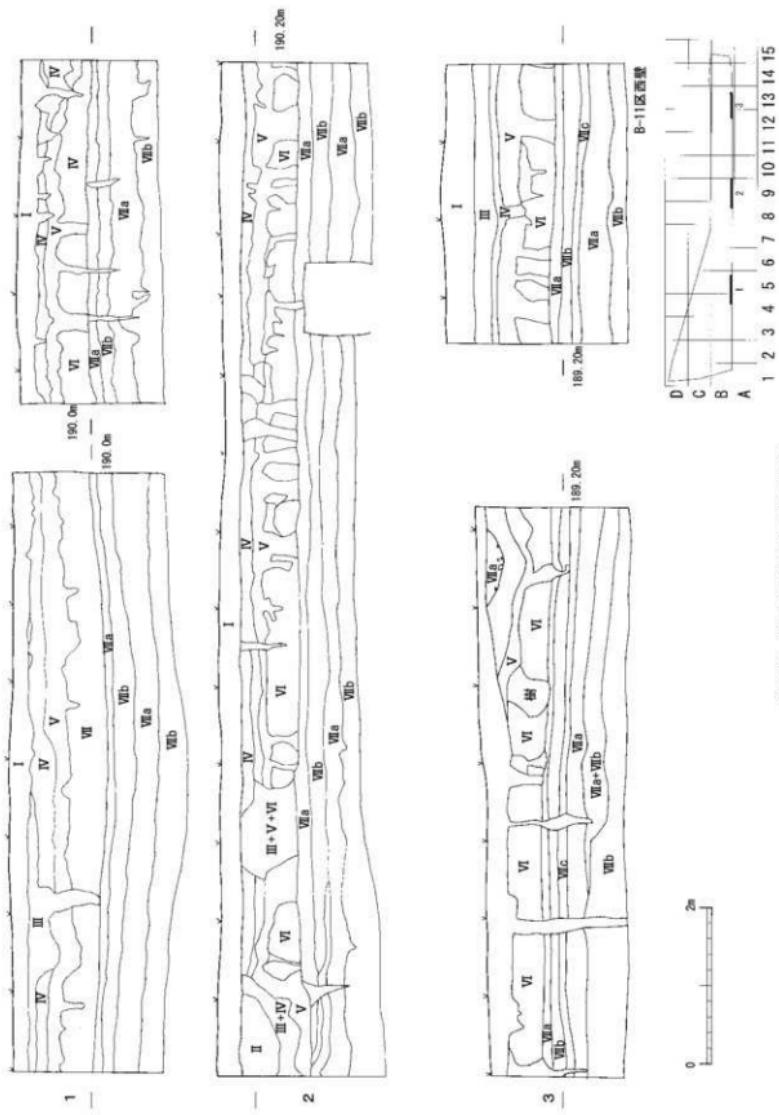
第6図 満戸頭A遺跡土層断面図(2)



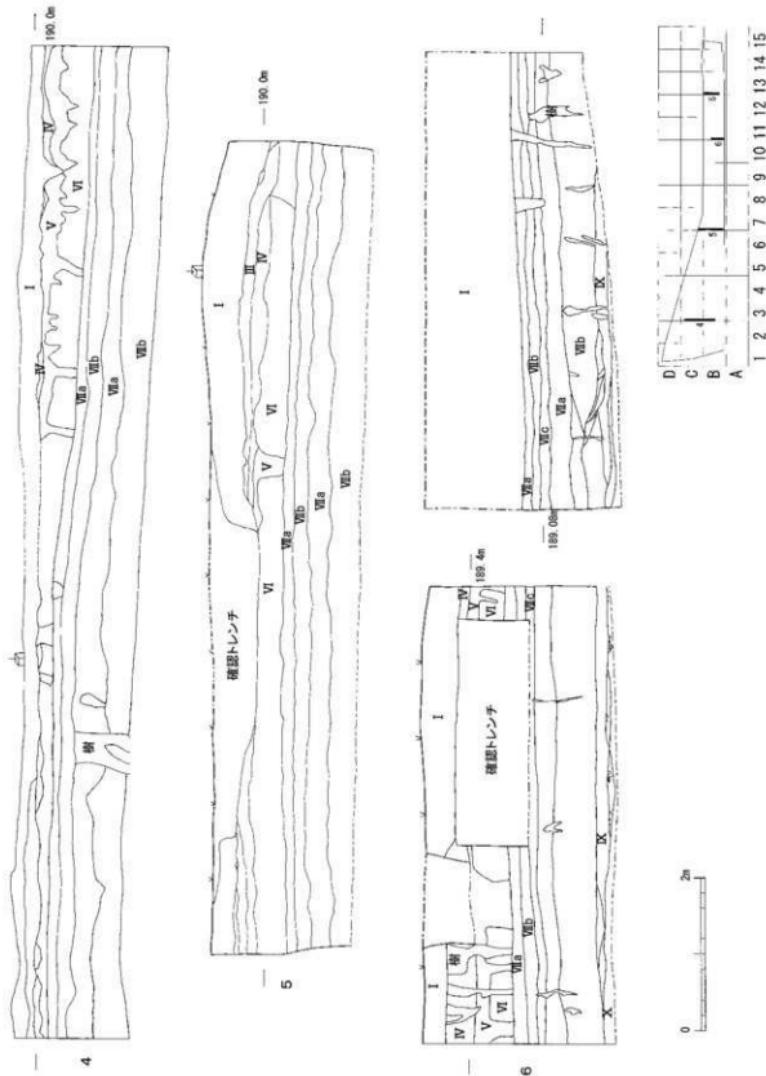
第7図 潟戸頭 A 遺跡土層断面図(3)

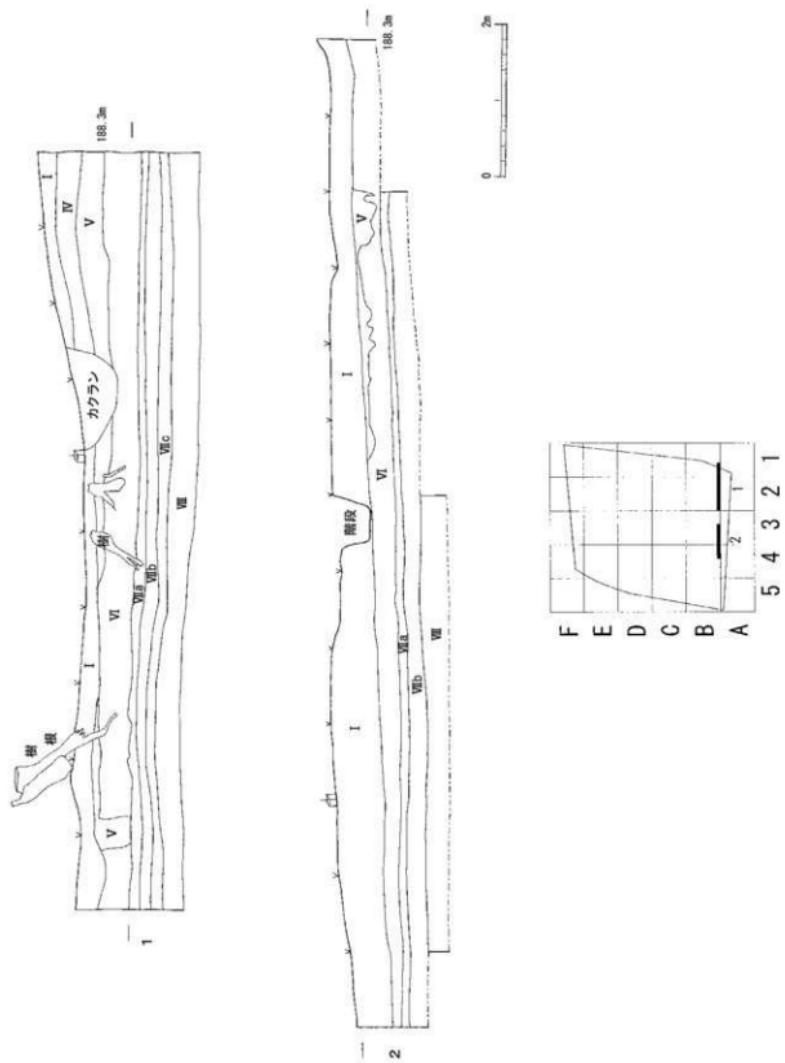


第8図 潟戸頭B遺跡土層断面図(1)



第9図 潟戸頭B遺跡土層断面図(2)





第10図 濑戸町C-道路土層断面図

瀬 戸 頭 A 遺 跡

IV 瀬戸頭A遺跡

第1章 調査の方法

瀬戸頭A遺跡は約6000m²を対象として全面調査を実施した。旧地は畠である。全面調査は3年に分かれて実施しており、それぞれ重機で表土を除去し、調査を開始した。道路部分の調査となるため、調査区は幅30m、長さ340mと細長くなっている。調査前の地形は平坦であったが、旧地形は南北にかけては1~8区が低く、9区から17区にかけて高くなっている。また、各調査区ともに東側にかけて緩やかに傾斜している。以上の旧地形を畠にするために平坦に造成しており、9~17区については縄文時代以前の包含層が西側で削平されていた。

旧石器時代は11区以南で確認され、Ⅶ層~Ⅷa層にかけて複数の包含層が確認された。包含層は概ね3枚に分離され、ナイフ形石器文化後半期の前半に属するもの、最終末期に属するもの、細石器文化期に属するものがある。

縄文時代は草創期から後期にかけて遺物が出土しており、中心は早期後半の塞ノ神式土器である。それに伴って大規模な石器製作址も確認されている。

また、一部古墳時代、古代~中世の遺物も確認された。

第2章 Ⅶ層の調査

1 概要

Ⅶ層の遺物は総数223点である。遺物の出土はA-11区を中心とし、ブロック1基を検出した。石材は五女木産と推定される黒曜石が154点と中心をなし、以下黒曜石Bが31点、黒曜石Aが7点、チャート、タンバク石、鉄石英、真岩等が若干みられる。五女木産黒曜石のブロックは良好な状態で検出され、いくつか接合もみられる。製品は台形石器1点、スクレイバー2点である。

2 遺構

ブロックは1か所検出された。五女木産の黒曜石を中心としたブロックで、接合もみられることから、得られた剥片からスクレイバーを製作し、使用したブロックであることが判明した。ブロックは総数263点で構成される。石材は大口市五女木産の

黒曜石が119点、黒曜石Bが75点で多数を占め、黒曜石A等が補完的に含まれる。石器は1の台形石器、2、3のスクレイバー2点がある。

3 出土遺物

出土遺物は台形石器1点、スクレイバー2点である。1は黒曜石A製の台形石器である。求心状の石核から剥離された素材を縱に利用し、左側縁は背面から、右側縁は腹面からプランティングを施している。2は五女木産の黒曜石製のスクレイバーで、剥片の端部に急角度の二次加工が施されている。使用によると思われる微細剥離が観察される。3は黒曜石製のスクレイバーである。剥片端部の一部に急角度の二次加工が施されている。微細剥離も確認される。

4 接合資料

接合は全部で6つ確認され、その全てを掲載した。

接合資料1

スクレイバー(2)を含む剥片3点の接合である。3点は剥片4に打点を持つ一つの剥片で、剥離時に3つに割れたものである。割れた後、そのうちの1点をスクレイバーとして使用している。

接合資料2

剥片4点の接合であり、そのうち7は剥離時に打点を中心にして割れたものである。いずれも打面調整はみられず、大剥離面を単設の打面として、3枚の剥片を剥離している。

接合資料3

剥片3点の接合であり、そのうち9は剥離時に打点を中心にして割れたものである。打面調整を施さず、同じ打面から2枚の剥片を剥離している。

接合資料4

同一打面から剥離された2枚の剥片の接合である。

接合資料5

同一打面から剥離された2枚の剥片の接合である。

やや縱長指向の強い剥片である。

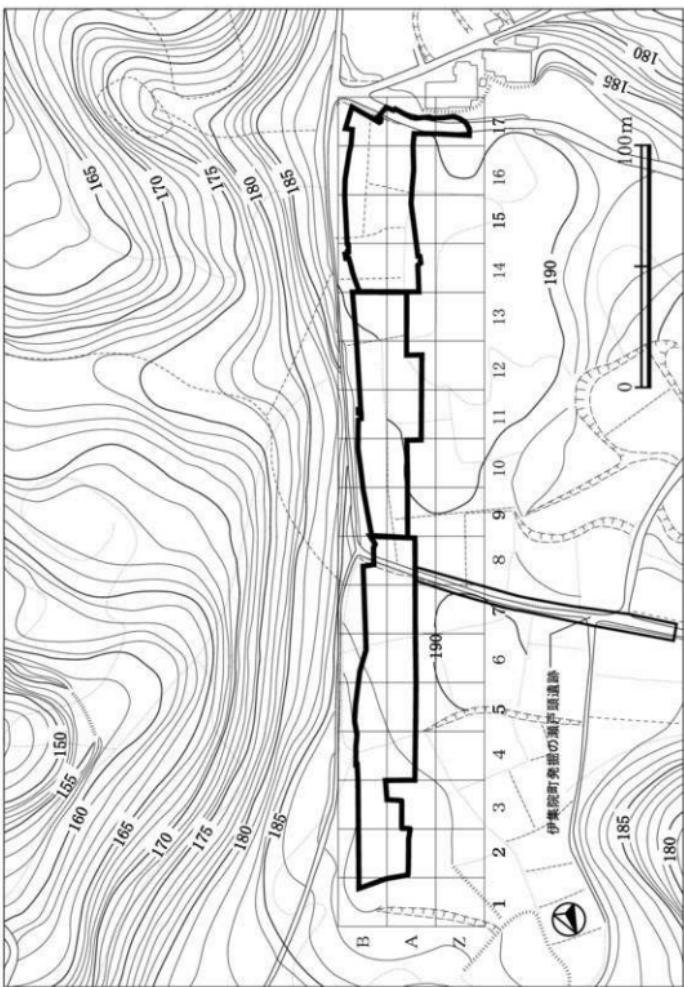
接合資料6

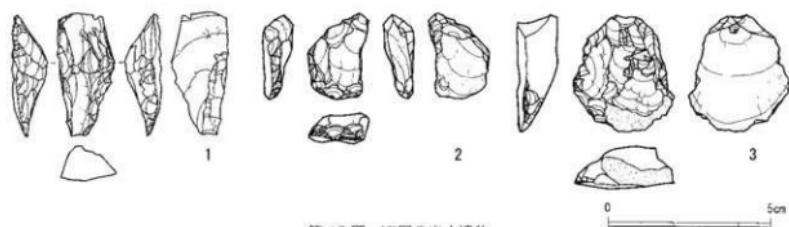
剥片3点の接合であり、そのうち15は剥離時に割れたものである。同じ打面から2枚の剥片を剥離している。

表3 Ⅶ層実測遺物観察表

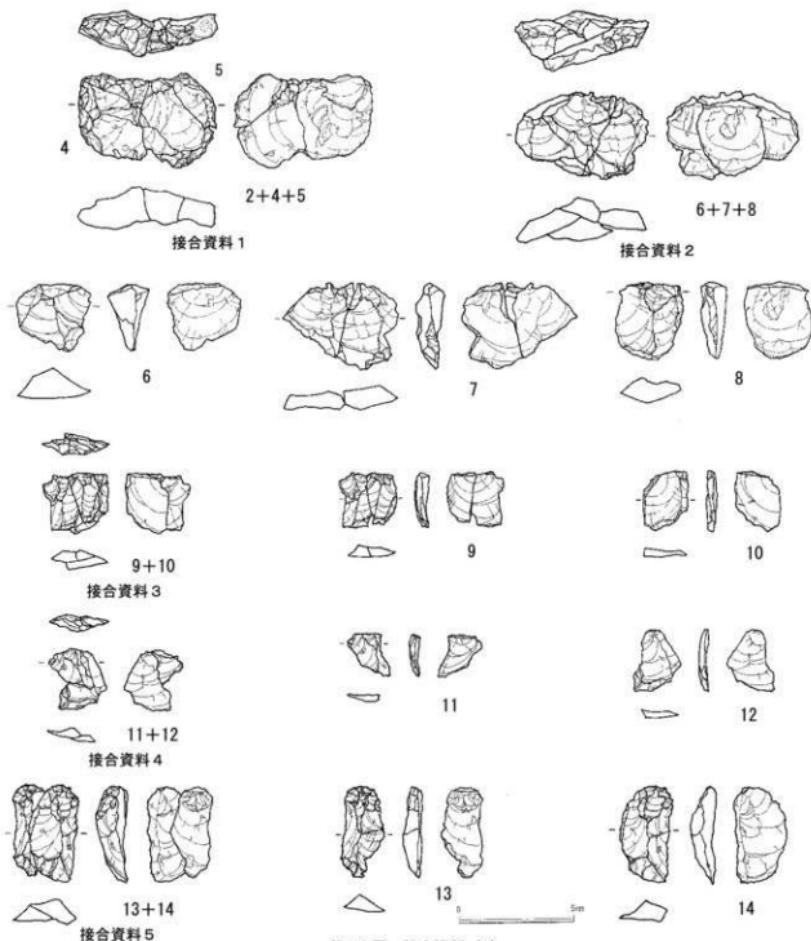
番号	器種	石材	出土区	層	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	重量	遺物番号
1	台形石器	黒曜石E	A-11	Ⅶc	3.7	1.7	1.1	585	1100452
2	スクレイバー	黒曜石E	A-11	Ⅶ	2.6	1.85	0.95	4.16	1101468
3	スクレイバー	黒曜石E	A-11	Ⅶ	3.6	3.1	1.3	13.2	1101510

第11図 調査区と周辺地形図

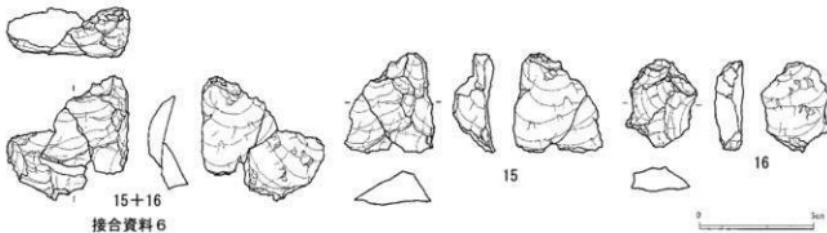




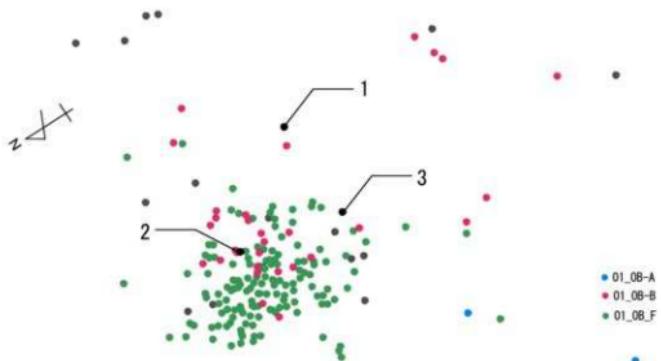
第 12 図 VII 層の出土遺物



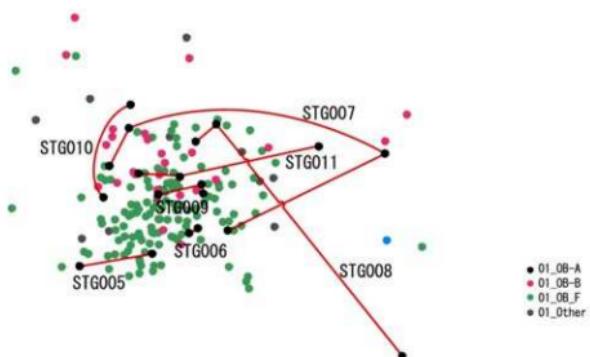
第 13 図 接合資料 (1)



第14図 接合資料(2)



第15図 VII層遺物出土状況図(A-11区)



第16図 接合状況図

第3章 VII b 層の調査

1 概要

VII b 層の遺物は総数2878点である。ブロックの平面分布状況から、遺物は VII b 層が中心となるものの、一部 VII a 層まで分布がみられると思われる。そのため、ブロック外で VII a に出土する遺物は厳密に VII a、VII b のうちどちらの文化に属するかを判断できない状況であり、総数も厳密にはまだ多いと考えられる。製品は小型のナイフ形石器、台形石器、石核が中心に出土している。また、A-17区を中心とするとまとまった細石器のブロックがある。細石器のブロックについても VII a 層まで分布が認められたため、正確には VII b ~ VII a 層にかけての文化層となる。

石材は黒曜石 B が2175点と圧倒的に多く、黒曜石 A が457点と次ぐ。

2 遺構

ブロック

ブロック認定及び帰属時期の判断は VII a、VII b については遺物の上下移動を考慮して各層ごとの集中状況を確認し（第17、18図）、VII a 層に確認される下層からの浮き上がり及び VII b 層に確認される上層からの残りを把握した後に行った。結果、VII b 層に 5 つのブロックを確認した。

VII b 層のブロックは 5 基を検出した。特に A ブロックは台形石器 5 点、ナイフ形石器 1 点、尖頭器 1 点、石核 3 点を出土し、良好なまとまりを見せる。石材は黒曜石 A を中心とし、黒曜石 B、黒色安山岩等で構成される。また、E ブロックは細石器のブロックである。

A ブロック

総数461点からなるナイフ形石器最終末期に属するブロックである。石材の内訳は、黒曜石 A が277 点、黒曜石 B が143点、黒色安山岩が41点、黒曜石 E、タンパク石、チャートがそれぞれ 1 点である。台形石器 6 点、ナイフ形石器 1 点、尖頭器 1 点、石核 3 点を含む。6 のナイフ形石器については、搬入品である。

B ブロック

総数195点のブロックである。石材の内訳は黒曜石 B が184点で大多数を占める。石器は 11 のナイフ形石器を 1 点含むが、頁岩製であり、搬入品であると考えられる。

C ブロック

総数86点のブロックである。全て黒曜石 B で、剥片、碎片からのみなるブロックである。

D ブロック

総数256点からなるブロックである。石材の内訳

は黒曜石 B が234点と大多数を占める。石器は 37 の細石刃核 1 点と、19 のスクレイバー 1 点を含む。

E ブロック

総数2270点からなる細石刃文化期に属するブロックである。石材の内訳は黒曜石 A が264点、黒曜石 B が1879点、黒色安山岩が12点である。細石刃核 15 点を含む。

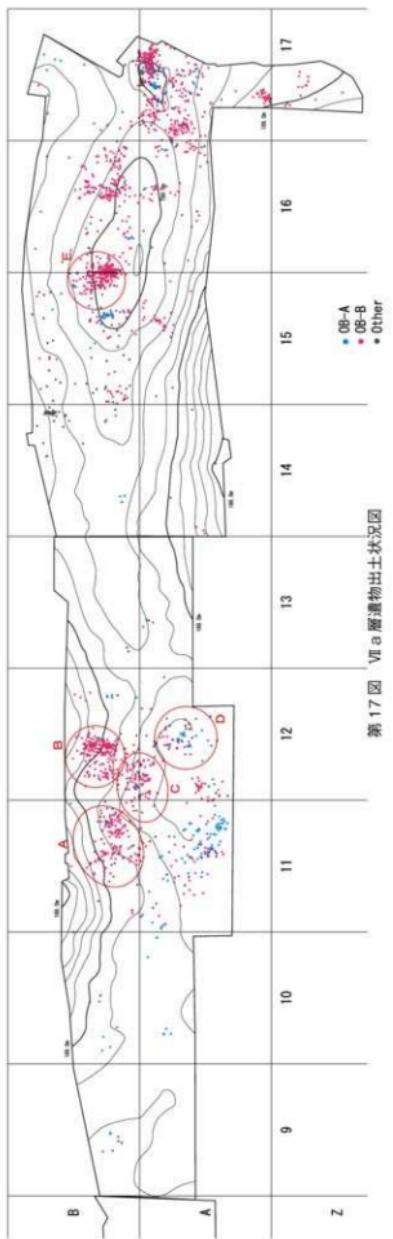
3 出土遺物

(1) ナイフ形石器文化期

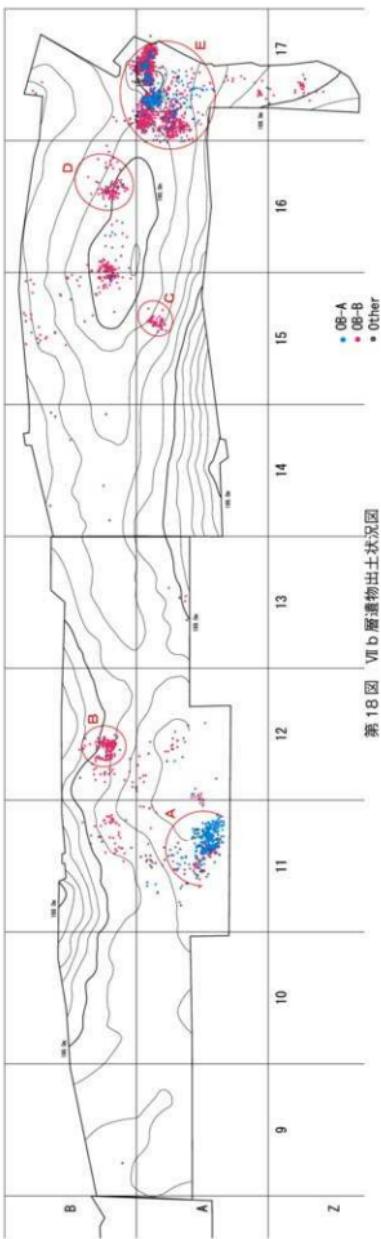
ブロック内から台形石器 5 点、ナイフ形石器 1 点、尖頭器 1 点、石核 3 点が、ブロック外からはナイフ形石器 1 点、台形石器 5 点、スクレイバー 2 点、二次加工剥片 1 点、石核 8 点が出土している。台形石器は横長を呈するもの（1, 2, 12）、正方形を呈するもの（3, 5, 13, 14, 15）、縦長を呈するもの（4, 16）の 3 つに分類される。台形石器はいずれも剥片を横位に利用するもので、ナイフ形石器 2 点はいずれも剥片を縱位に利用している。

なお、17~27 のスクレイバー、石核類についてはナイフ終末期、細石刃文化期、縄文時代草創期のいずれの時期に帰するのか不明である。

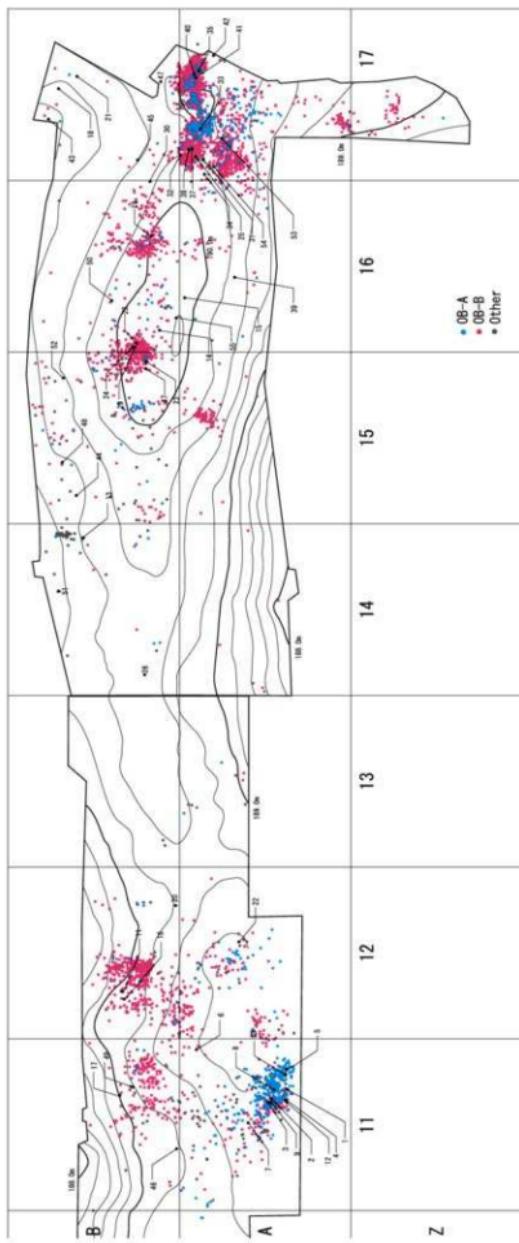
1 は黒曜石 A 製の台形石器である。打面転移して得られた寸詰まり剥片を横位に利用し、左側縁から下縁部にかけて腹面側からプランティングを施している。2 は黒曜石 A 製の台形石器である。打面転移して得られた寸詰まり剥片を横位に利用し、腹面から周囲にプランティングを施している。プランティングの後、背面に周囲から平坦剥離を施している。3 は黒曜石 A 製の台形石器である。求心状剥離により得られた剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からプランティングを施している。下縁は腹背両面に平坦剥離を施している。4 は黒曜石 A 製の台形石器である。剥片を横位に利用し、左側縁は折断、右側縁は腹面からのプランティングを施している。腹面に軽く平坦剥離が施される。5 は黒色安山岩製の台形石器である。求心状剥離により得られた剥片を横位に利用し、左側縁から下縁にかけて腹面からプランティングを施している。右側縁からは腹面へ簡易な平坦剥離を施している。6 はタンパク石製のナイフ形石器である。打面転移して得られた剥片を縦位に利用し、左側縁全体と右側縁基部にプランティングを施している。当ブロックにタンパク石はみられないため、搬入品であると判断される。7 は黒曜石 A 製の尖頭器である。単設打面から剥離された縦長剥片を縦位に利用している。左側縁には急角度なプランティング状の二次加工を、右側縁には比較的の角度の緩やかな二次加工が施され、尖端部を形成している。8 は小型の円錐を利用した黒曜石 A 製の石核



第17図 VIa層遺物出土状況図



第18図 VIb層遺物出土状況図



第19図 VII b～VII a層遺物出土状況図

である。最終剥離面を正面に据えているが、この面が打面転移による作業面であるか、打面調整にあたるかは不明である。背面から下面にかけて自然面を残している。9は小型の角礫を利用した黒曜石A製の石核である。角礫の平面を利用して打面を転移している。自然面から打面調整をせずに直接剥片を剥離している。10は小型の円礫を利用した黒曜石A製の石核である。打面転移が観察される。打面調整は施されない。11は頁岩製のナイフ形石器である。打面転移して得られた剥片を縦位に利用し、左側縁は折断、右側縁はプランティングが施される。左側縁から背面に平坦剥離が観察される。12は黒曜石A製の台形石器である。単設打面から剥離された剥片を横位に利用している。両側面に簡易なプランティングを、下縁から腹面側に簡易な平坦剥離を施している。当石器はⅤ層からの出土であるが、石器の形態からⅥb層からの落ち込みと判断した。ブロックの純粹性を期すために、ブロック外にレイアウトしているが、ブロック内のものである可能性が高い。13はタンパク石製の台形石器である。単設打面から剥離された剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からプランティングを施している。搬入品である。14は硬質頁岩製の台形石器である。単設打面から剥離された剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からプランティングを施している。背面に摺理面を残す。搬入品である。15は黒曜石B製の台形石器である。求心状剥離により得られた剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からプランティングを施している。右側縁から腹面側に平坦剥離が施されている。16は黒曜石B製の台形石器である。単設打面から剥離された剥片を横位に利用し、両側縁に腹面からプランティングを施している。17はタンパク石製のスクレイパーである。頭部調整を行って剥離された寸詰まり剥片の端部に急角度な二次加工を施し刃部を形成している。右側縁には微細な剥離が観察される。18は黒曜石A製の二次加工剥片である。左側面には自然面を残す。19は黒曜石B製のスクレイパーである。左側縁の背面から腹面に向けて細かい二次加工を施し、刃部を形成している。20は黒曜石A製の石核である。2枚の剥離面を打面とし、寸詰まり剥片を剥離している。最終剥離はヒンジしている。21は黒曜石A製の小円礫を素材とする石核である。大きな剥離で打面を形成し、剥片を剥離している。石核調整が細かく、細石刃核のプランクの可能性もある。22は小型の円礫を素材とする黒曜石E製の石核である。複数の大剥離面で打面を形成し、剥片を剥離している。下縁に自然面を残す。23は黒曜石B製の石核である。両側縁には粗い石核整形が、打面には入念な打

面調整の痕跡が認められる。細石刃核のプランクの可能性もある。24は黒曜石B製のプランクである。両側縁は石核整形が施され、小口部に微細な調整跡がみられる。25は黒曜石B製のプランクである。左側縁は自然面で、右側縁は石核整形の大剥離面で構成される。入念な打面調整が観察される。26は黒曜石C製の小型の角礫を素材とした石核である。両設打面で、下位の打面は2枚の打面形成剥離面で構成される。27は頁岩製の大型の石核である。打面調整を施した後寸詰まりの剥片を剥離している。左側面から背面にかけて自然面を残す。

(2) 細石器文化期

細石刃核が15点出土している。出土層位はⅦa層～Ⅷb層であり、内訳はⅦa層が8点、Ⅷb層が7点である。作業面長が作業面幅に対して短いものが主流を占め、打面調整が丁寧で顕著であるのが特徴である。細石刃核はその残核形態から5つに分類できる。

I類－分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃剥離作業を行う。作業面は1面で進行する。作業面の長さが幅よりも小さくなり、結果作業面が横長となる。打面はあまり傾斜しない。28～31が該当する。

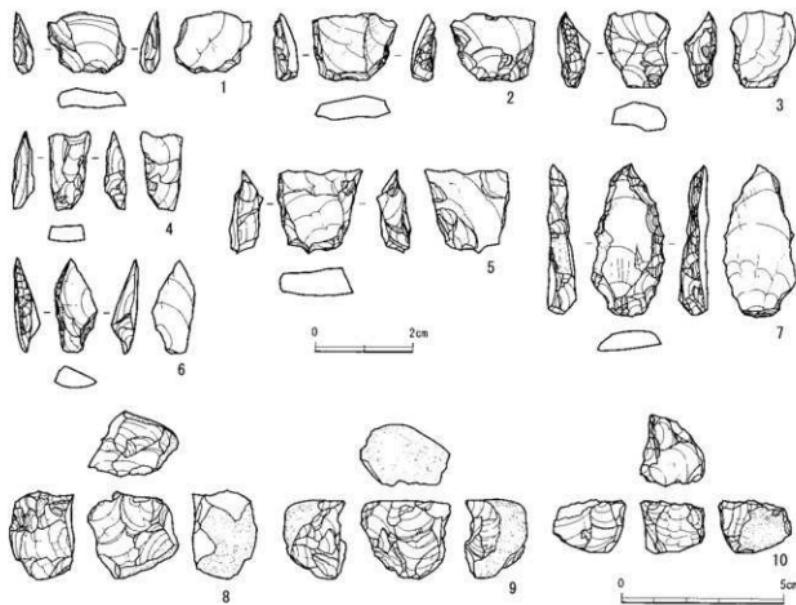
II類－分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃剥離作業を行う。作業面は1面で進行する。作業面の長さと幅はほぼ同じである。打面が傾斜し、やや扁平となる。32～34が該当する。

III類－分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃剥離作業を行う。作業面が周囲に廻るため、正面観が逆三角形を呈する。円錐状を呈する。35～38が該当する。

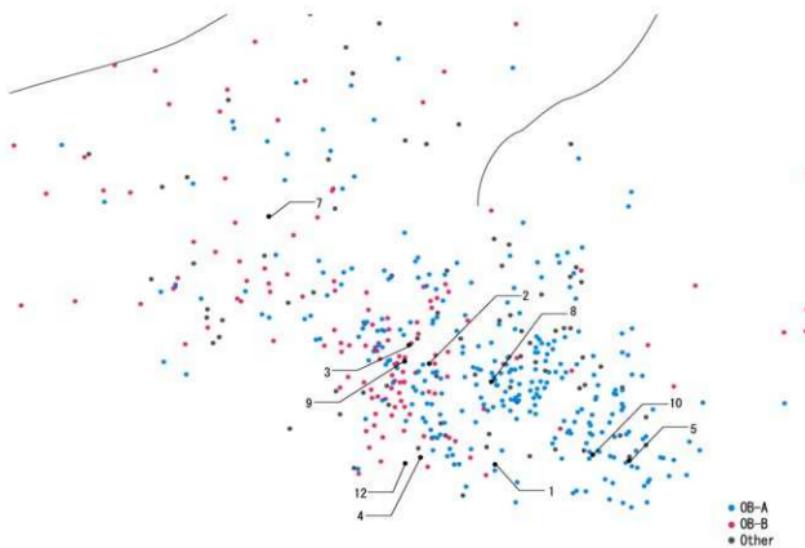
IV類－分割面を打面とし、打面調整を施さずに細石刃剥離作業を行う。作業面は小口部に設定される。39～41が該当する。

V類－分割面を打面とし、打面調整を施しながら細石刃剥離作業を行う。打面が長いため、船底状を呈する。42が該当する。

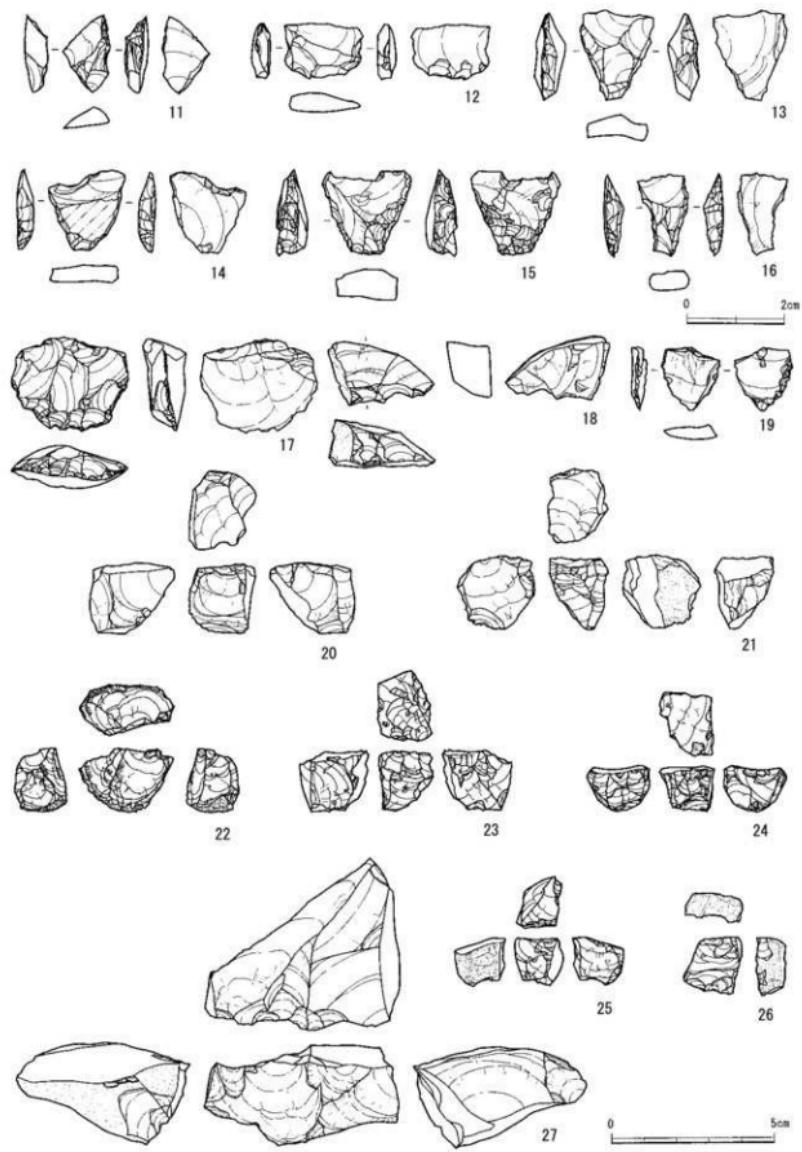
28は黒曜石B製である。分割面を打面に設定し、石核整形を施した後、素材の長軸側に作業面を設定し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。29は黒曜石E製である。技術的には28と類似しており、残核形態も酷似している。30は黒曜石B製である。打面は複数の剥離面で構成されている。石核整形後、打面調整を施しながら細石刃核を剥出している。31は黒曜石B製である。小型の円礫を分割し、分割面を打面に設定し、石核整形を施すことなく打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面は



第20図 VII b-A ブロック出土遺物



第21図 VII b-A ブロック遺物出土状況図



第22図 VII b ~ VII a層出土遺物



第23図 VII b-E ブロック遺物出土状況図

あまり傾斜しない。32は黒曜石B製である。石核整形後打面調整を入念に施しながら細石刃を剥出している。剥離が進行しており、残核形態は扁平である。33は黒曜石A製である。打面は複数の面により構成され、石核整形を施し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面は傾斜している。34は黒曜石A製である。打面は再生剥離時の剥離面を残している。打面再生で旧打面が残らないため、打面調整の有無は定かでない。35は黒曜石B製である。分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面調整が周縁に及んでおり、作業面も廻っている。36は黒曜石B製である。分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面調整が周縁に及んでおり、作業面が周囲に廻っていた可能性がある。37は黒曜石B製である。残核で確認される作業面は1面であるが、打面には周縁からの打面調整が確認されることから、作業面が周囲に廻っていた可能性が高い。38は黒曜石B製である。打面は周縁からの剥離により構成されている。打面調整を施しながら細石刃を剥出しており、作業面は周囲を廻っている。39は黒曜石C製の小型の細石刃核である。分割面を打面に設定し、石核整形を施し、打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面は傾斜している。両側面に自然面が残ることから、素材が小円錐であることがわかる。40は黒曜石B製の小型の細石刃核である。

分割面を打面に設定し、石核整形を片側面に施した後、打面調整を施さずに細石刃を剥出している。41は黒曜石B製である。分割面を打面に設定し、石核整形をほどこし、打面調整を施すことなく細石刃を剥出している。打面はほとんど傾斜しない。他の細石刃核に比して作業面幅が狭い。42は黒曜石B製である。分割面を打面に設定し、石核整形を施した後打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面はあまり傾斜しない。他の細石刃核に比して打面が長い。

第4章 VII a 層の調査

1 概要

VII a 層の遺物は総数1967点である。調査区全体まばらに石錐が出土し、1点の丸ノミ形石斧土器や土器が出土しており、疊群が存在している。よって、VII a 層の遺物は、下層からの浮き上がり遺物を除けば縄文時代草創期の文化層であると考えられる。石材は黒曜石 B が1471点と圧倒的に多く、黒曜石 A が222点で次ぐ。

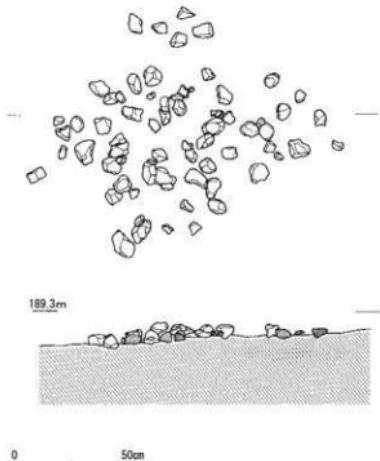
2 遺構

ブロックの認定については VII b 層の項で述べたとおりで、結果 VII a 層に 5 基のブロックを確認した。E ブロックは細石刃文化期、他の他のブロックは縄文時代草創期に属すると考えられる。

出土遺構は疊群 1 基、ブロック 5 基である。いずれも明確なまとまりは持つものの、剥片、碎片のみの出土であり全容を明らかにすることは困難であった。

疊群

A-9 区で検出された。薩摩火山灰層を重機で除去した後、鋤籠で精査する段階で検出されており、薩摩火山灰層直下の遺構である。周囲に遺物の出土をあまりみられないものの、検出層位から縄文時代草創期に属するものと考えられる。安山岩の疊約 70 点で構成されており、面的な集中は確認されるものの、あまり疊同士の重複はみられない。疊は被熱により赤化している。



第 24 図 疊群

A ブロック

総数 205 点のブロックである。石材の内訳は黒曜石 B が 185 点で多数を占め、黒曜石 A、タンパク石、黒色安山岩が数点ずつ含まれる。石器は 46、49 の石錐や、17 のスクレイバーが出土している。

B ブロック

総数 175 点のブロックである。石材の内訳は黒曜石 B が 170 点と大多数を占める。剥片、碎片のみのブロックである。

C ブロック

総数 122 点のブロックである。石材の内訳は黒曜石 B が 106 点で多数を占め、黒曜石 A が 7 点である。剥片、碎片のみのブロックである。

D ブロック

総数 53 点のブロックである。石材の内訳は、黒曜石 B が 31 点、黒曜石 A が 17 点で多数を占める。剥片、碎片のみのブロックである。

E ブロック

総数 266 点のブロックである。石材の内訳は、黒曜石 B が 228 点で多数を占め、黒曜石 A、安山岩が少量含まれる。遺物は、35、36 の細石刃核 2 点、24 のプランク 1 点、27 の石核 2 点が含まれる。

疊群は A-11 区の VII a 層上面で確認された。薩摩火山灰層の直下で検出されており、縄文時代草創期に属するものであると考えられる。疊は安山岩が中心で、いずれも熱を受けて赤化している。

3 出土遺物

(1) 土器

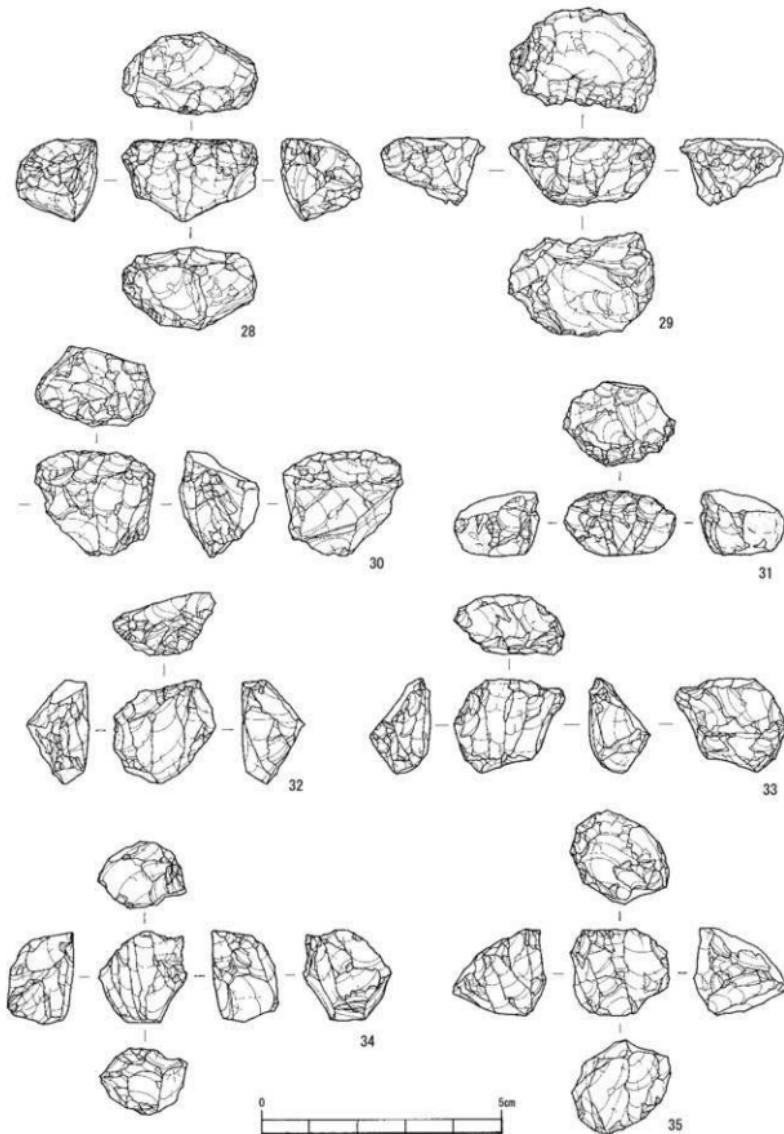
土器は風化が著しく同定が困難であるが、確実に土器であると判断されるものは 1 点である。風化が著しいため図化はできなかった。

(2) 石器

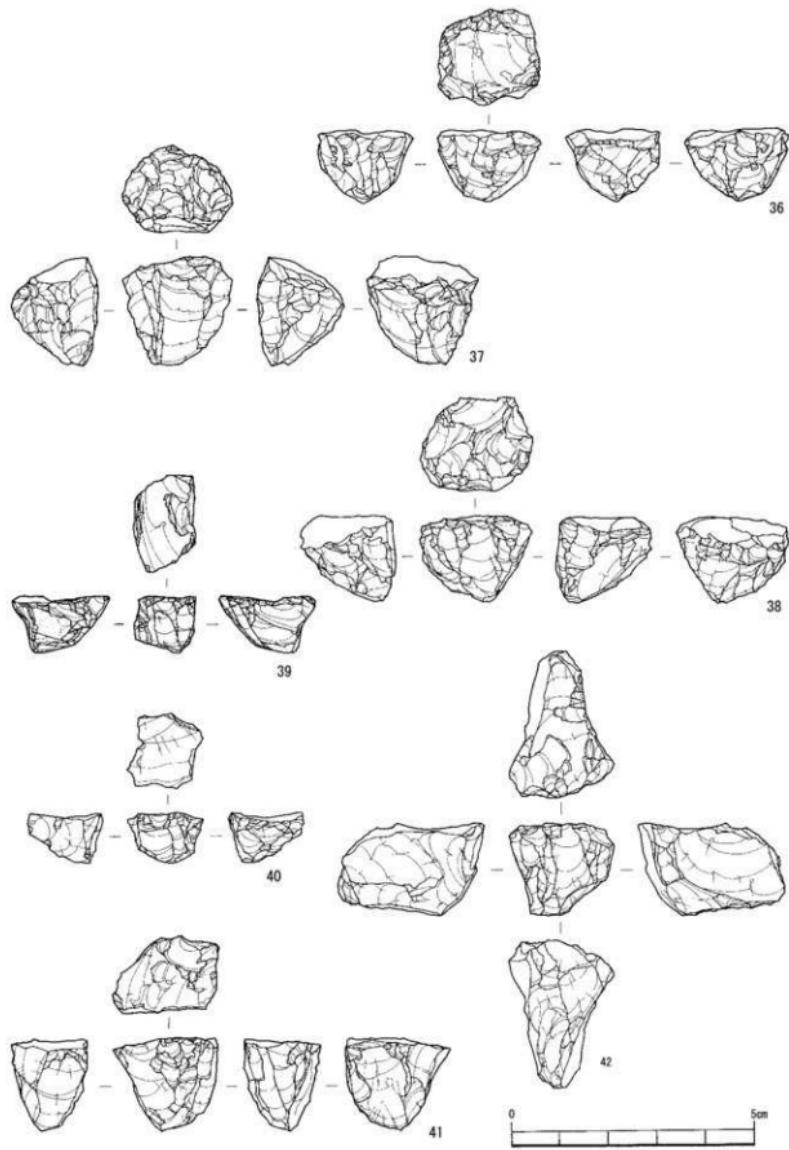
43 は安山岩製の叩石である。両端の頂部に叩き痕が観察され、垂直方向での使用が考えられる。叩きに伴う剥離も観察される。44 は砂岩製の丸ノミ形石斧である。表面は風化しており、一部シルト化している。厚手の角柱状の剥片を素材とし、腹面から側面に粗整形を施した後、側面と刃部外表面を磨いている。側面は凹み部も磨かれており、手持ち砥石で磨かれていると考えられる。刃部の内済部には刃部側から長軸に沿った剥離がみられ、使用時の欠損と考えられる。刃部内面には右側縁から 3 回剥離を加えられており、再加工の痕跡と考えられる。基部は欠損しており、背面は摺理面で構成される。背面、腹面に柄すれの痕跡が認められ、一定期間使用されていることがうかがえる。

石錐

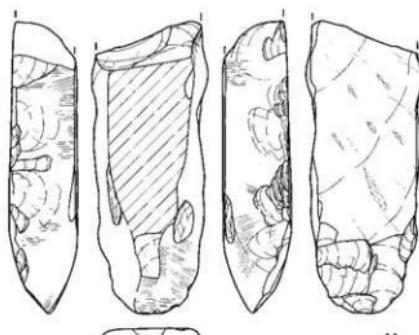
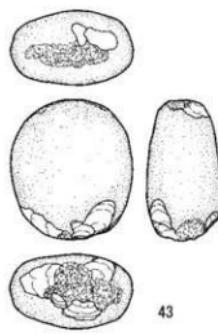
石錐は綫長の二等辺三角形錐、平基無頭錐、四基



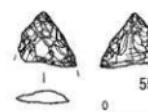
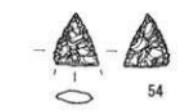
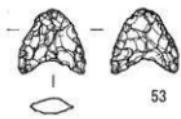
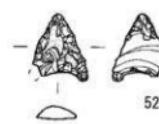
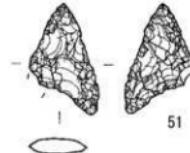
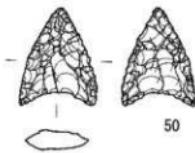
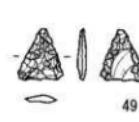
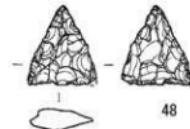
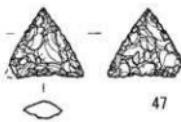
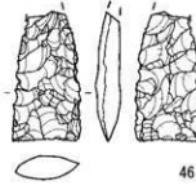
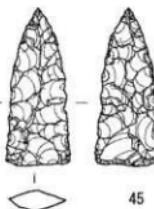
第25図 VII b層出土遺物(1)



第26図 VII b層出土遺物(2)



0 10cm



0 2cm

第27図 VII a層出土遺物

無頭鐵のおおきく3種類に分類できる。いずれも剥離が丁寧である。45は硬質頁岩製の石鐵である。整形が丁寧で、先端部が鋭角に尖っている。平基縦長の二等辺三角形鐵である。46は黒色安山岩製の石鐵である。整形が丁寧で薄く、平基縦長の二等辺三角形鐵である。先端部は欠損している。47は黒色安山岩製である。弱い凹基の正三角形鐵である。剥離が丁寧である。48は硬砂岩製である。腹面に主剥離面を残す。ほぼ平基の三角形鐵である。49は黒曜石B製の石鐵である。平基の小型三角形鐵で、腹面中央に主剥離面を残す。50は黒色安山岩製である。両側

縁は外湾する。凹基無頭鐵である。51は青灰色のチャート製である。深い凹基であり、返しの片側が欠損している。52は桑ノ木津留産の黒曜石である。小型の外側の剥片素材の形状を最大限利用して製作している。下部は欠損している。53は硬質頁岩製である。小型で両側縁は外湾し、深い凹基である。54は黒曜石C製である。先端部のみの残存であるが、縁辺の鋸歯状の仕上げが非常に丁寧である。55は黒曜石C製である。横軸中の出土であるが、出土層位はⅧa層であるのでここで取り上げた。表裏両面に素材の大剥離面を残している。

表4 VII b・VII a層実測遺物観察表

番号	器種	石材	出土区	層	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	遺物番号
1	台形石器	黒曜石A	A-11	VII b	1.25	1.6	0.4	0.79	1100861
2	台形石器	黒曜石A	A-11	VII b	1.35	1.7	0.5	1.08	1100807
3	台形石器	黒曜石A	A-11	VII b	1.55	1.35	0.65	1.16	1100782
4	台形石器	黒曜石A	A-11	VII b	1.6	0.85	0.45	0.54	1100823
5	台形石器	黒色安山岩	A-11	VII a	1.7	1.75	0.7	1.89	1101687
6	ナイフ形石器	タンパク質	A-11	VII b	1.9	0.85	0.5	0.58	1100479
7	ナイフ形石器	黒曜石A	A-11	VII b	3.1	1.5	0.6	2.58	1100495
8	石核	黒曜石A	A-11	VII b	2.66	2.78	2	14.96	1100957
9	石核	黒曜石A	A-11	VII a	2.42	2.76	1.91	11.82	1100665
10	石核	黒曜石A	A-11	VII a	1.62	1.94	2.22	7.48	1101685
11	ナイフ形石器	頁岩A	B-12	VII b	1.55	0.95	0.45	0.4	1101250
12	台形石器	黒曜石A	A-11	VII	1.1	1.55	0.4	0.87	1101670
13	台形石器	タンパク質	B-14	VII a	1.9	1.5	1.1	1.2	1200064
14	台形石器	硬質頁岩A	B-16	VII b	1.2	1.5	0.35	1.11	1200705
15	台形石器	黒曜石A	B-16	VII a	1.75	1.85	0.65	1.6	1201000
16	台形石器	黒曜石B	B-12	VII b	1.7	1	0.4	0.63	1101871
17	スクレイパー	タンパク質	B-11	VII b	2.9	3.6	1.3	11.87	1100389
18	二次加工剥片	黒曜石A	B-17	VII a	1.95	3.2	1.5	7.48	1200917
19	スクレイパー	黒曜石B	B-16	VII b	1.95	1.8	0.5	1.51	1200857
20	石核	黒曜石A	B-12	VII a	2.13	2.05	2.41	11.76	1101334
21	石核	黒曜石A	B-17	VII a	2.2	1.79	2.28	10.18	1200914
22	石核	黒曜石E	A-12	VII a	1.95	2.95	1.6	7.4	1100602
23	石核	黒曜石B	B-15	VII b	1.8	1.66	2.12	6.86	1200657
24	ブランク	黒曜石B	B-16	VII a	1.4	1.65	1.95	4.62	1200620
25	ブランク	黒曜石B	A-17	VII a	1.5	1.5	1.55	3.22	1201180
26	石核	黒曜石C	B-14	VII b	1.75	1.76	0.91	2.39	1200313
27	石核	砂岩	B-15	VII a				71.62	1200155
28	細石刃核	黒曜石B	B-16	VII a	1.9	2.9	1.8	7.09	1200607
29	細石刃核	黒曜石E	B-16	VII a	1.6	3.2	2.3	8.35	1200337
30	細石刃核	黒曜石B	B-17	VII a	2.4	2.6	1.8	7.27	1201135
31	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII b	1.5	2.4	1.9	5.7	1201555
32	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII b	2.2	2.1	1.3	4.46	1201655
33	細石刃核	黒曜石A	A-17	VII b	2.1	2.5	1.4	4.75	1201500
34	細石刃核	黒曜石A	A-17	VII b	2	2	1.6	4.43	1201530
35	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII a	1.8	2.1	2	5.91	1202810
36	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII b	1.5	2.2	2	5.45	1201600
37	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII b	2.4	2.4	1.9	8.26	1201855
38	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII b	1.8	2.3	2	7.85	1202017
39	細石刃核	黒曜石C	A-16	VII a	1.3	1.4	2.1	2.89	1201010
40	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII a	1	1.6	1.6	1.96	1202730
41	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII a	2.1	2.3	1.8	6.54	1202732
42	細石刃核	黒曜石B	A-17	VII a	2.1	2.3	3.2	9.91	1202358
43	叩石	安山岩	B-17	VII b	5.7	5	3.05	133.26	1200932
44	石斧	砂岩	B-15	VII a	12	4.8	2.8	26.72	1200280
45	石鐵	硬質頁岩	B-17	VII a	3.2	1.2	0.4	1.57	1200910
46	石鐵	黒色安山岩	B-11	VII a	2.7	1.4	0.5	1.64	1100160
47	石鐵	黒色安山岩	A-17	VII a	1.4	1.6	0.3	0.48	1202227
48	石鐵	硬砂岩	B-15	VII a	1.7	1.4	0.4	0.6	1200007
49	石鐵	黒曜石B	B-11	VII b	1.05	0.9	0.2	0.2	1100387
50	石鐵	黒色安山岩	B-16	VII a	2	1.6	0.4	0.83	1200336
51	石鐵	チャート	B-14	VII a	2.3	1.4	0.3	0.83	1200012
52	石鐵	黒曜石C	B-15	VII a	1.4	1.1	0.3	0.31	1200301
53	石鐵	硬質頁岩	A-17	VII a	1.3	1.3	0.3	0.46	1201198
54	石鐵	黒曜石B	A-17	VII a	1.1	0.9	0.25	0.16	1201217
55	石鐵	黒曜石C	B-16	VII a	1.1	1.2	0.2	0.25	1200335

第5章 III・IV層の調査

1 概要

III、IV層は縄文時代早期の遺物が中心に出土しており、遺物総数は土器が5816点、石器が6622点である。両層位に遺物の差が認められないため、一括して取り扱う。遺物は4～7区（平成10年度調査区）では層位が良好に残っていたため、全体に出土している。8区以降は旧地形が西側が高く、東側へ傾斜しており、西側が削平を受けているため、遺物は層の残った東側の調査区を中心に出土している。

2 遺構

土坑7基、ピット3基、集石3基が検出されている。

① 土坑

1～4はVI層上面で検出され、V層黒褐色土と一部薩摩バミスを埋土としている。遺物は出土しなかった。1の埋土は薩摩バミスの濃度から上層下層に分けられる。埋土の状況から一気に埋まった感がある。1～4は縄文時代早期前半のものと考えられる。

5～7はVI層上面で検出され、V層黒褐色土を埋土としている。6からは黒曜石薄片が出土している。5～7は縄文時代早期後半のものと考えられる。

② ピット

1はV層上面で検出され、III層明茶褐色土を埋土している。遺物は出土しなかった。2はVI層上面で検出され、V層黒褐色土を埋土としている。壁面、床面ともしっかりといる。遺物は出土しなかった。3はIV層上面で検出され、III層明茶褐色土を埋土としている。また、3号集石に隣接した場所で検出されている。遺物は出土しなかった。また、焼土も検出されなかった。縄文時代早期後半のものとみられる。

③ 集石

集石はA～5～6区の、東側へ緩やかに下がる傾斜地で検出された。焼土や炭化物は検出されなかつた。2からは土器片が検出された。縄文時代早期後半のものとみられる。

3 遺物

① 土器

土器はIII層から2590点、IV層が1204点出土している。層位が良好に残っていた4～7区からは塞ノ神式土器を中心に早期土器が多く出土した。その他の出土した早期土器は石坂式土器、押型文土器、平椿式土器などである。また削平を受けて層位が一部残っていたA・B-5、11・12区から前期～後期土器が出土している。このうち230点を図化した。

また、土器の器形や文様から、早期土器をI～VI

類、前期、中期、後期土器をⅦ～Ⅸ類に分類する。
早期土器

I 類土器（1）

口縁部には縦位の連続する貝殻腹縁刺突文が施され、胴部には横位の貝殻条痕が施されている。口唇部は平坦である。口縁部は胴部から直線的にのび、円筒状となる。遺跡南端の17区から1のみ出土している。前平式土器に相当すると考えられる。

II 類土器（2～11）

器形は、平底の底部から直線的に胴部まで伸び口縁部で外反している。4はやや外反する。5、8は胴部がわずかに丸みを帯びて膨らんでいる。

文様は、2～4の口唇部には刻みを施し、口縁部には斜位の貝殻腹縁刺突文を施している。5～11の胴部には綾杉状の貝殻条痕、10～11の底部には横位の貝殻条痕を施している。2は口唇部に刺突文を2条巡らしている。10点を図化している。

4は口縁部に、横位の貝殻腹縁刺突文1条、逆「くの字」状の斜位の貝殻腹縁刺突文、横位の貝殻腹縁刺突文1条を施している。5は回転により穿孔しているやや楕円形の補修孔が2カ所ある。内面調整は口縁部がナデ、胴部が工具によるナデ、一部に条痕を残している。

また、5、6、8はA・B-7区から集中して出土している。文様・調整が類似することからも同一個体の可能性がある。

以上の特徴から、石坂式土器に相当すると考えられる。

III 類土器（12～16）

器形は、平底で厚みのある底部から、丸みを帯びて膨らみながら胴部に続いている。文様は、楕円押型文が器面全体に施されている。調整は内面がナデ、外面がナデ消しである。5点を図化している。

すべての遺物がA～5区から集中して出土している。出土状況および文様・調整が類似することから、同一個体の可能性がある。

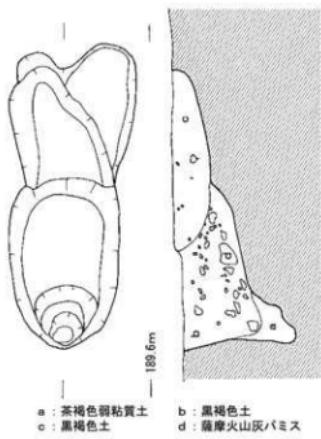
以上の特徴から、楕円押型文土器に相当すると考えられる。

IV 類土器（17～200）

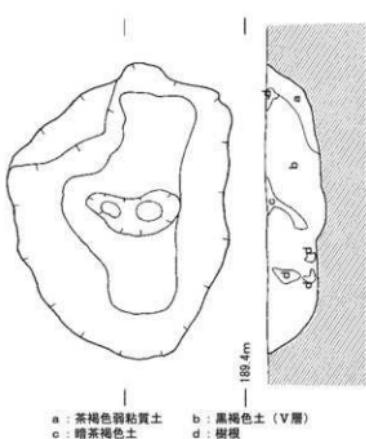
文様の形態から以下の4つに細分した。塞ノ神式土器に相当すると考えられる。

IV-a : (46～119, 125, 126, 128, 130～132, 134, 136～138, 141, 143～145, 147～151, 153, 155～170)

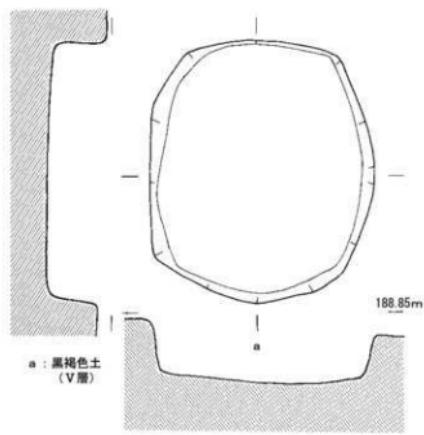
胴部に沈線による区画を施し、その枠内に撲糸を施すもの。塞ノ神Ab式土器に相当する。A・B-5区、A・B-7区から、多く出土している。115点を図化した。うち、46～119の74点は網目撲糸を



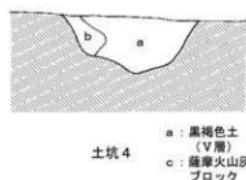
土坑 1



土坑 2



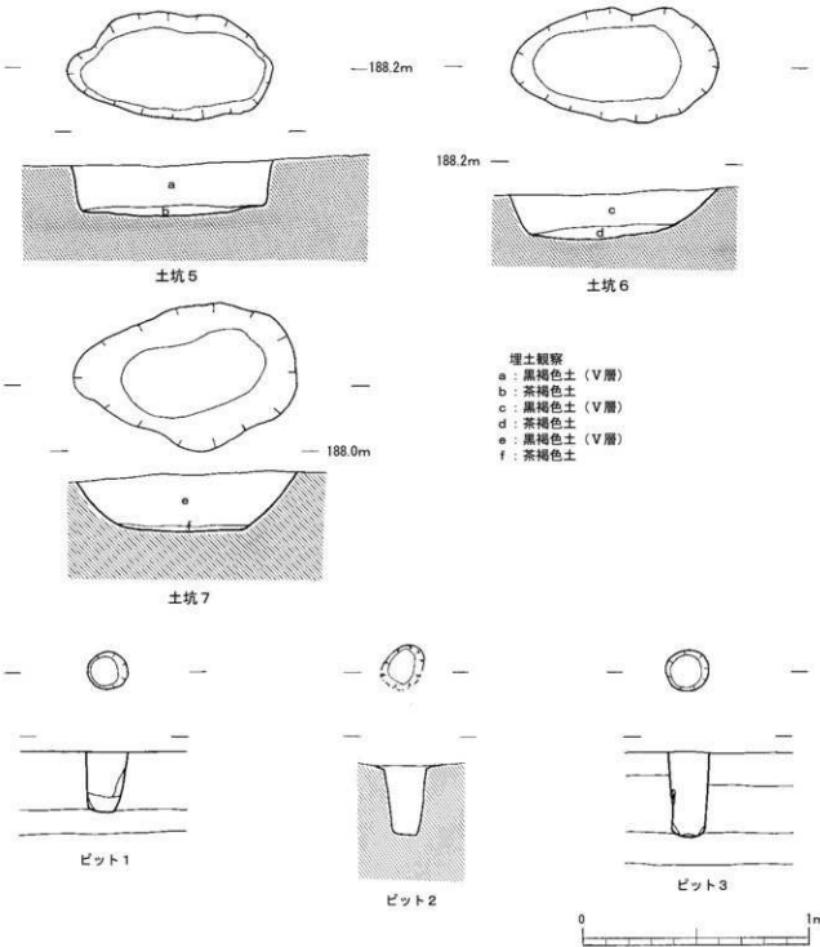
土坑 3



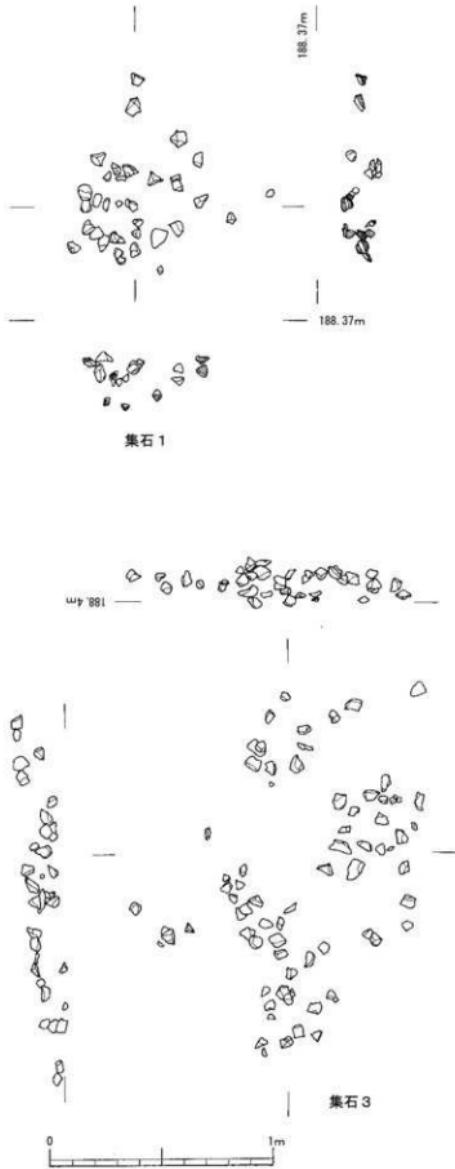
土坑 4



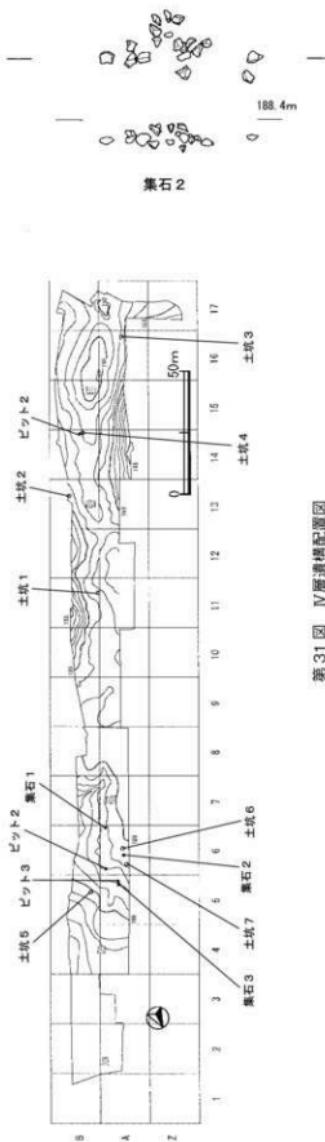
第 28 図 土坑 1 ~ 4



第29図 土坑5～7・ピット1～3



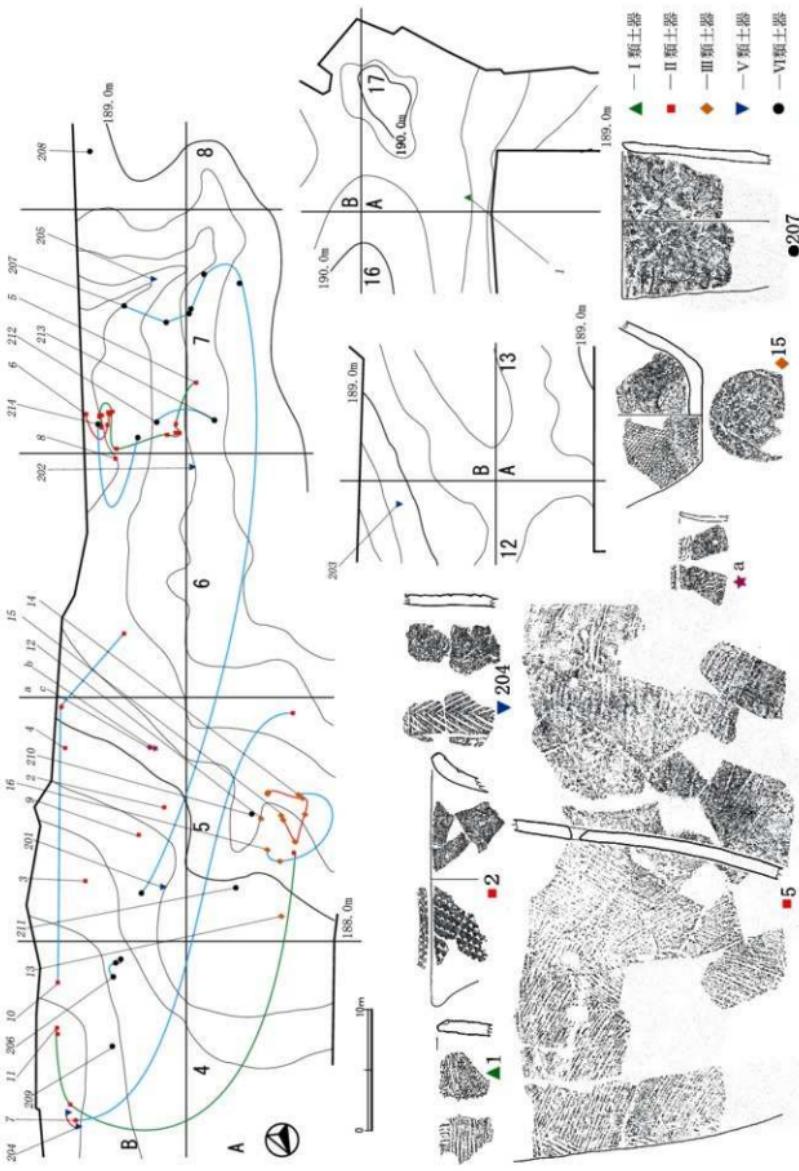
第30図 集石1～3

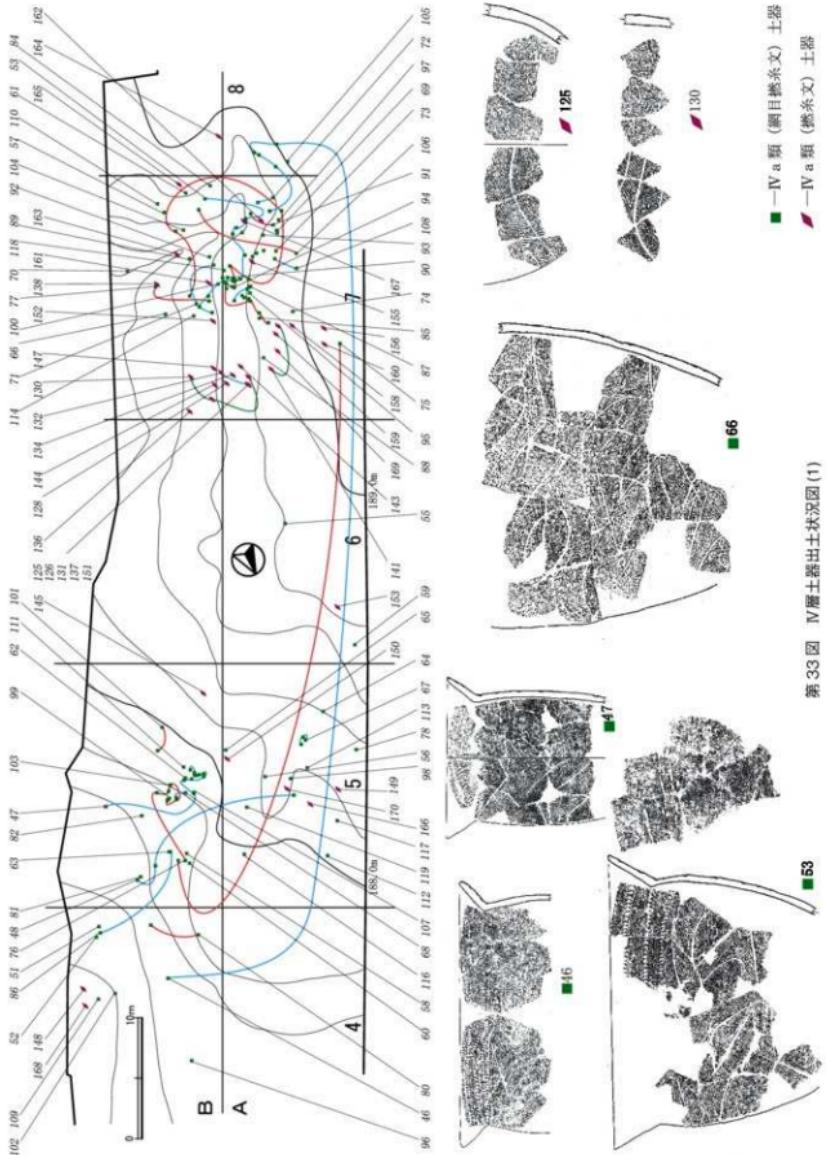


第31図 IV層構造配置図

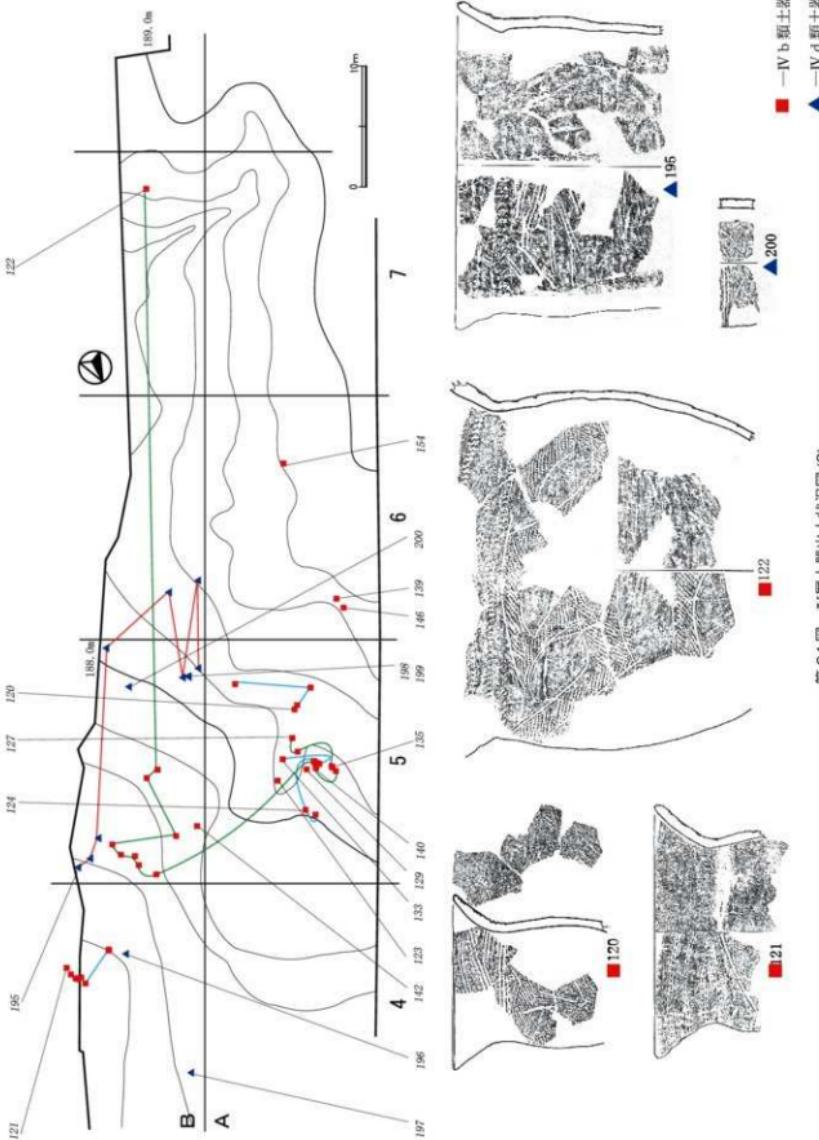
●遺土器

第32図 繩文時代早期土器出土状況図

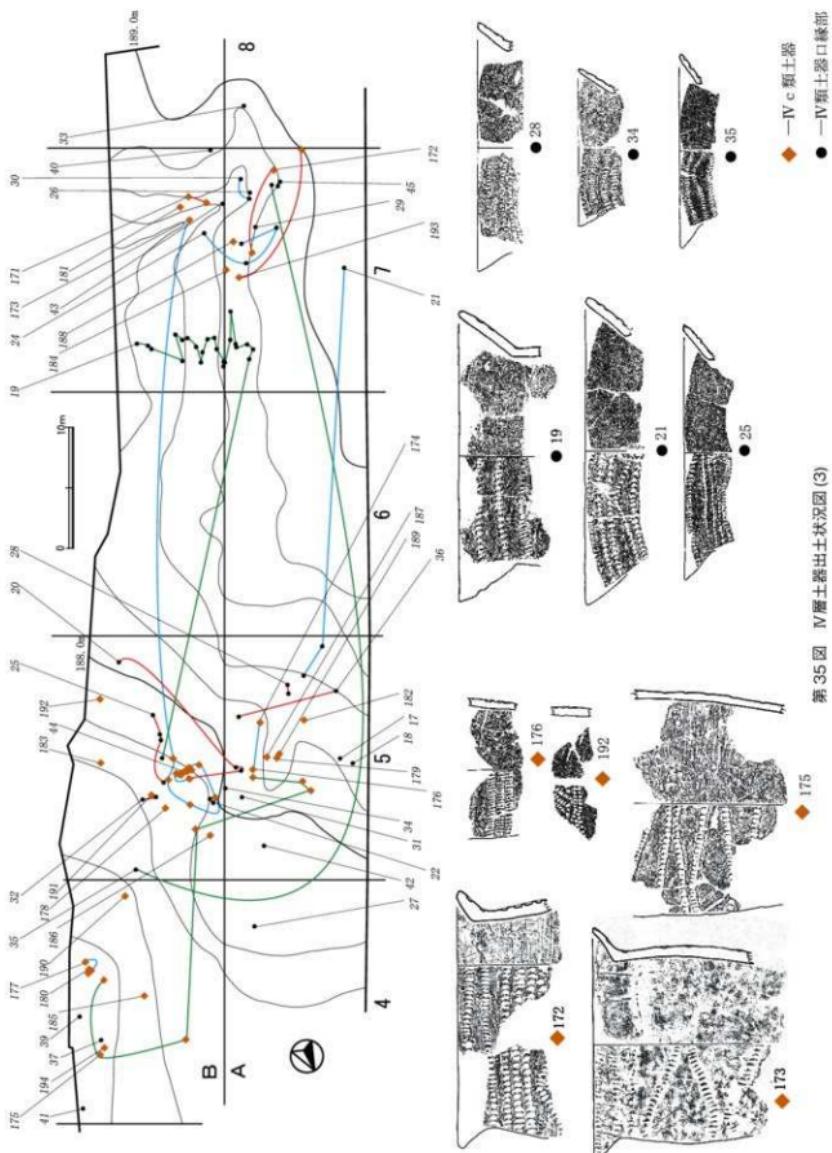




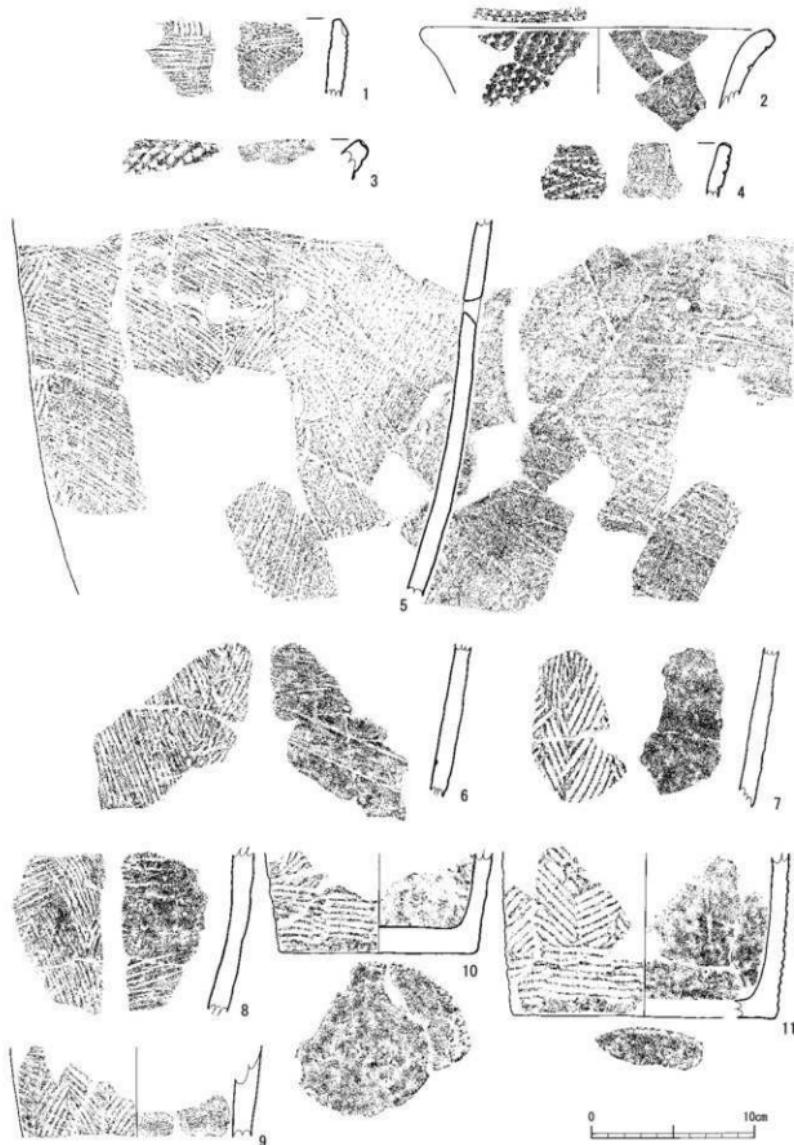
第33圖 IV層土器出土狀況圖(1)



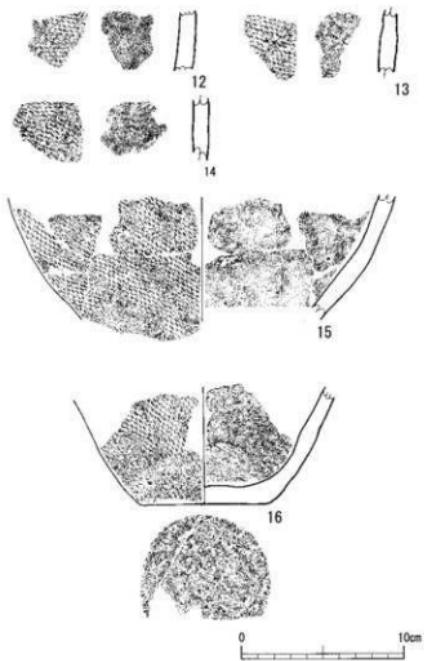
第34図 IV層土器出土状況図(2)



第35図 IV層土器出土状況図(3)



第36図 IV層出土土器(1)



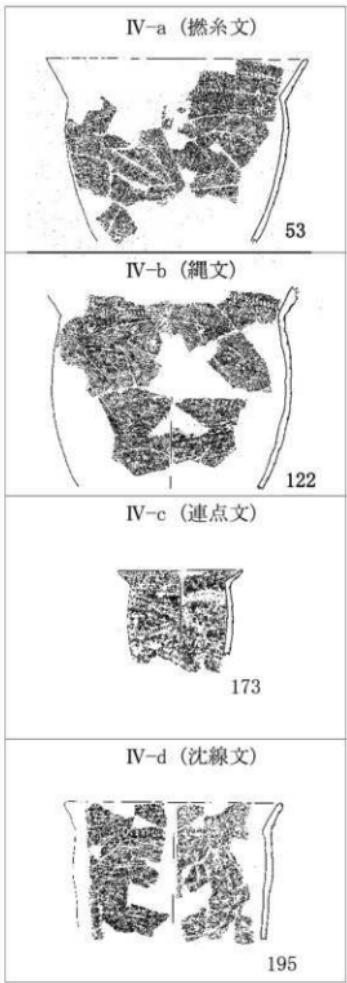
第37図 IV層出土土器(2)

施し、それ以外の41点は撚糸を施す。網目撚糸を施すものには、口縁部に網目撚糸文を施すものが9点、貝殻連続刺突を施すものが5点あった。また撚糸を施すものには、口縁部に刺突連点文を施すものが2点あった。口唇部には、46~55、57、58で貝殻連続刺突による刻目が施されている。内面調整は、口縁部から頸部までナデられ、胴部は横方向に工具によりナデられている。

器形は、口縁部がラッパ状に聞くと考えられるものが8点、直行すると考えられるものが6点、外反するものが2点、内湾するものが1点である。内湾するもののうち、169は撚糸を施すものである。口径は15.2~42cmまである。胴部は、直線上にのびるものと丸みを帯びて膨らむものがある。底部は5点で、うち3点が平底、1点がやや上げ底、1点が明瞭な上げ底である。底径10.6~18cmまである。大型のものから小型のものまである。

また、出土状況および文様・調整が類似することから、125、126、130、131、137、143、151は同一個体の可能性がある。

IV-b : (120~124, 127, 129, 133, 135, 139,

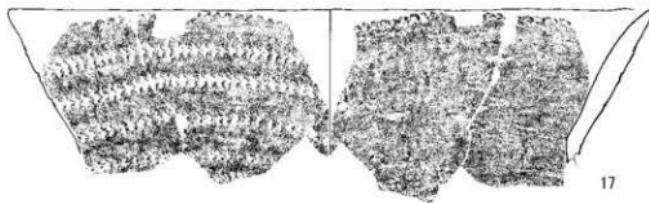


第38図 IV類土器の分類

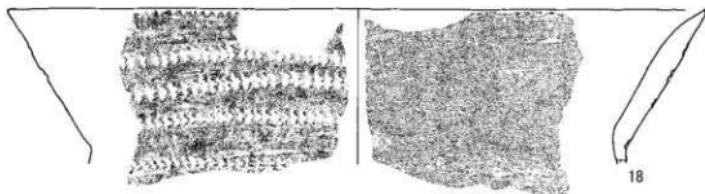
140, 142, 146, 152, 154)

沈線による区画を施し、その枠内を縄文で回転押圧し施したもの。A-5区を中心に出土している。10点を図化した。

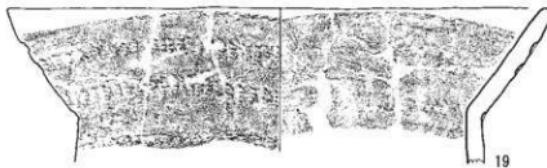
口縁部に沈線文を施すものが1点、貝殻連続刺突を施すものは3点であった。120は口縁部から頸部にかけて平行3本沈線を斜位または横位に施している。120には口唇部に刻みが施されている。121には口縁部上端部にまで貝殻連続刺突が施されている



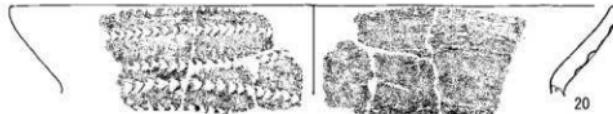
17



18



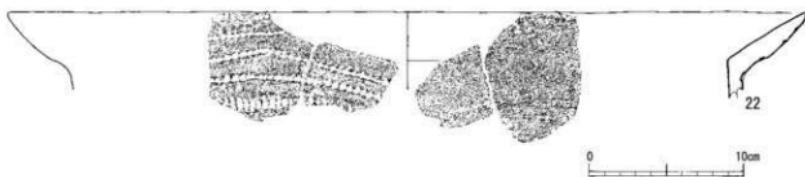
19



20

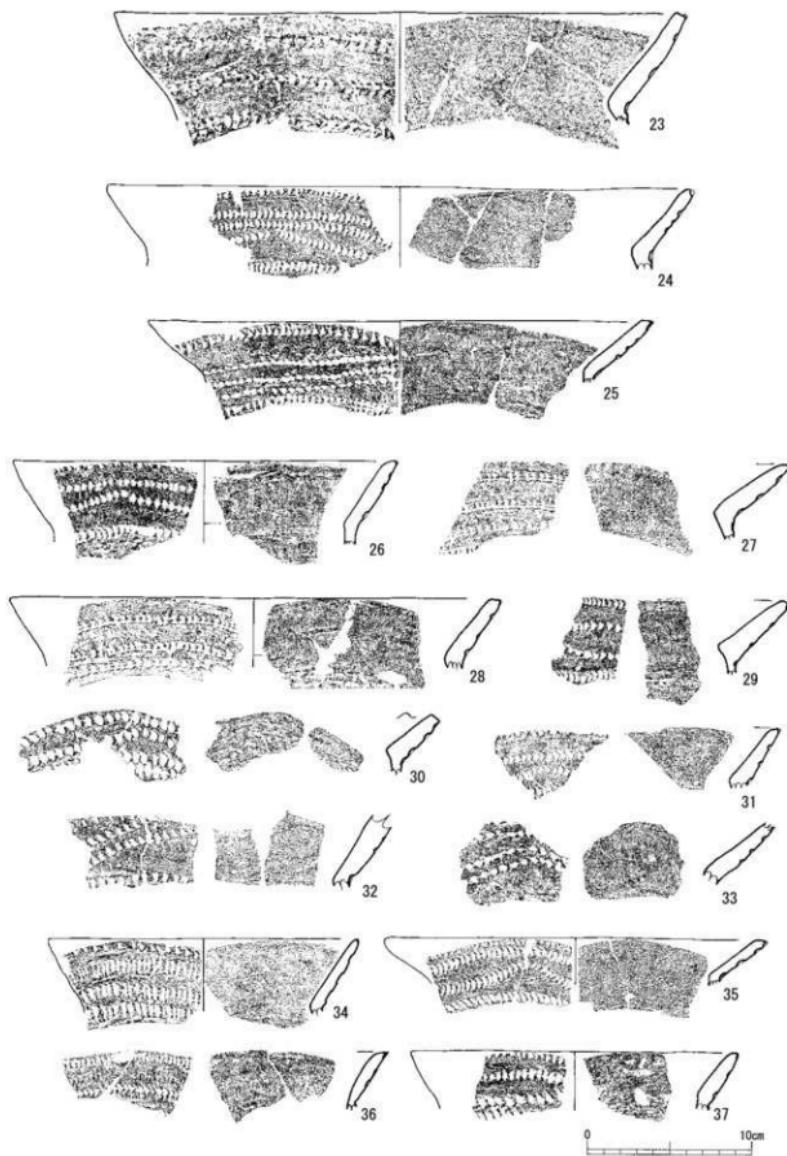


21

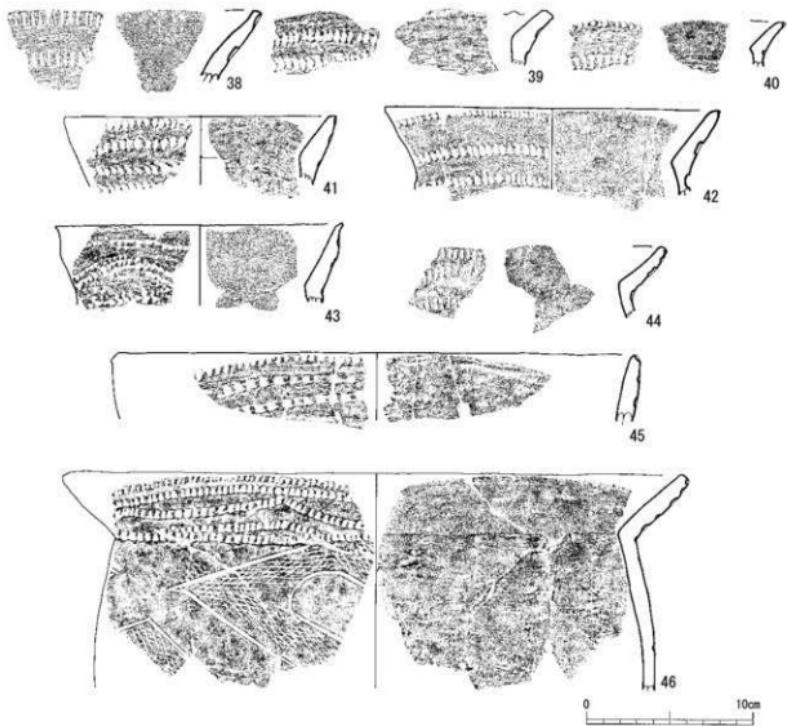


0 10cm

第39図 IV層出土土器(3)



第40図 IV層出土土器(4)



第41図 N層出土土器(5)

が、口唇部に文様は施されていない。また、口縁部にまで繩文を施したものは出土していない。内面調整は、工具によるナデが施されている。

器形は、口縁部がラッパ状に開くと考えられ、120~122の3点がこれにあたる。口径は小型~中型と思われる120と121が17.4~26.2cmである。胴部は、122~124の大型のものは丸みを帯びて膨らむ。小型の120はやや丸みを帯びながら直行し、頸部で内湾したのち口縁部へラッパ状に開いている。内面には頭部に稜があり、この他のものは形状が小さく、器形大きさともにはっきりしない。出土状況および文様・調整の類似性から、122、123、124、133は同一個体の可能性がある。

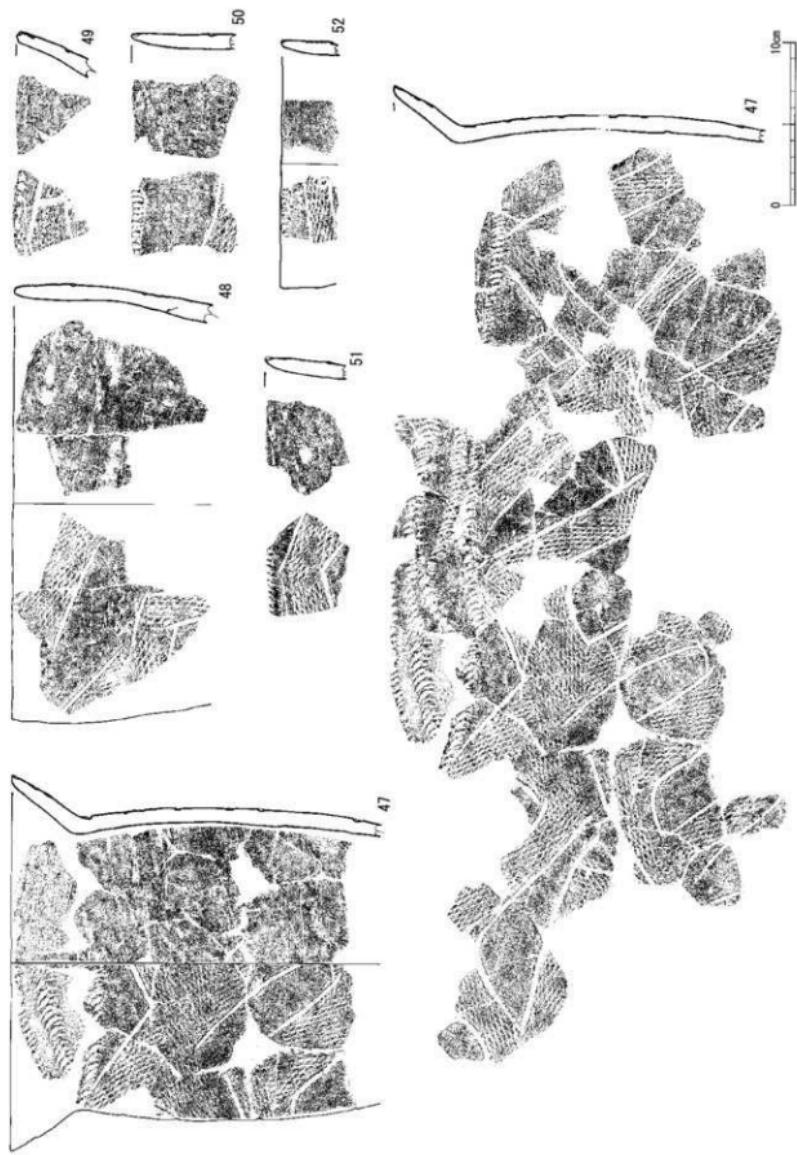
IV-c : (171~194)

刺突連点文を胴部に施すもの。A-4区、A-B-5区、A-B-7区から出土した。24点を図化した。

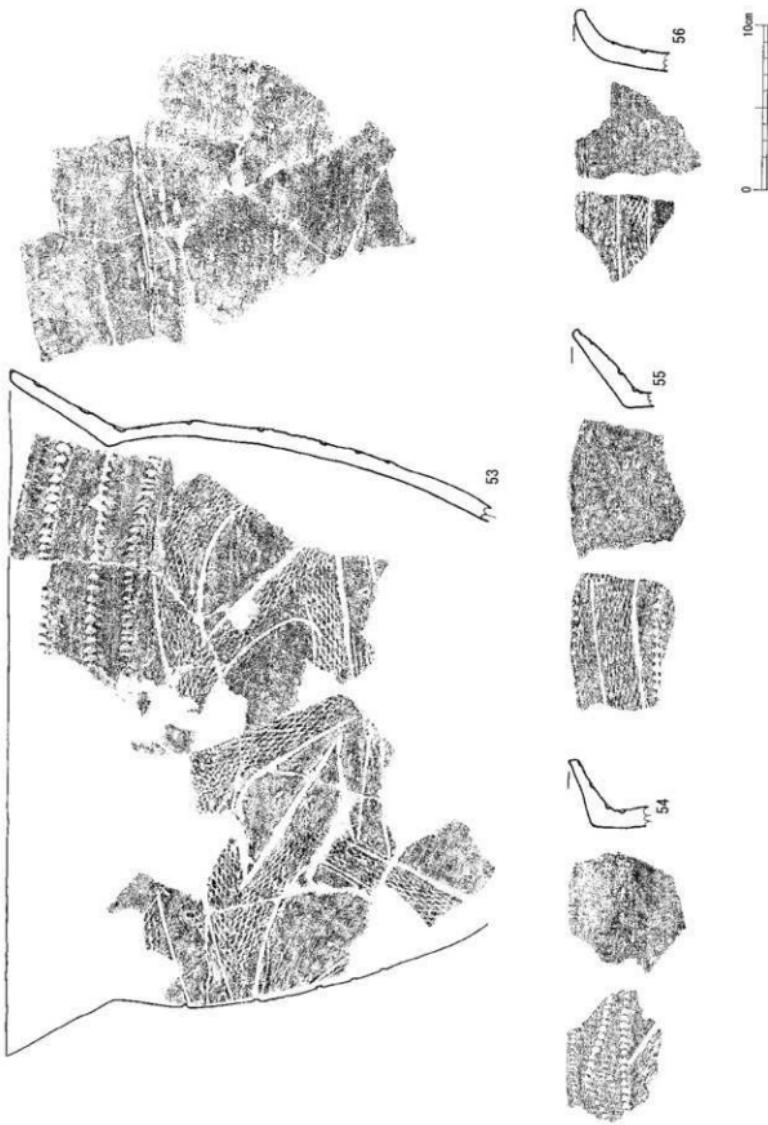
器形は、口縁部がラッパ状に開くものが4点で、

直行していると考えられるものが2点ある。口径は20~25cmの中型である。ラッパ状のものは口唇部が平坦である。直行するものは、外面は口縁部上端部まで直行するが、内面は直行した後、屈曲部は内面に明確な稜を持ち、外面はややゆるやかである。いずれにも口唇部に刻みは施されていない。また、胴部は、やや丸みを帯びながら直行している。

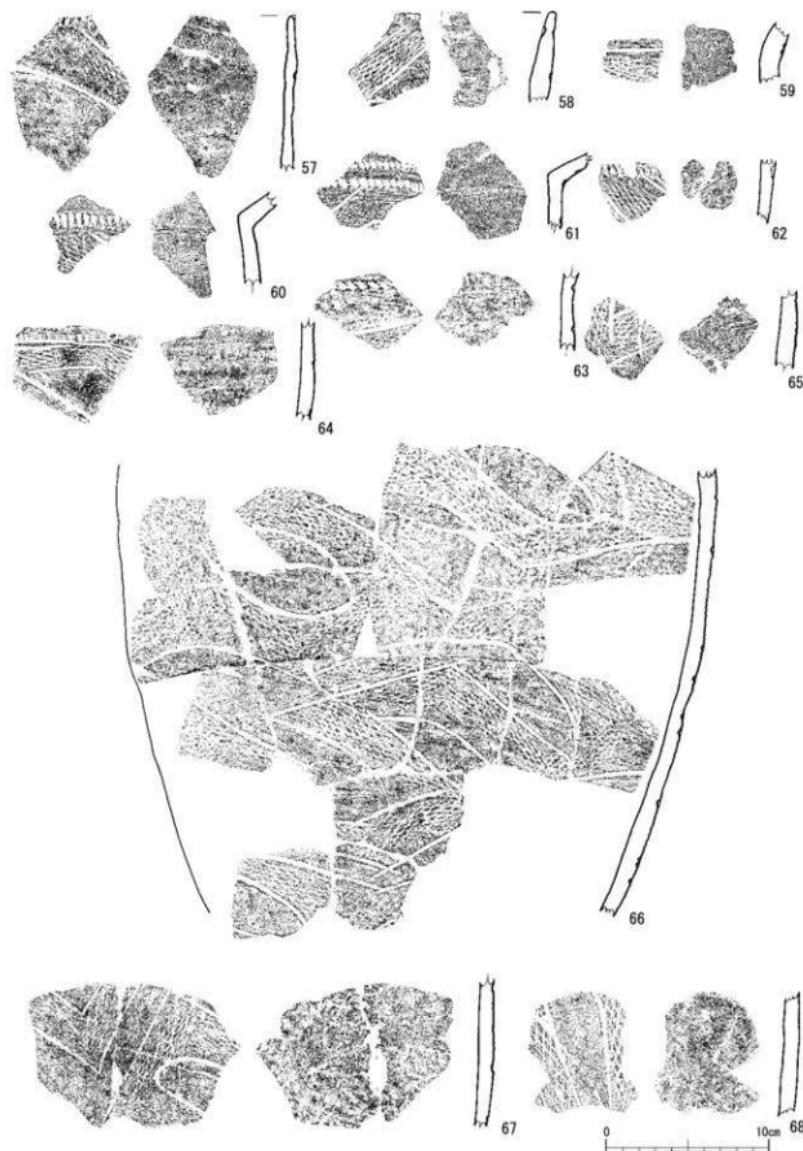
文様は、爪形の刺突連点文が173と182の2点ある。173は口縁部上端部から胴部まで、横位か斜交して施されている。その文様はやや盛り上り、野球ボールの継い目状である。174、174、178、179はヘラ状工具による刺突連点文が施されているが、縦位の長方形の刺突が斜位あるいは横位に直線的に施されている。内面調整は、171~177はナデ、178~181は工具ナデ、182~184、188~194はヘラナデ、186、187は丁寧なナデ、185は貝殻条痕のちヨコナデが施されている。出土状況および文様・調整の類似性から、174と176は同一個体の可能性がある。



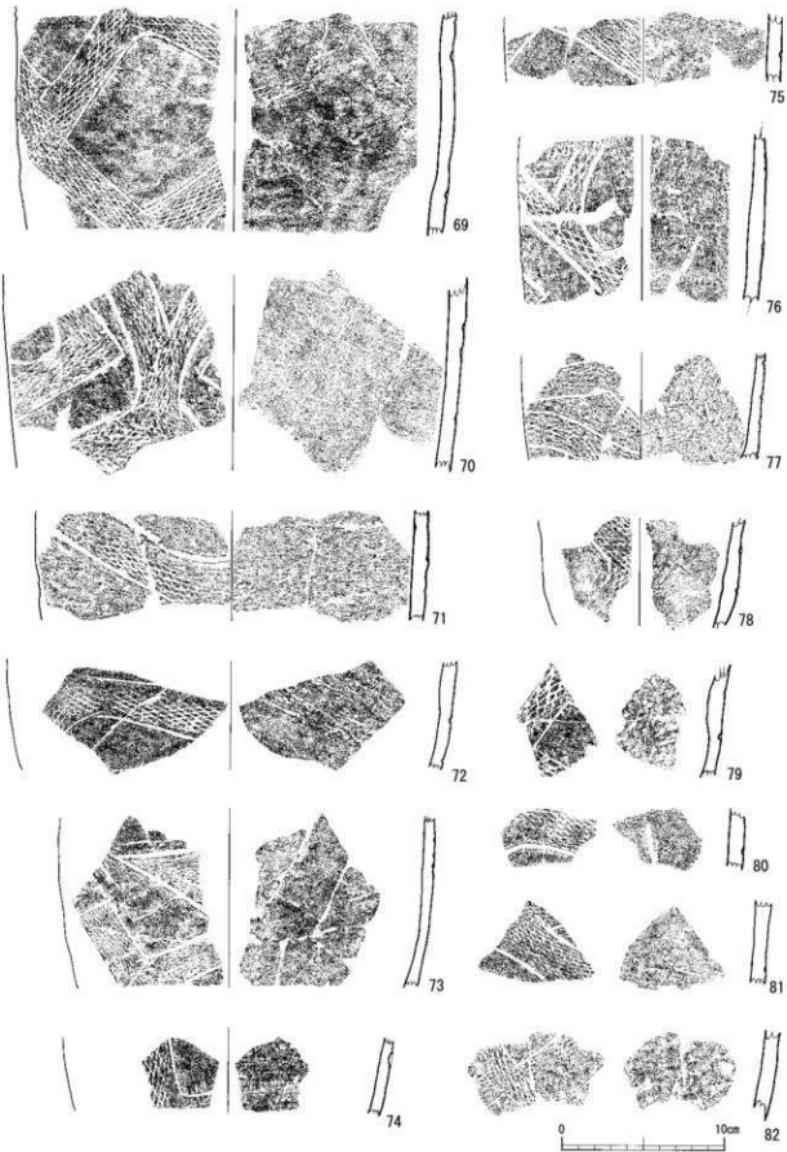
第42図 IV層出土土器(6)



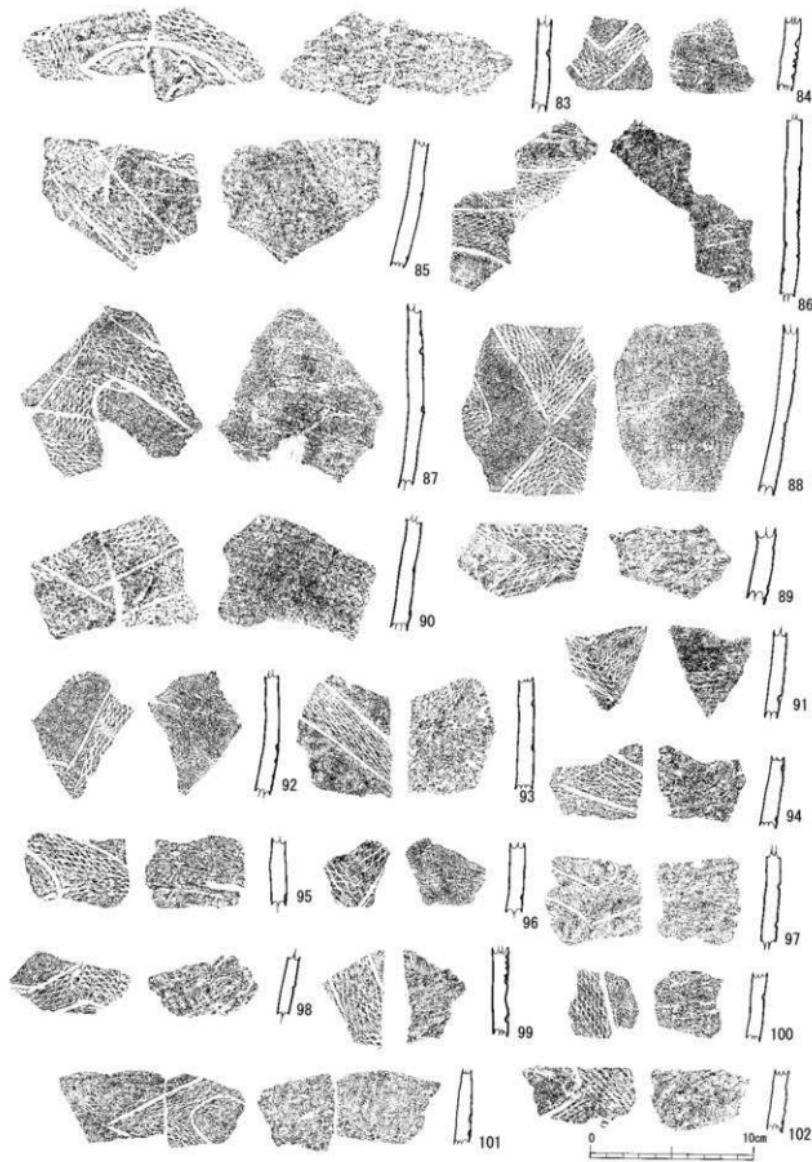
第43図 IV層出土土器(7)



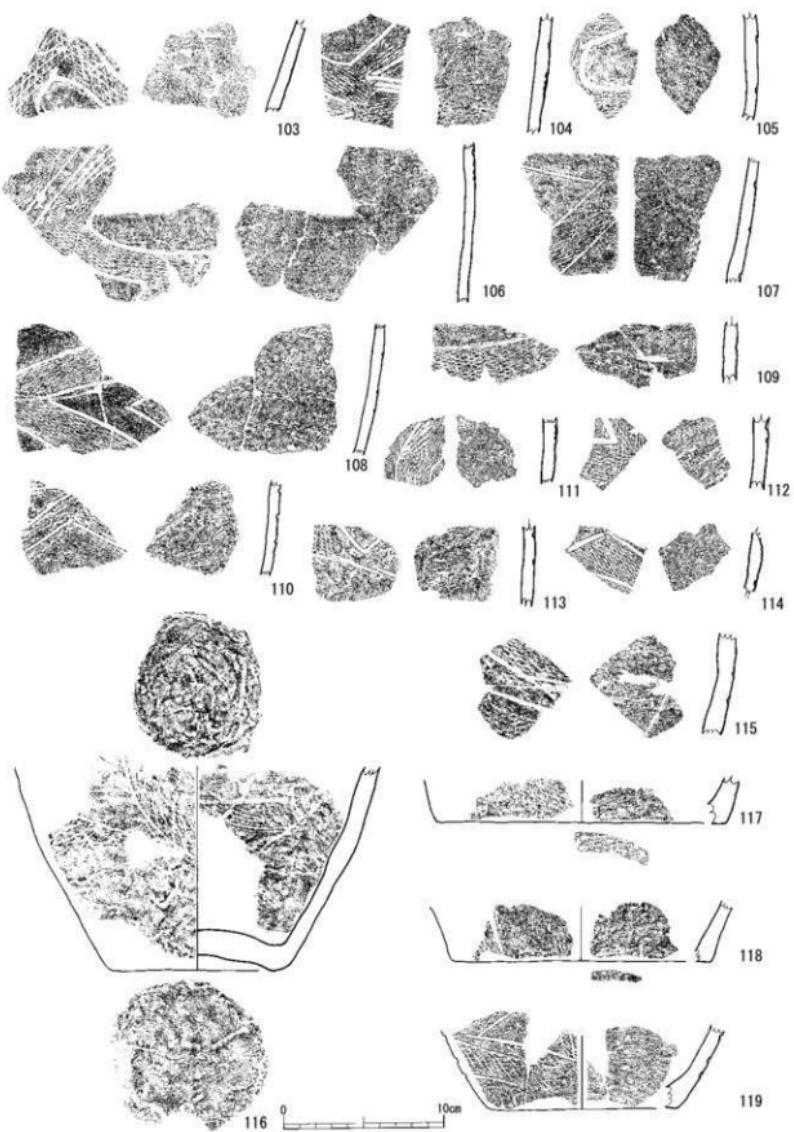
第44図 IV層出土土器(8)



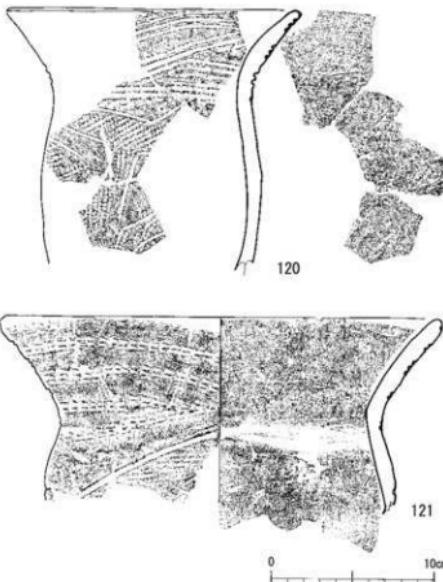
第45図 IV層出土土器(9)



第46図 IV層出土土器(10)



第47図 IV層出土土器(11)



第48図 IV層出土土器(12)

IV-d : (195~200)

胸部あるいは口縁部に沈線文を施すもの。B-5区を中心出土している。11点を図化した。

器形は、口縁部がラッパ状に開くと考えられるものが3点、直行すると考えられるものが2点である。195は口径が34.6cmで大型のものもあるが、他は196、200のように小型のものが多い。

文様は、195は口唇部に刻みがあり、口縁部と胸部には二叉状の工具による、横位または斜交する沈線文が施されている。頭部には貝殻連続刺突が施されている。198~200にも斜交する沈線がみられる。199の屈曲部外面には工具による刺突連点文が施され、200には横位の沈線が施されている。また、198の口唇部には刻目がみられる。197には口唇部と口縁部にしっかりと沈線が施されている。波状口縁になり、傾きが異なる可能性もある。内面・調整はヘラナデが施されている。出土状況および文様・調整の類似性から、199~200は同一個体の可能性がある。

196は、口縁部に連続する円形浮文と刺突連点文が施されている。色調は黒く、調整は丁寧なナデが施されている。内面は貝殻条痕の後丁寧なナデが施されている。これらの特徴は、森B式莊タイプに類

似している。地層の乱れから落ち込んだ可能性もある。

なお、17から45の29点は口縁部に貝殻刺突文を施すもので、39を除き、口唇部あるいは口縁部上端部に刻みを施している。下部の文様は不明で、a~dに分類できないが、a類もしくはb類の口縁部であると考えられる。中でも、19は出土状況からIV-a類(撫糸)の口縁部である可能性がある。A・B-4~5、A・B-7区といったよくIV類が出土している調査区から出土している。口径は20cm未満の小型のものが3点、20~30cmの中型が5点、30~40cmの大型が7点、40cm超の特大が3点あった。

IV類土器の出土状況から、IV-aとIV-cは類似した出土分布であること、IV-dは他のIV類土器と異なる出土分布を示すこと、IV-bはA・B-7~8区ではほとんど出土しなかったこと、III類土器の出土分布はIV-bの出土地点の一部と重複することの4つが、うかがえる。

V類土器 (201~205)

出土点数が少なくまた小さなものばかりである。出土地点は分散している。器形は、口縁部が外反し頭部はくびれている。また口縁部は肥厚し下部には稜が確認できる。胴部はゆるやかに膨らみ直行している。文様は口唇部に刻みが施され、口縁部と胴部には刺突連点文と沈線文が施されている。内面調整はナデもしくはヘラナデが施されている。

201は口唇部の刻みが無く刺突連点文が口縁直下を巡り、頭部は刺突連点文が施されている。202、203は壺型土器の可能性がある。203は外反部は内湾している。205は屈曲部内側の稜が確認できる。204は胴部で、縦位と斜位の沈線文と縦位の刺突連点文が施されている。以上の特徴から、平格式土器に相当すると考えられる。

VI類土器 (206~214)

口縁部から胴部、底部まで出土している。A・B-4~5、A・B-7区から出土している。IV-a類土器やIV類土器口縁部の分布状況に類似している。9点を図化した。

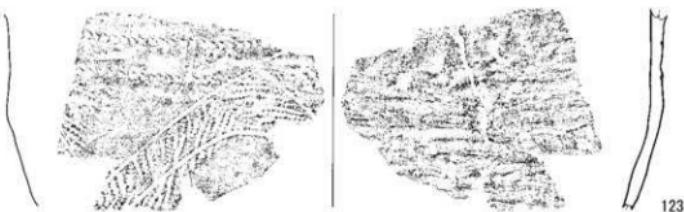
器形は、206は口縁部が外反しラッパ状に開き、207は胴部から口縁部まで直線的に伸びている。胴部は、直線状のものが2点、丸く膨らむものが2点である。底部は、上げ底が2点、やや上げ底が4点、207のみ平底である。

文様は、内外面ともに施されていない。調整は内面が工具ナデのちナデ、外側がナデである。

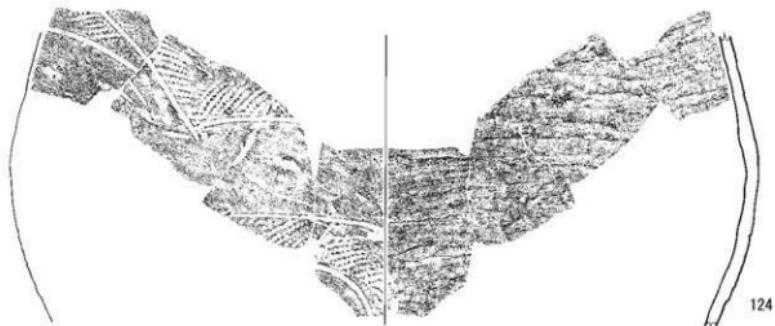
IV類土器に近似するが、無文の一群である。



122



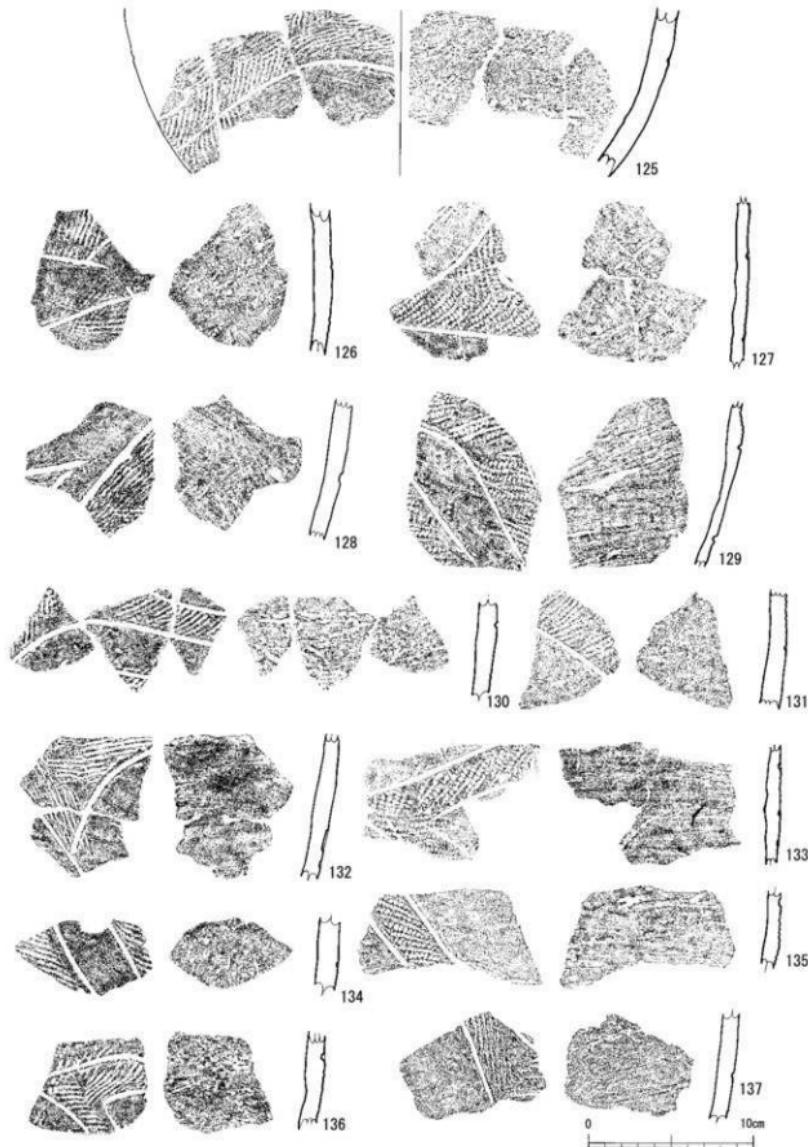
123



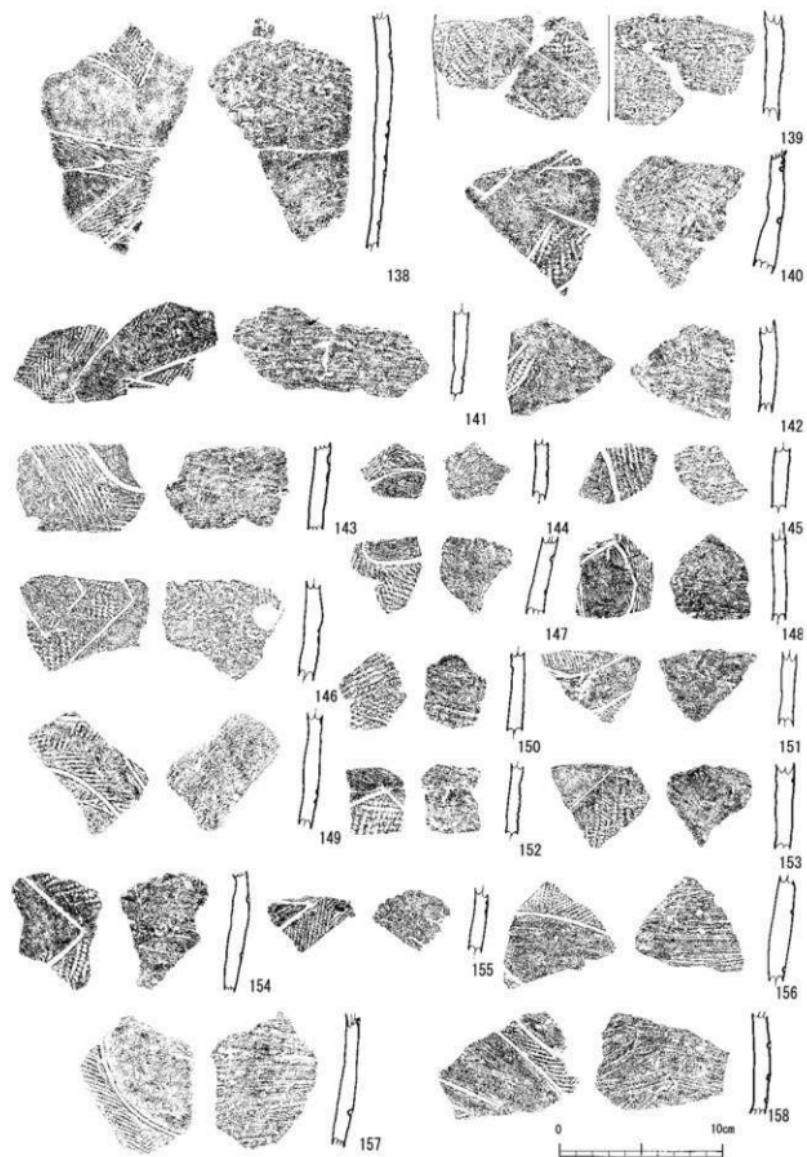
124

0 10cm

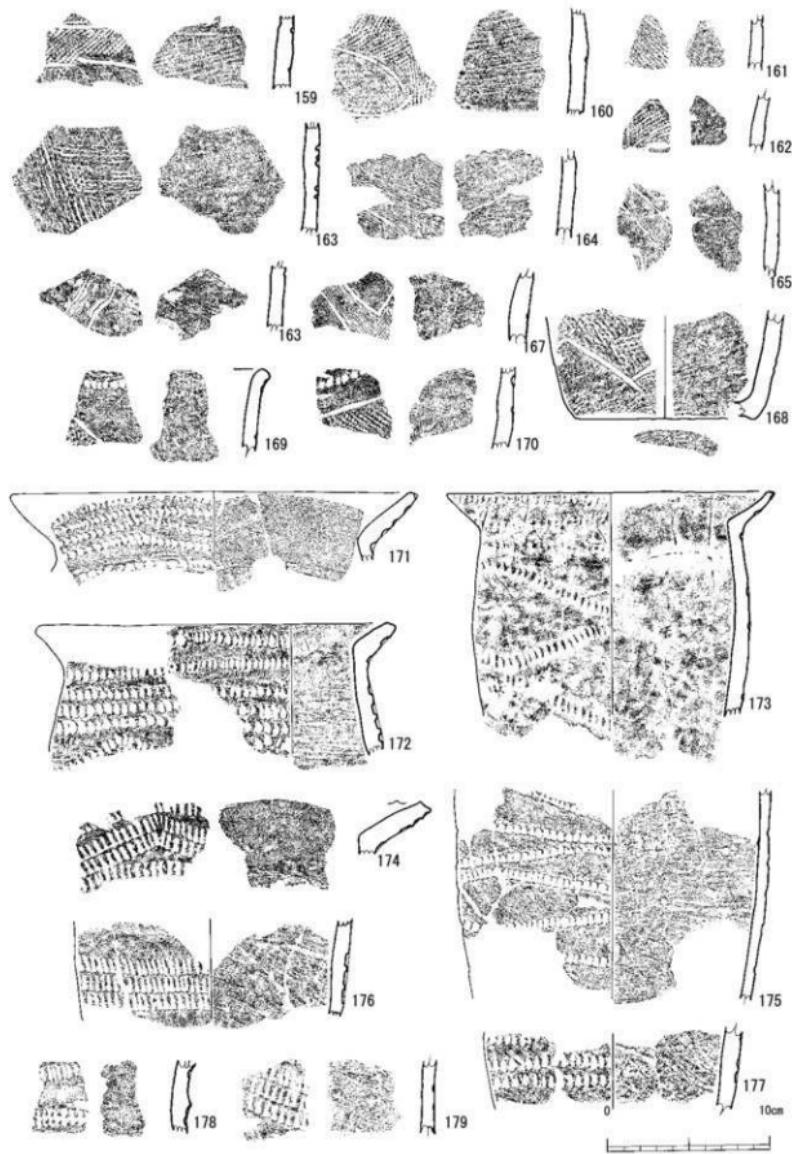
第49図 IV層出土土器(13)



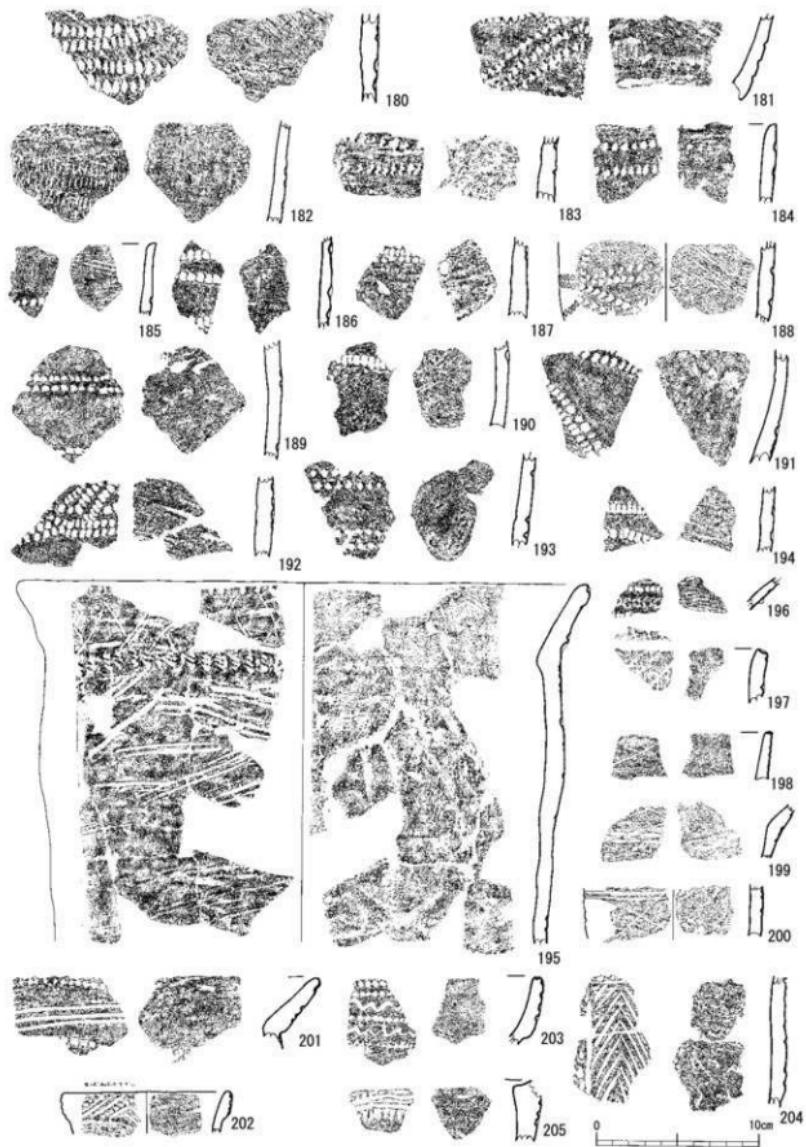
第50図 IV層出土土器(14)



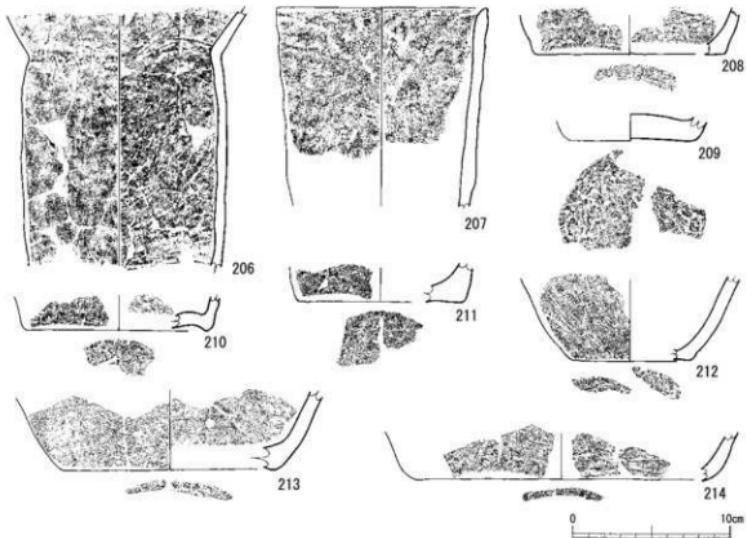
第51図 IV層出土土器(15)



第52図 IV層出土土器(16)



第53図 IV層出土土器(17)



第54図 IV層出土土器(18)

拾遺(a~c)

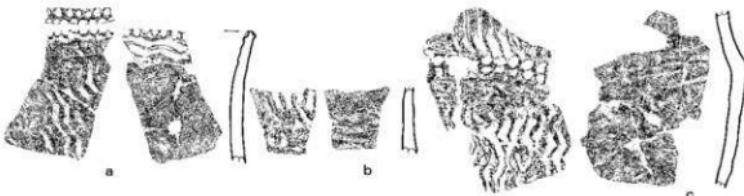
編集作業終了後、掲載に漏れた遺物が確認されたため、拾遺として掲載することとした。

aは口縁部である。外面は山形押型文を縦位に施し、その後ナデ調整が施されている。口縁部内部上部にも山形押型文が横位に施され、口唇部の内面外面にそれぞれ刺突が施される。

bは屈曲部である。外面は山形押型文を縦位に施し、内面はケズリが確認される。

cは脇部である。屈曲部の上、下ともに山形押型文が縦位に施され、屈曲部に突帯を貼付けた後、上下に刺突を施している。内面は横方向へのケズリが確認される。

いずれも、手向山式土器であると考えられる。



第55図 IV層出土土器(19)

表5 拾遺遺物観察表

図番号	取上番号	出土地区	層位	分類	部 位	文様・調整(内面)	文様・調整(外面)	色調(内面)	色調(外面)	拾 土				備考
										長石	石英	角閃石	赤石	
a	1002340	B-5	Ⅲ	拾遺	口縁部～脇部	刺突連点文、山形押型文、ナデ	刺突連点文、山形押型文	黒褐3/125Y	黄灰4/125Y	○	○			
b	1002339	B-5	Ⅲ	拾遺	脇部	ナデ	山形押型文	浅黄7/425Y	黄灰4/125Y	○	○			
c	1002340	B-5	Ⅲ	拾遺	脇部	ナデ	刺突連点文、山形押型文	浅黄7/425Y	黄灰4/125Y	○	○			

表6 III・IV層実測土器觀察表(1)

番号	取上番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調査(内面)	文様・調査(外面)	色調(内面)	色調(外面)	胎 土			備考	
										長石	石英	鈷鉄	赤玉	
1	1200903	A-17	B'	I	口縁部	貝殻条痕	貝殻條刺突、貝殻条痕、ナデ	褐7SYR6-6	にぶい黄褐色10YR5/4	○	○	○	○	
2	1008916	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻條刺突、ナデ	灰褐7SYR4/2	にぶい褐7SYR7/4	○	○	○	○	
3	1008911	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻條刺突、ナデ	にぶい赤褐色5YR5/4	にぶい赤褐色5YR5/4	○	○	○	○	
4	1007410	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻條刺突、ナデ	にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい黄褐色10YR7/4	○	○	○	○	
5	1004081	B-7	B'	II	胴部	工具ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	にぶい褐5YR2/3	にぶい褐5YR2/3	○	○	○	○	織紋孔
6	1004080	B-7	B'	II	胴部	工具ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色10YR7/3	黒褐7SYR3/1	○	○	○	○	
7	1009639	B-4	B'	II	胴部	ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	明赤褐色5YR5/6	黒褐7SYR3/1	○	○	○	○	
8	1002548	B-6	B'	II	胴部	工具ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	褐7SYR7/6	にぶい褐7SYR5/4	○	○	○	○	
9	1008763	B-5	B'	II	胴部	ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	にぶい赤褐色5YR4/4	○	○	○	○		
10	1009327	B-4	B'	II	底部	ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	にぶい赤褐色5YR5/4	褐灰7SYR4/2	○	○	○	○	
11	1009985	B-4	B'	II	底部	ナデ	織紋状の貝殻条痕、ナデ	にぶい赤褐色5YR5/4	黒褐10YR2/1	○	○	○	○	
12	1010855	A-5	B'	III	胴部	ナデ	褐円押墨文、ナデ消し	褐7SYR6-6	黒褐10YR3/2	○	○	○	○	
13	1011956	A-5	B'	III	胴部	ナデ	褐円押墨文、ナデ消し	褐7SYR6-6	灰黄褐色10YR4/2	○	○	○	○	
14	1010827	A-5	B'	III	胴部	ナデ	褐円押墨文、ナデ消し	褐7SYR6-6	灰褐7SYR5/2	○	○	○	○	
15	1010782	A-5	B'	III	胴部	ナデ	褐円押墨文	褐7SYR6-6	黒褐7SYR3/1	○	○	○	○	
16	1010787	A-5	B'	III	底部	ナデ	褐円押墨文	褐7SYR6-6	灰黄褐色10YR6/2	○	○	○	○	
17	1010805	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR3/3	褐7SYR7/6	○	○	○	○	
18	1010800	A-5	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR4/3	褐7SYR7/5	○	○	○	○	
19	1000675	B-7	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐5YR2/7	褐灰7SYR4/1	○	○	○	○	
20	1010559	A-5	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい黄褐色10YR7/4	浅黄褐色10YR8/4	○	○	○	○	
21	1011311	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR7/6	浅黄褐色10YR8/4	○	○	○	○	
22	1007901	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	○	○	○	○	
23	1000064	4T	-	B'	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	黑褐7SYR3/1	にぶい黄褐色10YR6/4	○	○	○	○	
24	1000512	B-7	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR6-6	にぶい褐7SYR7/3	○	○	○	○	
25	1002788	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐5YR6/4	淡褐5YR8-3	○	○	○	○	
26	1001352	A-7	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐5YR6-6	褐5YR6-6	○	○	○	○	
27	1012236	A-4	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	○	○	○	○	
28	1011376	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	灰黃褐色10YR4/2	灰黃褐色10YR4/2	○	○	○	○	
29	1006007	A-7	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	明赤褐色7SYR5-6	明赤褐色7SYR5-6	○	○	○	○	
30	1005895	A-7	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	灰褐7SYR4/2	黑褐10YR3/1	○	○	○	○	
31	1012078	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐7SYR5/4	にぶい褐7SYR5/4	○	○	○	○	
32	1008120	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR6-6	褐7SYR6-6	○	○	○	○	
33	1009998	A-8	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR4/3	褐5YR6-6	○	○	○	○	
34	1011946	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR4/3	褐7SYR4/3	○	○	○	○	
35	1006738	A-7	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい黄褐色10YR4/2	黑褐10YR3/1	○	○	○	○	
36	1011276	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐7SYR6-6	褐7SYR6-6	○	○	○	○	
37	1009520	B-4	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐7SYR5/4	にぶい褐7SYR5/4	○	○	○	○	
38	-	-	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	明赤褐色5YR5-6	赤黒5YR17/1	○	○	○	○	
39	1009483	B-4	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐7SYR5/4	小褐5YR4/8	○	○	○	○	
40	1009114	B-7	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい赤褐色5YR4/4	暗赤褐5YR4/1	○	○	○	○	
41	1009641	B-4	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐5YR6-6	にぶい褐7SYR6-3	○	○	○	○	
42	1011974	A-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR7/4	○	○	○	○	
43	1005997	B-7	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR6-6	褐7SYR6-6	○	○	○	○	
44	1005344	B-5	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	にぶい褐7SYR6/4	灰褐7SYR6/2	○	○	○	○	
45	1001229	A-7	B'	II	口縁部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ナデ	褐7SYR6-6	褐7SYR6-6	○	○	○	○	
46	1009984	A-8	B'	II	口縁部~胴部	ナデ・工具ナデ	貝殻通織刺突文、ヘラ沈縞、網目自然文	褐5YR7-6	褐5YR6-6	○	○	○	○	
47	1007785	B-5	B'	II	口縁部~胴部	ナデ・工具ナデ	ヘラ沈縞、網目自然文	黑褐10YR3/2	黑褐10YR3/2	○	○	○	○	
48	1008352	B-5	B'	II	口縁部~胴部	工具ナデ	ヘラ沈縞、網目自然文	にぶい褐7SYR7/4	黑10YR2/1	○	○	○	○	
49	-	-	B'	II	口縁部	ナデ	ヘラ沈縞、網目自然文	にぶい褐7SYR6/4	にぶい褐7SYR6/4	○	○	○	○	
50	-	-	B'	II	口縁部	ナデ	ヘラ沈縞、網目自然文	褐7SYR2/1	褐7SYR2/1	○	○	○	○	
51	1009724	B-4	B'	II	口縁部	工具ナデ	ヘラ沈縞、網目自然文	褐7SYR17/1	褐灰7SYR4/1	○	○	○	○	
52	1009735	B-4	B'	II	口縁部	ナデ	ヘラ沈縞、網目自然文	にぶい褐7SYR5/4	にぶい褐7SYR5/4	○	○	○	○	
53	1000076	A-7	B'	II	口縁部~胴部	工具ナデ	貝殻通織刺突文、ヘラ沈縞、網目自然文	にぶい黄褐色10YR2/3	にぶい黄褐色10YR7/3	○	○	○	○	
54	-	-	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ヘラ沈縞、網目自然文	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	○	○	○	○	
55	1010187	A-6	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻通織刺突文、ヘラ沈縞、網目自然文	褐7SYR6-6	灰黄褐色10YR5/2	○	○	○	○	

表7 III・IV層実測土器観察表(2)

測定号	取上番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調整(内面)	文様・調整(外面)	色調(内面)	色調(外面)	粘 土			備考	
										長石	石英	鈣石	赤玉	
56	1010661	A-5	III	N'a	口縁部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7YR6/6	灰黄褐10YR4/2	○	○	○	○	
57	1009607	B-7	IV	N'a	口縁部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
58	1008237	B-5	IV	N'a	口縁部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐灰10YR5/1	褐灰10YR5/1	○	○	○	○	
59	1011163	A-6	III	N'a	端部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐褐7.5YR3/1	赤褐5YR4/8	○	○	○	○	
60	1001203	B-5	III	N'a	端部	ナデ	貝殻漬刻糞文、ヘラ沈縁。網目然系文	褐灰2.5Y4/2	褐7YR7/6	○	○	○	○	
61	1009627	B-7	III	N'a	端部	ナデ	貝殻漬刻糞文、ヘラ沈縁。網目然系文	褐7YR6/6	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
62	1008924	B-5	IV	N'a	側部	工具ナデ	貝殻漬刻糞文、ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR2/1	にぶい褐7.5YR5/3	○	○	○	○	
63	1008389	B-5	IV	N'a	側部	ナデ	貝殻漬刻糞文、ヘラ沈縁。網目然系文	褐7YR6/6	褐7YR6/6	○	○	○	○	
64	1011458	A-5	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
65	1012202	A-5	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○	
66	1000014	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	○	○	○	○	
67	1011349	A-5	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○	
68	1008732	B-5	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR5/3	黑10YR1.7/1	○	○	○	○	
69	1003225	A-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	黑褐7.5YR3/1	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
70	1006308	B-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR6/4	黄褐10YR5/6	○	○	○	○	
71	1000130	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR7/4	にぶい黄褐10YR7/4	○	○	○	○	
72	1009015	A-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR6/3	褐7.5YR6/6	○	○	○	○	
73	100946	A-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
74	1001534	A-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	○	○	○	○	
75	1012247	A-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	灰黄褐5YR4/2	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
76	1008657	B-5	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○	
77	1006350	B-7	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○	
78	1011465	A-5	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR6/4	黑7YR1.7/1	○	○	○	○	
79	1000446	47	-	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	黑褐10YR3/1	にぶい黄褐10YR5/3	○	○	○	○	
80	1009182	B-4	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐10YR4/4	褐7.5YR4/4	○	○	○	○	
81	1008878	B-5	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○	
82	1009591	B-5	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○	
83	1000336	47	-	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR7/6	浅黄2.5YR7/4	○	○	○	○	
84	1001113	B-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR4/3	にぶい黄褐10YR5/4	○	○	○	○	
85	1003421	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	淡黄2.5YR8/3	淡黄2.5YR8/3	○	○	○	○	
86	1009733	B-4	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
87	1003390	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR6/4	暗黄褐2.5Y4/2	○	○	○	○	
88	1001641	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐褐2.5Y3/1	褐7.5YR4/4	○	○	○	○	
89	1006334	B-7	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	黑25Y/1	褐灰2.5Y5/2	○	○	○	○	
90	1000173	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR7/3	にぶい黄褐10YR6/3	○	○	○	○	
91	1001351	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐5YR6/6	褐5YR6/6	○	○	○	○	
92	1006294	B-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR4/6	褐7.5YR4/6	○	○	○	○	
93	1003250	A-7	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐25YR6/6	明赤褐5YR5/6	○	○	○	○	
94	1003376	A-7	IV	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR7/2	にぶい黄褐10YR7/4	○	○	○	○	
95	1003356	A-7	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR7/6	にぶい黄2.5YR6/3	○	○	○	○	
96	1009950	B-4	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	明赤褐2.5YR5/6	褐7.5YR4/6	○	○	○	○	
97	1003206	A-7	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR7/6	黄褐2.5Y5/4	○	○	○	○	
98	1010822	A-5	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR5/4	褐7.5YR1.7/1	○	○	○	○	
99	1007846	B-5	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	暗灰褐2.5Y5/2	黑褐2.5Y3/1	○	○	○	○	
100	1000461	B-7	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR7/6	にぶい黄褐10YR5/4	○	○	○	○	
101	1002615	B-5	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい黄褐10YR7/4	にぶい黄褐10YR7/4	○	○	○	○	
102	1009448	B-4	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR7/6	褐灰2.5Y4/1	○	○	○	○	
103	1008960	B-5	III	N'a	側部	ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR4/3	褐7.5YR4/3	○	○	○	○	
104	1001829	B-7	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい赤褐2.5YR5/6	にぶい赤褐2.5YR5/6	○	○	○	○	
105	1009890	A-8	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐褐7.5YR4/1	褐褐7.5YR2/3	○	○	○	○	
106	1009444	A-7	IV	N'a	側部	丁寧なナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR2/1	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○	
107	1009388	B-5	III	N'a	側部	丁寧なナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐7.5YR2/1	にぶい褐7.5YR5/3	○	○	○	○	
108	1009539	A-7	IV	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	褐5YR6/6	にぶい黄褐10YR7/4	○	○	○	○	
109	1009899	B-4	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	明褐7.5YR5/6	褐7.5YR7/6	○	○	○	○	
110	1009146	B-7	III	N'a	側部	工具ナデ	ヘラ沈縁。網目然系文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○	

表8 III・IV層実測土器観察表(3)

番号	取上番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調整(内面)	文様・調整(外面)	色調(内面)	色調(外面)	胎 土			備考		
										長石	石英	鈣石	赤玉		
111	1005127	B-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	明赤褐5YR5/6	黒褐7.5YR2/2	○	○	○	○		
112	1011854	A-5	III	N'a	胴部	ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	灰黄褐10YR4/2	灰黄褐10YR4/2	○	○	○	○		
113	1011923	A-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	稍SYR6/6	黒褐7.5YR2/1	○	○	○	○		
114	1006908	B-7	IV	N'a	胴部	丁寧なナデ	ヘラ沈線、網目然条文	褐7.5YR6/6	褐7.5YR6/6	○	○	○	○		
115	1000017	4T	-	N'a	胴部	ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	黒褐7.5YR2/1	褐7.5YR7/6	○	○	○	○		
116	1011778	A-5	III	N'a	胴部～底部	工具ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	にぶい褐7.5YR6/4	浅黄褐7.5YR6/3	○	○	○	○		
117	1011819	A-5	III	N'a	底部	工具ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○		
118	1006771	A-7	IV	N'a	底部	工具ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	稍SYR6/6	褐7.5YR6/6	○	○	○	○		
119	1011944	A-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、網目然条文	にぶい褐7.5YR5/4	褐7.5YR6/6	○	○	○	○		
120	1011281	A-5	III	N'b	口縫部～側部	工具ナデ	貝殻条纹	ヘラ沈線、繩文	にぶい黄25Y6/3	にぶい黄25Y6/4	○	○	○	○	
121	1009427	B-4	III	N'b	口縫部～側部	工具ナデ	貝殻連續斜突文	ヘラ沈線、繩文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい黄褐10YR5/4	○	○	○	○	
122	1001202	B-5	III	N'b	口縫部～側部	工具ナデ	貝殻連續斜突文	ヘラ沈線、繩文	にぶい黄褐10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○	
123	1011593	A-5	III	N'b	胴部	工具ナデ	貝殻連續斜突文	ヘラ沈線、繩文	褐7.5YR7/6	にぶい褐7.5YR6/3	○	○	○	○	
124	1011133	A-5	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	にぶい黄褐10YR2/3	にぶい黄褐10YR7/3	○	○	○	○		
125	1002243	B-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい黄褐10YR7/4	暗褐2.5Y3/2	○	○	○	○		
126	1003555	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○		
127	1010817	A-5	IV	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/3	○	○	○	○		
128	1006169	A-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR6/4	褐色7.5YR4/1	○	○	○	○		
129	1011118	A-5	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR5/3	○	○	○	○		
130	1004154	B-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい黄褐10YR2/4	にぶい黄褐10YR7/4	○	○	○	○		
131	1003555	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR7/4	にぶい褐7.5YR7/4	○	○	○	○		
132	1002182	B-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐色10YR4/1	褐7.5YR6/6	○	○	○	○		
133	1011563	A-5	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	褐7.5YR7/6	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○		
134	1001607	A-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	暗褐2.5Y4/2	暗褐黄2.5Y4/2	○	○	○	○		
135	1010860	A-5	IV	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	褐7.5YR7/6	にぶい黄褐10YR6/3	○	○	○	○		
136	1002255	B-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい黄褐10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○		
137	1003555	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR5/4	褐色10YR4/1	○	○	○	○		
138	1001891	B-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR5/2	褐7.5YR6/6	○	○	○	○		
139	1010737	A-6	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	灰黄褐10YR6/2	黑10YR2/1	○	○	○	○		
140	1010807	A-5	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR7/6	にぶい黄5YR5/4	○	○	○	○		
141	1003475	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい黄褐10YR7/4	にぶい黄褐10YR7/4	○	○	○	○		
142	1002822	B-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○		
143	1001627	A-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR7/6	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○		
144	1002229	B-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい黄褐10YR6/4	褐色10YR4/1	○	○	○	○		
145	1002498	B-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	黑褐5YR2/1	明赤褐5YR5-6	○	○	○	○		
146	1010374	A-6	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	にぶい黄褐10YR6/4	黑褐10YR3/1	○	○	○	○		
147	1004106	B-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	稍SYR6/6	灰黄2.5Y7/2	○	○	○	○		
148	1000799	B-4	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	稍SYR6/8	稍SYR6/8	○	○	○	○		
149	1010808	A-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR6/6	にぶい褐7.5YR5/3	○	○	○	○		
150	1012144	A-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR5/2	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	○		
151	1003555	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR4/1	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○		
152	1004031	B-7	IV	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/4	○	○	○	○		
153	1010365	A-6	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい黄褐10YR5/4	にぶい黄褐10YR5/4	○	○	○	○		
154	1010139	A-6	III	N'b	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、繩文	黑10YR1.7/1	黒褐10YR3/2	○	○	○	○		
155	1000612	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4	○	○	○	○		
156	1010968	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	灰黄褐10YR6/2	オリーブ褐2.5YR4/3	○	○	○	○		
157	1000029	4T	-	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐10YR6/3	にぶい褐7.5YR6/3	○	○	○	○		
158	1003471	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	稍7.5YR6/6	褐色10YR6/1	○	○	○	○		
159	1003479	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	稍7.5YR6/6	褐7.5YR5/2	○	○	○	○		
160	1001076	A-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐色10YR6/1	褐色10YR6/1	○	○	○	○		
161	1006350	B-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR4/3	褐7.5YR4/3	○	○	○	○		
162	1006760	A-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	褐7.5YR4/2	褐7.5YR4/2	○	○	○	○		
163	1006271	B-7	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR5/4	灰黄2.5Y7/2	○	○	○	○		
164	1006169	B-8	IV	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	にぶい褐7.5YR5/4	黒褐10YR3/1	○	○	○	○		
165	1009636	B-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈線、然条文	灰褐7.5YR4/2	黑褐5YR3/1	○	○	○	○		

表9 III・IV層実測土器観察表(4)

番号	取上番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調整(内面)	文様・調整(外面)	色調(内面)	色調(外面)	胎 土			備考
										長石	石英	鈣石	
166	1011083	A-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈縞、撲糸文	にぶい黒7.5YR3/1	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
167	1001411	A-7	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈縞、撲糸文	黒褐10YR4/4	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
168	1009815	B-4	III	N'a	胴部～底部	工具ナデ	ヘラ沈縞、撲糸文	黒褐2.5YR3/1	にぶい黒7.5YR7/4	○	○	○	
169	1000325	A-7	III	N'a	口縁部	工具ナデ	ヘラ沈縞、撲糸文	黒褐2.5Y3/1	暗灰黒25Y5/2	○	○	○	
170	1011732	A-5	III	N'a	胴部	工具ナデ	ヘラ沈縞、撲糸文	黄褐10YR5/6	暗褐10YR3/3	○	○	○	
171	1006214	B-7	IV	N'c	口縁部	ナデ	刺突進点文、ナデ	褐5YR7/6	褐5YR7/6	○	○	○	
172	1006947	A-7	III	N'c	口縁部～胴部	ナデ	刺突進点文、ナデ	褐5YR6/6	褐2.5YR4/6	○	○	○	
173	1000954	B-5	III	N'c	口縁部～胴部	ナデ	底形の刺突進点文、ナデ	褐5YR7/6	褐5YR6/6	○	○	○	
174	1011504	A-5	III	N'c	口縁部	ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	褐褐2.5YR4/1	灰黄褐10YR4/2	○	○	○	
175	1002851	B-5	III	N'c	胴部	ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	淡黄2.5Y7/4	淡黄2.5Y7/4	○	○	○	
176	1010935	A-5	III	N'c	胴部	ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	暗褐10YR3/3	褐5YR6/6	○	○	○	
177	1009798	B-4	III	N'c	胴部	ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	褐5YR1.7/1	明赤褐5YR5/6	○	○	○	
178	1006552	B-5	III	N'c	胴部	工具ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	明黄褐10YR6/6	明黄褐10YR6/6	○	○	○	
179	1011615	A-5	III	N'c	胴部	工具ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	黒褐2.5YR2/1	にぶい赤褐5YR5/4	○	○	○	
180	1009988	B-4	IV	N'c	胴部	工具ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	明赤褐5YR5/6	黑10YR1.7/1	○	○	○	
181	1000825	B-7	III	N'c	胴部	工具ナデ	ヘラ状工具による刺突進点文、ナデ	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	○	○	○	
182	1011471	A-5	III	N'c	胴部	ヘラナデ	爪形の刺突進点文、ナデ	にぶい黒7.5YR5/4	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
183	1000320	B-5	III	N'c	胴部	ヘラナデ	貝刺突進点紋、ヘラナデ	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄褐10YR5/4	○	○	○	
184	1002125	A-7	III	N'c	口縁部	ヘラナデ	刺突進点文、ヘラナデ	にぶい黒7.5YR5/4	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
185	1000927	B-4	III	N'c	口縁部	貝条、ヨコナメ	工具による刺突進点文、ナデ	黒褐2.5YR3/1	黒褐5YR1.7/1	○	○	○	
186	1000370	B-5	IV	N'c	胴部	丁寧なナデ	工具による刺突進点文、ナデ	にぶい黒7.5YR6/4	黒2.5YR2/1	○	○	○	
187	1013628	A-5	III	N'c	胴部～口縁部	丁寧なナデ	工具による刺突進点文、ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄5YR6/4	○	○	○	
188	1000134	A-7	III	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	
189	1010896	A-5	III	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	黒褐10YR2/1	○	○	○	
190	1009716	B-4	III	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	黒褐2.5YR2/1	にぶい黄7.5YR7/4	○	○	○	
191	1008561	B-5	IV	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	黒10YR2/1	にぶい黄褐10YR5/3	○	○	○	
192	1007462	B-5	III	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	灰黄褐10YR4/2	褐5YR6/6	○	○	○	
193	1003406	A-7	IV	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	明赤褐5YR5/6	黑10YR1.7/1	○	○	○	
194	1009037	B-4	III	N'c	胴部	ヘラナデ	工具による刺突進点文、ナデ	褐5YR6/6	灰黄褐10YR6/2	○	○	○	
195	1000852	B-5	III	N'd	口縁部～胴部	ヘラナデ	二叉状の工具による平行沈縞文、ナデ	にぶい黄橙7.5YR6/4	黒褐5YR3/1	○	○	○	
196	1009561	B-4	III	N'd	口縁部	丁寧なナデ	刺突進点文、円形浮文、丁寧なナデ	黒褐2.5Y3/1	黒褐2.5Y3/1	○	○	○	
197	1009556	B-4	III	N'd	口縁部	ヘラナデ	沈縞文	褐7.5YR4/3	褐7.5YR4/3	○	○	○	
198	1004700	B-5	III	N'd	口縁部	ヘラナデ	沈縞文、ナデ	灰黄褐10YR5/2	にぶい黄橙10YR7/4	○	○	○	
199	1002526	B-5	III	N'd	口縁部	ヘラナデ	沈縞文、刺突進点文、ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄褐10YR5/3	○	○	○	
200	1002947	B-5	III	N'd	胴部	ヘラナデ	沈縞文、ヘラナデ	にぶい黄褐10YR6/4	黄褐2.5YR5/3	○	○	○	
201	1008693	B-5	IV	V	口縁部	ナデ	刺突進点文、沈縞文	にぶい黒7.5YR5/4	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
202	1004194	A-6	IV	V	口縁部	ナデ	刺突進点文、沈縞文	褐7.5YR7/6	褐7.5YR7/6	○	○	○	
203	1100520	B-12	IV	V	口縁部	ナデ	刺突進点文、沈縞文	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄褐10YR6/4	○	○	○	
204	1009616	B-4	IV	V	胴部	ヘラナデ	沈縞文	黒褐10YR3/1	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
205	1003644	B-7	IV	V	胴部	ヘラナデ	刺突進点文、沈縞文	にぶい黒7.5YR5/4	にぶい黒7.5YR5/4	○	○	○	
206	1009200	B-4	IV	VI	口縁部～胴部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	黒褐10YR3/2	黒褐10YR3/1	○	○	○	
207	1001204	B-5	IV	VI	口縁部～胴部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	にぶい黒7.5YR5/4	暗褐10YR3/4	○	○	○	
208	1009160	B-8	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	明赤褐5YR5/6	褐5YR6/6	○	○	○	
209	1009249	B-4	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	褐7.5YR6/6	黒褐2.5YR3/1	○	○	○	
210	1010899	A-5	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	褐7.5YR6/6	褐7.5YR6/6	○	○	○	
211	1011791	A-5	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	にぶい黄褐10YR6/4	にぶい黒7.5YR5/3	○	○	○	
212	1002209	B-7	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	褐7.5YR7/6	にぶい黒7.5YR7/3	○	○	○	
213	1003555	A-7	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	にぶい黒7.5YR5/4	褐5YR6/6	○	○	○	
214	1002077	B-7	IV	VI	底部	工具ナデ～ナデ	無文、ナデ	にぶい黄褐10YR6/4	明赤褐5YR5/6	○	○	○	

※項目「文様・調整」は文様から記す。また上部から記述する。

※項目「胎土」は、多いものから○→○→無印となる。

(2) 石器

石器はⅢ層が3896点、Ⅳ層が2727点出土している。遺物の大半は石鏃製作に関連するものであり、石核、剥片、碎片、石鏃未製品、石鏃等が多く含まれる。石核は32点、未製品も含む石鏃は283点である。その他に石槍、スクレイバー、軽石製品、石斧、磨石、叩石、石皿等が出土している。

石材は旧石器時代と全く逆の様相を呈し、黒曜石Aが4066点と圧倒的に多く、黒曜石Bが1902点と次ぐ。外には黒曜石Dも89点みられる。

石鏃

石鏃については未製品も含め多数出土しており、工程を把握するために以下の6類9細目に分類した。

I類：素材剥片の片側に押圧剥離を施すが、石鏃の形態をなさない。総数30点である。

II類：素材剥片の両面に押圧剥離を施すが、石鏃の形態をなさない。総数48点である。

III類：粗い整形により石鏃の形態をなす。部位により完形に近いものをa、抉りが確認できるものをb、抉りが確認できないものをcに細分する。aが24点、bが61点、cが35点である。

IV類：石鏃の完成品とみなされるもの。完形をa、欠損品をbに細分する。aが28点、bが43点である。

V類：押圧剥離が確認されるものの、厚手のもの。総数7点である。

VI類：小片で判断がつかないもの。総数7点である。石鏃の工程としてはI類→IV類の流れが想定される。

石鏃関連製品はI類7点、II類15点、III類22点、IV類22点、石核11点を国化した。点数が多いため個々の遺物については詳述しないが、一覧表と分類を参照頂きたい。また、石鏃（未製品も含む）に使用されている石材は、黒曜石Aが208点、黒曜石Bが66点、黒曜石Cが2点、黒曜石Dが13点、黒曜石Fが1点、安山岩が2点、黒色安山岩が5点、タンパク石が2点、チャートが4点、頁岩が1点、無斑晶質安山岩が5点である。

異形石器

281は無斑晶質安山岩製である。薄手の剥片を素材とし、縁辺のみの加工により成形している。先端部の欠損は調査時のものである。基部の抉りはほぼ片面側からのみ施されている。282は黒曜石D製で、いわゆるトロトロ石器である。押圧剥離により厚手に仕上げられ、側縁、剥離の棱等の表面が全体的に磨滅している。283は黒曜石C製である。深い凹基で、返し部の外側に2か所の突起を形成している。

磨製石鏃

284は頁岩製である。両面とも研磨により逆Y字形の稜を形成している。凹基部にも研磨により面を形成している。

石匙

285は無斑晶質安山岩製である。自然面を打面とした横長の剥片を素材とし、縁辺に加工を施して刃部を形成している。つまみ部が幅広である。286は無斑晶質安山岩である。剥片を素材として縁辺に刃部を形成している。本体右側は欠損している。287は黒曜石A製の小型の横型の石匙である。つまみの上の部分が欠損している。288は黒曜石A製の縱型の石匙である。表面に自然面を残す剥片を横位に利用し、縁辺のみに押圧剥離により刃部を形成している。未製品の可能性が高い。289は無斑晶質安山岩製の台形の石匙である。290は無斑晶質安山岩製の石匙である。形態は台形で、背面の中央部にステップフランチャーによる厚い部分が残る。

石槍

291は無斑晶質安山岩製の石槍の先端部である。打瘤のあまり発達しない剥離で薄く丁寧に仕上げられ、両面に軽く磨いた痕跡が認められる。磨きにより磨滅しているのは剥離の後程度である。

楔形石器

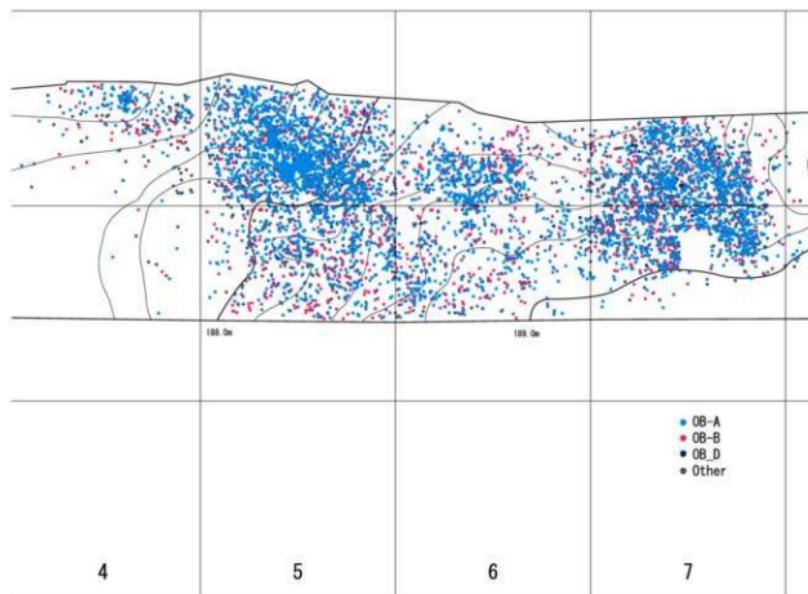
293は黒曜石A製の楔形石器である。リダクションにより横長となっている。背面に一部自然面を、腹面に主剥離面を残す。292は黒曜石A製のやや厚手の楔形石器である。下面には使用による潰れが観察される。上面は平坦で著しい叩き潰れが観察される。

ドリル

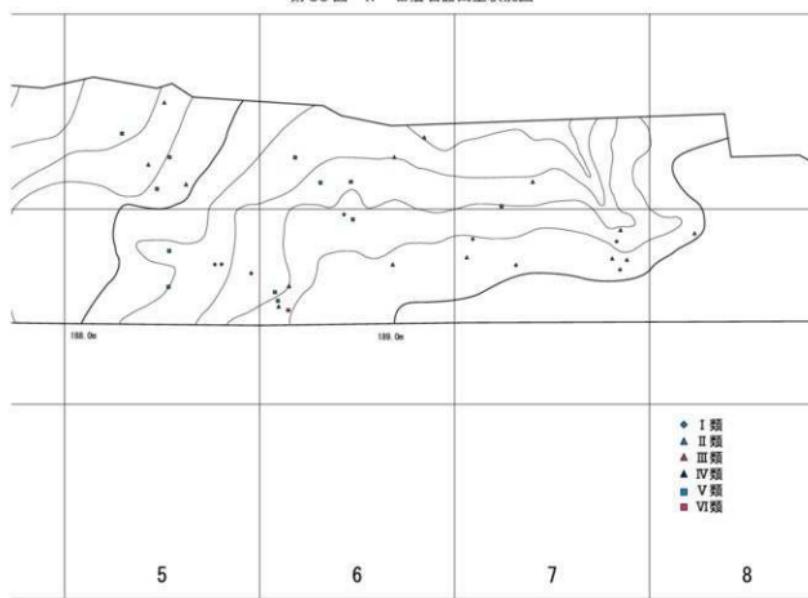
295は無斑晶質安山岩製のドリルである。大型の剥片の端部に押圧剥離により先端部を形成している。

スクレイパー

296は黒色安山岩製のスクレイパーである。剥片の左側縁に背面・腹面両方向への押圧剥離により刃部を形成している。右側面と上面には自然面を残す。294は姫島産黒曜石製のスクレイパーである。剥片の左側縁に背・腹両面への押圧剥離により刃部を形成している。搬入品と思われる。297は黒色安山岩製のスクレイパーである。剥片を横位に利用し、下縁部の背・腹両面への押圧剥離により刃部を形成している。上面に素材剥片の打面部である自然面を残す。299は黒曜石A製のスクレイパーである。背面に自然面を残す剥片の右側縁に背・腹両面への押圧剥離により刃部を形成している。300は黒曜石A製のスクレイパーである。打面転移して得られ

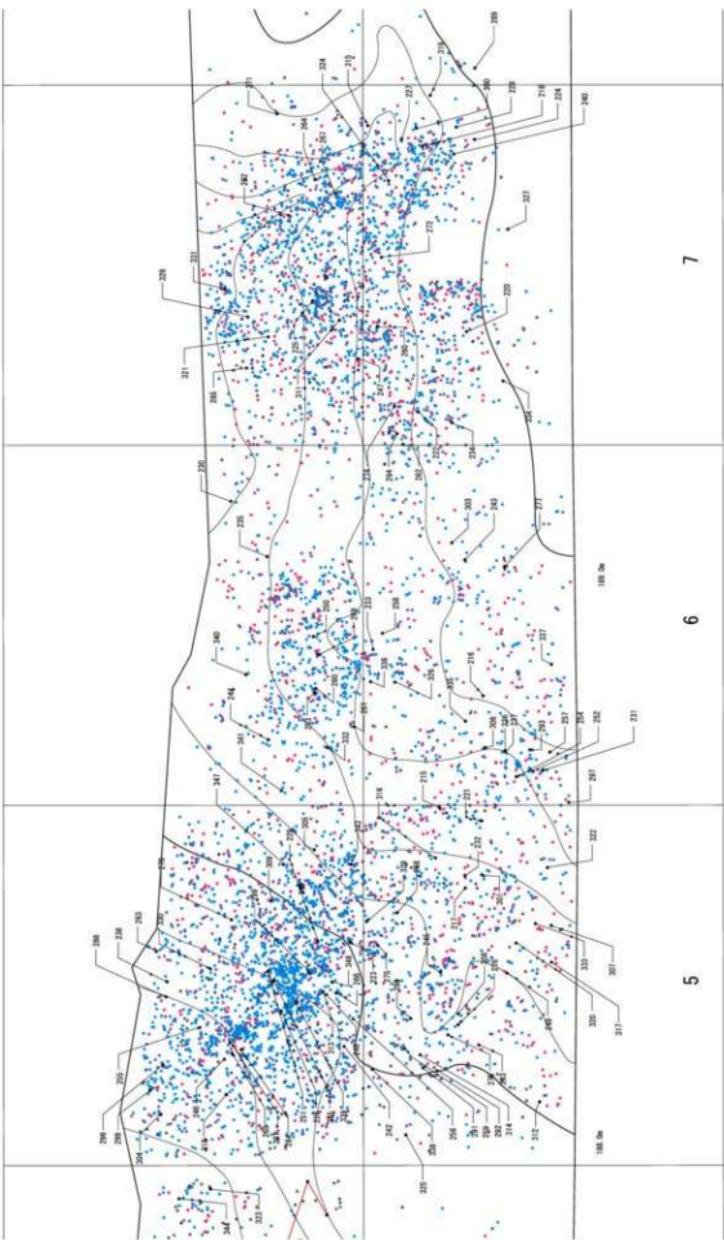


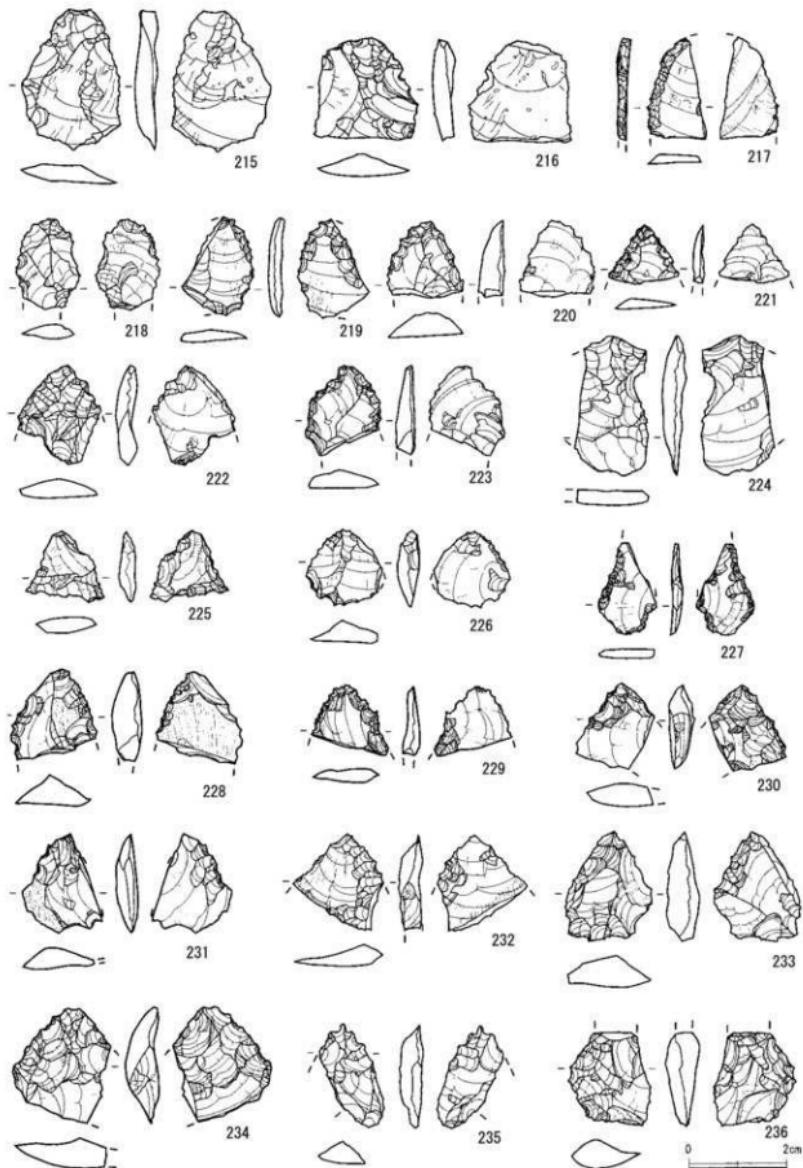
第56図 IV～II層石器出土状況図



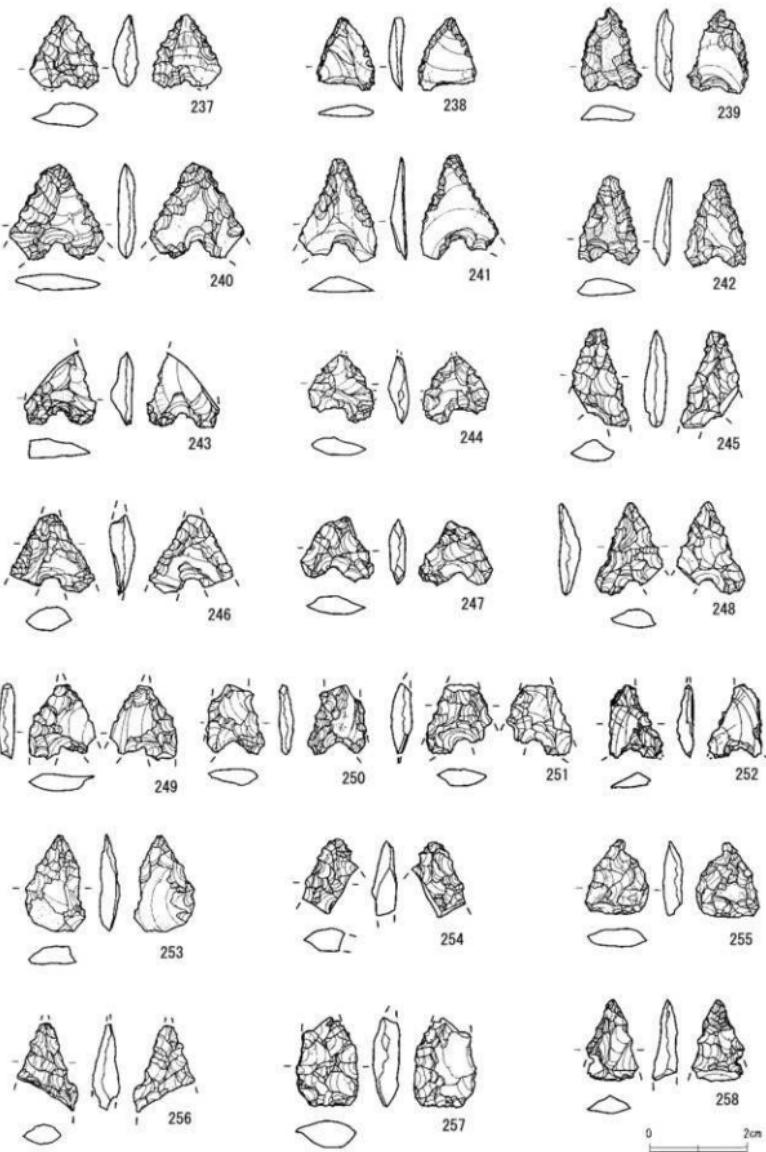
第57図 IV～II層石錐製作関連遺物出土状況図

第58図 N～Ⅲ層実測石器出土位置図

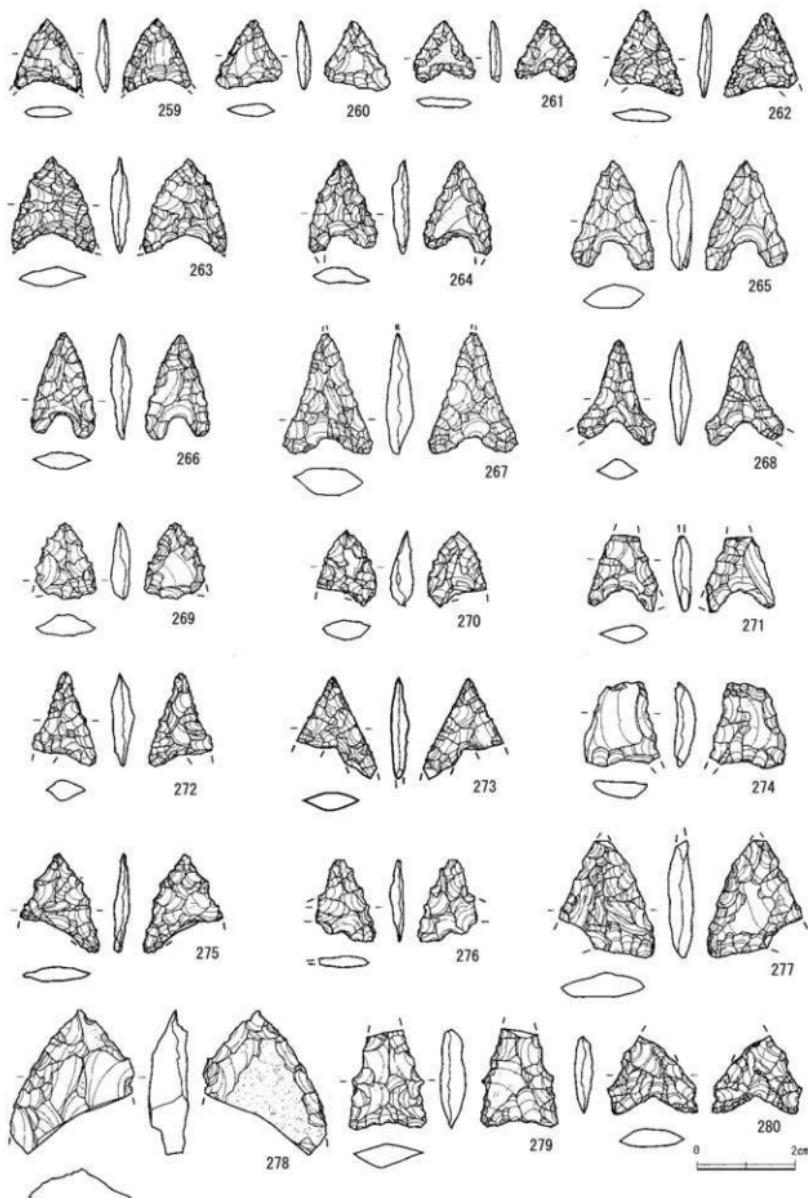




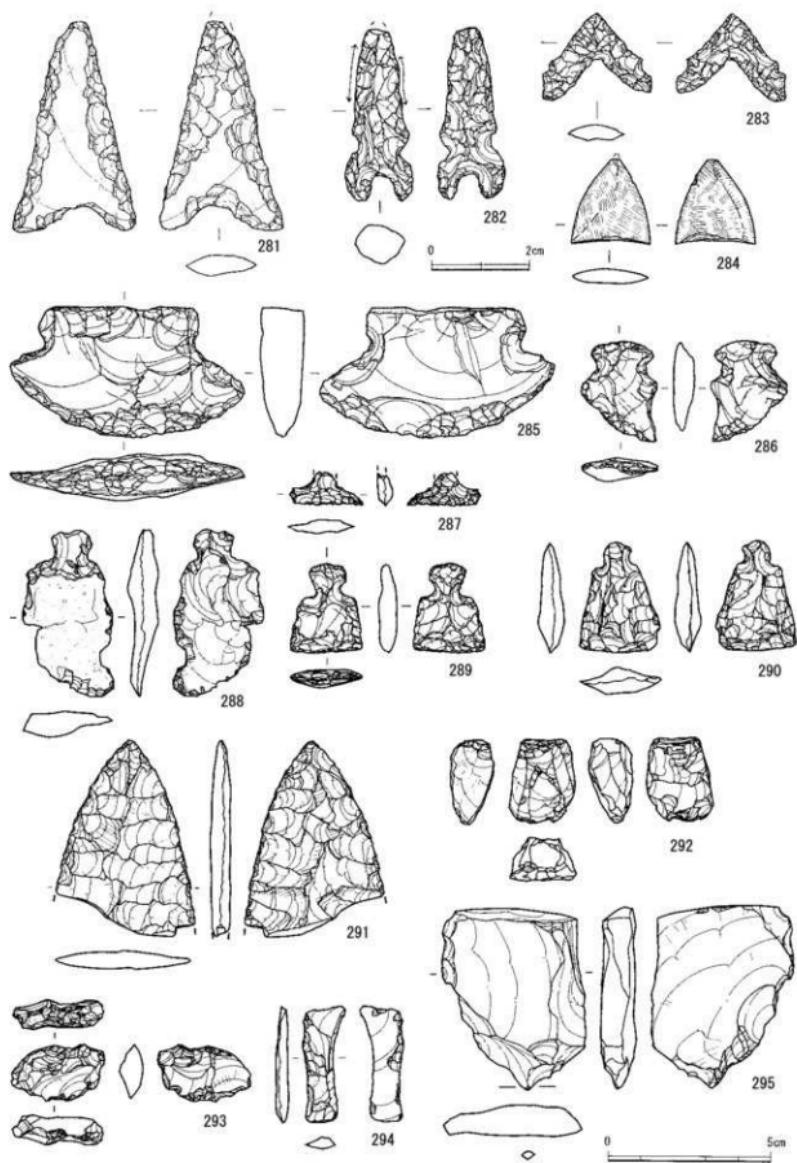
第59図 IV層出土石器(1)



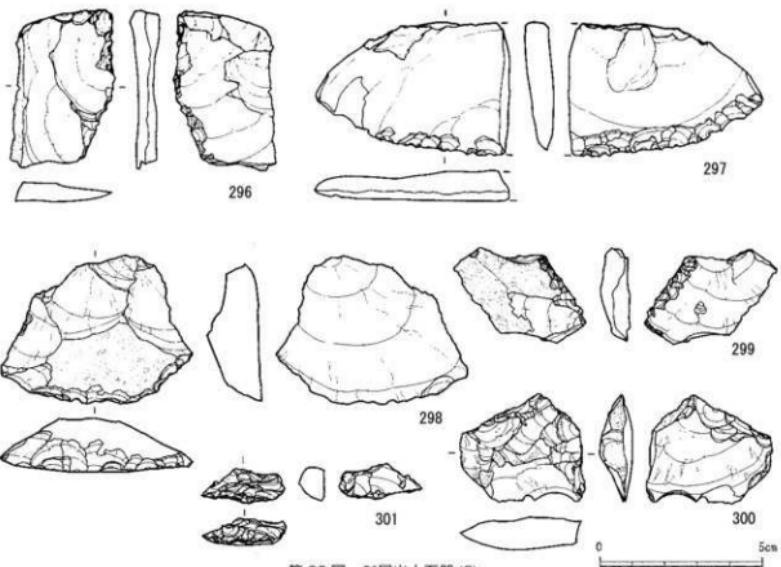
第 60 図 IV 層出土石器 (2)



第 61 図 IV 層出土石器 (3)



第 62 図 IV 層出土石器 (4)



第63図 N層出土石器(5)

た素材剥片の打面部に背・腹両面への直接打撃により刃部を形成している。298は玻璃質安山岩製のスクレイパーである。背面に自然面を残す素材剥片の端部に腹面から急角度の二次加工を施し刃部を形成している。301は黒曜石B製のスクレイパーである。上部は欠損している。剥片の端部に腹面から急角度の二次加工を施し刃部を形成している。刃部には使用によるものと思われる磨滅が観察され、一部腹面にも及ぶ。302は安山岩製の大型のスクレイパーである。剥片の周縁の背面側と一部腹面側に二次加工を施し刃部を形成している。背面にはタマネギ状剥離の痕跡がみられる。303は凝灰岩製の大型の二次加工剥片である。剥片の両側縁の一部に簡易な二次加工が観察される。304は安山岩製の縦長剥片を素材としたスクレイパーである。両側縁に腹面からの二次加工により鋸歯状の刃部を形成している。305は頁岩製の磨製石斧の一部を素材とした二次加工剥片である。剥片の上端と下端に簡易な二次加工が施される。磨製石斧の側面部が残されている。306は黒色安山岩製のスクレイパーである。打面に自然面を残す。粗い両面調整を施した後、細かい剥離を周縁に施して刃部を形成している。307は黒曜石B製の石核転用の二次加工剥片である。石核の下端から表裏両面に縁辺を鋭角にするような細かい剥離を施している。石核は厚手の剥片の腹面を打面に設定す

るものである。308は黒曜石A製の二次加工剥片である。剥片の腹面に打瘤部を除去するような二次加工を施している。

石斧

309は頁岩製の磨製石斧である。粗整形の後、刃部及び基部の一部を磨いて仕上げている。本石器は使用された後、再加工する過程で破棄されたものであると考えられる。310は309の石斧の再加工時の整形剥片である。側面から大きく剥離を加えたものである。

石皿

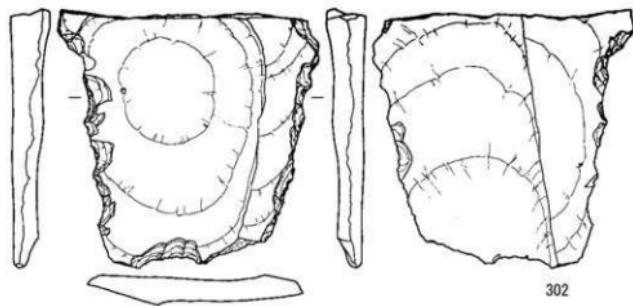
311は凝灰岩製の石皿の破片である。中央部に大きな凹みが確認できる。

石核

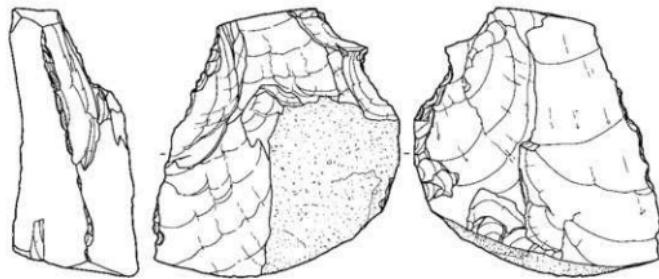
石核は剥片の剥離方法により大きく3つに分類できる。

①小型～拳大の礫を素材とし、打面を固定して剥片を剥出するものである。打面形成は剥離により行うものと、自然面をそのまま利用するものがある。打面調整は必要に応じて施される。313, 315, 316, 320, 324が該当する。

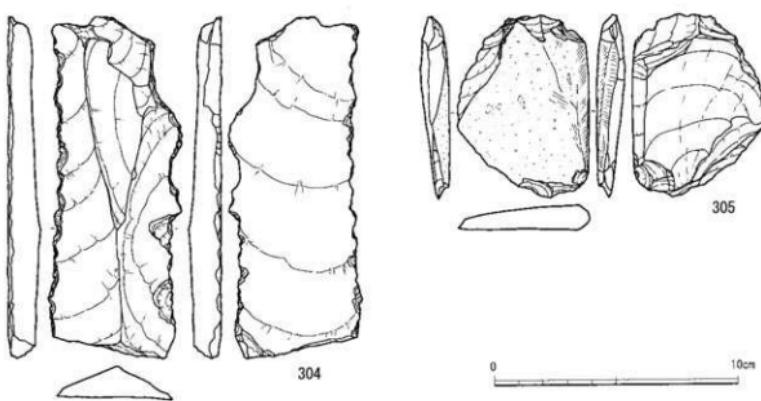
②小型～拳大の礫を素材とし、打面転移を繰り返して剥片を剥出するものである。打面調整は必要に応じて施される。312, 317, 319, 322, 325が該当する。



302



303

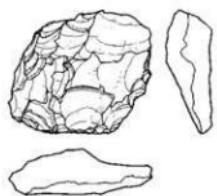


304

305

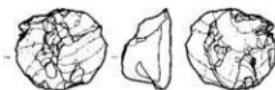
0 10cm

第 64 図 IV 層出土石器 (6)

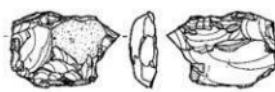


306

0 5cm



307



308

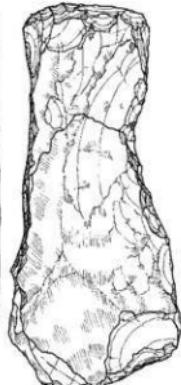


309

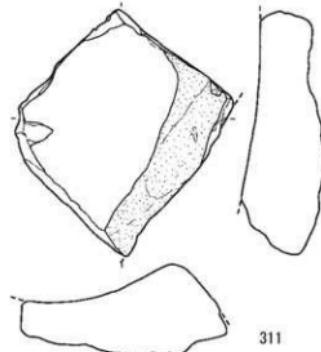


310

0 10cm



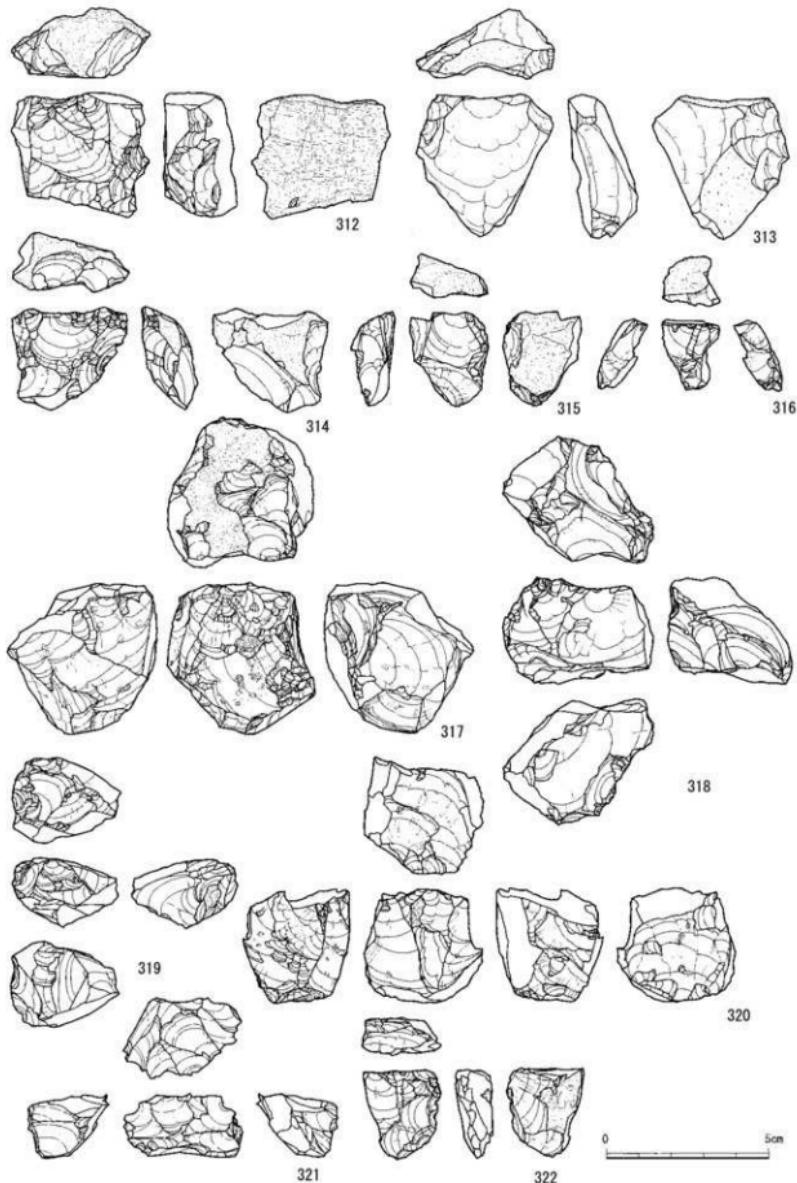
309+310



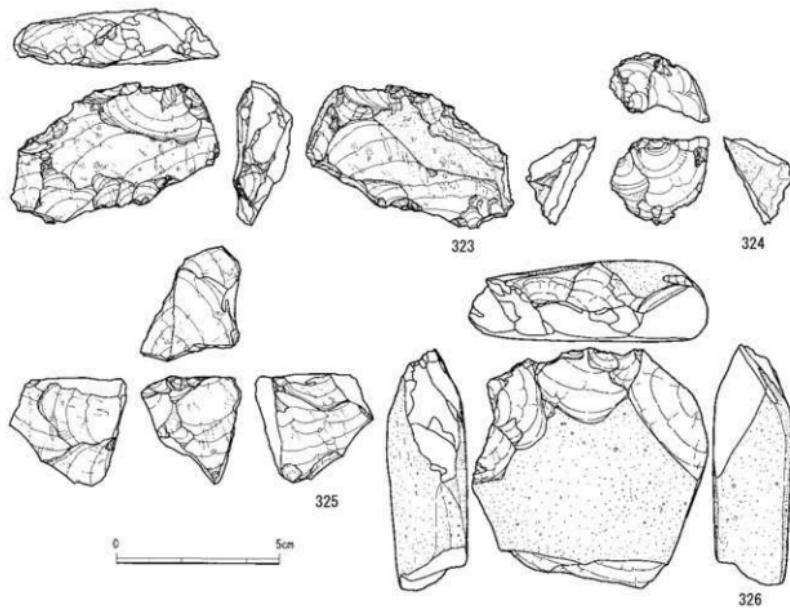
311

0 5cm

第65図 IV層出土石器(7)

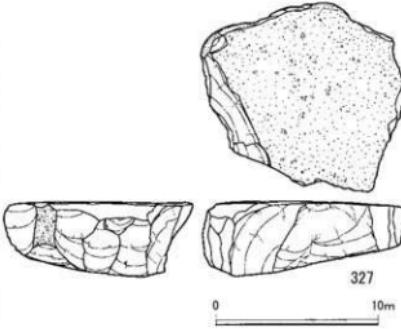


第 66 図 IV 層出土石器 (B)



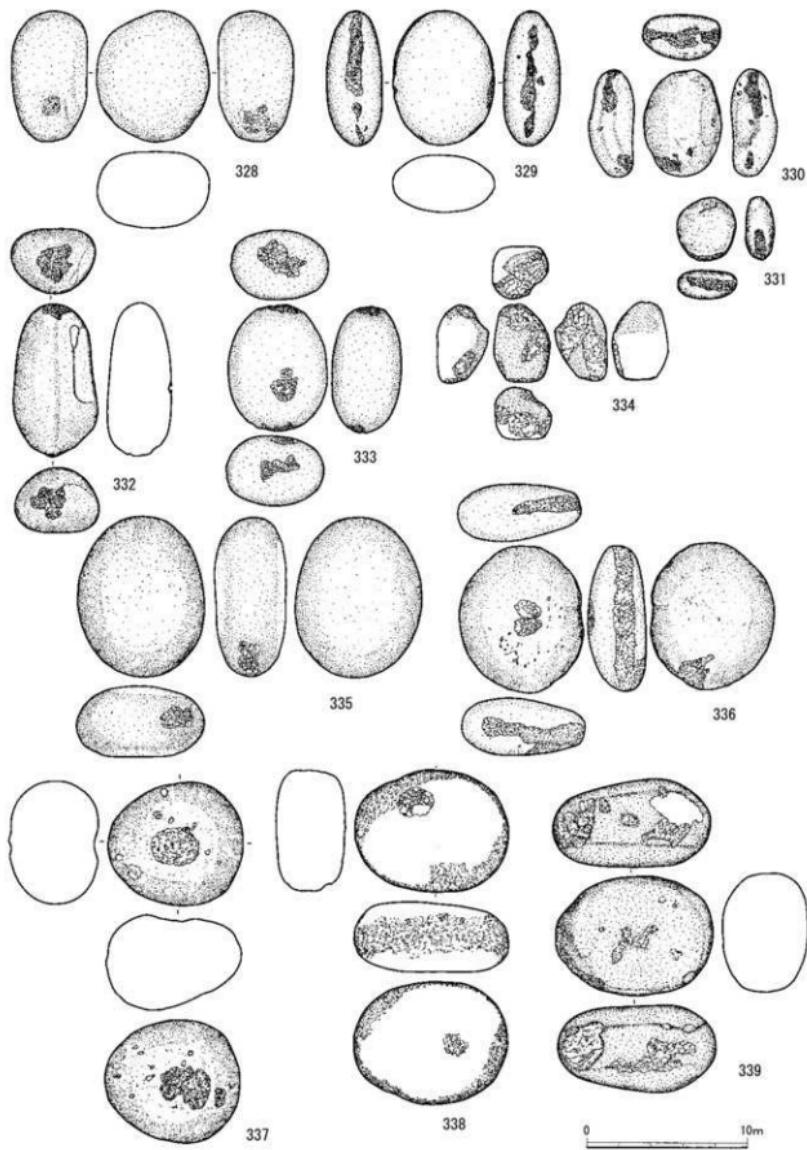
③求心状剥離により得られた厚手の剥片を素材とし、剥片の腹面を作業面とするものである。素材剥片剥出も求心状に行われ、結果背面、作業面の両面に求心状剥離痕が残るため、残核形態が円盤状を呈する。314, 318, 321, 323が該当する。

312は黒曜石A製の石核である。打面、背面、下面は自然面を残す。小型の角縫を素材とし、打面は90°転移して2面有する。打面調整痕はみられない。313は黒曜石E製の石核である。小型の角縫を分割したものを素材とし、打面調整を施さずに剥片を剥離している。左側縁上部に表裏両面に二次加工を施し、スクレイバーエッジ状にしている。打面全体と背面の一部に自然面を残す。314は黒曜石B製の石核である。表裏両面への求心状剥離により剥片を剥出している。結果円盤状を呈する。背面と打面の一部に自然面を残す。315は黒曜石A製の石核である。背面に求心状剥離の痕跡を一部残す。自然面を打面として打面調整を施さずに剥片を剥離している。打面と背面に自然面を残す。316は黒曜石A製の石核である。分割面を打面として固定し、打面調整を施さずに剥片を剥離している。背面に自然面を残す。317は黒曜石B製の拳大の縫を素材とした石核である。打面転移を頻繁に繰り返している。打面に自然面を残す。318は黒曜石B製の石核である。

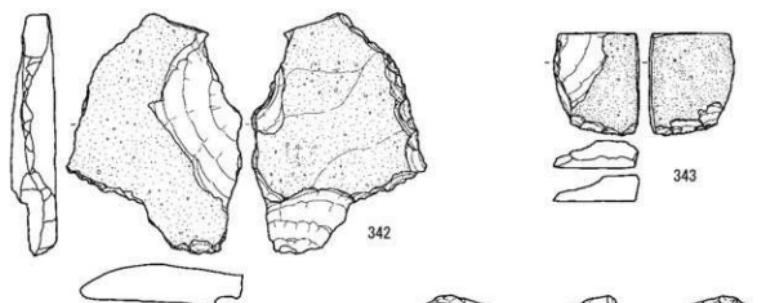
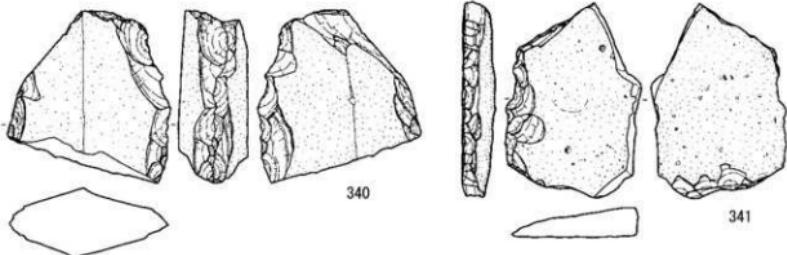


第67図 IV層出土石器(9)

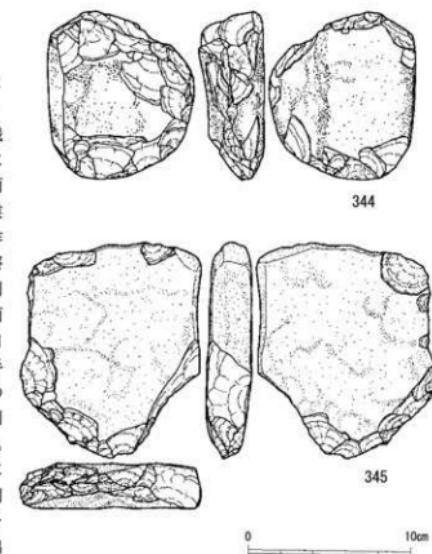
打面には求心状剥離の様相を呈し、作業面も求心状剥離により剥片を剥離している。結果円盤状を呈する。319は黒曜石A製の石核である。打面転移を頻繁に繰り返している。320は黒曜石B製の石核である。打面は複数の大剥離面により構成され、打面を固定して周縁から打面調整をせずに剥片を剥離している。背面は下縁からの石核整形を施している。下面に自然面を残す。321は硬質頁岩製の石核である。打面には求心状剥離の様相を呈し、作業面も求心状剥離により剥片を剥離している。322は黒曜石A製



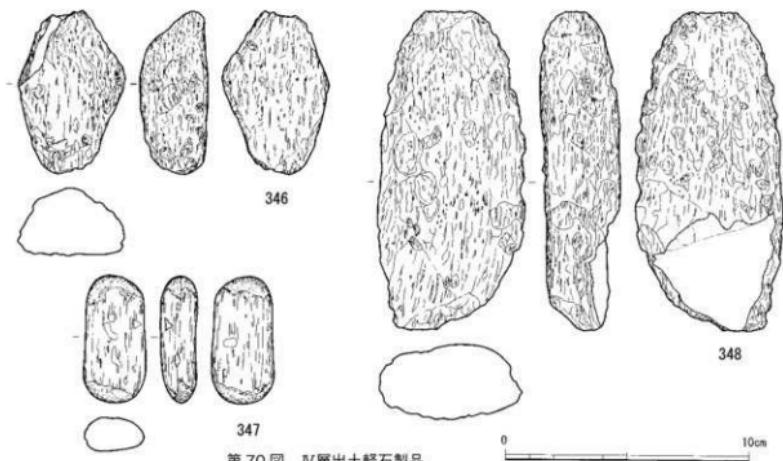
第 68 図 IV 層出土石器 (10)



の石核である。分割砾を素材とし、大きな剥離により形成された打面から剥片を剥離している。 90° の打面転移が観察される。背面の一部に自然面を残す。323は黒曜石B製の石核である。背面は中央に自然面、周辺に求心状の剥離が観察される。作業面は厚手の素材剥片の主剥離面を利用している。作業面も求心状の剥離により剥片を剥離しているが、作業の初期の状況を呈している。一部打面調整が観察される。324は黒曜石A製の石核である。大きな剥離面を打面とし、一部打面調整が観察される。打面を固定して剥片を剥離している。侧面から下面に自然面を残す。325は黒曜石A製の石核である。厚手の剥片を素材とし、腹面を作業面に設定し、2枚の剥片を取った後、ねじれの位置に打面を設定し、剥片を剥離している。打面調整痕が若干確認される。326は安山岩製の大型の石核である。安山岩の砾に3枚の剥離により打面を形成し、打面を固定して剥片を剥離している。大型のスクレイパー等の素材を剥出したと思われる。石核整形により下面を作り出している。327は安山岩製の石核である。扁平砾の周縁に作業面を設定し、寸詰まり剥片を剥出してい る。



第69図 IV層出土石器(11)



第70図 IV層出土軽石製品

磨石・叩石・凹石

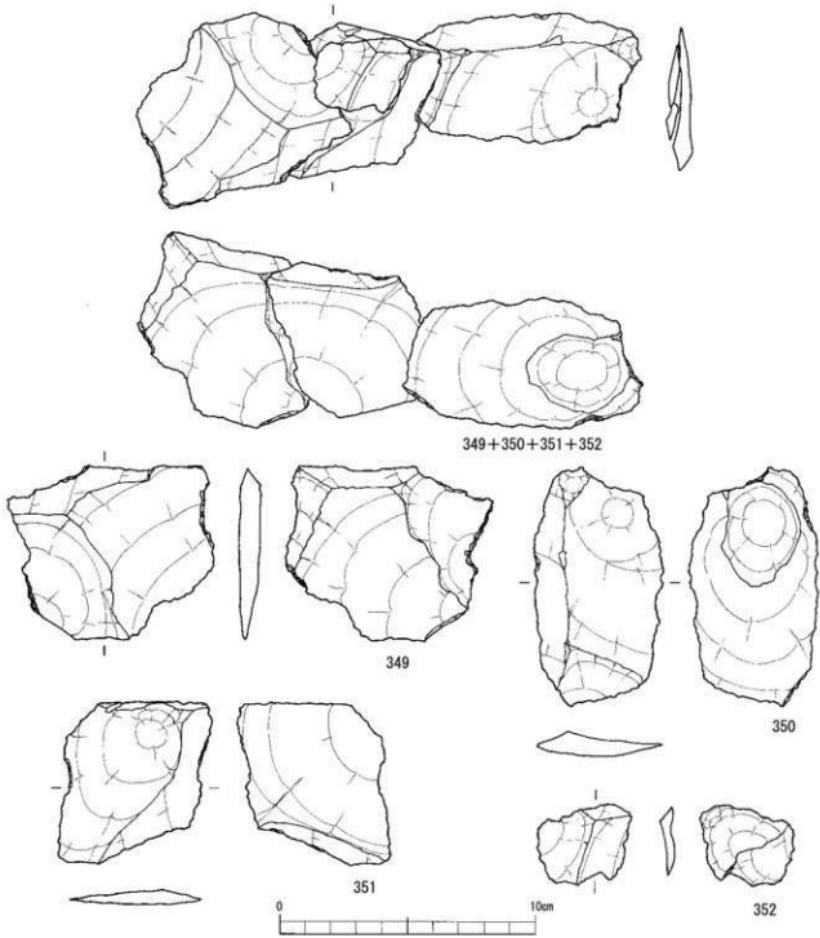
328は安山岩製の叩石である。頂部と側面の中間にあたる部分2か所に使用の痕跡がみられる。329は砂岩製の叩石である。頂部を除く両側縁部を中心に使用の痕跡がみられる。330は安山岩製の叩石である。頂部と、頂部と側面の中間に当たる部分に使用の痕跡がみられる。331は砂岩製の小型の叩石である。頂部から頂部と側面の中間に当たる部分にかけて使用の痕跡がみられる。332は安山岩製の叩石である。両頂部に使用の痕跡がみられる。333は安山岩製の凹石・叩石である。両頂部に叩きの痕跡が、正面中央からやや下寄りに凹面がある。334は安山岩製の小型の叩石である。両頂部から側面にかけて使用の痕跡がみられる。335は安山岩製の叩石・磨石である。頂部と側面の中間部分に使用の痕跡がみられる。両面にわずかに磨痕が観察される。336は安山岩製の凹石・叩石である。正面中央に2か所凹部がある。頂部から側面にかけて使用の痕跡がみられる。側面頂部には凹みが観察される。337は安山岩製の凹石である。両面の中央部に凹みがみられる。正面は1か所、背面には2か所のくぼみが観察される。338は安山岩製の磨石・叩石である。両面に明確な磨痕が観察され、叩きは側面全周に観察される。339は安山岩製の凹石・叩石である。頂部と側面の中間部分に使用の痕跡がみられる。側面の一部と正面中央部に若干の凹みが観察される。

礫器

340は安山岩製の礫器である。扁平な礫の両側縁に背腹両面へ二次加工を施し、刃部を形成している。左側縁には一部使用によると考えられる潰れが確認される。341は安山岩製の礫器である。扁平礫の左側縁に片面からのみの二次加工により刃部を形成している。342は安山岩製の礫器である。扁平礫の片側側縁に片面からのみの二次加工により刃部を形成している。礫の一部は火をうけて黒く変色している。343は安山岩製の礫器である。扁平礫の縁辺に両面への二次加工を施し刃部を形成している。344は砂岩製の礫器である。礫の下縁に両面への二次加工により刃部を形成している。上面へも打痕が集中しており、楔形石器として使用されていた可能性が高い。345は安山岩製の礫器である。扁平礫の縁辺に両面への二次加工を施し、刃部を形成している。下面の刃部には使用によると考えらえられる潰れが確認される。

軽石製品

軽石は175点出土した。いずれも風化が著しく、観察が困難であったが、そのうち、明確に面取りが行われていると判断される3点について図化した。346は裏面に面取りが行われている。347は大型の軽石製品である。一部発掘時に削り取られているが、形態が整っており、整形されていると考えられる。348は小型の軽石製品である。比較的緻密で残存状況の良好なものである。上下両端が丸みを帯びているが、使用によるものか整形によるものかは不明である。



第 71 図 接合資料

4 接合資料

安山岩の剥片 4 点が接合している。いずれも安山岩特有のタマネギ状剥離の様相を示しており、打点がはっきりしない。接合はしないものの、同石材でスクレイパーがいくつか出土しており、スクレイパーの素材剥片剥離に関連するものと思われる。

表 10 III・IV層実測石器観察表(1)

番号	器種	石材	出土区	層	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	遺物番号
215	剥片	黒曜石B	A-5	III	2.85	2	0.45	2.17	1011203
216	剥片	黒曜石B	A-6	III	2.1	2.1	0.45	2.01	1010289
217	石鏹	黒曜石A	A-5	III	2.1	1.2	0.2	0.68	1010635
218	石鏹	黒曜石A	A-7	III	1.85	1.35	0.3	1.19	1001305
219	石鏹	無斑晶質安山岩	B-5	III	2.05	1.45	0.28	0.77	1002561
220	石鏹	黒曜石A	A-7	III	1.6	1.55	0.5	1.2	1000257
221	石鏹	黒曜石A	A-5	III	1.2	1.4	2	0.28	1011543
222	石鏹	黒曜石A	A-7	III	2.05	1.7	0.4	1.29	1000414
223	石鏹	黒曜石B	B-5	II	1.8	1.55	0.38	0.91	1000861
224	石鏹	黒曜石A	A-7	III	2.9	1.5	3	2.01	1010017
225	石鏹	黒曜石A	B-7	IV	1.45	1.6	0.35	0.64	1006909
226	石鏹	黒曜石A	B-5	III	1.6	1.6	0.45	0.92	1008662
227	石鏹	黒曜石A	A-7	III	1.9	1.2	2	1.3	1001349
228	石鏹	黒曜石A	A-7	III	1.85	1.8	0.6	1.5	1009010
229	石鏹	黒曜石A	B-5	III	1.45	1.6	0.35	0.56	1004985
230	石鏹	黒曜石A	B-6	II	1.75	1.6	0.5	1.2	1004254
231	石鏹	黒曜石D	A-6	III	2	1.65	0.45	1.07	1011168
232	石鏹	黒曜石A	A-5	III	2	1.85	0.4	1.21	1010619
233	石鏹	黒曜石A	A-6	III	2.3	1.8	0.65	2.33	1010237
234	石鏹	黒曜石A	A-7	IV	2.4	2.05	0.6	2.81	1003569
235	石鏹	黒曜石B	B-6	IV	2.1	1.3	0.45	1	1007017
236	石鏹	黒曜石A	A-6	III	1.95	1.7	0.55	1.94	1010400
237	石鏹	黒曜石B	A-6	III	1.5	1.4	5	0.72	1010487
238	石鏹	黒曜石A	B-5	III	1.5	1.2	0.25	0.45	1008510
239	石鏹	黒曜石A	A-8	III	1.7	1.25	3	0.65	1009099
240	石鏹	黒曜石A	A-7	IV	1.95	1.9	0.35	1.11	1003208
241	石鏹	黒曜石D	4t-54	V	2.1	1.6	0.3	0.6	
242	石鏹	黒曜石A	B-5	II	1.8	1.25	0.35	0.66	1000963
243	石鏹	黒曜石A	A-6	III	1.5	1.45	0.45	0.68	1010147
244	石鏹	黒曜石A	B-6	IV	1.4	1.35	0.45	0.55	1006676
245	石鏹	黒曜石A	A-5	III	2	1.2	0.45	0.74	1011610
246	石鏹	黒曜石A	B-5	III	1.6	1.75	0.55	0.89	1006636
247	石鏹	黒曜石B	B-7	IV	1.35	1.5	0.35	0.62	1004102
248	石鏹	黒曜石A	B-5	III	1.9	1.35	0.45	0.76	1002718
249	石鏹	黒曜石A	A-5	IV	1.55	1.4	0.35	0.73	1011577
250	石鏹	黒曜石A	B-6	IV	1.45	1.2	0.3	0.55	1006672
251	石鏹	黒曜石A	B-5	III	1.45	1.35	0.45	0.7	1007603
252	石鏹	黒曜石A	A-6	III	1.5	1.1	0.35	0.35	1010519
253	石鏹	黒曜石A	B-6	III	2	1.2	0.35	0.75	1004526
254	石鏹	黒曜石A	A-6	III	1.5	1.1	0.5	0.53	1011174
255	石鏹	黒曜石A	B-5	II	1.5	1.3	0.4	0.7	1001148
256	石鏹	黒曜石A	B-5	II	1.8	1.2	0.55	0.71	1000947
257	石鏹	黒曜石B	A-6	III	1.8	1.25	0.55	1.28	1010377
258	石鏹	黒曜石A	A-6	IV	1.7	1.1	0.5	0.65	1010234
259	石鏹	黒曜石B	A-5	III	1.5	1.4	0.3	0.37	1011750
260	石鏹	頁岩B	A-7	III	1.3	1.3	0.2	0.43	1001504
261	石鏹	黒曜石A	B-6	III	1.3	1.3	0.2	0.29	1007151
262	石鏹	黒曜石B	A-7	III	1.75	1.5	0.25	0.52	1000405
263	石鏹	黒曜石A	B-5	III	2	1.7	0.4	0.88	1003010
264	石鏹	黒色安山岩	B-7	III	1.9	1.4	0.35	0.75	1001827
265	石鏹	黒色安山岩	B-5	III	2.25	1.7	0.5	1.24	1008155
266	石鏹	無斑晶質安山岩	B-5	III	2.2	1.3	0.4	0.85	1002720
267	石鏹	黒曜石A	B-7	III	2.45	1.85	0.55	1.48	1006283
268	石鏹	タンバク石	A-5	III	2.15	1.6	0.4	0.65	1011995
269	石鏹	黒曜石B	B-6	IV	1.6	1.25	0.4	0.72	1006677
270	石鏹	黒曜石B	B-5	III	1.55	1.2	0.45	0.59	1004885
271	石鏹	黒色安山岩	B-7	III	1.55	1.4	0.35	0.57	1009140
272	石鏹	黒曜石D	A-7	III	1.9	1.3	0.5	0.57	1001471
273	石鏹	黒曜石D	B-4	III	2.05	1.6	0.35	0.54	1009262
274	石鏹	黒曜石蛭島	A-7	III	1.75	1.55	0.4	0.88	1000433
275	石鏹	黒曜石A	A-5	III	2	1.6	0.3	0.64	1012190
276	石鏹	黒曜石D	A-5	III	1.7	1.2	0.3	1.41	1011060
277	石鏹	黒曜石B	A-6	III	2.4	1.9	0.5	1.74	1010132
278	石鏹	タンバク石	A-5	III	3	2.5	0.8	4.36	1011053
279	石鏹	チャートB	B-4	III	2.05	1.55	0.5	1.38	1009550
280	石鏹	黒曜石A	B-6	IV	1.6	1.85	0.4	0.75	1006690
281	黄彩石器	無斑晶質安山岩	B-5	III	4.3	2.5	0.4	2.96	1005555
282	異形石器	黒曜石D	B-7	III	3.6	1.4	0.8	2.62	1000744
283	異形石器	黒曜石C	A-5	III	1.8	2.3	0.3	0.62	1011096
284	磨製石鏹	頁岩	B-5	III	1.8	1.6	0.3	0.79	1003100

表 11 III・IV層実測石器観察表(2)

番号	器種	石材	出土区	層	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	遺物番号	
285	石匙	無斑晶質安山岩	B-7	IV	27	4.8	0.9	39.86	1004070	
286	石匙	無斑晶質安山岩	B-5	III	21	1.6	0.4	3.88	1005413	
287	石匙	黒曜石 A	4t-157	V	1	2.3	0.5	0.8		
288	石匙	黒曜石 A	A-5	IV	5.15	2.8	0.9	10.15	1011683	
289	石匙	無斑晶質安山岩	A-7	IV	1.8	1.4	0.4	2.99	1010000	
290	石匙	無斑晶質安山岩	B-11	IV	3.4	2.45	0.8	4.52	1100030	
291	石槍	無斑晶質安山岩	A-5	III	6.05	4.3	0.65	15	1011000	
292	楔形石器	黒曜石 A	A-5	III	2.6	2.05	1.35	8.63	1011041	
293	楔形石器	黒曜石 A	A-6	III	1.7	2.85	0.9	4.23	1010383	
294	スクレイパー	黒曜石 鋸齒	A-7	IV	3.55	1.35	0.4	1.49	1001754	
295	ドリル	無斑晶質安山岩	B-11	III	5.6	4.4	1	30.63	1100047	
296	スクレイバー	無斑晶質安山岩	B-5	IV	4.9	3.15	0.9	13.66	1008312	
297	スクレイバー	無斑晶質安山岩	A-6	III	4.1	6	0.95	23.01	1010534	
298	スクレイバー	玻璃質安山岩	B-5	IV	4.55	5.9	1.7	37.69	1008303	
299	スクレイバー	黒曜石 A	B-5	III	2.9	4.05	0.9	7.36	1005157	
300	二次加工剝片	黒曜石 A	A-7	IV	3.3	3.85	1	11.55	1009660	
301	スクレイバー	黒曜石 B	A-5	III	1.1	2.55	0.85	1.8	1011301	
302	スクレイバー	顎灰岩	A-17	IV	10.65	10.7	1.2	148.5	1200898	
303	二次加工剝片	珪質頁岩	A-5	III	11	10.15	5.25	466	1011404	
304	スクレイバー	顎灰岩	B-5	IV	14	5.5	1.3	104.15	1008300	
305	二次加工剝片	頁岩 B	B-6	III	7.5	5.4	1.2	57.63	1002345	
306	スクレイバー	玻璃質安山岩	A-6	III	3.8	4.4	1.4	20.97	1010417	
307	二次加工剝片	黒曜石 A	A-5	III	2.5	2.8	1.5	9.02	1010672	
308	剝片	石片未製品	黒曜石 A	A-5	III	2.3	3.3	0.85	6.75	1011056
309	磨製石斧	頁岩 B	B-5	IV	11.8	3.9	2.2	98.2	1008500	
310	石斧	頁岩	B-5	III	8.25	5.05	1	42.4	1003200	
311	石鑿	シルト質凝灰岩	B-7	IV	15.15	14.4	5.4	556.5	1006438	
312	石核	黒曜石 A	A-5	III	3.82	4.25	2.2	40.15	1011844	
313	石核	黒曜石 E	B-5	IV				26.46	1007803	
314	石核	黒曜石 B	A-5	III	3.21	3.52	1.75	16.4	1012082	
315	石核	黒曜石 A	A-7	IV	2.91	2.41	1.38	7.45	1009873	
316	石核	黒曜石 A	A-6	III	2.15	1.8	1.55	3.41	1002429	
317	石核	黒曜石 B	A-5	III	4.68	4.53	4.56	94.9	1010760	
318	石核	黒曜石 B	B-5	III	3.25	4.6	3.85	43.69	1005742	
319	石核	黒曜石 A	A-7	III	2.15	3.25	2.64	17.2	1009061	
320	石核	黒曜石 B	A-5	III				50.22	1010790	
321	石核	硬質頁岩 B	B-7	IV				17.83	1003999	
322	石核	黒曜石 A	A-5	III	2.66	2.35	1.17	7.19	1011400	
323	石核	黒曜石 B	B-4	III	4.4	6.38	1.8	44.78	1006985	
324	石核	黒曜石 A	A-7	IV	2.7	3	2.15	9.27	1005981	
325	石核	黒曜石 A	A-5	IV	3.35	3.08	3.61	29.08	1011980	
326	石核	安山岩	A-6	III	14.75	14.55	5	1420	1010247	
327	石核	安山岩	A-7	IV	4.6	12.5	11.6	865	1010033	
328	叩石	安山岩	B-7	IV	8.15	7.05	4.7	408	1003951	
329	叩石	砂岩	A-5	III	8.4	6.3	3.5	286.48	1011523	
330	叩石	安山岩	B-5	III	6.6	4.85	2.85	126.41	1003022	
331	叩石	砂岩	B-7	III	3.85	3.65	1.8	31.86	1003896	
332	叩石	安山岩	B-6	IV	9.5	5.3	4	260.2	1007714	
333	叩石	安山岩	A-5	III	7.85	6.2	4.3	256	1010676	
334	磨石・叩石	安山岩	A-7	IV	4.85	3.5	3.2	63.99	1010093	
335	磨石・叩石	安山岩	A-6	III	10	7.9	4.45	530	1010413	
336	凹門	安山岩	A-6	III	9.2	7.7	3.6	358	1010246	
337	凹門	安山岩	A-6	III	8.4	8.7	5.9	457	1010315	
338	磨石・叩石	安山岩	A-5	III	9.6	7.65	4.35	435	1011773	
339	凹門	安山岩	B-5	III	7.8	7.45	5.45	483	1008737	
340	礪器	安山岩	B-6	III	10.6	10.1	4.25	417	1004471	
341	礪器	安山岩	B-6	IV	12.05	8.4	1.8	217.2	1007729	
342	礪器	安山岩	B-3	III	14.8	10.75	2.8	433.2	1006733	
343	礪器	安山岩	B-5	III	6.3	5.2	1.7	7451	1002531	
344	礪器	安山岩	B-4	IV	10.25	9.05	4.05	470.5	1009956	
345	礪器	安山岩	B-5	III	13.25	11.05	2.8	620	1002700	
346	鉢石製品	鉢石	B-4	III	6.7	4.45	2.8	14.4	1009990	
347	鉢石製品	鉢石	B-5	III	5.2	2.6	1.5	9.4	1002510	
348	鉢石製品	鉢石	B-5	III	13.1	6.1	3.3	45.8	1008625	
349	剥片	安山岩	B-4	III	3.4	3.9	0.4	50.35	1009692	
350	剥片	安山岩	B-4	III	4.7	2.5	0.45	42.92	1009183	
351	剥片	安山岩	B-4	III	3.1	2.8	0.3	27.53	1009186	
352	剥片	安山岩	B-4	III	1.5	1.8	0.25	5.61	1009228	

前期土器～中期土器

Ⅶ類土器（353～355）

353は口縁上部から縦位の突帯が3条貼付けられている。その直下には横位の刺突文が連続する。内面は、貝殻条痕のちナデが確認される。轟B式土器に類似する。また、回転穿孔による円形補修孔が確認できる。

354は口縁部に、上から順に刺突点文1条、帶状押引文が2条施されている。内面には帶状押引文が4条施されている。尾田式土器に類似する。

355は口唇部に外面に傾斜し斜交する刻みが施されている。また、口縁部に貼付けられた3条の隆帯に、棒状の施文具で刻み目が施されている。353と355の内面には浅い貝殻条痕調整がなされている。

以上の特徴から、轟式系土器であると考えられる。

Ⅷ類土器（356～359）

器形は、外反した口縁部から頸部がしまり、胸部でやや膨らむ深鉢型である。口唇部には凹線による刻みが外面に施されている。また口縁部はやや波状になる。

文様は、4mm幅の太凹線で施され、波底部の菱形を中心に、口縁部から頸部下端まで6条巡らされている。356、357、358は出土状況から同一個体であると考えられる。器形や文様から、宮之迫遺跡出土の土器に類似するが、貝殻条痕調整がみられない点が相違点である。また、359の太凹線は8mm幅でやや深い。以上の特徴から、阿高式系土器であると考えられる。

後期土器

IX類土器（360～362）

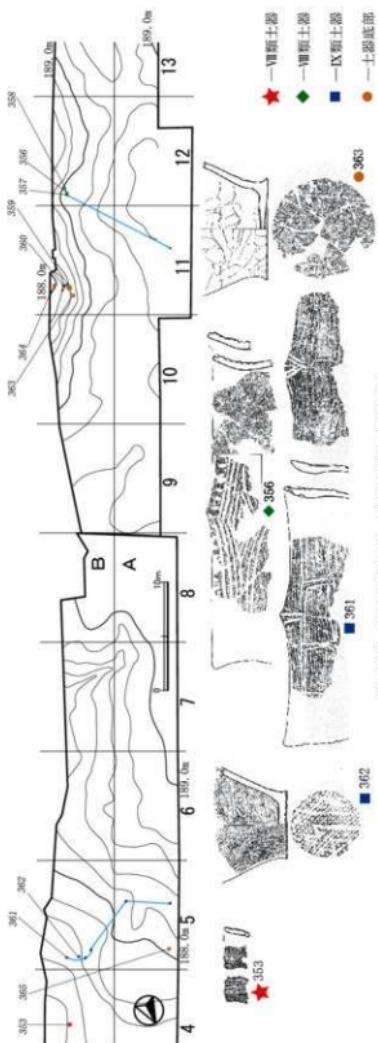
器形は、口縁部がわずかに外反し、胸部には張りがある。口唇部は尖り気味で、4つの頂部のある波状口縁であると考えられる。底部はやや張り出し、内湾して胸部に直線的につながる。底面は平底あるいはやや上げ底である。360の口唇部は内面に傾斜し、361は外面に傾斜する。

文様は、二本平行の沈線による施文がなされている。360は波頂部から沈線が外面には縦位に2条、内面には縦位に1条、その脇を羽状に4条施されている。口縁部には靴型文が施されている。362は底面の網代圧痕が明瞭で、底部外面には刻みがあり、内面は貝殻状痕でナデ消されている。以上の特徴から、指宿式土器に相当すると考えられる。

中期～後期土器 底部（363～365）

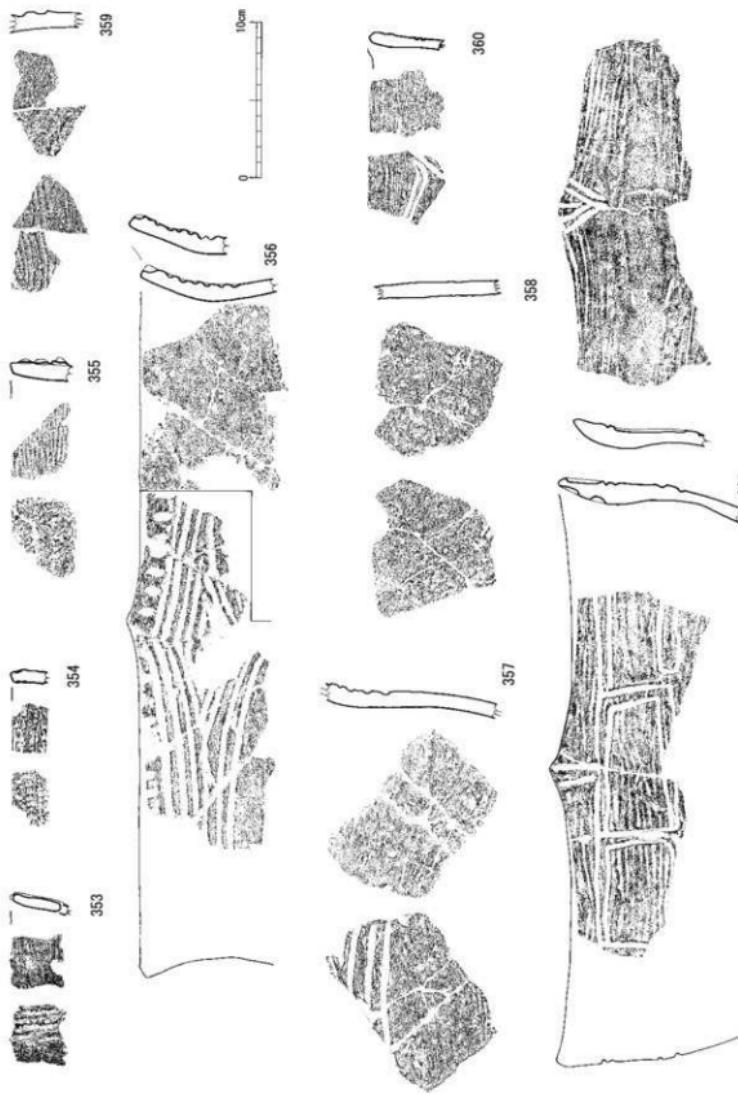
363はやや上げ底で、底部はやや張り出してから

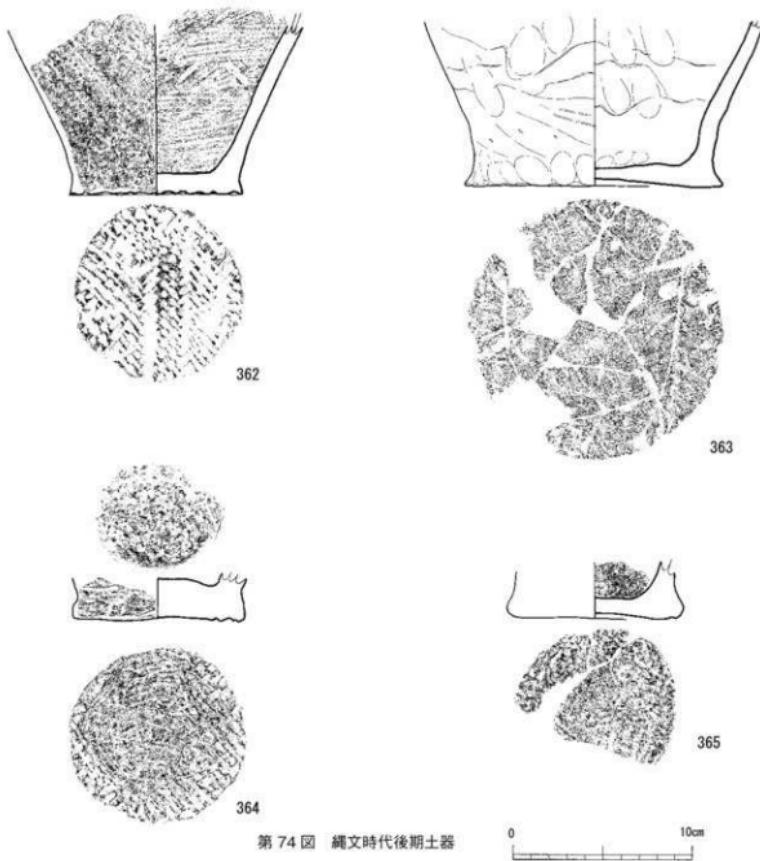
内湾し、胸部に直線的につながる。器壁は薄手で脆く、また擬似口縁と接合痕が確認できる。底面には植物葉の圧痕がみられ、底部外側には刻みがある。364はやや上げ底で、厚みがある。底面に網代圧痕が確認できる。365は上げ底で、底部から胸部分へ内湾している。底面は網代圧痕をナデ消されている。



第72図 織文時代前期～後期土器出土状況図

第73図 繩文時代前期～後期土器





第 74 図 繩文時代後期土器

表 12 前期～後期実測土器観察表

図番号	取上番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調整 (内面)	文様・調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎 土			備考		
										長石	石英	角閃石	赤石		
353	100948	B-4	III	埴	口縁部	丁寧なナデ	尖帶文、刺突点直文	褐7SYR4/4	にぶい黄褐色10YR5/4	○	○	○	○	無修孔	
354	-	-	-	埴	口縁部	垂直押印文、丁寧なナデ	刺突点直文、帶状押印文	黑10YR12/1	黒10YR12/1	○	○	○	○		
355	-	-	-	埴	口縁部	貝殻条痕→丁寧なナデ	刺目跳躍文	にぶい黄褐色10YR5/4	黒褐色10YR3/2	○	○				
356	1100039	B-11	III	埴	口縁部～側部	工具ナデ→丁寧なナデ	凹線文	褐7SYR6-6	明赤褐色7YR5-6	○	○	○			
357	1001020	B-5	III	埴	側部～側部	工具ナデ→丁寧なナデ	凹線文	にぶい黄褐色10YR5/4	赤褐色5YR4-6	○	○	○			
358	1100534	B-12	III	埴	側部	工具ナデ→丁寧なナデ	工具ナデ→丁寧なナデ	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい褐褐色7SYR5/4	○	○	○			
359	1100037	B-11	III	埴	側部	工具ナデ→丁寧なナデ	凹線文	にぶい黄褐色10YR5/4	赤褐色5YR4-6	○	○	○			
360	1100532	B-12	III	灰	口縁部	平行直溝、貝殻条痕→丁寧なナデ	平行直溝、貝殻条痕→丁寧なナデ	褐7SYR4/6	褐7SYR4/6	○	○	○			
361	1100584	A-11	III	口縁部	貝殻条痕→丁寧なナデ	平行直溝、貝殻条痕→丁寧なナデ	平行直溝、貝殻条痕→丁寧なナデ	褐7SYR7-6	褐7SYR7-6	○	○	○			
362	1001025	B-5	III	IX	底部	貝殻条痕→丁寧なナデ	貝殻条痕→丁寧なナデ	貝殻条痕→丁寧なナデ	褐黃褐色10YR5/2	にぶい褐褐色7SYR6/3	○	○	○		
363	1100060	B-11	III	底部	側部～底部	ナデ	網代紋、ナデ	明黃褐色10YR6/6	明黃褐色10YR6/6	○	○	○			
364	1100041	B-11	III	底部	底部	ナデ	木葉痕、ナデ	褐7SYR4/3	黒褐色7SYR3/1	○	○	○			

第5章 II層の調査

1 概要

傾斜面を削平されているので、II層は台地の縁辺部にしか残しておらず、狭い面積での調査になつた。

遺構では土坑と溝状遺構が検出された。遺物では成川式土器、土師器、須恵器、砥石が出土した。

2 遺構

古墳時代の土坑が2基と中世以降の土坑が5基、また溝状遺構が検出されている。

① 土坑

1と2は古墳時代のものである。1の埋土からは成川式土器片と炭化物が検出されている。埋土は黒褐色土である。2は遺物、炭化物とともにみられなかった。壁面、床面ともにあまり硬くはない。埋土は下層から黒褐色土と火熱を受けかなり赤くなつた赤褐色土からなる。

3～7は中世以降のものである。3の埋土は下層から暗茶褐色土、黒褐色土である。4は後世の造成により上部が削平されている。埋土は下層から暗茶褐色土、暗灰褐色土からなる。埋土には炭化物が混じり、底面は焼成を受け赤化している部分もある。5の埋土は下層から、明灰褐色土、焦げ茶色の土、暗褐色土になる。焦げ茶色の土の層から炭化物が検出されている。暗褐色土の層からは土師壺の破片と、炭化物が出土している。6の埋土は下層から黒

褐色土、赤色焼土、黄褐色土、暗茶褐色土である。カマ状の構造で、炭化物が検出された。遺物は出土しなかつた。7の埋土は下層から、黄褐色土、暗茶褐色土、黒褐色土からなる。暗茶褐色土層には、1～2 mmの赤色土（焼土）や黑色土（炭化物）が多い量に含まれている。

② 溝状遺構

溝状遺構は、A～B～3～4区とB～5区から検出されている。B～3区からB～4区にかけては南北に1本走り、これへ直行するようにA～B～3区に1本、A～B～4区に2本走る。遺物は検出されていない。

3 遺物

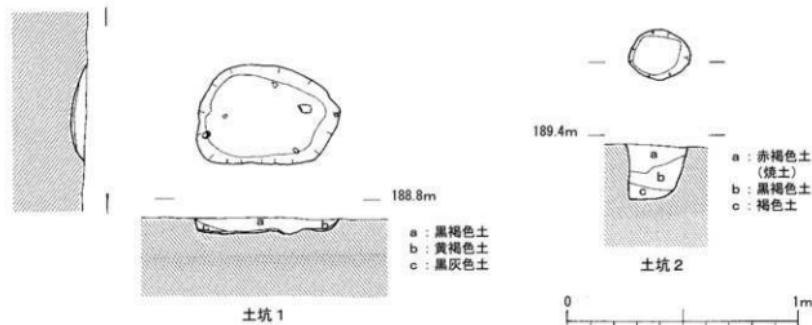
成川式土器（1～5）

1は壺型土器で、短い口縁部が外反する。内外面ともにハケ目による調整がなされてる。胴部下半はケズリ状になっている。

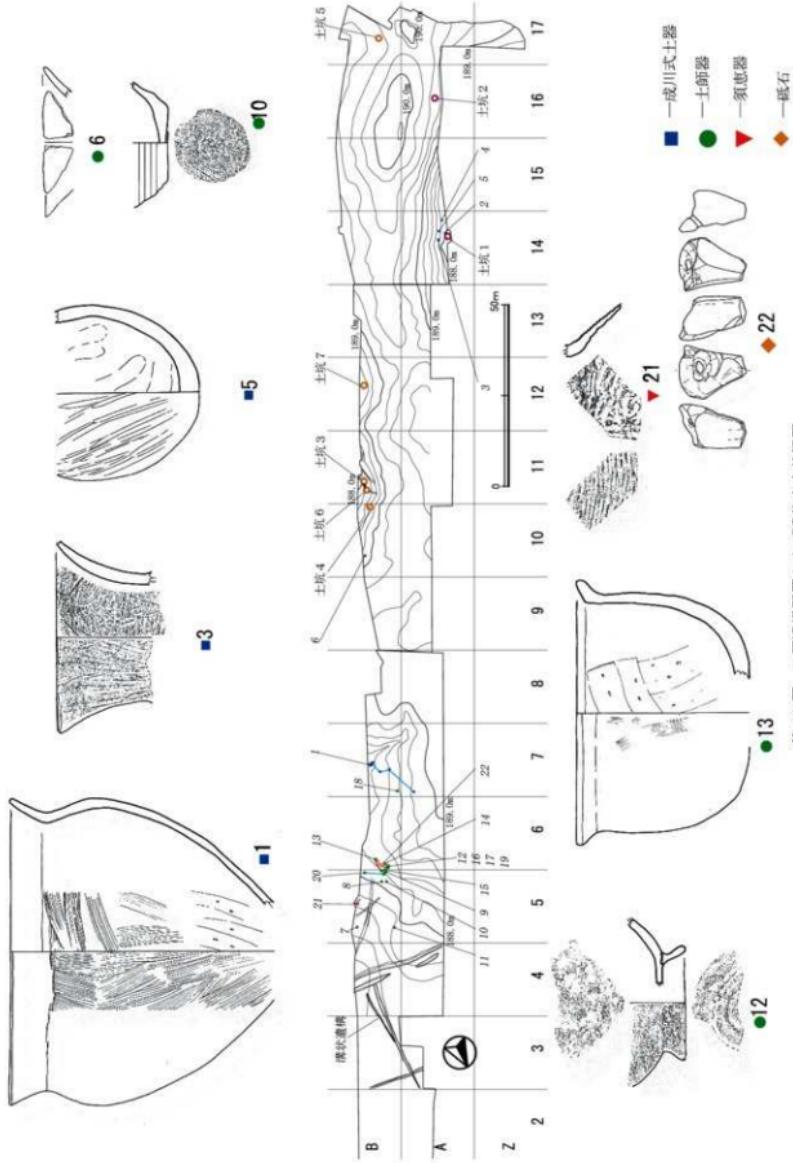
2、4は口縁部下に屈曲があり、4は突帯が施される。台付鉢形土器と考えられる。

3、5は壺型土器と考えられる。3は短い頸部で卵形の胴部がつく壺型土器の口縁部と考えられる。内外面ともにハケ目による調整の後にナデ消されている。5は胴部下半であるが、外面はヘラミガキされ、内面はナデられ、指頭圧痕が顕著である。

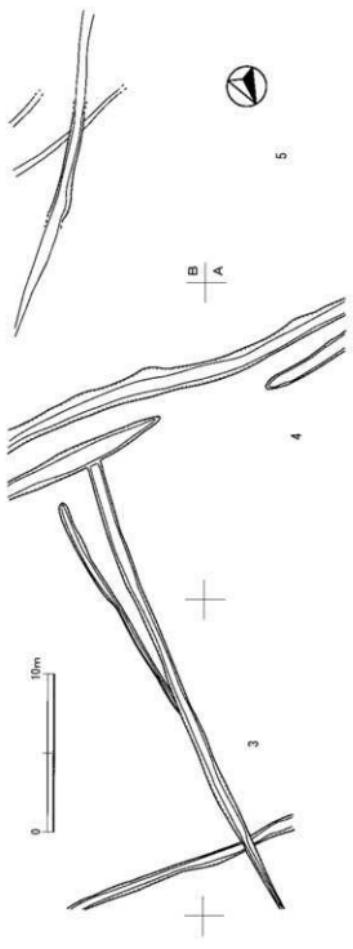
2～5はA～14区の土坑Iの周辺から出土している。



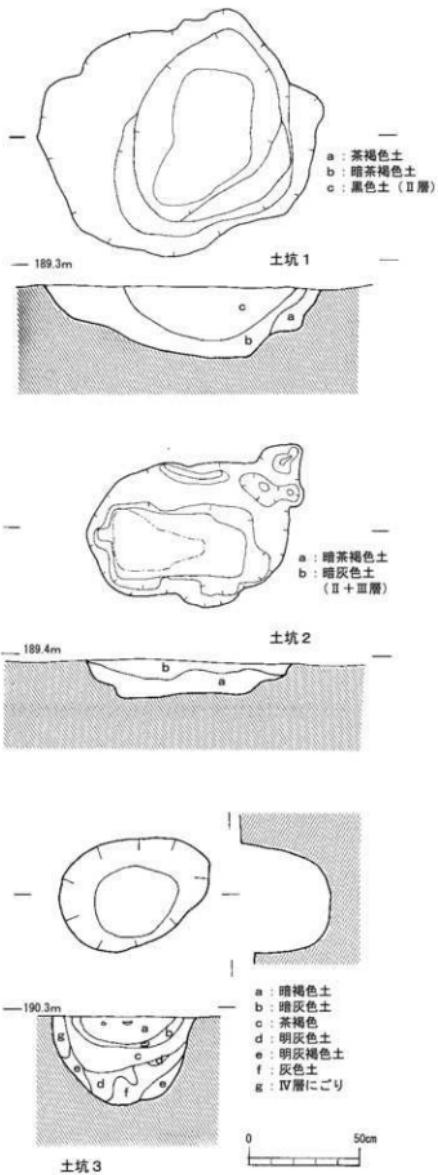
第75図 古墳時代土坑1～2



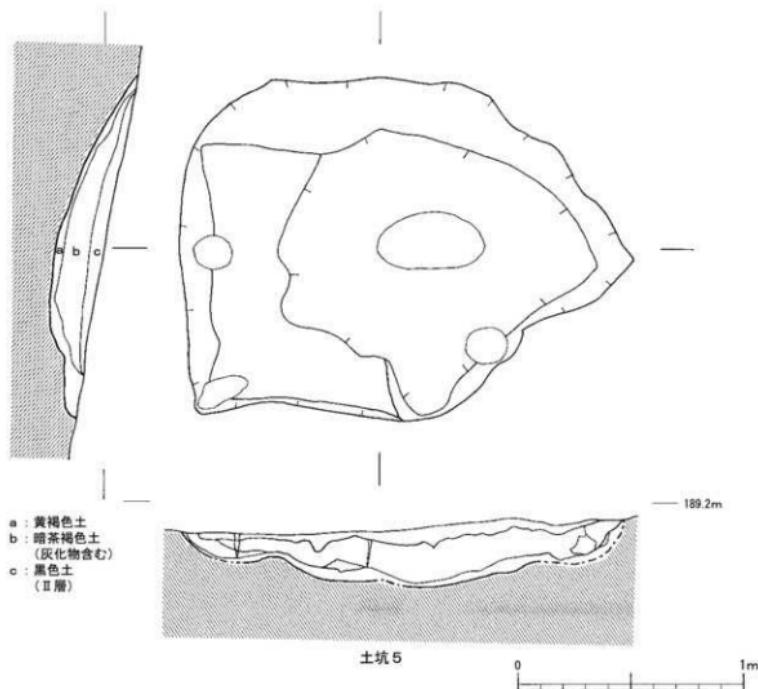
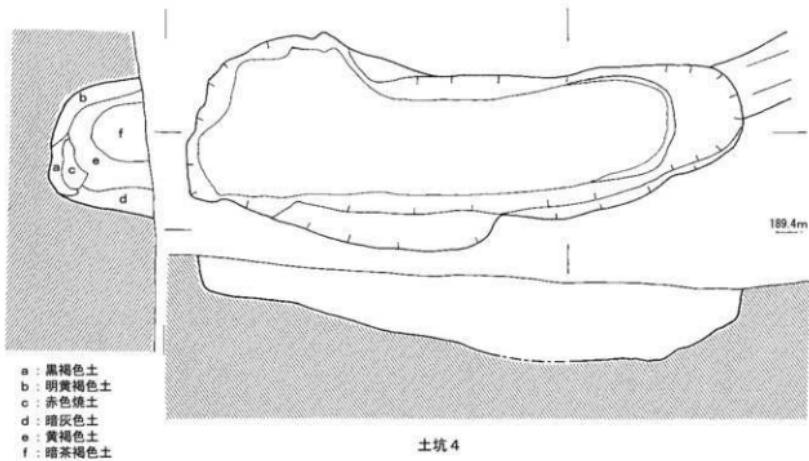
第76図 II層遺構配置および遺物出土状況図



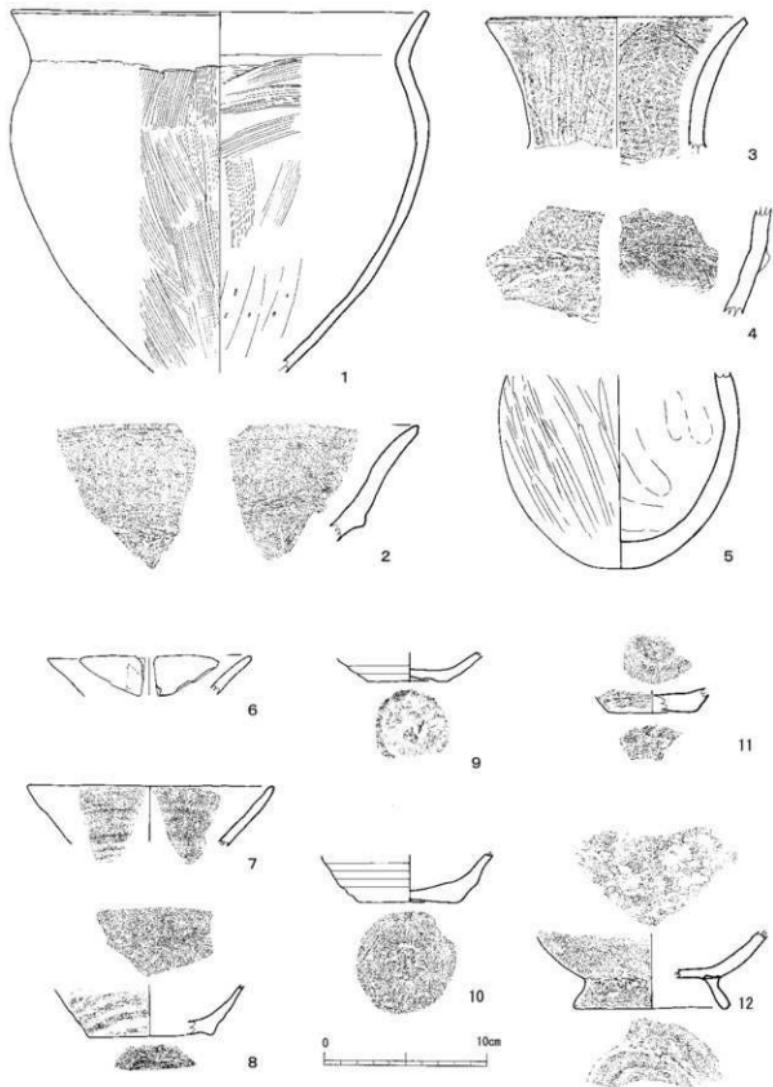
第 77 図 古代以降の溝状遺構



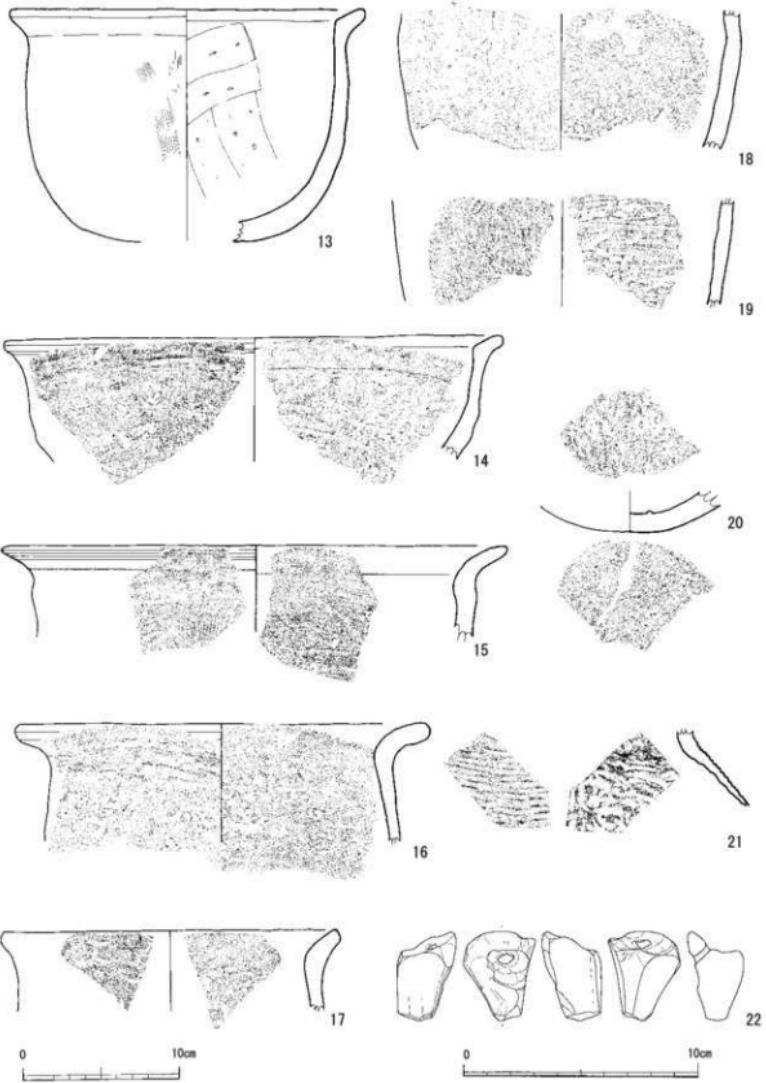
第 78 図 古代～中世の土坑 1～3



第79図 古代～中世の土坑 4～5



第 80 図 II 層出土遺物 (1)



第 81 図 II 層出土遺物 (2)

表 13 II 層実測遺物

測定番号	最上番号	出土区	層位	分類	堆積	口径 (cm)	底径 (cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎 土			備考			
												長石	石英	鈎柘	赤玉			
1	100040	B-7	II	成川式土器	壺	25.8	-	ハケ目	ハケ目	明褐色7.5YR7/2	褐10YR4/1	○	○	○	○			
2	1201099	A-14	IV	成川式土器	鉢	16	-	-	-	にふい・黄褐色10YR6/4	にふい・黄褐色10YR6/4	○	○	○	○			
3	1201096	A-14	IV	成川式土器	壺	-	-	工具→ナデ	工具→ナデ	にふい・黄褐色10YR7/4	にふい・黄褐色10YR6/4	○	○	○	○			
4	1201122	A-14	IV	成川式土器	鉢	-	-	工具→ナデ	工具→ナデ	にふい・黄褐色10YR6/4	黒10YR2/1	○	○	-	-			
5	1201104	A-14	IV	成川式土器	壺	-	-	ナデ	ヘラミガキ	黄褐色5Y5/1	淡黄2.5Y8/4	○	○	○	○	圓錐圧痕		
6	1100016	B-10	II	土師器	环	12.8	-	カキ上げ	ヨコナデ	にふい・黄褐色10YR7/4	にふい・黄褐色10YR7/4	○	○	○	○	墨書「丁」か		
7	1001122	B-5	II	土師器	环	15.2	-	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	浅黄褐色10YR8/4	にふい・橙7.5YR8/4	○	-	-	-		
8	1000912	B-5	II	土師器	环	-	7.8	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	にふい・橙5YR7/4	にふい・橙5YR7/4	○	-	-	-		
9	1007261	B-5	II	土師器	环	-	5.2	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	にふい・黄褐色10YR7/4	赤朱紅	○	-	-	-		
10	1000882	B-5	II	土師器	环	-	5.4	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	浅黄褐色7.5YR8/4	にふい・橙7.5YR8/4	○	○	-	-		
11	1001000	B-5	II	土師器	环	-	6.2	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	にふい・橙7.5YR7/4	浅黄褐色7.5YR8/4	○	-	-	-		
12	1004678	B-6	II	土師器	壺	-	-	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	浅黄褐色10YR8/4	橙7.5YR7/6	○	○	○	○	高台徑9.6cm	
13	1004665	B-6	II	土師器	壺	-	22.4	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	黑褐7.5YR3/1	暗朱褐色2.5YR3/4	○	○	○	○		
14	1046660	B-6	II	土師器	壺	-	31.6	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	赤褐色5YR4/6	にふい・赤褐色2.5YR4/4	○	-	-	-		
15	1007255	B-5	II	土師器	壺	-	32	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	にふい・橙7.5YR6/4	にふい・橙7.5YR6/4	○	○	-	-		
16	1004663	B-6	II	土師器	壺	-	25.6	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	褐7.5YR4/4	褐5YR6/6	○	○	-	-		
17	1006719	B-6	II	土師器	壺	-	21.2	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	小褐5YR4/6	明赤褐色5YR5/6	○	○	-	-		
18	1002239	B-7	II	土師器	壺	-	-	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	にふい・橙7.5YR6/4	褐5YR6/6	○	○	○	○		
19	1004676	B-6	II	土師器	壺	-	-	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	黄褐色10YR8/6	赤褐色5YR4/6	○	○	○	○		
20	1007275	B-5	II	土師器	壺	-	-	カキ上げ	ヨコナデ	一部ハケ目	褐5YR1.7/1	橙5YR6/6	○	○	-	-		
21	1001172	B-5	II	須恵器	壺	-	-	-	-	同心円タタキ	平行タタキ	灰10Y4/1	浅黄褐色7.5YR8/4	○	-	-	-	
22	1007330	B-6	II	砥石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

土師器（6～20）

6～12は、坏ないし焼と思われる。6～11は坏部が直線上に立ち上がる。また、6の外面には墨書きが確認できる。逆位の「丁」と読める。8～11はハラ切り底、12は高台付焼である。

13～20は土師壺で、口縁が短く外反し、内面に明確な棱をつくる。二次焼成をうけている。外面はヨコナデで一部ハケ目があり、内面はカキ上げである。

7～20はB-5～7区から出土している。

須恵器（21）

大型壺の肩部と考えられる。外面は平行タタキで、内面は同心円タタキである。

砥石（22）

緻密な赤色の凝灰岩を素材としている。4面全てが使用され、いずれも深く凹んでいる。金属砥の可能性が高い。

瀬 戸 頭 B 遺 跡

V 瀬戸頭B遺跡

第1章 調査の概要

瀬戸頭B遺跡は約2400m²を対象として全面調査を実施した。旧地は茶畠である。表土を重機で除去した後、調査を開始した。表土剥ぎ後の状態は、概ねアカホヤ火山灰の二次堆積層上面であったが、1区～2区は畑で一段低く削平されており、縄文時代の包含層は削平されていた。また、10区以降は旧地形がながらかに高くなってしまい、水平に削平されているため縄文時代の層が漸移的に削り取られ、14、15区については残存が認められなかった。遺物は層の残っている範囲全面に認められた。

縄文時代は、Ⅲ層下部～Ⅳ層にかけて遺物が出土しており、早期全般の遺物が確認された。

旧石器時代はⅦa層～Ⅶb層にかけて遺物が出土しており、小型のナイフ形石器や台形石器、細石器、土器、石礫等が出土している。ただし、剥片・碎片等の遺物のほとんどは細石器文化期に属するものである。なお、Ⅶa層からの出土遺物数は6147点、Ⅶb層からの出土遺物数は1507点である。

第2章 Ⅶb～Ⅶa層の調査

1 概要

Ⅶb～Ⅶa層の遺物は総計7654点である。Ⅶb層～Ⅶa層にかけて小型のナイフ形石器、台形石器等が出土し、Ⅶa層からは細石刃文化期の遺物が出土している。また、同層からは非常に小さくてもろい土器片、土器粒が出土している。よって、薩摩火山灰層下位には、ナイフ形石器文化期終末から縄文草創期までの遺物が含まれると考えられる。特徴的な遺物についてはその帰属時期についてほぼ明らかにできるものの、石核、スクレイパー、叩石等、どの時代にもみられる石器については、その帰属時期については断定はできないため、出土層によりレイアウトをしている。

2 遺構

(1) 碓群

碓群はB-6区のⅦa層で1基検出された。拳よりやや大きめの礫が散在している。

(2) ブロック

ブロックは20か所検出された。いずれもⅦa層を中心としている。各ブロックの概要は以下のとおりである。

A ブロック

D～Cの1区で検出した。遺物総数は271点であ

る。石材は黒曜石Aが120点、黒曜石Bが88点と大多数を占め、頁岩13点、黒曜石C、安山岩等が含まれる。遺物は細石刃核5点、細石刃11点、叩石1点、楔形石器1点、土器2点が含まれる。

B ブロック

B～C-2区で検出した。遺物総数は199点である。石材は黒曜石Aが95点、黒曜石Bが92点と大多数を占める。遺物は細石刃3点のみである。

C ブロック

C-2区で検出した。遺物総数は138点である。石材は黒曜石Aが10点、黒曜石Bが94点と大多数を占め、他に黑色安山岩や頁岩等が少量含まれる。遺物は細石刃核2点、細石刃6点、作業面再生剥片2点、土器1点が含まれる。

D ブロック

B-3区で検出した。遺物総数は166点である。石材は黒曜石Aが12点、黒曜石Bが145点と大多数を占める。遺物は細石刃核1点、細石刃1点、楔形石器1点である。

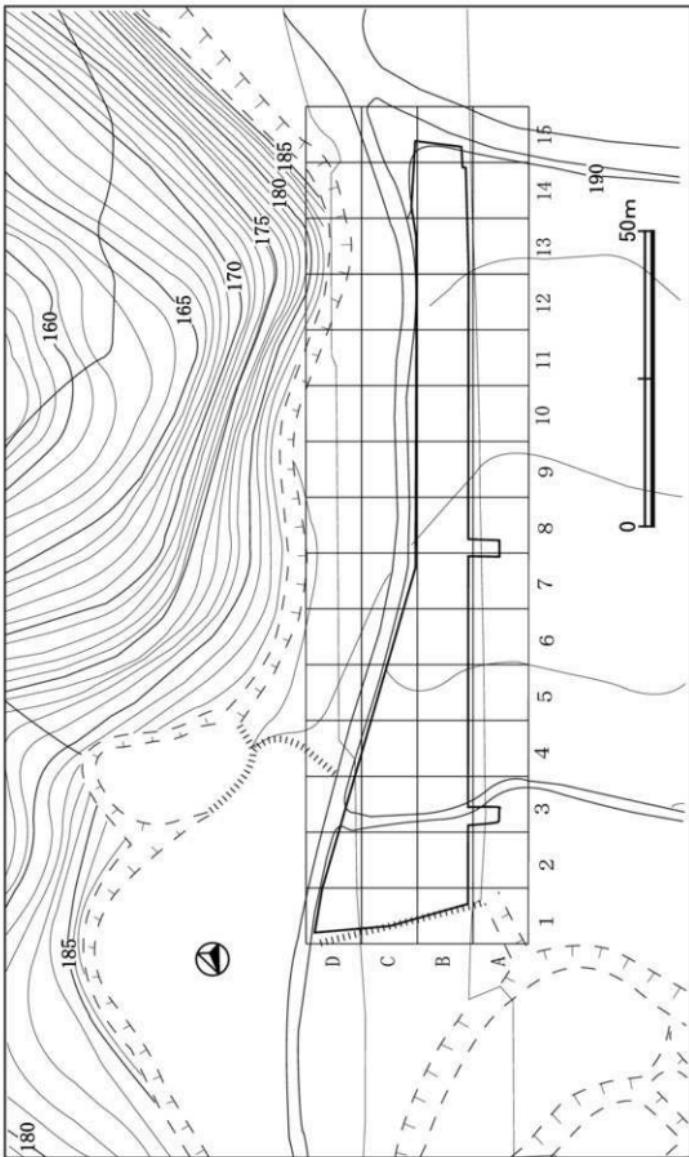
E ブロック

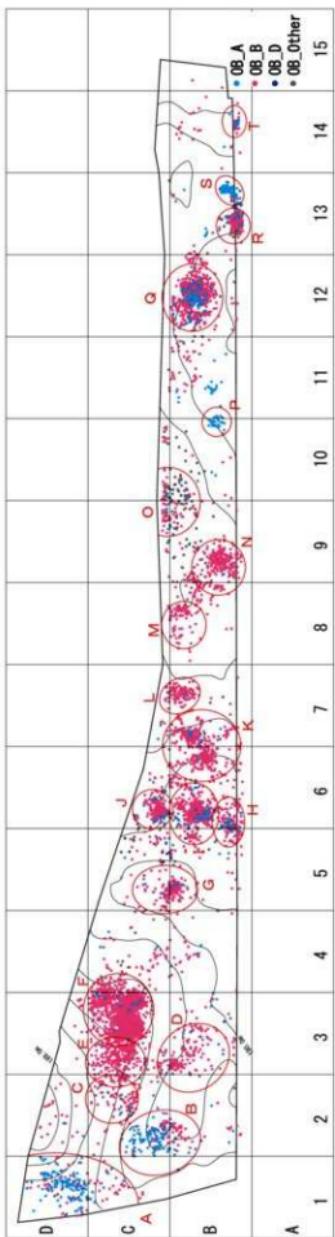
C-2～3区で検出した。遺物総数は206点である。石材は黒曜石Bが181点と大多数を占め、他に黑色安山岩や黒曜石A、C等が少量含まれる。遺物は細石刃1点のみである。



第82図 B-6区のVIIa層 碓群

第83図 調査区と周辺地形図





第84図 VII b ~ VII a層遺物出土状況図



第85図 VII b ~ VII a層器種別出土状況図

F ブロック

C-3区で検出した。遺物総数は2190点と、当遺跡で最も大きなブロックであるが、剥片、碎片類がほとんどを占める。ブロック内に3つの集中箇所を含むが、重なって分離が困難であるため1つのブロックとして扱う。石材は黒曜石Bが2051点と大多数を占め、他に黒色安山岩11点、黒曜石A.C等が少量含まれる。黒色安山岩には石鍛が1点含まれるために、黒色安山岩については縄文時代草創期に属するものであると考えられる。遺物は土器が27点、細石刃核3点、細石刃17点、石鍛1点である。

G ブロック

B～C-5区で検出した。遺物総数は220点である。石材は黒曜石Bが185点と大多数を占める。遺物は細石刃核2点である。

H ブロック

B-5～6区で検出した。遺物総数は172点である。石材は黒曜石Bが128点で、黒曜石Aが17点、黒色安山岩が9点である。遺物は細石刃1点のみである。

I ブロック

B-5～6区で検出した。遺物総数は576点である。石材は黒曜石Bが493点で、黒曜石Aが29点であり、黒曜石C.D、凝灰岩等が含まれる。遺物は細石刃4点である。細石刃4点については石材が黒曜石A.C.D、凝灰岩とそれぞれ異なるため、搬入品と考えられる。

J ブロック

C-6区で検出した。遺物総数は227点である。石材は黒曜石Bが191点で、黒曜石Aが14点であり、黒曜石Cが少量含まれる。遺物は細石刃3点と石鍛1点である。細石刃3点はいずれも黒曜石Cである。

K ブロック

B-6～7区で検出した。遺物総数は414点である。石材は黒曜石Bが377点で、黒曜石Aが17点、黒曜石Cが3点である。遺物は細石刃3点のみである。

L ブロック

B-7区で検出した。遺物総数は113点である。石材は黒曜石Bが108点で、ほぼ全てを占める。遺物は細石刃2点のみである。

M ブロック

B-8区で検出した。遺物総数は124点である。石材は黒曜石Bが104点でほとんどである。遺物は細石刃2点のみである。

N ブロック

B-9区で検出した。遺物総数は245点である。石材は黒曜石Bが232点と大多数を占め、黒曜石C、黒曜石A、安山岩がわずかに含まれる。遺物は細石刃

4点のみである。

O ブロック

B-9～10区で検出した。遺物総数は254点である。石材は黒曜石Cが95点、黒曜石Bが94点と大多数を占め、凝灰岩質頁岩、黒曜石A、硬質頁岩等がわずかに含まれる。遺物は細石刃が25点である。

P ブロック

B-10～11区で検出した。遺物総数は25点である。石材は黒曜石Aが18点である。遺物は細石刃核が1点、叩石が1点である。

Q ブロック

B-12区で検出した。遺物総数は907点である。石材は黒曜石Bが778点、黒曜石Aが64点、黒曜石Cが12点で、頁岩や砂岩等がわずかに含まれる。遺物は細石刃核7点、細石刃17点である。

R ブロック

B-13区で検出した。遺物総数は254点である。石材は黒曜石Bが153点、桑ノ木津留産の黒曜石が47点、黒曜石Aが20点、黒曜石Cが19点である。遺物は細石刃10点である。

S ブロック

B-13区で検出した。遺物総数は165点である。石材は黒曜石Aが105点、黒曜石Bが45点、桑ノ木津留産の黒曜石が6点、黒曜石Cが2点である。遺物は剥片、碎片のみである。

T ブロック

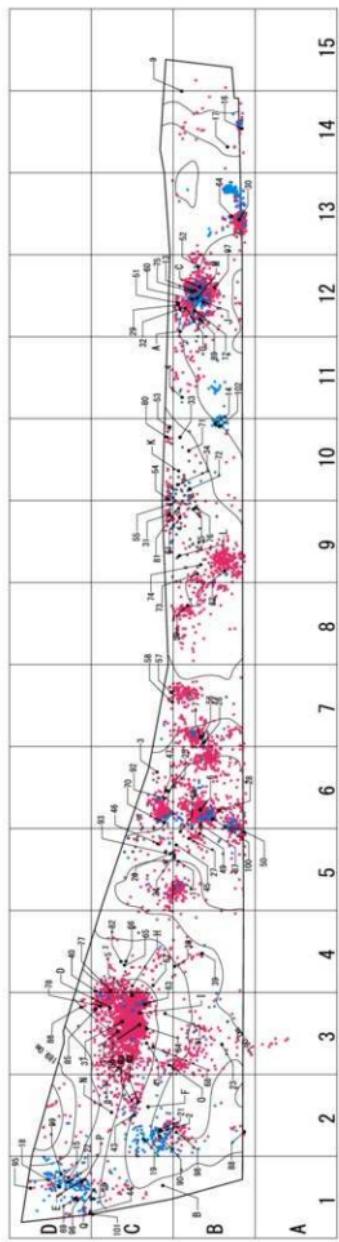
B-14区で検出した。遺物総数は42点である。石材は黒曜石Bが28点、黒曜石Aが5点である。遺物はプランク1点である。

3 出土遺物

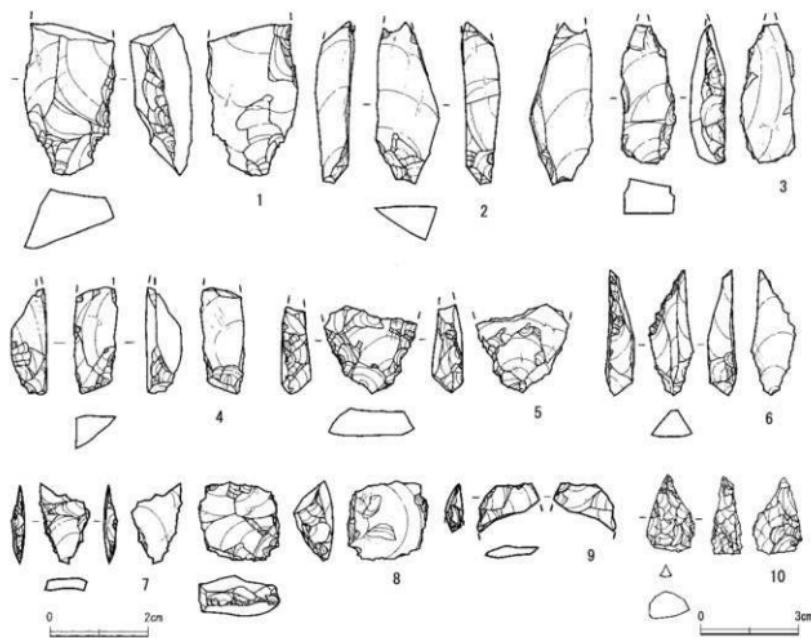
(1) VII b 層

VII b 層からVII a 層にかけて小型のナイフ形石器や台形石器が出土している。いずれも散在した状態での単体出土で、製作跡を伴わないとから遺跡内への搬入品であると考えられる。ナイフ形石器文化終末期の所産であると考えられるため、細石器と別にしてVII b 層の遺物として掲載した。

出土遺物は石核が6点、尖頭器1点、ナイフ形石器1点、台形石器1点、二次加工剥片1点である。1は黒曜石A製のナイフ形石器である。両設の石核から剥離された綫長の剥片を利用し、片側縁の基部にプランティングを施している。先端部は欠損している。2は硬質頁岩製のナイフ形石器である。綫長剥片を素材とし、基部に簡単なプランティングを施している。3は黒色安山岩製のナイフ形石器である。横長の剥片を横位に利用し、片側縁に急角度のプランティングを施している。左側は欠損と考えられる。4は黒曜石A製のナイフ形石器であ



第86図 VII b層～VII a層実測遺物出土状況



第87図 VII b層～VII a層出土遺物

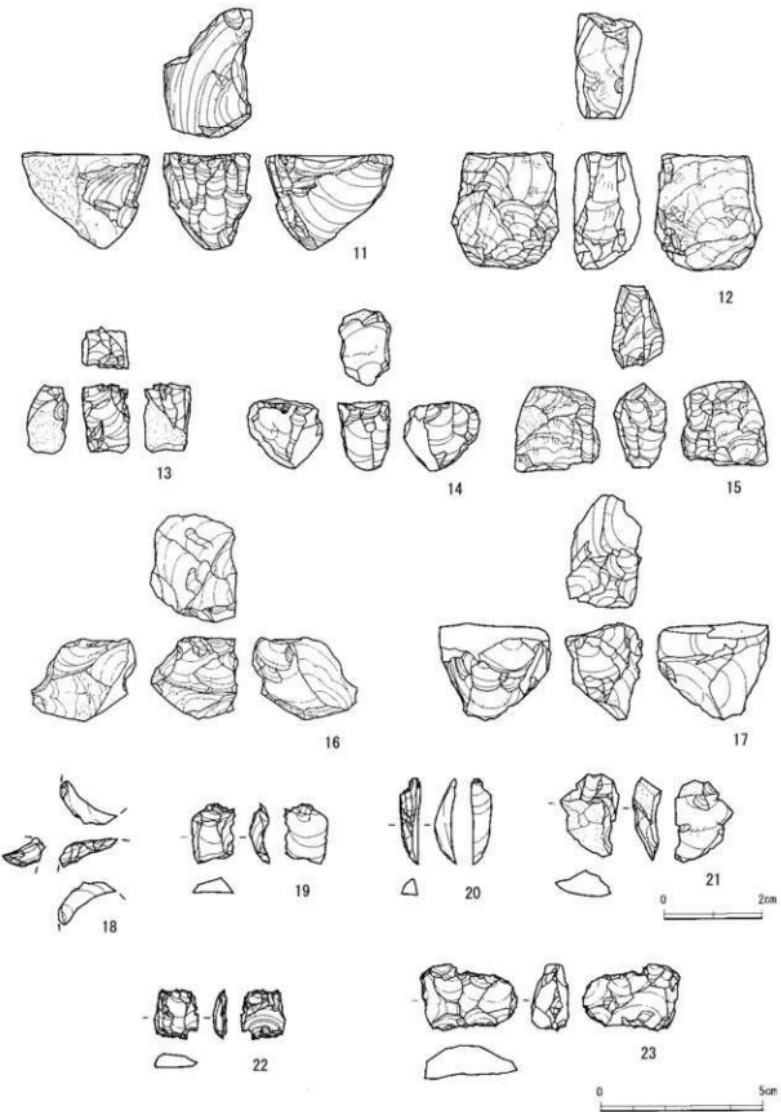
る。横長の剥片を横位に利用し、両側縁の基部にブランディングを施している。先端部は欠損している。5は黒曜石B製のナイフ形石器基部である。腹面にバルバスカーがみられ、剥片の打点部をナイフ形石器の基部として使用していることがわかる。6は硬質真岩製のナイフ形石器である。剥片を凝位に利用し、先端部の片側にブランディングを施し、先端を尖るように加工している。7は黒曜石B製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し、両側縁にブランディングを施している。8は黒曜石C製の台形石器である。剥片を横位に利用し、下縁に二次加工がみられる。下縁の二次加工の角度がやや急なこと、微細剥離が多く確認されること等から、スクレイバーの可能性も考えられる。9は黒色安山岩製の台形石器の刃部である。剥片を横位に利用し、両側縁にブランディングを施している。10は黒曜石B製の三棱尖頭器である。基部は欠損している。

(2) VII a層

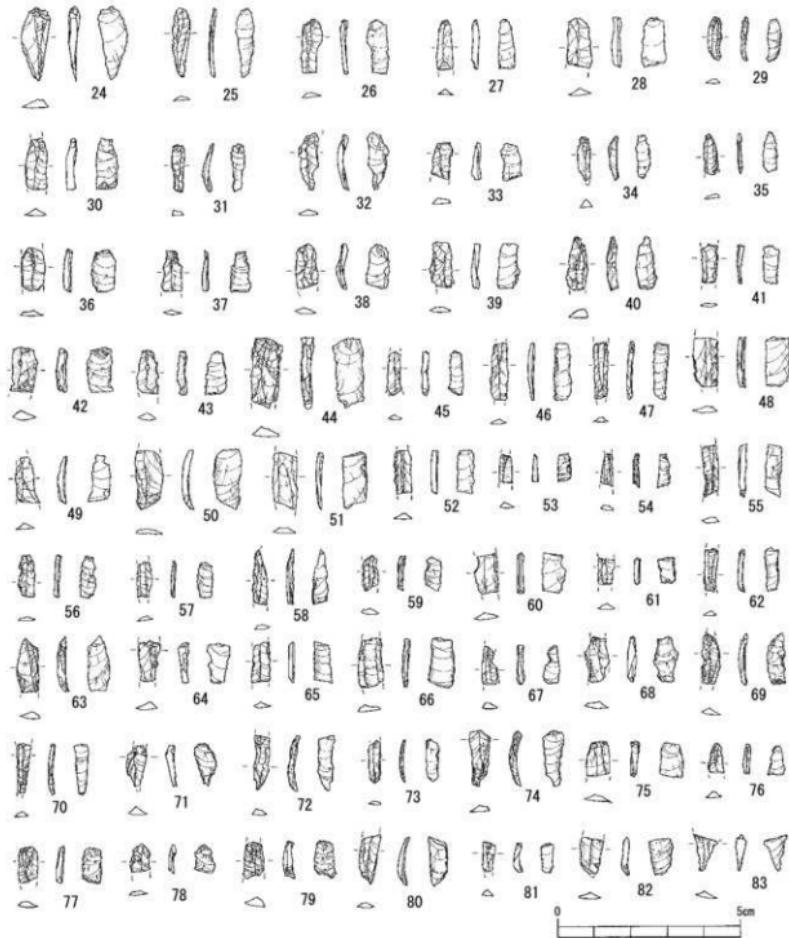
細石器関連石器

11は黒曜石C製の細石刃核である。分割時のネガ

面を打面とし、石核整形を施さずに小口部から打面調整をせずに細石刃を剥出している。左側面は自然面で構成される。12は黒曜石B製の細石刃核である。厚手の剥片を素材とし、剥片の腹面を細石刃核の側面に利用している。打面は1枚の大剥離面であり、打面調整痕はみられない。左側面に下縁調整が確認される。13は黒曜石C製の細石刃核である。小指大の小型の角礫を素材としている。作業面を切る形で大きく打面再生が入っているため、旧作業面は半分程度の残存である。14は黒曜石A製の細石刃核である。親指大の円礫を素材とし、分割時のネガ面を打面に設定し、石核整形を施した後に打面調整をせずに細石刃を剥出している。下面から背面にかけて自然面を残している。剥離がステップして廃棄されている。15は黒曜石A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に使用し、両側面に下縁調整を施して石核を整形している。打面は作業面側からの2回の剥離面により構成され、打面調整後に細石刃を剥出している。下縁は尖っていたものと考えられ、欠損している。16は黒曜石Bのブランクである。



第 88 図 VII a 層出土遺物 (1)



第89図 VIIa層出土遺物(2)

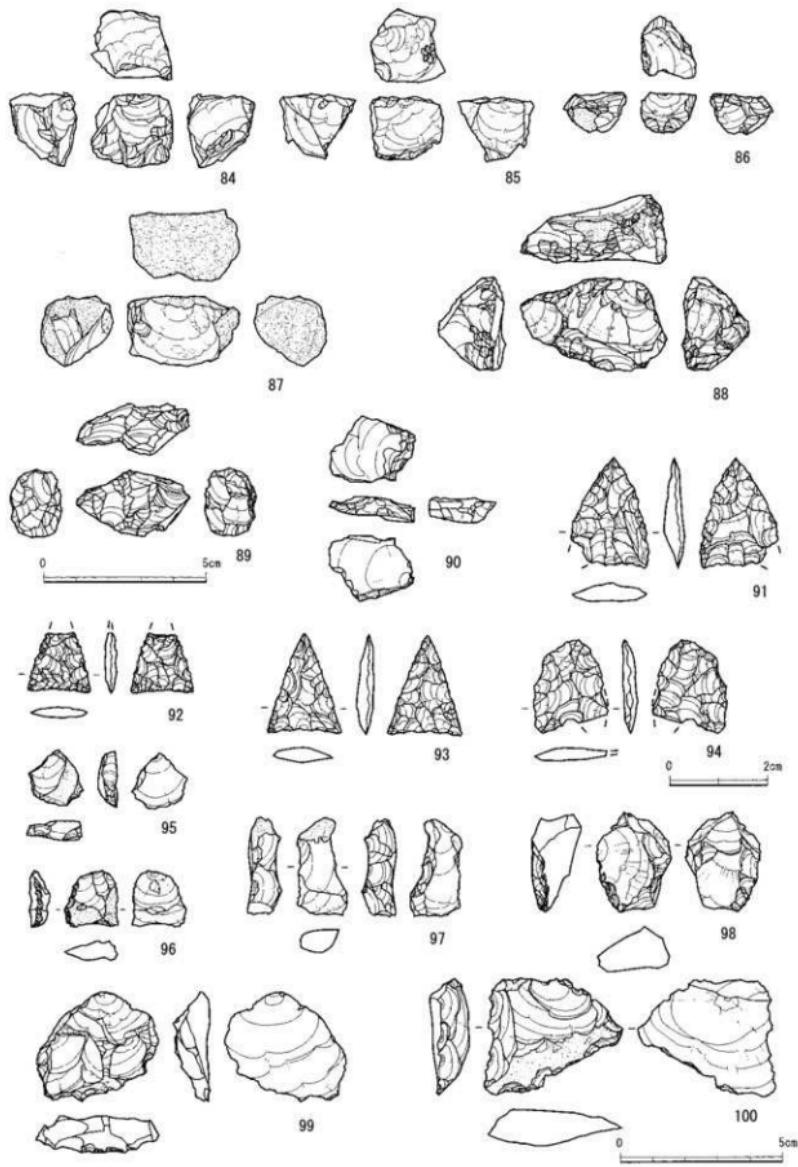
17は黒曜石A製のブランクである。18は黒曜石A製の打面再生剥片である。細石刃核の側面から作業面の上部を切る形で再生を行ったものである。19は黒曜石A製の作業面再生剥片である。20は黒曜石D製の作業面再生剥片である。素材剥片の主剥離面を横位に利用し、下縁の尖った細石刃核から剥離された再生剥片である。21は黒曜石A製の作業面再生剥片である。正面に自然面を残しているので、作業初期

の段階の再生剥片である。

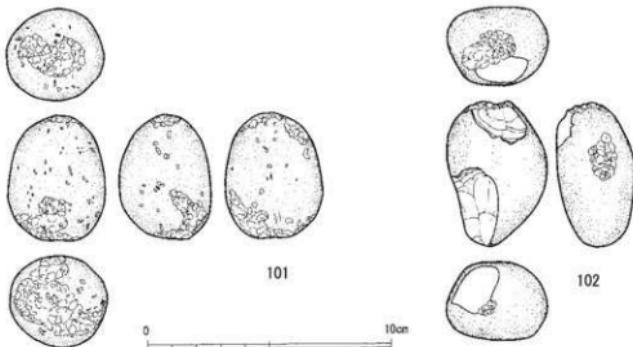
楔形石器

22は黒曜石C製の楔形石器である。背・腹両面に上下からの細かい剥離が確認される。縦断面はレンズ状を呈する。23は黒曜石A製の横型の楔形石器である。背・腹両面に上下からの細かい剥離が確認される。

細石刃(24~83)



第90図 VII a層出土遺物(3)



第91図 VIIa層出土遺物(4)

細石刃は総計134点出土し、そのうち、60点を圓化している。各細石刃の部位別の内訳は、完形12点、頭部24点、頭・中間部30点、中間部46点、中間・尾部14点、尾部8点である。石材は凝灰岩1点、凝灰岩質頁岩3点、黒曜石Aが29点、黒曜石Bが56点、黒曜石Cが38点、黒曜石Dが4点、チャート1点である。

石核

84、85は黒曜石B製の石核である。打面転移がみられる。86は黒曜石B製の小型の石核である。小型の円錐を素材とし、分割面を打面に固定している。87は黒曜石B製の石核である。円錐を素材とし、石核整形をせずに剥片を剥離している。88は黒曜石B製の石核である。打面は両設である。89は黒曜石B製の石核である。打面調整を施しながら、剥片を剥離している。打面転移がみられる。90は黒曜石A製の打面再生剥片である。

石鎌

石鎌はいずれも縦長の二等辺三角形鎌で、浅い凹基である。押圧剥離はいずれも非常に丁寧である。91、93が黒色安山岩製、92が黒曜石B製、94がチャート製である。

二次加工剥片

95~100は二次加工剥片である。剥片の一部に二次加工を施している。95、96、97、99は黒曜石A製、98、100は黒曜石B製である。

叩石

101は安山岩製の叩石である。上下両端を中心に打痕が確認される。102は鉄石英製の叩石である。

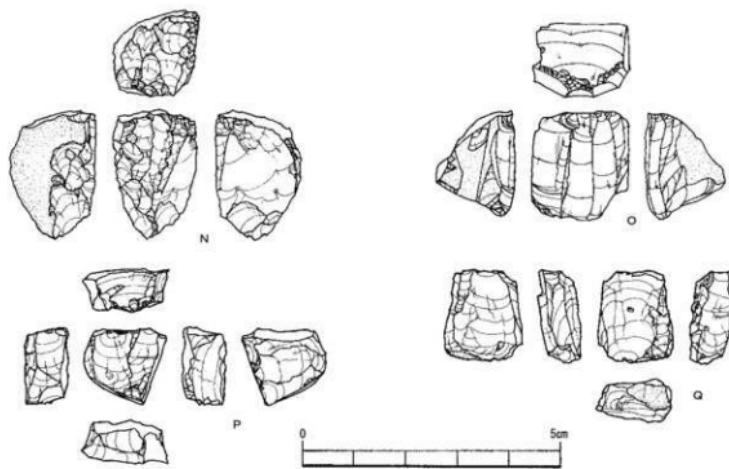
上下両端を中心に打痕が確認され、叩きに伴う剥離も観察される。いずれも垂直に振り下ろして使用された叩石である。

土器

草創期の土器は32点出土している。いずれも風化が著しく、小粒であるため圓化できない。出土状況図及び巻末に写真を掲載しておきたい。



第92図 拾遺1 (細石刃核)



第93図 拾遺2（細石刃核）

拾遺（細石刃核）

編集作業後、細石刃核17点が確認された。拾遺として掲載する。

細石刃核はその残核形態から大きく4つに分類される。

I類 (A, B, C, D)

船底形を呈する一群。打面は複数の剥離面により構成される。打面からの石核整形が施される。打面調整は必要に応じて施される。

II類 (E, F, G)

作業面が幅狭な一群。打面調整が入念に施される。

III類 (H, I, J, K, L, M)

小型の角螺旋を素材とし、石核整形は比較的簡易で

ある。打面調整は必要に応じて施される。

IV類 (N)

大剥離面を側面に利用し、打面は側方からの連続する剥離により形成される。打面調整が施される。

その他 (O, P, Q)

Oは縦方向の剥離により傾斜打面を形成し、細石刃を剥出する。Pは打面転移を繰り返し、作業面を3面有する。いずれも打面調整は施されない。Qは扁平な細石刃核である。

時期的には、古相を呈する細石刃核がみられないこと、福井型細石刃核がみられること、土器を伴うFブロックの存在等から、全般的に新相の段階のものであると考えられる。

表 14 拾遺（細石刃核）

番号	器種	石材	層	遺物番号	出土区	ブロック	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
A	細石刃核	OBB	VII a	5147	B-12	Q	2.1	1.7	2.5	9.03
B	細石刃核	OBA	VII a	966	C-1	外	2	1.6	2.5	7.35
C	細石刃核	OBB	VII a	4723	B-12	Q	1.7	1.9	2.1	6.12
D	細石刃核	OB	VII a	3018	C-3	F	1.9	1.9	1.4	3.93
E	細石刃核	OBA	VII a	1113	D-1	A	2.7	1.4	1	2.94
F	細石刃核	OBA	VII a	978	C-2	C	2.7	1.3	1.6	6.32
G	細石刃核	OB	VII a	5075	B-12	Q	2.4	1.6	1.4	4.25
H	細石刃核	OBB	VII a	3067	C-4	F	1.5	1.4	0.8	1.14
I	細石刃核	OBC	VII a	2919	C-3	F	1.4	1.2	1.5	1.69
J	細石刃核	OBC	VII a	5798	B-12	Q	1.8	1.4	1.4	3.72
K	細石刃核	OB桑ノ木津留	VII a	4657	B-10	O	2.1	1.3	1.1	2.38
L	細石刃核	OB桑ノ木津留	VII a	4418	B-9	O	1.9	1	1.3	2.15
M	細石刃核	OBC	VII a	5802	B-12	Q	1.2	1.4	1.6	2.32
N	細石刃核	OBB	VII a	836	C-2	C	2.6	1.7	1.7	6.53
O	細石刃核	OB桑ノ木津留	VII a	2630	C-3	D	2	1.9	1.6	5.11
P	細石刃核	OBA	VII a	1116	D-1	A	1.6	1.6	0.9	2.56
Q	細石刃核	OBA	VII a	599	C-1	A	1.8	1.5	0.8	2.51

表 15 VII b ~ VII a 層実測遺物観察表

番号	器種	石材	層	鉛時	出土区	R.E.	緯(m)	緯(m)	重(g)
1	ナイフ形石器	黒曜石A	VII a	1468	C3	3.13	1.87	1.29	647
2	ナイフ形石器	硬質頁岩	VII a	716	C2	3.35	1.3	0.8	292
3	ナイフ形石器	黒色安山岩	VII a	7436	C6	2.85	1.8	0.7	26
4	ナイフ形石器	黒曜石A	VII a	5195	B-11	2.17	0.89	0.73	148
5	ナイフ形石器	黒曜石B	VII b	3169	C3	1.75	1.9	0.7	202
6	ナイフ形石器	硬質頁岩	VII a	7686	B6	2.6	0.9	0.55	103
7	ナイフ形石器	黒曜石B	VII b	6510	B7	1.6	1.05	0.25	32
8	台形石器	黒曜石C	VII a	1398	C3	1.6	1.6	0.8	202
9	台形石器	黒色安山岩	VII a	8051	B-15	1	1.25	0.4	25
10	三棱尖端器	黒曜石A	VII a	D-10	2.3	1.4	0.95		
11	細石刃核	黒曜石C	VII a	7370	B5	2	1.8	2.65	815
12	細石刃核	黒曜石B	VII a	5050	B-12	2.4	1.35	2.15	995
13	細石刃核	黒曜石A	VII a	4824	B-12	1.44	0.96	0.83	134
14	細石刃核	黒曜石A	VII a	7761	B-10	1.4	1.1	1.55	269
15	細石刃核	黒曜石A	VII a	475	D-1	1.75	1.05	1.75	4
16	ブランク	黒曜石B	VII a	8236	B-14	1.7	1.77	2.2	622
17	ブランク	黒曜石A	VII a	3624	B-14	1.9	1.6	2.3	638
18	細石刃核の一部	黒曜石A	VII a	488	D-1	0.6	1.2	0.9	17
19	作業面再生剥片	黒曜石A	VII a	677	C2	1.2	0.85	0.4	3
20	作業面再生剥片	黒曜石D	VII a	7356	C5	1.75	0.4	0.45	21
21	作業面再生剥片	黒曜石A	VII a	1137	C2	1.7	1.2	0.6	75
22	楔形石器	黒曜石C	VII a	1104	D-1	1.5	1.35	0.4	81
23	楔形石器	黒曜石A	VII a	1089	B-3	2.05	3	1.1	628
24	細石刃	黒曜石D	VII a	7713	B-5	2	0.75	0.2	29
25	細石刃	黒曜石C	VII a	7047	C6	1.9	0.45	0.1	0.08
26	細石刃	黒曜石B	VII a	8030	B-7	1.55	0.51	0.1	111
27	細石刃	黒曜石D	VII a	7455	B-5	1.35	0.35	0.15	0.09
28	細石刃	黒曜石A	VII a	6783	B-6	1.4	0.65	0.2	21
29	細石刃	黒曜石C	VII a	6729	B-5	1.2	0.35	0.15	0.06
30	細石刃	黒曜石B	VII a	6134	B-13	1.4	0.6	0.2	16
31	細石刃	黒曜石C	VII a	5595	C-9	1.3	0.35	0.2	0.07
32	細石刃	黒曜石B	VII a	5087	B-12	1.5	0.55	0.15	0.1
33	細石刃	黒曜石C	VII a	4535	B-10	1	0.55	0.2	0.1
34	細石刃	黒曜石C	VII a	4509	B-10	1.2	0.35	0.25	0.09
35	細石刃	黒曜石C	VII a	4463	B-9	1.1	0.4	0.1	0.04
36	細石刃	黒曜石B	VII a	2691	C3	1.2	0.65	0.15	0.13
37	細石刃	黒曜石C	VII a	2360	C3	1.1	0.5	0.15	0.08
38	細石刃	黒曜石A	VII a	2156	B-4	1.25	0.55	0.2	0.13
39	細石刃	黒曜石A	VII a	2138	B-4	1.25	0.6	0.15	0.13
40	細石刃	黒曜石B	VII a	2089	C4	1.45	0.5	0.25	0.18
41	細石刃	黒曜石A	VII a	1572	C3	1.05	0.5	0.1	0.06
42	細石刃	黒曜石B	VII a	852	C2	1.2	0.65	0.25	0.2
43	細石刃	黒曜石A	VII a	828	C2	1.2	0.5	0.2	0.14
44	細石刃	硬質頁岩	VII a	564	D-1	1.9	0.8	0.25	0.54
45	細石刃	黒曜石A	VII a	7381	B-5	1.2	0.3	0.15	0.07
46	細石刃	黒曜石C	VII a	7336	C5	1.55	0.45	0.15	0.12
47	細石刃	黒曜石C	VII a	7045	C6	1.5	0.35	0.1	0.07
48	細石刃	凝灰岩	VII a	6858	B-5	1.3	0.65	0.2	0.21
49	細石刃	黒曜石C	VII a	6841	B-5	1.25	0.5	0.15	0.13
50	細石刃	黒曜石C	VII a	6472	B-13	1.6	0.75	0.15	0.2
51	細石刃	硬質頁岩	VII a	6259	B-12	1.5	0.65	0.2	0.18

番号	器種	石材	層	鉛時	出土区	R.E.	緯(m)	緯(m)	重(g)
52	細石刃	凝灰岩質頁岩	VII a	5655	B-12	1.2	0.4	0.2	0.12
53	細石刃	黒曜石B	VII a	5634	C-10	0.7	0.35	0.2	0.05
54	細石刃	黒曜石C	VII a	5604	C-10	0.9	0.35	0.1	0.04
55	細石刃	黒曜石B	VII a	5600	C-9	1.4	0.4	0.2	0.1
56	細石刃	黒曜石B	VII a	5465	B-7	1.1	0.4	0.1	0.06
57	細石刃	黒曜石C	VII a	5377	C-7	0.9	0.5	0.1	0.04
58	細石刃	黒曜石B	VII a	5371	C-7	1.5	0.4	0.15	0.09
59	細石刃	黒曜石B	VII a	5274	B-8	0.9	0.45	0.15	0.08
60	細石刃	凝灰岩質頁岩	VII a	4973	B-12	1.1	0.65	0.2	0.14
61	細石刃	黒曜石C	VII a	4651	B-9	0.7	0.45	0.2	0.05
62	細石刃	黒曜石C	VII a	4322	B-9	1.15	0.3	0.15	0.07
63	細石刃	黒曜石B	VII a	4118	C-3	1.5	0.6	0.2	0.19
64	細石刃	黒曜石A	VII a	3735	B-13	1.1	0.6	0.25	0.13
65	細石刃	黒曜石C	VII a	3134	C-4	1.1	0.45	0.15	0.07
66	細石刃	黒曜石C	VII a	2804	C-4	1.3	0.6	0.2	0.15
67	細石刃	黒曜石B	VII a	2017	C-4	1.1	0.45	0.15	0.06
68	細石刃	黒曜石B	VII a	1574	C-3	1.2	0.6	0.2	0.13
69	細石刃	黒曜石B	VII a	521	D-1	1.4	0.5	0.2	0.1
70	細石刃	黒曜石C	VII a	7154	C-6	1.3	0.4	0.1	0.07
71	細石刃	黒曜石C	VII a	4530	B-10	1.1	0.5	0.25	0.1
72	細石刃	黒曜石B	VII a	4496	B-10	1.5	0.4	0.2	0.11
73	細石刃	黒曜石C	VII a	4412	B-9	1.2	0.35	0.1	0.04
74	細石刃	黒曜石B	VII a	4410	B-9	1.5	0.55	0.2	0.15
75	細石刃	硬質頁岩	VII a	6190	B-12	0.9	0.6	0.2	0.15
76	細石刃	黒曜石B	VII a	4462	B-9	0.8	0.4	0.2	0.06
77	細石刃	黒曜石B	VII a	2054	C-4	1	0.55	0.15	0.08
78	細石刃	黒曜石B	VII a	1966	C-3	0.85	0.55	0.1	0.05
79	細石刃	黒曜石B	VII a	606	C-1	1	0.6	0.25	0.14
80	細石刃	黒曜石C	VII a	5648	C-10	1.3	0.5	0.2	0.1
81	細石刃	黒曜石B	VII a	4468	B-9	0.8	0.3	0.2	0.05
82	細石刃	黒曜石B	VII a	2076	C-4	1	0.65	0.2	0.08
83	細石刃	黒曜石B	VII a	859	C-2	1	0.6	0.2	0.05
84	石核	黒曜石B	VII a	2698	C-3	2.25	2.52	2.05	126
85	石核	黒曜石B	VII a	1937	C-3	1.95	2.27	2.26	98
86	石核	黒曜石B	VII a	2097	D-3	1.26	1.69	1.91	38
87	石核	黒曜石B	VII a	6880	B-6	2.18	3.42	219	22
88	石核	黒曜石B	VII a	2173	B-2	2.85	4.5	2.1	218
89	石核	黒曜石B	VII a	5041	B-12	2.04	3.48	1.57	88
90	打面再生剥片	黒曜石A	VII a	1129	C-2	0.5	1.75	1.4	1
91	石核	黒色安山岩	VII a	1707	C-3	2.28	1.61	0.42	116
92	石核	黒色安山岩	VII a	7050	C-6	1.24	0.24	0.4	0.33
93	石核	黒色安山岩	VII a	7355	C-5	2.03	1.51	0.35	0.69
94	石核	チャート	VII a	103	B-4	1.9	1.52	0.32	0.97
95	二次加工剥片	黒曜石A	VII a	407	D-1	1.73	1.69	0.61	1.6
96	二次加工剥片	黒曜石A	VII a	520	D-1	1.72	1.63	0.62	153
97	二次加工剥片	黒曜石A	VII a	5676	B-12	2.99	1.56	1.02	504
98	二次加工剥片	黒曜石B	VII a	782	B-2	3	2.3	1.5	8.36
99	二次加工剥片	黒曜石A	VII a	450	D-1	3.4	3.75	1.5	10.27
100	二次加工剥片	黒曜石B	VII a	6818	B-6	3.46	3.25	1.25	15.17
101	叩石	安山岩	VII a	612	C-1	5.25	4	3.8	98.63
102	叩石	鉄石英	VII a	7768	B-10	6	4.1	3.25	97.22

第3章 III, IV層の調査

1 概要

層位はIII層が一部に残存し、IV層は良好に残っていった。遺構は溝が検出された。遺物は石坂式土器を中心に早期土器が出土した。

2 遺物

① 土器

土器はIV層からは192点出土している。石坂式土器を中心に早期土器が多く出土した。その他の出土土器は前平式土器、吉田式土器、円筒形条線文土器、平格式系土器である。このうち81点を図化した。

土器の文様や器形から、I～Vの5種類に分類する。

早期土器

I類土器（1～2）

器形は、平底の底部から直線的に胴部に立ち上がる角筒である。2の底部は四角形だが、一辺がややふくらむ。

文様は、胴部には横位の貝殻条痕が施される。1の角部には貝殻刺突文が連点状に施されている。2の底部外面には縦位の貝殻状痕が施されている。内面は縦方向に工具によりナデられている。以上の特徴から、前平式土器に相当すると考えられる。

II類土器（3～17）

器形は、口縁部が外反し直線的に胴部へ続き、底部に至る。底部は平底である。

文様は、口唇部には刻みが施されている。口縁部には貼付け文か縦位の貝殻刺突文が2条施されている。3の貼付け文は楔形で、4の貼付け文は太い台形状である。5はやや斜位の貝殻刺突である。3, 5, 6, 10, 12には沈線が施されている。7の口縁部上端には横位の貝殻刺突が2条施されている。胴部には横位の貝殻押引文が施されている。底部下端には縦位の貝殻刺突が施されている。17の底部下端には縦位の貝殻刺突が施されている。以上の特徴から、吉田式土器に相当すると考えられる。

III類土器（18～64）

器形は、胴部は直線的に立ち上がり口縁部はわず

かに外反する。直線的な口縁部で、肥厚部をつくるものもある。底部は平底である。

文様は、18, 19, 20, 28, 38の口唇部に刻みが施されている。18～43の口縁部には貝殻縫縫刺突文が施されている。胴部に貝殻条痕を綾衫状に施す22～31と縦方向に施すものがある。56～59, 61, 63, 64の底部外面には横位の貝殻状痕が施されている。

また、22には回転穿孔と思われる補修孔がある。34にはヘラによると思われる補修孔がある。23, 26, 27, 28, 29, 32, 33には口縁部外面にコブ状の貼付文がみられる。小型のものもある。以上の特徴から、石坂式器に相当すると考えられる。

IV類土器（65～70）

器形は、口唇部が丸みを帯びた舌状となり、口縁部はやや外反する。器壁は厚く、円筒形の胴部は底部へ向けて徐々にしばむ。

文様は、口縁部には横位の貝殻条痕が17条、条線状に施されている。また、色調は黄褐色で、口縁部の外面と胴部の内面下部にはすすの痕がみられる。胎土には角閃石が多く含み、黒曜石を一部含む。69には、横位の貝殻状痕が途切れのあるあたりにヘラによる補修孔が1カ所ある。出土状況から65, 66, 68, 69, 70は同一個体とみられる。中原式土器に類似する。以上の特徴から、中九州に多くみられる円筒形条線文土器に相当すると考えられる。

V類土器（71～81）

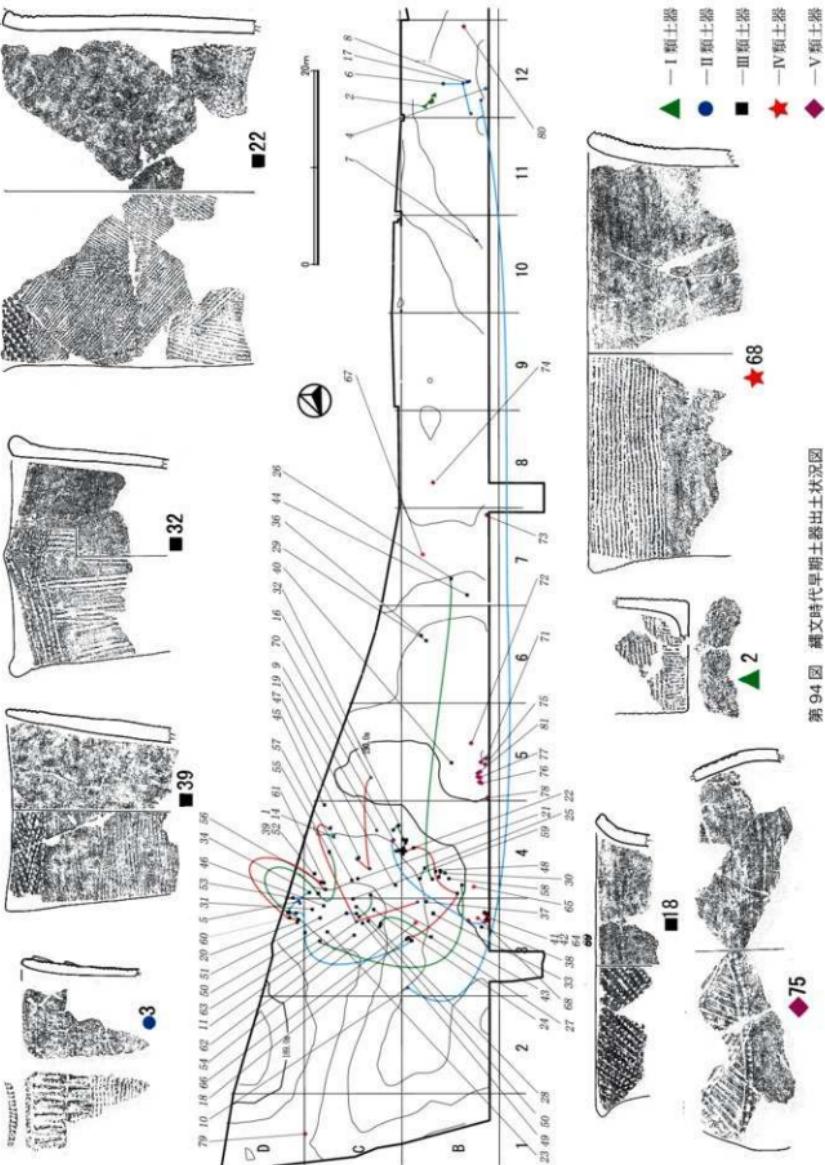
器形は、口縁部が外反するものと断面三角形になるもの、口唇部下に小さな三角形状の突帯を巡らすものがある。頸部はくびれ胴部は張りがある。底部は平底で、胴部へ直線的につながる。壺型土器を中心である。71には口唇部下の突帯に下向きの瘤状突起がみられる。73の口唇部は外側に張り出している。

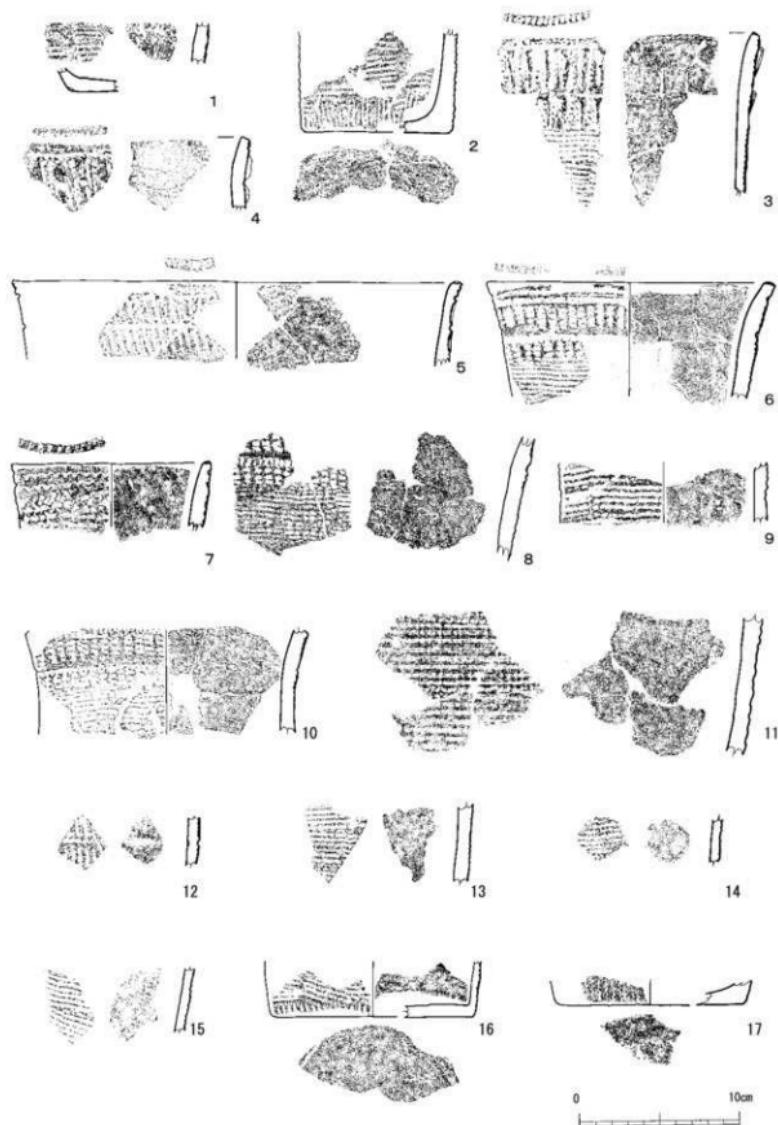
文様は口唇部に刻みが施され、口縁部と胴部には刺突点文と沈線文が施されている。

201は口唇部の刻みが無く、頭部に刺突点文が施されている。203は外反部は内湾している。205は屈曲部内側の稜が確認できる。11点を図化している。以上の特徴から、平格式系土器であると考えられる。

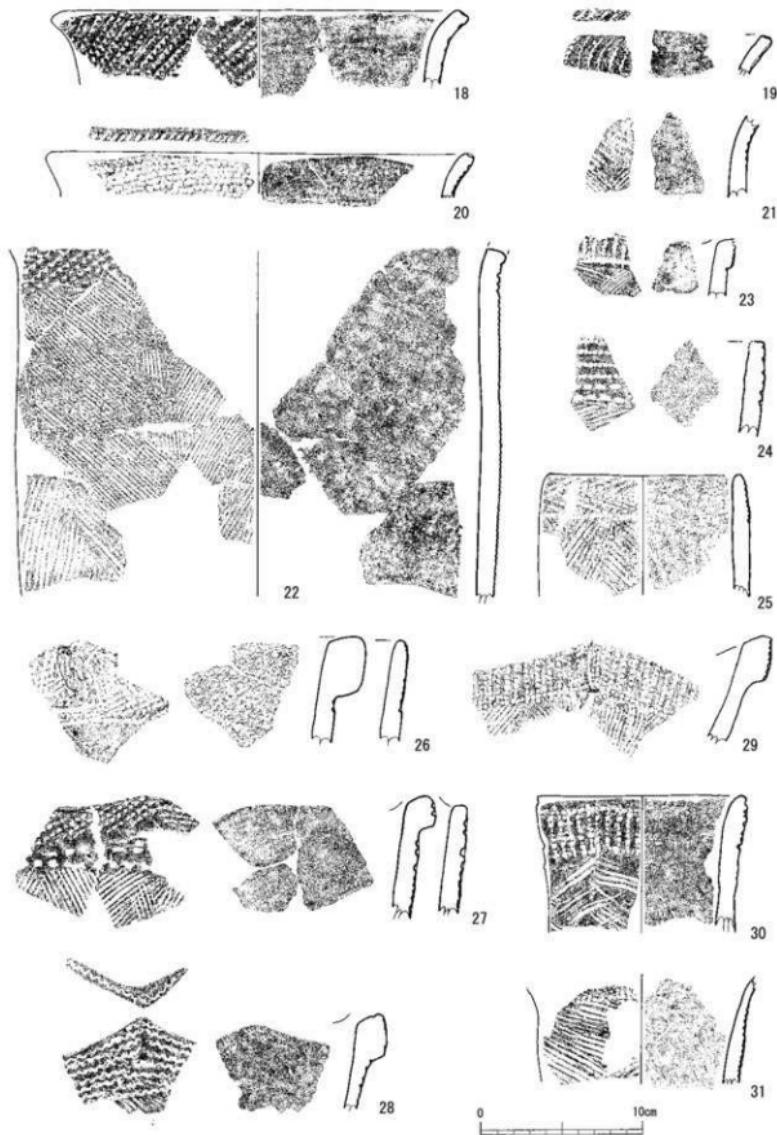
表16 III・IV層実測土器観察表（1）

図番号	取土番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調整（内面）	文様・調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	胎 土	備 考		
										長石	石英	鈣石	半石
1 236	C-4	B'	I	胴部	工具ナデ	貝殻各斑、刺突点文、ナデ	ナデ	中黄5YR10/8	にほん褐色75YR5/4	○	○	○	○
2 2518	B-12	B'	I	胴部～底底	ナデ	貝殻各斑、ナデ	ナデ	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6	○	○	○	○
3 一括	B-5	B'	II	口縁部～底底	丁寧なナデ	貝殻縫縫刺突文、丁寧なナデ	ナデ	暗赤褐75YR3/4	にほん褐色5YR5/4	○	○	○	○
4 2531	B-12	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻縫縫刺突文	ナデ	にほん褐色10YR7/4	にほん褐色10YR7/4	○	○	○	○
5 179	D-3	B'	II	口縁部	丁寧なナデ	貝殻縫縫刺突文、丁寧なナデ	ナデ	暗赤褐75YR6/6	暗赤褐75YR6/6	○	○	○	○
6 2516	B-12	B'	II	口縁部～胴部	丁寧なナデ	貝殻縫縫刺突文、丁寧なナデ	ナデ	明黄褐10YR6/6	にほん褐色10YR6/4	○	○	○	○
7 2583	B-10	B'	II	口縁部	ナデ	貝殻縫縫刺突文、ナデ	ナデ	黑褐色10YR2/1	黒褐色10YR3/1	○	○	○	○
8 2521	B-12	B'	II	胴部～胴部	ナデ	貝殻縫縫刺突文	ナデ	75YR6/6	にほん褐色5YR5/4	○	○	○	○
9 300	C-4	B'	II	胴部	丁寧なナデ	貝殻縫縫刺突文	ナデ	75YR6/6	75YR6/6	○	○	○	○
10 2537	B-12	B'	II	口縁部～胴部	工具ナデ	貝殻縫縫刺突文	丁寧なナデ	暗10YR4/4	にほん褐色10YR6/4	○	○	○	○
11 147	C-3	B'	II	胴部	丁寧なナデ	貝殻縫縫刺突文	丁寧なナデ	75YR6/6	にほん褐色10YR5/3	○	○	○	○
12 -	B-12	B'	II	胴部	丁寧なナデ	貝殻縫縫刺突文	丁寧なナデ	75YR6/6	75YR6/6	○	○	○	○

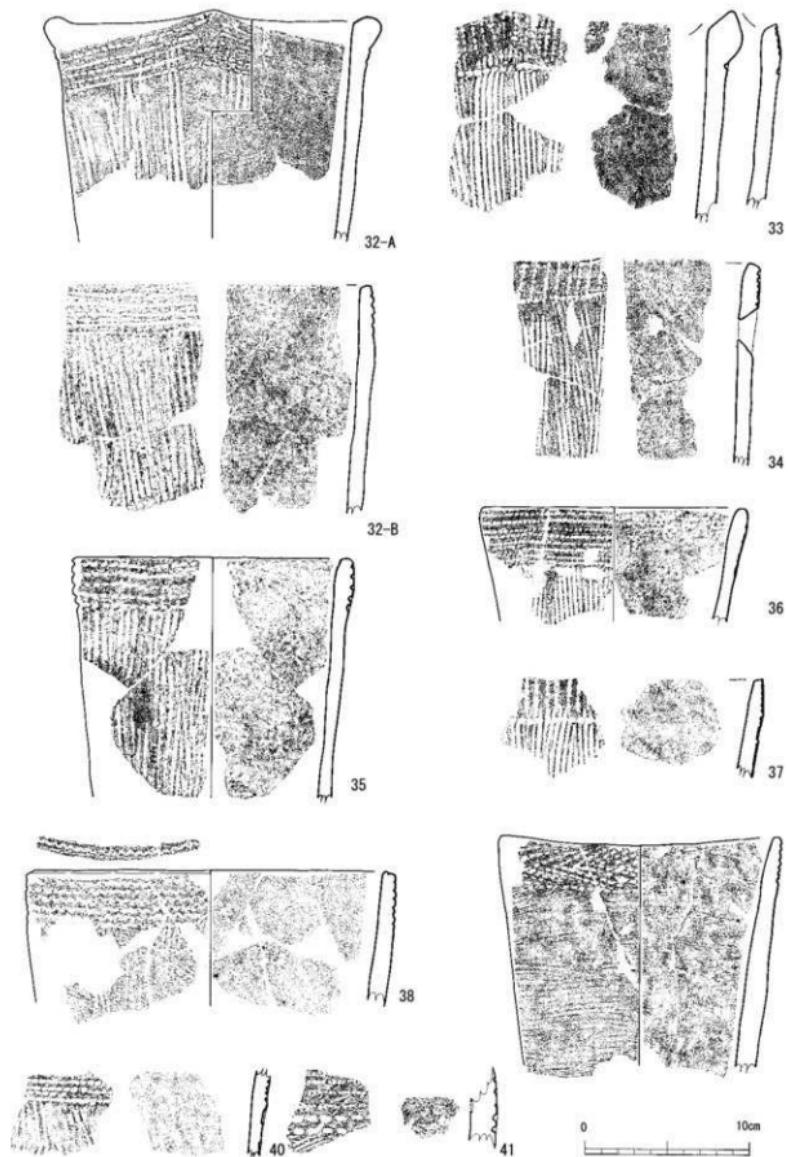




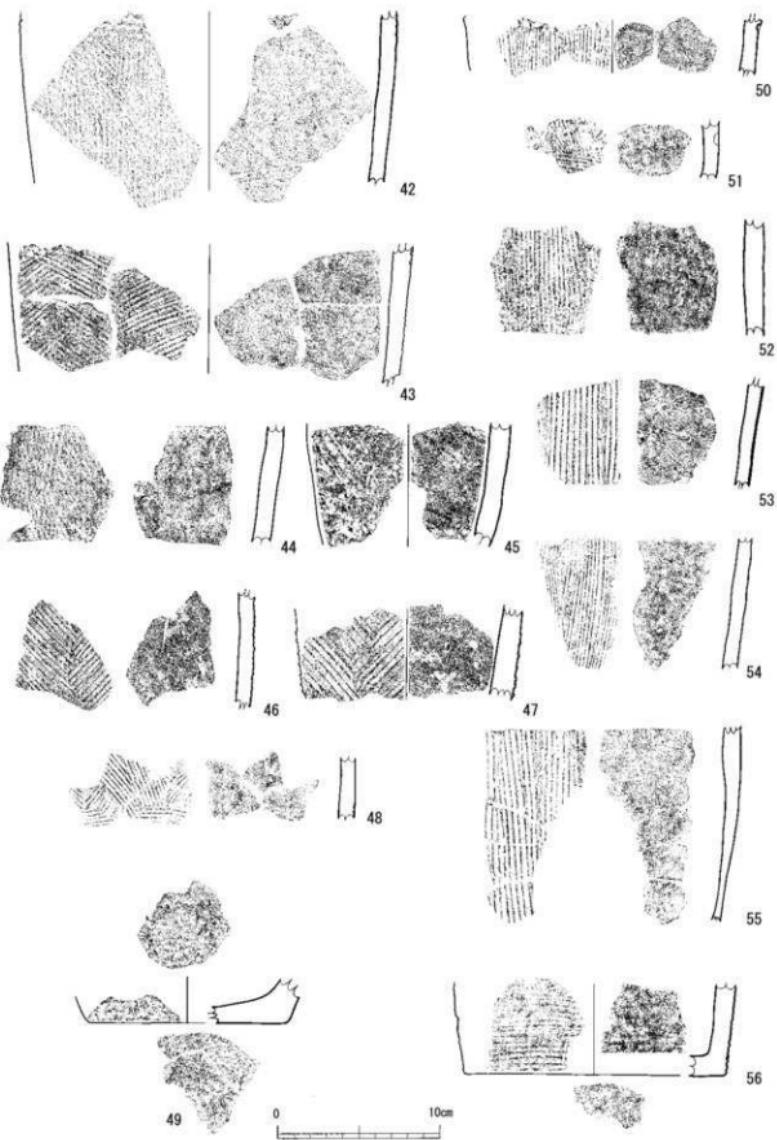
第95図 IV層出土土器(1)



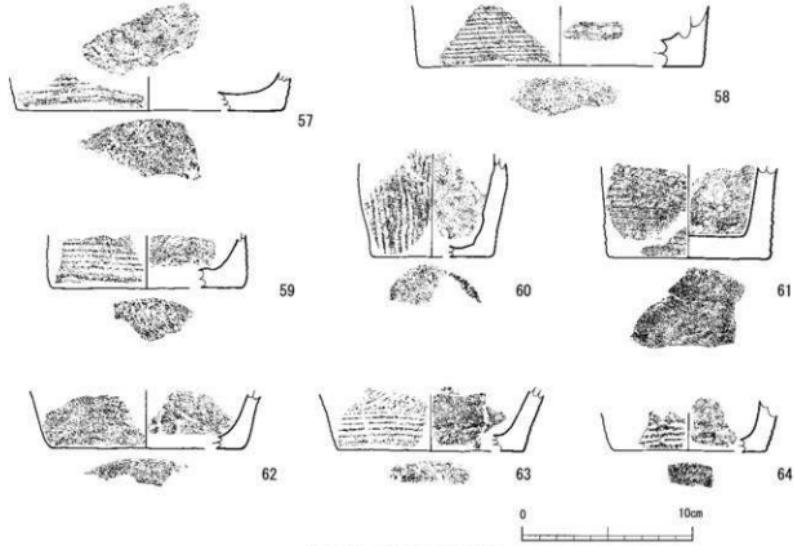
第 96 図 IV 層出土土器 (2)



第97図 IV層出土土器(3)



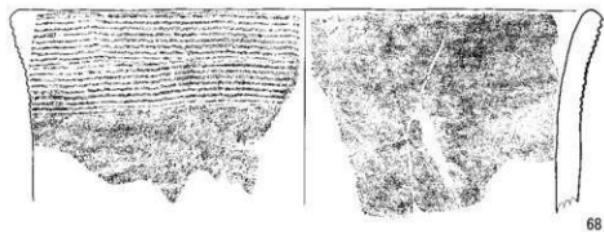
第98図 IV層出土土器(4)



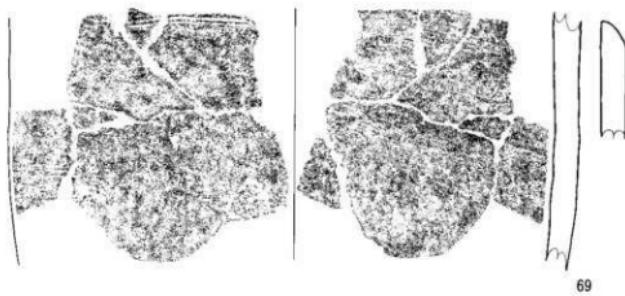
第99図 IV層出土土器(5)

表17 III・IV層実測土器観察表(2)

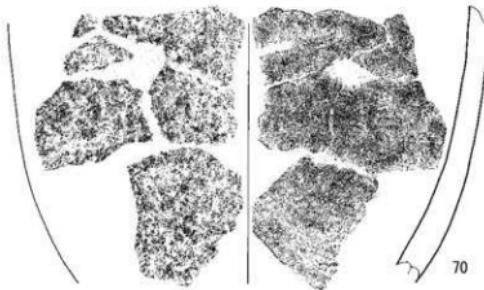
図番号	取上番号	出土区	層位	分類	部 位	文様・調査(内面)	文様・調査(外面)	色調(内面)	色調(外面)	地 土			備考		
										長石	石英	粘土	石英		
13	-	B-12	N	II	側部	丁寧なナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR6/4	にい・黄褐色10YR7/4	○	○	○	○		
14	236	C-4	N	II	側部	丁寧なナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR7/4	にい・黄褐色7.5YR5/4	○	○	○	○		
15	-136	B-5	N	II	側部	ナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR5/4	にい・黄褐色7.5YR5/4	○	○	○	○		
16	307	C-4	N	II	側部～底部	丁寧なナデ	貝殻多痕、丁寧なナデ	7.5YR2/6	にい・黄褐色10YR6/4	○	○	○	○		
17	2520	B-12	N	II	底部	ナデ	貝殻多痕、ナデ	にい・黄褐色10YR7/4	にい・黄褐色10YR7/4	○	○	○	○		
18	275	B-3	N	II	口縁部	丁寧なナデ	貝殻突文	にい・黄褐色7.5YR5/4	明褐色8R6	○	○	○	○		
19	132	C-4	N	II	口縁部	ナデ	貝殻突文	にい・黄褐色2.5Y6/4	にい・黄褐色2.5Y6/4	○	○	○	○		
20	378	D-3	N	II	口縁部	ナデ～丁寧なナデ	貝殻突文	7.5YR6/6	7.5YR6/6	○	○	○	○		
21	202	C-4	N	II	側部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	にい・黄褐色10YR6/4	にい・黄褐色10YR7/3	○	○	○	○		
22	60	B-4	N	II	側部～側部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	にい・黄褐色5YR5/4	明褐色5YR5/6	○	○	○	○		
23	308	C-3	N	II	口縁部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	にい・黄褐色5YR5/4	7.5YR6/6	○	○	○	○		
24	139	C-3	N	II	口縁部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	7.5YR6/6	明褐色7.5YR5/6	○	○	○	○		
25	86	B-4	N	II	口縁部～側部	ナデ→ナデ	貝殻状の貝殻多痕	明褐色5YR5/6	黒褐色10YR2/2	○	○	○	○		
26	308A	B-7	N	II	口縁部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	にい・黄褐色10YR7/4	にい・黄褐色10YR4/3	○	○	○	○		
27	272	B-3	N	II	口縁部	丁寧なナデ	貝殻状の貝殻多痕	明褐色5YR5/6	にい・黄褐色7.5YR7/4	○	○	○	○		
28	3187	C-3	残	b	口縁部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	にい・黄褐色10YR7/4	にい・黄褐色10YR7/4	○	○	○	○		
29	6004	B-6	N	II	口縁部	ナデ～丁寧なナデ	貝殻状の貝殻多痕	7.5YR4/4	にい・黄褐色5YR5/4	○	○	○	○		
30	78	B-4	N	II	口縁部～側部	ナデ	貝殻状の貝殻多痕	7.5YR6/6	にい・黄褐色7.5YR6/4	○	○	○	○		
31	350	C-3	N	II	側部	ナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR5/4	にい・黄褐色10YR5/4	○	○	○	○		
32	90	B-4	N	II	口縁部～側部	丁寧なナデ	貝殻多痕	7.5YR2/1	7.5YR6/6	○	○	○	○		
33	270	B-3	N	II	口縁部～側部	丁寧なナデ～丁寧なナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	にい・黄褐色7.5YR6/4	○	○	○	○		
34	166	C-3	N	II	口縁部～側部	ハラ	ハラ口状子ナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	にい・黄褐色7.5YR5/4	○	○	○	○	
35	-15	B-5	N	II	口縁部～側部	ハラ	ハラ口状子ナデ	貝殻多痕	黒褐色10YR2/3	にい・黄褐色7.5YR5/4	○	○	○	○	
36	6006	B-6	N	II	口縁部～側部	ハラ口状子ナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR6/4	明褐色SYR2/1	○	○	○	○		
37	269	B-3	N	II	口縁部～側部	工具ナデ→丁寧なナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	黒褐色10YR3/1	○	○	○	○		
38	6	B-3	N	II	口縁部～側部	ハラ	丁寧なナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR7/4	にい・黄褐色10YR7/4	○	○	○		
39	185	C-4	N	II	口縁部～側部	ハラ	丁寧なナデ	貝殻多痕	黒褐色10YR3/1	明褐色5YR5/6	○	○	○		
40	5980	B-5	N	II	側部	ナデ	貝殻多痕	貝殻7.5YR4/2	7.5YR6/6	○	○	○	○		
41	14	B-3	N	II	口縁部	ハラ工具ナデ→ナデ	貝殻多痕	7.5YR4/3	にい・黄褐色7.5YR5/4	○	○	○	○		
42	30	B-3	N	II	口縁部	工具ナデ→ナデ	貝殻多痕	7.5YR4/3	黒褐色10YR3/1	明褐色10YR7/6	○	○	○		
43	324	C-3	N	II	口縁部	ナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	7.5YR6/6	○	○	○	○		
44	3129	B-7	N	II	口縁部	工具ナデ→ナデ	貝殻多痕	明褐色10YR7/6	明褐色10YR7/6	○	○	○	○		
45	242	C-4	N	II	側部	ハラナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	にい・黄褐色10YR5/4	○	○	○	○		
46	310	C-3	N	II	側部	工具ナデ→丁寧なナデ	貝殻多痕	7.5YR6/8	7.5YR6/6	○	○	○	○		
47	210	C-4	N	II	側部	工具ナデ→丁寧なナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色7.5YR5/4	赤褐色2.5YR4/6	○	○	○	○		
48	60	B-4	N	II	側部～底部	工具ナデ→ナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	赤褐色2.5YR2/1	○	○	○	○		
49	3071	C-3	W	II	底部	丁寧なナデ	貝殻多痕	にい・黄褐色10YR7/3	明褐色10YR7/6	○	○	○	○		
50	145	C-3	N	II	側部	ナデ	貝殻多痕	7.5YR2/1	黒褐色5YR3/1	○	○	○	○		
51	309	C-3	N	II	側部	ナデ	貝殻多痕	7.5YR2/1	黒褐色5YR4/2	○	○	○	○		
52	185	C-4	N	II	側部	ナデ	貝殻多痕	7.5YR6/6	黒褐色RL17/1	○	○	○	○		



68



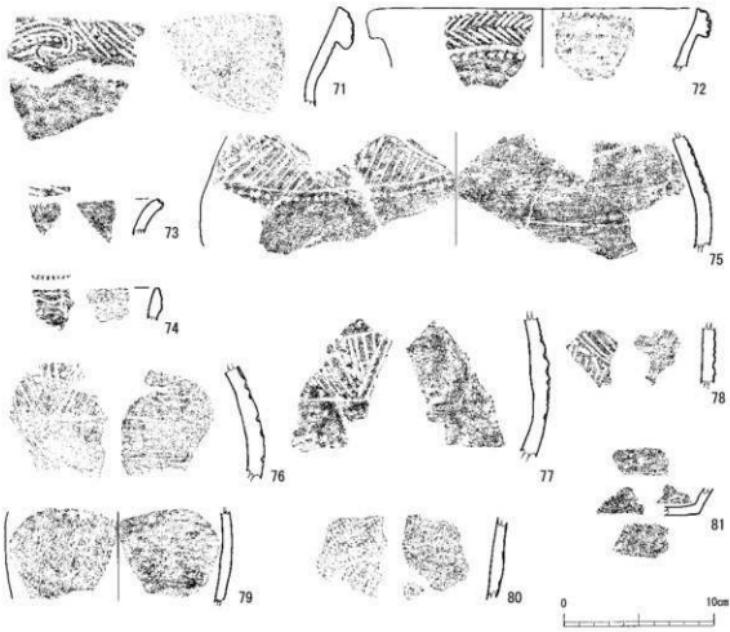
69



70

0 10cm

第 100 図 IV 層出土土器 (6)



第101図 IV層出土土器(7)

表18 III・IV層実測土器観察表(3)

団番号	取上番号	出土場所	層位	分類	部 位	文様・調整(内面)	文様・調整(外面)	色調(内面)	色調(外面)	地 土			備 考
										長石	石英	鈍石	
53	386	D-3	IV	III b	剥離部	ナデ	貝殻条痕	褐SYR6-8	にぶい黄7SYR5/4	○			
54	333	C-3	IV	III b	剥離部	丁寧なナデ	貝殻条痕	明赤褐色SYR5/6	にぶい黄7SYR5/6	○	○		
55	229	C-4	IV	III b	剥離部	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄7SYR6/4	にぶい黄7SYR6/3	○			
56	188	C-4	IV	III b	剥離部～底部	ナデ	貝殻条痕	灰褐SYR6-2	褐SYR6-6	○			
57	201	C-4	IV	III b	底部	工具ナデ	黒2SY2/1	褐SYR7/6	○	○			
58	77	B-4	IV	III b	底部	工具ナデ	貝殻条痕	明赤褐色SYR5/6	にぶい黄7SYR6/4	○	○		
59	153	C-3	IV	III b	底部	工具ナデ	貝殻条痕	褐7SYR6-6	褐7SYR6-6	○	○		
60	384	D-3	IV	III b	剥離部～底部	ナデ	貝殻条痕	褐7SYR2/1	褐7SYR6-6	○			
61	187	C-4	IV	III b	剥離部～底部	丁寧なナデ	貝殻条痕	にぶい黄7SYR5/4	にぶい黄7SYR5/4	○	○	○	
62	368	C-3	IV	III b	底部	ナデ	貝殻条痕	明赤褐色SYR6-6	○	○			
63	67	B-4	IV	III b	剥離部～底部	ナデ	貝殻条痕	褐SYR6-8	褐SYR6-6	○	○	○	
64	4	B-3	IV	III b	底部	ナデ	貝殻条痕	褐7SYR4/1	にぶい黄7SYR5/4	○	○		
65	71	B-4	IV	IV	口縁部	丁寧なナデ	貝殻条痕文、ナデ	にぶい黄褐色SYR7/2	にぶい黄褐色SYR7/3	○	○	○	
66	278	B-3	IV	IV	口縁部	丁寧なナデ	貝殻条痕文、ナデ	にぶい黄褐色SYR7/4	明黄褐色SYR7/6	○	○		
67	3096	B-7	IV	IV	剥離部	丁寧なナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色SYR7/4	灰黄褐色SYR6/2	○	○		
68	26	B-3	IV	IV	口縁部～剥離部	丁寧なナデ	貝殻条痕文、ナデ	浅黄2SY7/4	浅黄2SY7/4	○	○		
69	6	B-3	IV	IV	剥離部	丁寧なナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色SYR7/4	褐7SYR2/1	○	○		鍛札孔
70	4	B-3	IV	IV	剥離部	丁寧なナデ	ナデ	褐7SYR7/6	褐7SYR5/1	○	○		
71	5963	B-5	IV	V	口縁部～剥離部	丁寧なナデ	沈殿文、剥離直点、丁寧なナデ	にぶい黄7SYR5/3	にぶい黄7SYR5/4	○	○		
72	5971	B-5	IV	V	口縁部	ナデ	沈殿文、剥離直点文、ナデ	にぶい黄褐色SYR6/4	褐7SYR1L7/1	○	○		
73	3112	B-7	IV	V	口縁部	ナデ	沈殿文、丁寧なナデ	にぶい黄褐色SYR6/3	にぶい黄褐色SYR7/3	○	○		
74	3102	B-8	IV	V	口縁部	ナデ	沈殿文、剥離直点文、ナデ	にぶい黄褐色SYR6/4	にぶい黄褐色SYR6/4	○	○		
75	5941	B-5	IV	V	剥離部	ナデ	沈殿文、剥離直点文、ナデ	褐7SYR3/2	にぶい黄褐色SYR4/3	○	○		
76	5938	B-5	IV	V	剥離部	ナデ	沈殿文、剥離直点文、ナデ	にぶい黄褐色SYR5/4	褐7SYR2/1	○	○	○	鍛札
77	5940	B-5	IV	V	剥離部	ナデ	沈殿文、剥離直点文、ナデ	褐7SYR6-6	褐7SYR6-6	○	○		
78	6222	B-5	IV	V	剥離部	工具ナデ→ナデ	沈殿文、剥離直点文、ナデ	褐7SYR4/4	灰黄褐色SYR4/2	○	○		
79	599	C-1	VII a	V	剥離部	工具ナデ→ナデ	鉢文	にぶい黄褐色SYR6/4	黑10YR1L7/1	○	○		
80	2466	B-12	IV	V	剥離部	工具ナデ→ナデ	鉢文	にぶい黄7SYR5/3	にぶい黄7SYR5/4	○	○		鍛札
81	5947	B-5	IV	V	底部	工具ナデ→ナデ	ナデ	にぶい黄7SYR5/4	にぶい黄褐色SYR5/4	○	○		

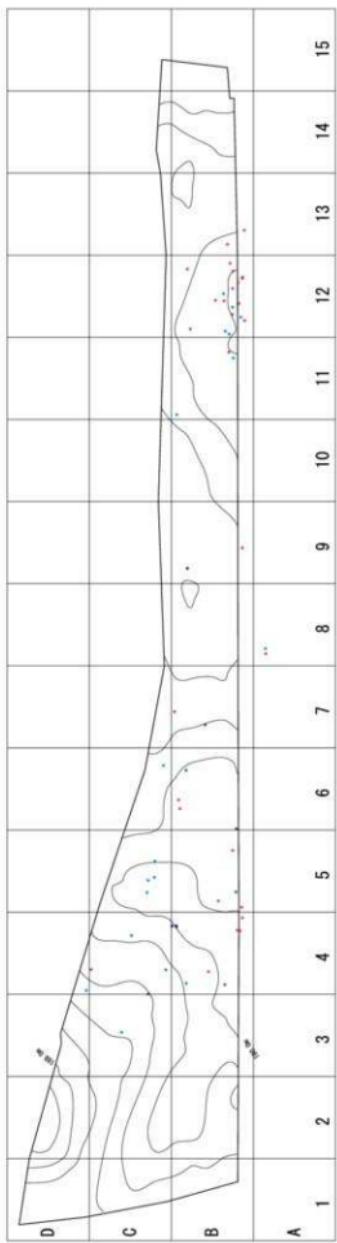
(2) 石器

82は無斑晶質安山岩製の横形の石匙である。横長の剥片を素材として周縁にのみ押圧剥離を施し刃部を形成している。中央部に大剥離面を大きく残す。83は無斑晶質安山岩製の異形石器である。大型の剥片を素材とし、周縁から粗い剥離により鋸歯状の縁辺を作出している。84は黒曜石D製の石鏃である。側縁の中頃から基部にかけて外側に開く。五角形鏃を意識しているようである。85はチャート製である。裏面に素材の主剥離面を大きく残している。基部中央に凹みがみられる。86は黒曜石A製の異形石器である。粗雑に整形されている。先端部は欠損している。87は無斑晶質安山岩製の異形石器である。両面へソフトハンマーによる丁寧な剥離を施し、大型の石鏃状の形態に整形している。88は安山岩製の凹石・叩石である。表裏両面の中央部にそれぞれ2

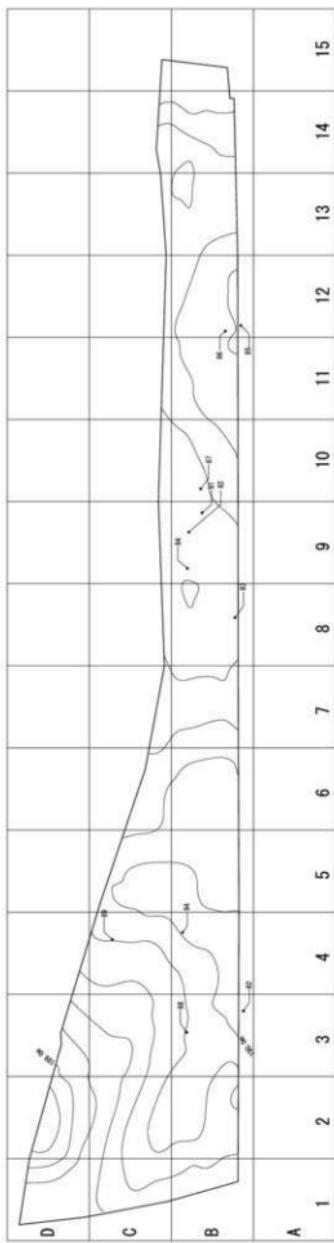
か所の凹みが確認される。また、4方の側面には叩き痕が確認される。特に長軸の片側頂部の使用頻度は高く、叩きによりいくつか面が形成されているのが観察される。89は安山岩製の凹石である。不定形の縦の表裏両面の中央部にそれぞれ1か所凹みが確認される。叩き痕は確認されない。90は安山岩製の凹石・叩石・磨石である。表面に2か所、裏面に少なくとも1か所の凹みが確認され、窪みの周辺には磨り面が確認される。磨面を凹面が切っている状況である。左側面と下面に叩き痕が確認される。91は安山岩製の叩石である。頂部の垂直方向への使用により破損している。92は安山岩製の礫器である。安山岩の厚手の剥片を素材とし、下面には使用による潰れが観察される。垂直方向への使用により、破損剥離している。

表 19 III・IV層実測石器観察表

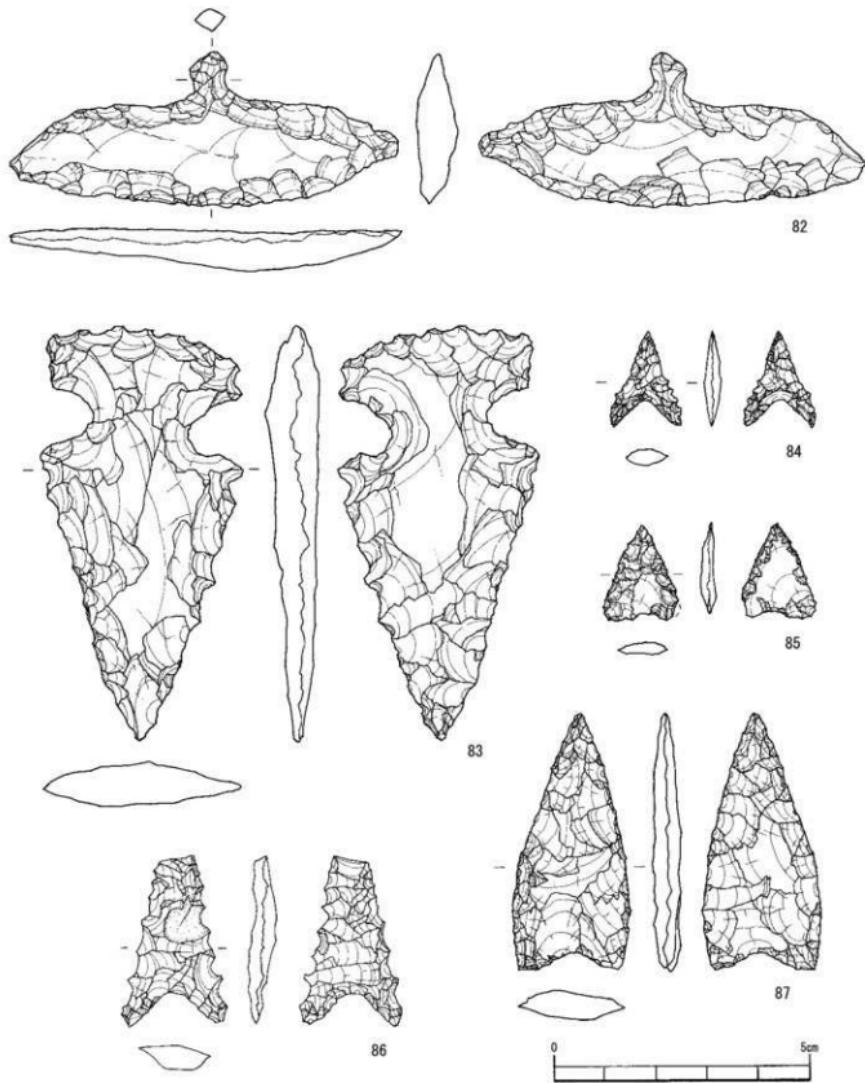
番号	器種	石材	層	遺物番号	出土区	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)
82	石匙	無斑晶質安山岩	IV	2590	B-9	3	7.5	0.8	12.07
83	異形石器	無斑晶質安山岩	IV	2607	B-8	8.3	3.9	1	24.35
84	石鏃	黒曜石D	IV	2592	B-9	1.88	1.4	0.35	0.36
85	石鏃	チャート	IV	2536	B-12	2.8	2.2	0.45	0.66
86	石鏃	黒曜石A	IV	2562	B-12	3.3	2.1	0.6	2.16
87	異形石器	無斑晶質安山岩	IV	2588	B-10	5	2.1	0.5	5.33
88	凹石	安山岩	IV	273	B-3	8	6	4.9	340
89	凹石	安山岩	IV	347	C-4	8	5.65	3.55	214.1
90	凹石	安山岩	V	12(3トレンチ)		6.2	7.95	3.1	163.24
91	叩石	安山岩	IV	2589	B-9	7.45	5.05	4.6	222.46
92	礫器	安山岩	V	11	3トレンチ	8.8	4.9	2.5	84.4



第102図 IV層石器出土状況図

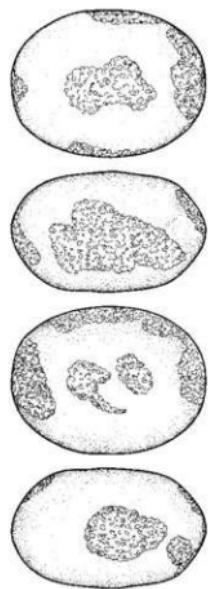


第103図 IV層実測石器出土状況図

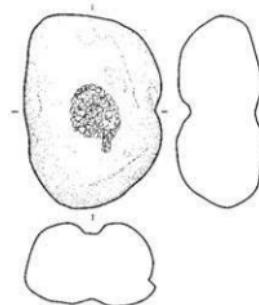


第 104 図 IV 層出土石器 (1)

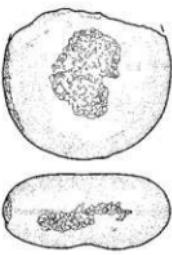
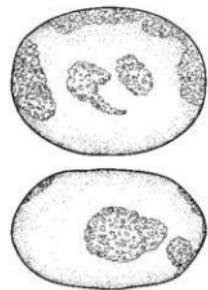
瀬 戸 頭 C 遺 跡



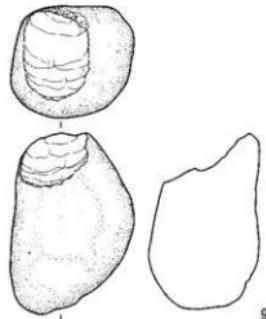
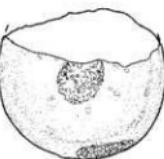
88



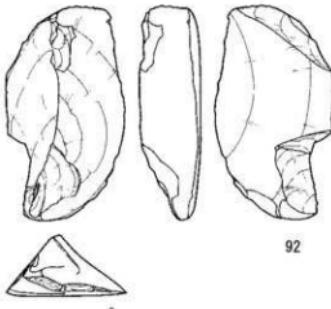
89



90



91



92



第 105 図 IV 層出土石器 (2)

VI 瀬戸頭C遺跡

第1章 調査の概要

瀬戸頭C遺跡は2000m²を対象として全面調査を実施した。旧地は茶畠で、土地の改変が著しく、表土の下面是V層～VI層（薩摩火山灰層）であった。そのため、調査は旧石器時代の調査のみとなっていた。調査区を千鳥格子状に区切ってV层を調査したが、遺物が散在して十数点確認されたのみであった。V层についてはV层a層の調査終了後、そこから更に千鳥格子状に調査区を設定し、遺物の出土した約50mについて範囲を拡張し、全面調査を実施した。VI層からナイフ形石器文化期の遺物が131点、VI层a層から旧石器時代の遺物67点が出土した。VI层a層の遺物については、全てが剥片・碎片類で、ブロック状をなさず、接合もみられなかったため、図化していない。

第2章 VI層の調査

VI層の遺物は総計131点である。遺物の出土はB-1～4区の約250m²に限られ、ブロック2基と礫群1基を検出した。特に、第1ブロックはタンパク石を中心とする良好なまとまりをみせ、接合もいくつかみられる。

1 遺構

(1) 磨群

磨群はB～C-3区のVI層上面で1基検出された。拳よりやや大きめの礫が散在している。

(2) ブロック

ブロックは2か所検出された。第2ブロックは筋状を呈しており遺物は動いていると考えられる。第1ブロックはタンパク石を中心としたブロックで、接合もみられることから台形石器やナイフ形石器を製作したブロックであることが判明した。また、頁岩も同様に石核からの剥片剥離状況が接合により確認されている。頁岩製の製品が確認されていないため製作された製品は明らかにできないが、剥片の大きさからタンパク石同様ナイフ形石器や台形石器等を製作したものと考えられる。外に、黒曜石A、Bの剥片もいくつか含まれる。接合資料から、第1ブロックでは少なくともタンパク石の石核4つと頁岩の石核1つを持ち込み、剥片剥離とナイフ形石器や台形石器の製作が行われたことが推測される。また、第1ブロックと第2ブロック間では接合が認められることから、両ブロックは同時期に形成されたものと判断される。

Aブロック

総数129点からなるブロックである。石材の内訳は黒曜石Aが26点、黒曜石Bが40点、頁岩が17点、タンパク石43点である。ブロック内出土遺物は台形石器1点、石核3点、尖頭器1点、二次加工剥片1点である。

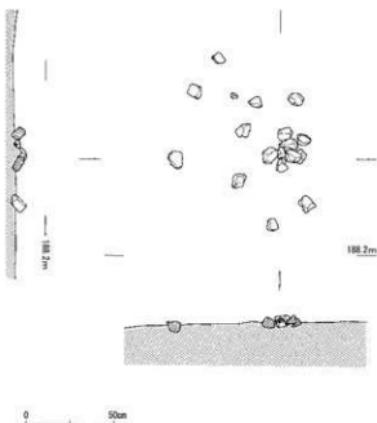
Bブロック

総数26点からなるブロックである。石材の内訳は、全てタンパク石である。石器は石核1点、ナイフ形石器1点である。

A、B両ブロック間で、石器の接合が認められたため、両ブロックは同時期に形成されたものと考えられる。

2 出土遺物

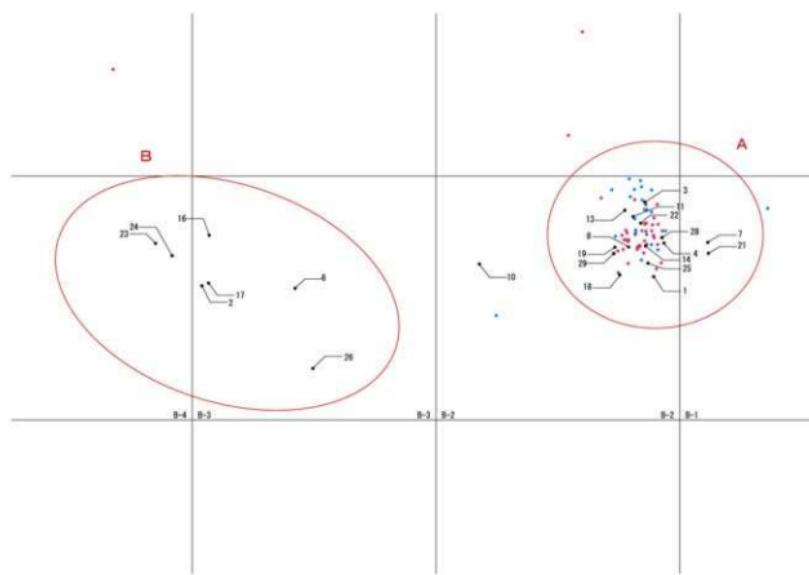
出土遺物は石核が6点、尖頭器1点、ナイフ形石器1点、台形石器1点、二次加工剥片1点である。1はタンパク石製の台形石器である。求心状の石核から剥離された素材を縱位に利用し、左側縁は背面から、右側縁は腹面からプランティングを施している。2はタンパク石製のナイフ形石器で、打面を固定して剥離された素材を縱位に利用し、両側縁の基部に背面から軽くプランティングを施している。3は黒曜石A製の尖頭器である。腹面からの加工で先端部を形成している。三稜尖頭器に類似するが、打瘤部がそのまま残され、下部が尖らない点が異なる。背面に自然面を残す。石錐など、他の用途も考えられるが、明確な使用痕は認められないため、ここでは尖頭器と分類した。4は硬質頁岩製の二次加工剥片である。剥片端部の腹面と背面に二次加工が



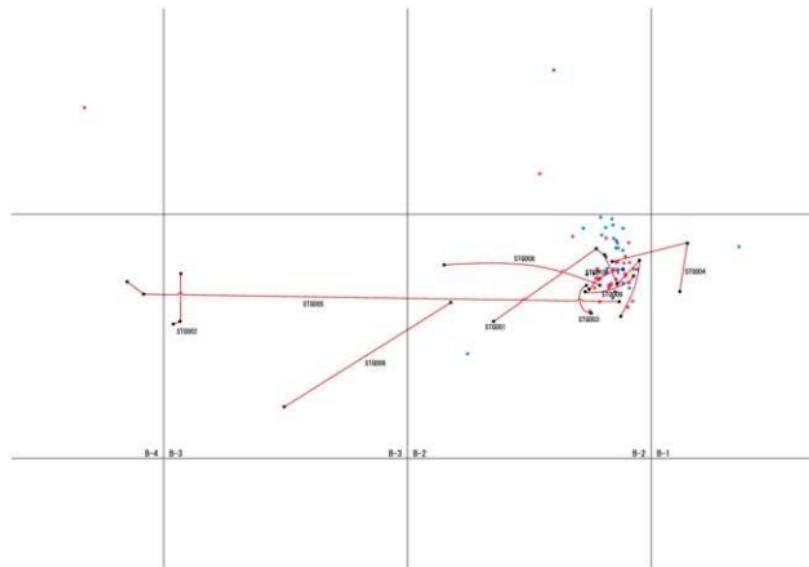
第106図 磨群



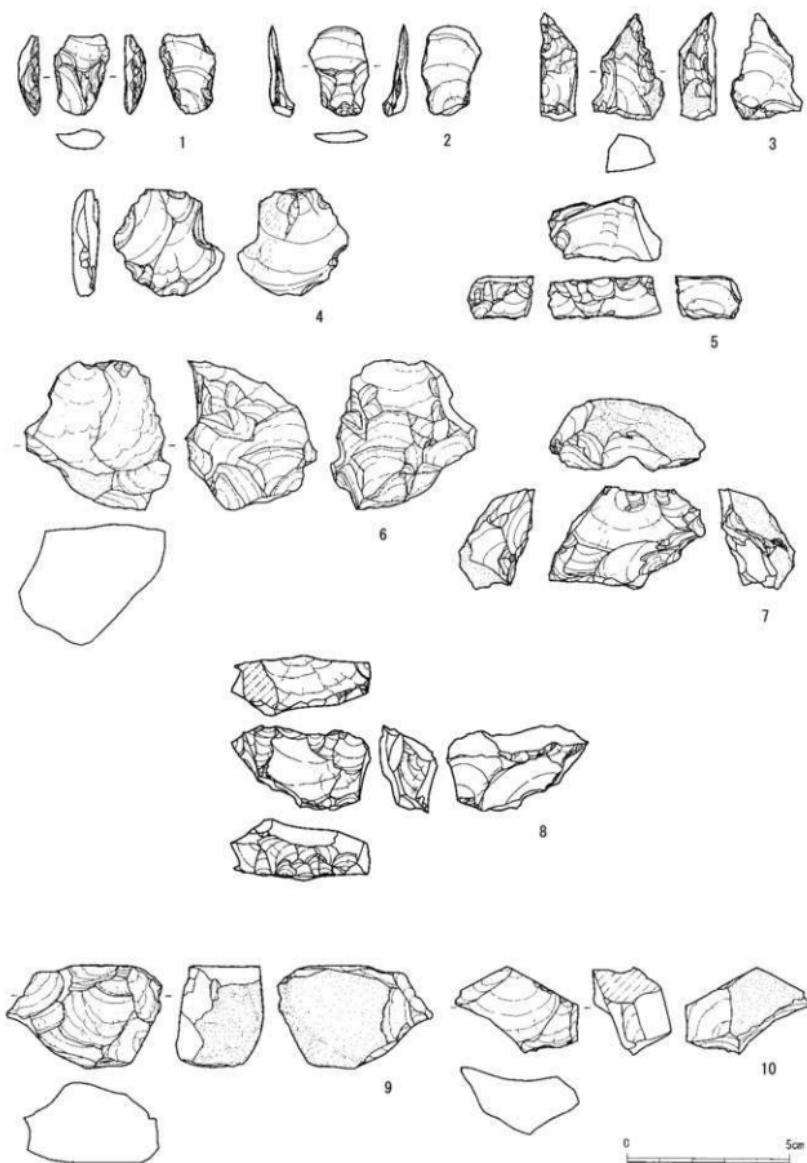
第 107 図 調査区と周辺地形図



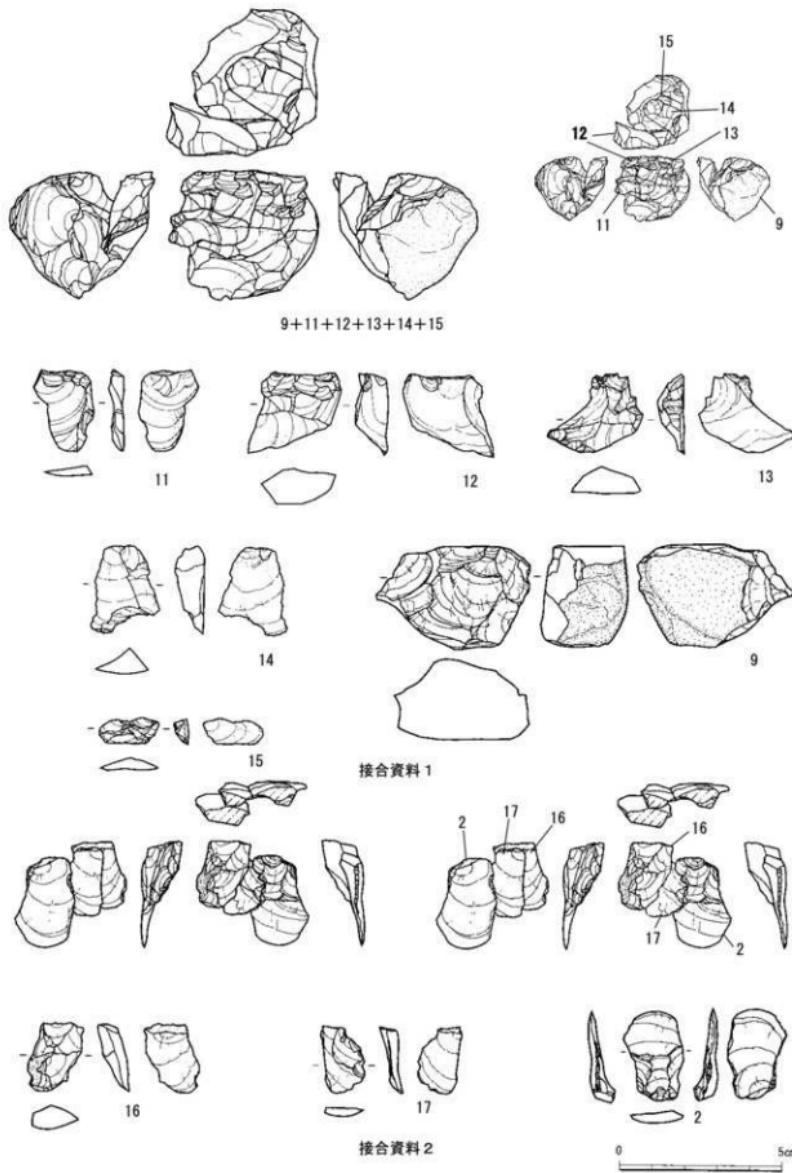
第 108 図 VII 層遺物出土状況図



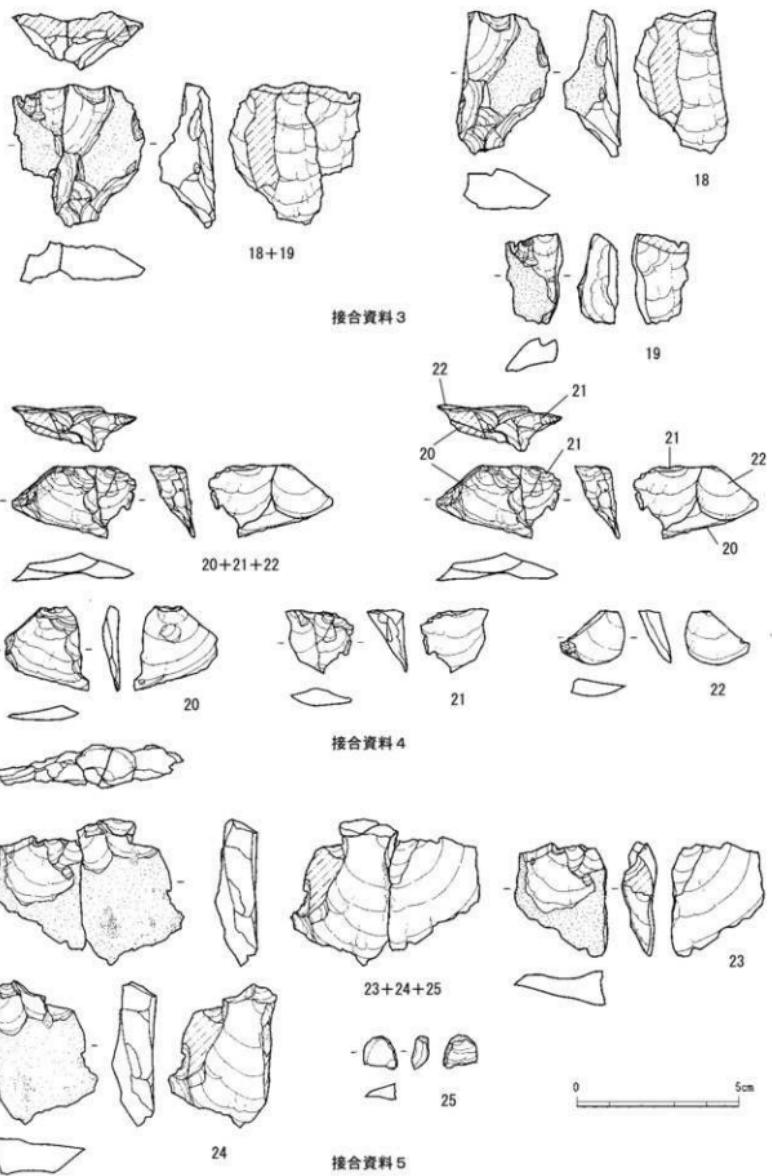
第 109 図 VII 層接合図



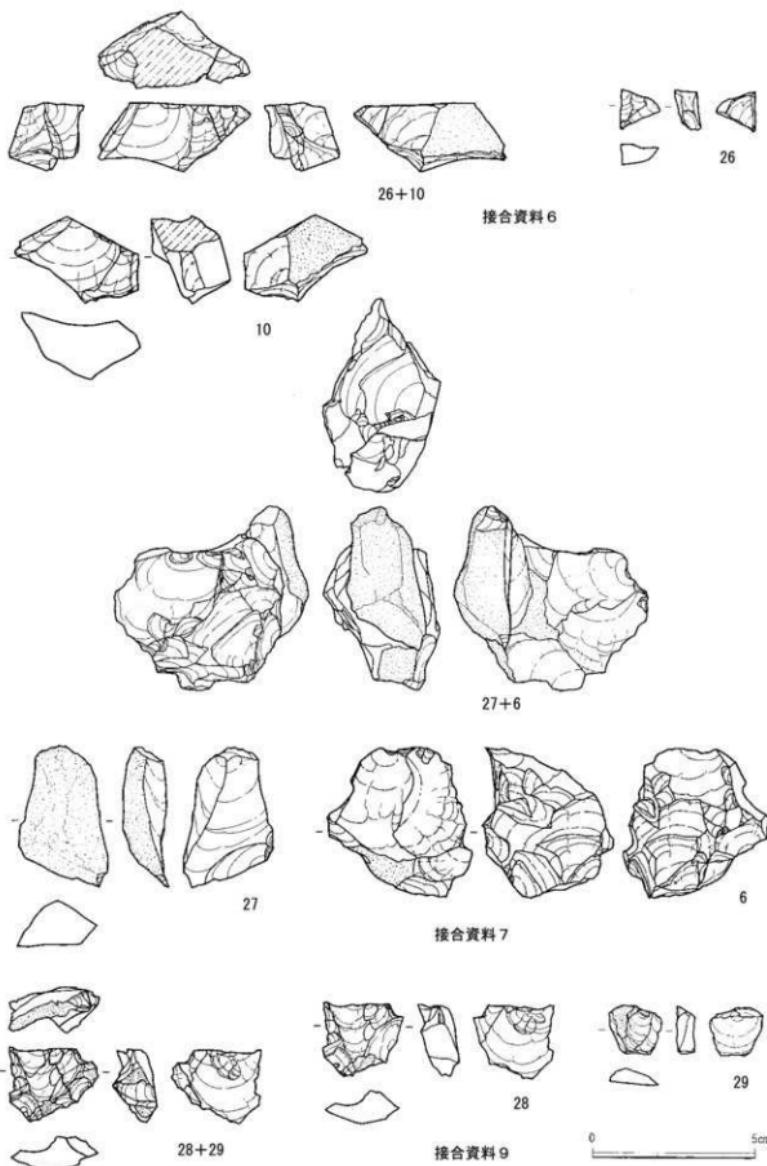
第 110 図 VII 層出土遺物



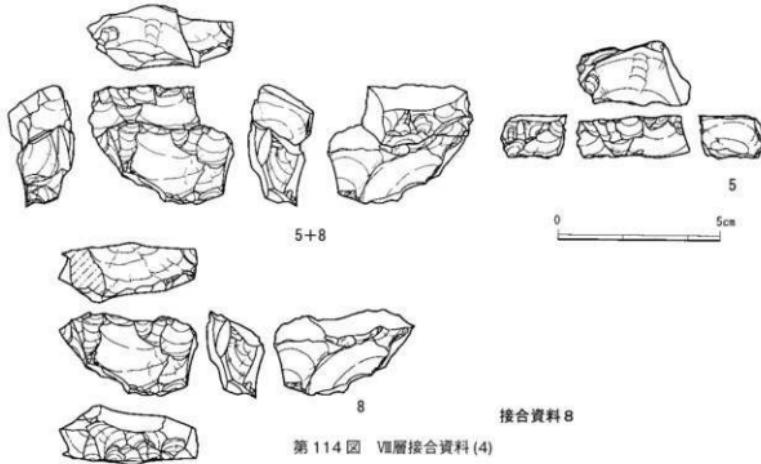
第 111 圖 VII 層接合資料 (1)



第 112 図 VII 層接合資料 (2)



第 113 圖 VII 層接合資料 (3)



第114図 VII層接合資料(4)

施されている。加工部は鋸歯状を呈しない。5はタンパク石製の石核である。大きな剥離面を打面に設定し、打面を固定したまま剥片を剥出している。6はタンパク石製の石核である。打面転移を繰り返して剥片が剥出されており、結果多面体となっている。7はタンパク石製の石核である。拳大の縁を素材とし、背面全体に疊面皮を残しながら求心状剥離を行っている。8はタンパク石製の石核である。打面は上面と背面の2箇所あり、それぞれ作業面が斜行する形で剥離が行われている。9は頁岩製の石核である。小型の円礫を素材とし、打面を大きな剥離で形成した後、打面を固定して剥片を剥出している。背面には自然面を残す。10はタンパク石製の石核である。小型の角縁を素材とし、摺理面から大きな剥片を剥出している。

4 接合資料

接合資料は全部で9つ確認され、接合対象資料が少なかったことからその全てを掲載した。

接合資料1

石核1つ（9）と剥片5枚のタンパク石の接合である。大剥離面を打面として11を剥出した後、90°打面転移をして12、13を剥出している。その後、再び打面を90°戻して打面を再生した後いくつかの剥離を経て（この間剥離の剥片が製品に加工された可能性が高い）、14、15を剥出している。

接合資料2

ナイフ形石器1点（2）を含むタンパク石製剥片3枚の接合である。打面は摺理面を利用している。剥片16の背面には棱を形成するための剥離が確認さ

れ、一連の剥離作業の最初の剥片であることが確認される。一連の剥離作業で得られた剥片のうち良好な剥片2を基部に二次加工を施してナイフ形石器に仕上げている。

接合資料3

剥片剥離時に打面から剥片が2つに割れたことを示すタンパク石の資料である。

接合資料4

固定された打面から剥離されたタンパク石製剥片3枚の接合資料である。

接合資料5

剥片剥離時に打面から剥片が2つに割れたことを示すタンパク石の資料である。打面調整剝1点（25）も接合している。

接合資料6

石核の破損を示すタンパク石の資料である。10と26付近での剥片剥離時に26が欠損したものと思われる。

接合資料7

石核6と、剥片のタンパク石の接合である。

接合資料8

タンパク石製の石核5と石核8の接合である。もともとは1つの石核であったが、剥片剥離の過程で摺理面で外れている。外れた後も、それぞれ単独の石核として剥離は継続されていることが観察される。

接合資料9

剥片への二次加工を示す黒曜石A製の接合である。剥片28+29の腹面から、29が剥離されている。

表20 VII層実測石器観察表

番号	実測番号	器種	石材	出土区	層	注記番号	最大長	最大幅	厚み	重量
1	84	台形石器	タンパク石	B-2	VII	182	2.48	1.7	0.67	3.02
2	83	ナイフ形石器	タンパク石	B-3	VII	174	2.75	1.8	0.7	2.6
3	239	尖頭器	黒曜石A	B-2	VII	60	3.3	2.3	1.15	7.2
4	85	二次加工剥片	硬質頁岩A	B-2	VII	85	3.26	3.43	0.8	9.9
5	82	石核	タンパク石	B-2	VII c	148	1.3	3.5	2	10.6
6	215	石核	タンパク石	B-3	VII	167	4.6	4.5	4	72
7	217	石核	タンパク石	B-1	VII	44	3.17	4.78	2.22	23.86
8	240	石核	タンパク石	B-2	VII	131	2	4.2	2.45	18
9	223	石核	頁岩A	B-2	VII	145	3.1	4.8	2.8	53.4
10	211	石核	タンパク石	B-2	VII	147	2.7	3.8	2.4	15.6
<hr/>										
△		接合資料1	頁岩A	B-2	VII	74+106+141+94+51+145	-	-	-	67
11	218	剥片	頁岩A	B-2	VII	74	2.5	1.8	0.45	1.8
12	219	剥片	頁岩A	B-2	VII	106	2.5	2.85	1.05	5.8
13	220	剥片	頁岩A	B-2	VII	141	2.45	3	0.85	3.2
14	221	剥片	頁岩A	B-2	VII	94	2.7	2.15	0.85	2.4
15	222	剥片	頁岩A	B-2	VII c	51	0.8	1.8	0.45	0.4
9	223	石核	頁岩A	B-2	VII	145	3.1	4.8	2.8	53.4
<hr/>										
△		接合資料2	タンパク石	B-3	VII	172+174+176	-	-	-	5.8
17	197	剥片	タンパク石	B-3	VII	172	2.05	1.4	0.75	1
2	83	ナイフ形石器	タンパク石	B-3	VII	174	2.75	1.8	0.7	2.6
16	198	剥片	タンパク石	B-3	VII	176	2.1	1.7	1	2.2
<hr/>										
△		接合資料3	タンパク石	B-2	VII	129+110	-	-	-	22.4
19	200	剥片	タンパク石	B-2	VII	129	2.8	1.7	1.25	5.4
18	201	剥片	タンパク石	B-2	VII	110	4.4	2.8	1.7	17
<hr/>										
△		接合資料4	タンパク石		VII	40+45+73	-	-	-	6
20	203	剥片	タンパク石	B-1	VII	40	2.6	2.5	0.55	2.4
21	204	剥片	タンパク石	B-1	VII	45	1.9	2.05	1.2	2.4
22	205	剥片	タンパク石	B-2	VII	73	1.6	2	1	1.2
<hr/>										
△		接合資料5	タンパク石	B-4	VII	180+179+115	-	-	-	65.72
23	207	剥片	タンパク石	B-4	VII	180	3.5	2.9	1.05	24.16
24	208	剥片	タンパク石	B-4	VII	179	4.4	3.3	1.3	16.8
25	209	剥片	タンパク石	B-4	VII	115	1.05	1.05	0.55	0.6
<hr/>										
△		接合資料6	タンパク石		VII	147+156	-	-	-	16.6
10	211	石核	タンパク石	B-2	VII	147	2.7	3.8	2.4	15.6
26	212	剥片	タンパク石	B-3	VII	156	1.2	1.2	0.85	1
<hr/>										
△		接合資料7	タンパク石		VII	50+167	-	-	-	86.6
27	214	剥片	タンパク石	B-2	VII c	50	4.3	2.75	1.35	14.6
6	215	石核	タンパク石	B-3	VII	167	4.6	4.5	4	72
<hr/>										
△		接合資料8	タンパク石	B-2	VII	148+131	3.68	4.46	2.04	28.6
5	82	石核	タンパク石	B-2	VII c	148	1.3	3.5	2	10.6
8	240	石核	タンパク石	B-2	VII	131	2	4.2	2.45	18
<hr/>										
△		接合資料9	黒曜石A	B-1	VII	86+197	-	-	-	6.2
28	243	剥片	黒曜石A	B-2	VII	86	2.25	2.5	1.3	4.8
29	244	剥片	黒曜石A	B-2	VII	197	1.5	1.65	0.6	1.4

VII 考察編

1 ナイフ形石器文化終末期の石器群

○層位

瀬戸頭A遺跡で出土した小型のナイフ形石器、台形石器の製作址はⅦ b層～Ⅶ a層にかけての出土で、中心はⅦ b層である。当該石器群は県内で広く確認されており、近年、大隅半島北部において、層位的に細石器と分離されて確認された。薩摩半島においては入来町床並B遺跡、鹿児島市石谷町西ノ原B遺跡、鹿児島市喜入町帖地遺跡など細石器文化期の遺物と混在するケース、また、露重遺跡のように他時期の石器群との相対的な比較ができないケースなど、層位的な裏付けができない状況にあった。当遺跡の出土状況は細石器との重複もないことから、細石器と共伴しない単純な時期が存在することを証明する資料である。

○形態

ナイフ形石器、台形石器は、その平面形態から5つに分類される。

- ①一つの側縁全体ともう一つの側縁の基部にプランディングを施し、斜刃で柳葉形を呈する。
- ②ほぼ正方形
- ③横長
- ④縦長
- ⑤逆台形

以上の5つの形態は南九州から出土する該期のナイフ、台形石器に共通するものであり、組み合わせ使用に関する議論の1つの素材となる可能性を持っている。

○素材剥片剥離技術

ナイフ形石器については縦長指向の素材剥片を斜位～縦位に利用しているもので、西ノ原B遺跡や帖地遺跡X II層、床並B遺跡、耳取遺跡等でみられる。ただし当遺跡で出土したナイフ形石器は搬入品であり、当遺跡で製作されているのは台形石器のみである。

台形石器はいずれも寸詰まり剥片や不定形剥片を横位に利用するものである。これらは石器背面に残された剥離痕や石核等の観察から、打面転移を繰り返しながら得られた剥片である。つまり、鋭い線刃を持つ剥片を取得するために、固定された技術ではなく、様々な技術を使用しているということである。

2 細石刃核

○層位

薩摩半島において、薩摩火山灰層下位（通称チヨ層）から細石器が出土することは古くから知られ

る事実である。薩摩半島中央部の台地では、チヨ層は通常3枚に分かれ、上からⅧ a層、Ⅷ b層、Ⅷ c層に分けられ、從来、細石器が出土するのはⅧ a層である。また、Ⅷ a層は非常に薄いため、そこから出土する細石器は古相のものから新相のものまで含まれ、層位的に変遷を追うことは困難であり、課題でもあった。

そのような中、当遺跡で出土した細石器はⅦ b層～Ⅶ a層にかけて出土しており、薩摩半島中央台地で從来出土する層位より相対的に下位にあたる。層位的に検証できる事例の1つとして重要である。

○技術

当遺跡出土の細石刃核はその残核形態からおおむね5つに分類された。そのうちまとまって確認されたのはI類～III類の細石刃核である。

I類は素材の分割面を打面に設定し、作業面を素材の長軸側に設定する特徴的な一群である。作業面に残された剥離痕から、幅広で短い細石刃が剥出されたと考えられる。県内でのこのタイプの細石刃核がまとまって検出された例ではなく、古相に属する細石刃核の1形態として注目する必要がある。

II類の細石刃核はいわゆる野岳・休場型の細石刃核である。西丸尾遺跡出土資料、今里遺跡A 2類細石刃核が類例であり、古相に位置づけられているものである。

III類の細石刃核もやはり野岳・休場型細石刃核の1つとして設定当初から提示されているものに当てはまる。作業面が廻り、打面調整もほぼ全周から施されることから、円錐型の細石刃核と呼ばれているものである。

以上、当遺跡では古相の細石刃核が層位的裏付けをもって単純に出土した。型式学に頼らざるを得ない縦年作業にとって貴重な資料となった。

3 丸ノミ形石斧

本県では縄文時代草創期から早期にかけて丸ノミ形石斧が出土することが知られている。当遺跡でも薩摩火山灰層下位から単独で出土した。県内では縄文時代草創期に属すると思われる丸ノミ形石斧を出土。採集取された遺跡は、知覧町八反畑遺跡、金峰町玉利遺跡、市来町湊町湯小路遺跡、鹿児島市吉野町菖蒲谷遺跡、志布志町東黒土田遺跡、加世田市椿ノ原遺跡、指宿市採集資料等があり、近年では財部町耳取遺跡でも出土例がある。発掘資料としては椿ノ原遺跡に次ぐものであり、確実に薩摩火山灰層下位からの出土であり、貴重である。全体形状は角柱状で、刃部の湾曲は強く、欠損品ではあるが大型の石斧であり、上掲の遺跡を見る限りでは、現時点では類似資料はない。

4. 綱文時代早期後半における石器製作技術

瀬戸頭A遺跡IV層で出土した石器は、その大半が石器製作に関連するものであった。これら出土した石器は、工程別に分類可能であり、石器製作の過程を示す資料である。以下に、当遺跡資料を基に、各工程別に看取される技術をまとめておきたい。

①石核の準備

石核の素材としては、①小型の礫素材（以下礫石核）、②剥片素材（以下剥片石核）の2種類が確認される。獲得した礫が小型の場合、そのまま石核として使用するが、大型の礫の場合、求心状剥離により比較的厚手、大型の剥片を剥出し、石核の素材とする。これは、大型の礫については石器素材となる小型の剥片の獲得には向きであることが原因として考えられる。

②剥片剥離

礫石核については、打面転移を繰り返しながら石器の素材を獲得する。剥片石核については、剥片石核の腹面側を作業面に設定し、求心状に剥離し、素材を獲得する。後者の剥片剥離技術は、押圧剥離を施すのに便利な断面レンズ状の素材獲得が可能であり、当遺跡において特徴的な技術である。なお、剥片石核は、剥離が進行すると、背面にも腹面にも求心状剥離を残すため、円盤状の残核形態を呈する。

③押圧剥離（先端部形成）

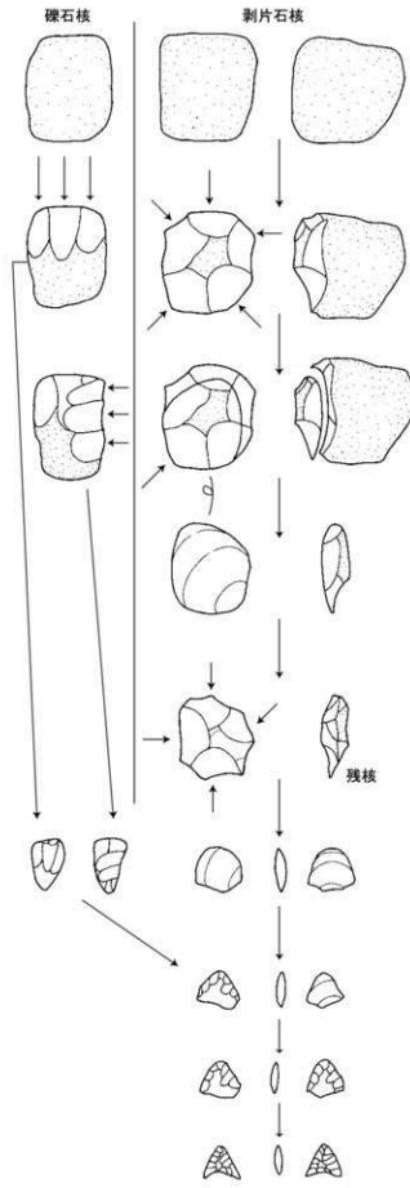
当遺跡で残された各段階の未製品には、先端部のみが形成され、破損した資料が多くみられる。また逆に、基部の抉りのみが施され、破損した資料がみられないことから、石器製作にあたっては、まず先端部から整形していくことが看取される。

まず、片面への押圧剥離により先端部を形成し、その後もう片面への剥離により更に先端部を整形する。先端部形成に係る面剥離の順序については、絶対的に規制された技術ではないものの、傾向としては看取される。

④押圧剥離（基部形成）

先端部を形成した後、基部に抉りを入れ、脚部を形成する。石器製作過程における破損リスクを抑えるためにとられた手法であろう。

以上、当遺跡の石器製作関連製品の観察から、石器を完成させるまでに、製作の利便性の追求、破損リスクの抑制のために、様々な工夫が施されていることが判明した。当遺跡にみられる特徴的な剥片剥離技術は、もちろん該期の石器製作技術に一般化されるものではないが、素材獲得のための1つの剥離技術として抽出できた点で重要である。今後は、接合作業を行うことにより、当技術をより具体的に把握していく必要がある。



第115図 石器製作模式図

5 各遺跡の石材利用状況の推移

3 遺跡において確認された包含層は、Ⅵ層、Ⅶb層、Ⅶc層、Ⅳ層である。ここでは、各層ごとの石材利用状況を確認し、当台地における時期ごとの石材利用の変遷の一端を把握する。なお、本稿でも述べたとおり、Ⅶb層とⅦc層の明確な区分は困難であるため、ここではナイフ形石器文化期終末～縄文時代草創期を含むⅦ層という大枠で分析を進める。

(1) Ⅶ層の石材利用状況

a 漢戸頭A遺跡

分析対象点数は204点である。ブロックを形成している大口市五女木産の黒曜石が75.5%と主体を占める。次いで鹿児島市三船産の黒曜石、樋脇町上牛鼻産と続く。

b 漢戸頭C遺跡

分析対象は125点である。ブロックを形成しているタンパク石が43.5%と主体を占め、A遺跡同様三船産、上牛鼻産と続く。

c 宮ヶ追遺跡

分析対象は587点である。三船産黒曜石が56%と大半を占め、上牛鼻産黒曜石が23.1%と続き、以下安山岩、硬質頁岩、シルト質頁岩となる。

(2) Ⅶ層の石材利用状況

a 漢戸頭A遺跡

分析対象は4596点である。三船産の黒曜石が79.2%と主体となる。次いで上牛鼻産黒曜石、黒色安山岩と続く。黒色安山岩は、小型のナイフ形石器や縄文草創期の石器に利用されている。

b 漢戸頭B遺跡

分析対象は7065点である。三船産の黒曜石が85.6%とほぼ全てを占め、上牛鼻産黒曜石、佐賀県腰岳等の黒色ガラス質で良質の黒曜石、桑ノ木津留産黒曜石、黒色安山岩と続く。

(3) Ⅳ層の石材利用状況

漢戸頭A遺跡のみが対象となり、6465点が分析対象である。上牛鼻産黒曜石が62.9%と主体を占め、三船産黒曜石29.4%が続き、以下軽石、黒曜石D、安山岩と続く。軽石の存在については軽石製製品を製作している当遺跡独特の特徴である。

(4) 同台地における他遺跡の石材利用状況

a 宮ヶ追遺跡Ⅶ層

b 宮ヶ追遺跡Ⅶ層

c 横井竹ノ山遺跡Ⅶ層

分析対象は300点である。硬質砂岩が42.5%と主体を占め、珪質頁岩、頁岩、上牛鼻産黒曜石、シリト質頁岩、三船産黒曜石と続く。

d 横井竹ノ山遺跡Ⅶ層

分析対象は18731点である。時期は縄文時代草創

期初頭にはば限定される。上牛鼻産黒曜石が47.5%と半数近くを占め、三船産黒曜石が29.8%と続き、以下黑色安山岩、黒色良質の黒曜石、針尾系の西北九州産の黒曜石と続く。

(5) 時期ごとの利用状況の推移

以上、薩摩半島の脊梁をなす台地上に位置するいくつかの遺跡について石材利用状況を確認してきたが、これらの遺跡で観察される傾向として、時期が下るとともに在地の石材利用率が高くなり、その中でも三船産→上牛鼻産への移行がみられる。ただし、現時点では短絡的に当台地における一般的な現象とは位置づけることはできない。各層の特徴を以下にまとめる。

① Ⅶ層段階(AT降灰後のナイフ形石器文化前半期)

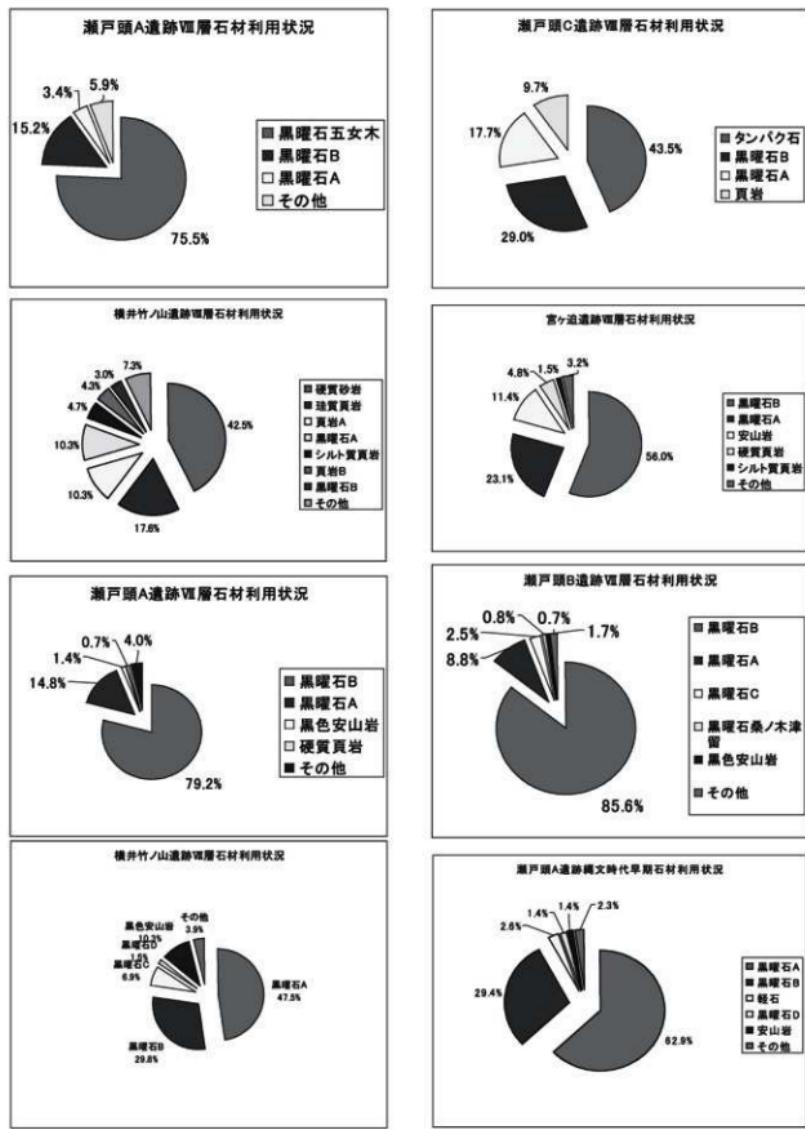
漢戸頭A遺跡では五女木産の黒曜石、漢戸頭C遺跡ではタンパク石。横井竹ノ山遺跡では硬質砂岩が主体となっており、在地の石材が補完的に利用されている。また、宮ヶ追遺跡では逆に三船産、上牛鼻産の黒曜石が主体となっている。これら的事実は漢戸頭A、Cの各遺跡が1ブロックずつの検出であり、遺跡全体の一部の状況を示している可能性が高いことを物語っている。しかし、Ⅶ層段階に頁岩や安山岩等の非黒曜石の利用率が高い一面があることは明白である。これは、在地の黒曜石の利用が少ないというよりも、この時期を特徴づける大型の尖頭器類に適する石材を選択していることに起因していると思われる。

② Ⅶ層段階(ナイフ形石器文化終末期～縄文時代草創期)

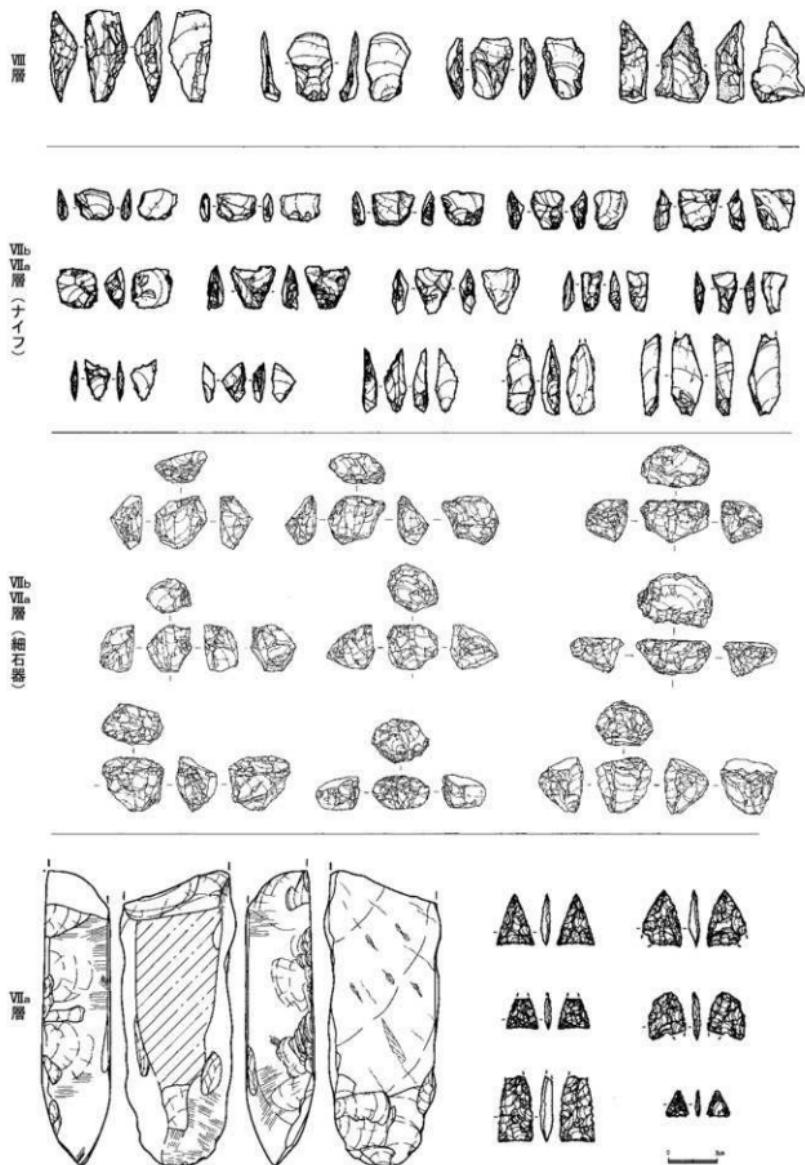
ナイフ終末から縄文草創期までの複数の時期が含まれるが、漢戸頭AB遺跡では三船産黒曜石がほとんどの比率を占め、横井竹ノ山遺跡でも上牛鼻、三船産の黒曜石が圧倒的比率を占めている。西北九州産の良質な黒曜石や、黒色安山岩等の利用が客体的なながら一定程度みられる。前者は細石刃や石器製作に、後者は小型ナイフ形石器、台形石器や石器製作に利用されている。

③ Ⅳ層段階(縄文時代早期後半)

1 遺跡のみの観察であるが、漢戸頭A遺跡では上牛鼻産の黒曜石が主体となり、三船産と併せて在地産が8割以上を占める。その他には針尾系黒曜石、西北九州産の良質な黒曜石、チャート、タンパク石、黒色安山岩等が補完的に利用されている。当遺跡は大規模な石器製作場であり、ここで石器製作に利用された石材をそのまま反映するものであろう。軽石利用については当遺跡の性格の特性であろうが、遺跡内におけるどういった行動を反映しているのか定かではない。



第116図 各遺跡の層別石材利用状況



第 117 図 濑戸頭 A,B,C 遺跡石器群実遺図

6 濑戸頭 A・B 遺跡の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

瀬戸頭 A 遺跡・瀬戸頭 B 遺跡の発掘調査により、旧石器時代とされる石器群や縄群、縄文時代早期とされる土坑等が検出されている。今回の分析調査では、これらの遺構から採取した炭化材と炭化物を対象に放射性炭素年代測定を実施し、年代に関する情報を得る。

(1) 試料

試料は、瀬戸頭 A 遺跡で縄文時代早期とされる層位から検出された土坑中で採取された炭化材と、瀬戸頭 B 遺跡の旧石器時代とされる層位から検出された縄群中で採取された炭化物（土壤中に混在する微量の炭化物 C1～C4, C11～C13を一括）である。

(2) 分析方法

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS 法により行った。なお、放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。なお、炭化材については、実体鏡による木材組織の観察で樹種の同定を実施する。

(3) 結果

結果を表 1・2 に示す。試料の測定年代（補正年代）は、瀬戸頭 A 遺跡出土炭化材が、24100BP、瀬戸頭 B 遺跡出土炭化物が 15710BP の値を示す。既存の九州地方における縄文土器型式と放射性炭素年代との対応関係（キーリ・武藤、1982）によれば、縄文時代草創期の年代が 12800～10500BP、早期が 10500～6900BP、前期が 6900～4500BP、中期が 4500～3500BP とされている。今回の測定値のうち、瀬戸頭 A 遺跡の縄文時代早期とされる土坑の年代値は発掘調査所見よりも古く、桑畠光博・東和幸らによる、南九州の火山灰と考古遺物の対応関係（1997）においては、始良 Tn 火山灰の降灰年代とされている値に相当する。また、旧石器時代の細石刃や小形ナイフ形石器を伴うとされる瀬戸頭 B 遺跡縄群試料の年代値は、概ね考古学的所見と調和する。なお、瀬戸頭 A 遺跡出土炭化材の樹種は、アカガシ亜属に同定された。

今回の測定試料である炭化材等は、過去に形成された土壁の地山などに含まれていたものが遭埋積時に混入している可能性もある。今後は同一遺構・同一層準から出土した炭化材・炭化物等の測定点数を増やすことにより、更に詳細な年代資料が得られると思われる。

○引用文献

- キーリ C.T.・武藤康弘、1982、縄文時代の年代、縄文文化の研究 I 縄文人とその環境、雄山閣、246-275。
桑畠光博・東和幸、1997、南九州の火山灰と考古遺物、月刊地球、19, 208-214。

表 21 濑戸頭 A・B 遺跡放射性炭素年代測定および樹種同定結果

試 料 名	試料の質	樹 種	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code.No.
瀬戸頭 A 遺跡 土坑埋土	炭化材	アカガシ亜属	24100±120	-24.31±0.67	24090±120	IAAA-40771
瀬戸頭 B 遺跡 縄群 C1～C4, C11～C13	炭化物	-	15710±70	-23.99±0.74	15690±70	IAAA-40769

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。

2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。

表 22 濑戸頭 A・B 遺跡暦年較正結果

試 料 名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	Code No.			
瀬戸頭 A 遺跡 土坑埋土	24101±119	cal	-	-	cal	IAAA-40771			
瀬戸頭 B 遺跡 縄群 C1～C4, C11～C13	15707±71	cal	BC 17,103	- cal	BC 16,507	cal	BP 19,053 - 18,457	1,000	IAAA-40769

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。

4) 濑戸頭 A 遺跡 土坑埋土は較正曲線の対象外の値。

VIII 発掘調査のまとめ

1 潬戸頭A遺跡

①ナイフ形石器文化後半期

遺物量は少ないが、五女木塗の黒曜石を中心とするブロック1か所が確認された。接合資料からは固定打面から剥片を剥離する技術の存在が確認された。

②ナイフ形石器文化終末期

石器の数はさほど多くないものの、単純で良好なナイフ形石器文化終末期の資料が確認された。薩摩半島においてこの時期の遺跡はいくつか確認されているものの、細石刃文化期の遺物と混在したり、ナイフ形石器文化後半期の遺物と混在したりと、明確な層位差をもって該期の遺物の出土が確認されることはなかった。薩摩半島ではⅦb層から剥片尖頭器を伴う遺物が、Ⅷa層からは細石刃文化期の遺物が出土することが知られているが、当遺跡ではその中の間のⅧb層を中心として、しかも細石器と分離する形で当該石器群を抽出できたという意味で、意義が大きい。

出土した核粒からは小型の礫を素材としていること、単設打面からの剥片剥離、打面転移による剥片剥離など、多様な剥片剥離技術が存在していたことが確認された。

当遺跡内の行動としては、小型のナイフ形石器・台形石器は遺跡内で製作されたものと、搬入されたものとがあり、遺跡内で廃棄、製作の両方が行われていた可能性が高い。

③細石刃文化期

九州における出現期の細石刃核として、位牌塔型が注目されているが、もう1つの古相の細石刃核として野岳・休場型があげられる。細石器文化期にあまり良好な地層堆積をもたない鹿児島県内において、細石刃核の編年は型式学に頼らざるを得ない現状であったが、当遺跡ではⅦb層～Ⅷa層にかけて野岳・休場遺跡の単純な石器群が検出された。これは薩摩半島において通常細石器が検出されるⅧa層よりも若干低い層位からの出土であり、従来の編年観を層位的に裏付ける形となった。

④縄文時代草創期

土器は小粒のものであり、土器が存在した、という事実を把握するにとどまった。石器はいずれも丁寧な調整で仕上げられるものであり、形態・技術とともに草創期の石器の特徴を有している。特筆すべきは丸ノミ形石斧の出土である。薩摩半島中央部の台地でも丸ノミ形石斧の存在が確認された。

⑤縄文時代早期

前平式土器、石坂式土器、押型文土器、手向山式土器、塞ノ神式土器、平柄式土器等、早期前葉から後半までの土器が確認されたが、中心となるのは塞ノ神式土器である。塞ノ神式土器には撫糸、繩文が施され、中心となるのは塞ノ神Ab式土器である。

石器では大規模な石器製作址が確認され、石器製作過程の一端が明らかとなった。また、トロトロ石器や石臼、異形石器の出土や、軽石製品の出土も特筆すべきものである。軽石は石器製作に関連するのか、祭祀に関連するのかは明らかにできなかった。

2 潬戸頭B遺跡

①ナイフ形石器文化終末期

小型の台形石器やナイフ形石器が出土したが、隣接する瀬戸頭A遺跡と出土層位、石器群の内容とも類似しており、該期の当遺跡周辺での活動が一定程度の広がりを見せていくことが示唆される。ただし、当遺跡の製品は全て搬入品であり、石器製作を伴っておらず、遺跡の性格としては異なる。

②細石器文化期

ブロック数の割に細石刃核、細石刃の数が少なく、細石刃の剥出作業はあまり行われていないことが看取された。ブロックの大半は縄文時代草創期に属する可能性もある。

③縄文時代草創期

土器粒が多く出土し、石器も数点確認された。隣の瀬戸頭A遺跡、瀬戸頭遺跡でも該期の遺物が出土しており、当台地において該期の活動が一定の広がりを見せていくことが確認された。

④縄文時代早期

前平式土器、吉田式土器、石坂式土器、平柄式土器等、在地の早期前半～後半期の土器が確認されている。加えて、肥後系の円筒形条線文土器も確認された。中心となるのは石坂式土器である。口縁部が直行するもの、外反するもの瘤を有するもの等いくつかのパターンがみられる。

石器は定型石器が少なく、異形石器が特徴的であり、これらの石器は一般的には早期中葉～後半の土器に共存することが知られており、当遺跡の石器もその時期に属する可能性が高い。

3 潬戸頭C遺跡

ナイフ形石器文化後半期のナイフ形石器、台形石器製作址を2か所確認した。また、接合作業から多様な剥離技術の存在が明らかとなった。該期の台形石器等の製作技術はまだ接合資料による製作技術については十分に資料があるとは言えず、不明な部分が多く、製作技術の在り方の1つを示すものである。

写 真 図 版



1 濑戸頭A・B・C遺跡遠景

Plate 2



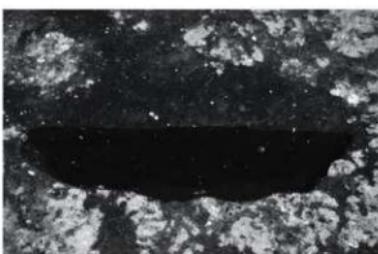
1 瀬戸頭A遺跡 槍文時代調査風景



2 槍文時代早期遺物出土状況



3 集石遺構検出状況



4 土坑調査状況



5 塞ノ神式土器出土状況



6 石槍出土状況



7 古代～中世土坑



8 槍文時代早期土坑



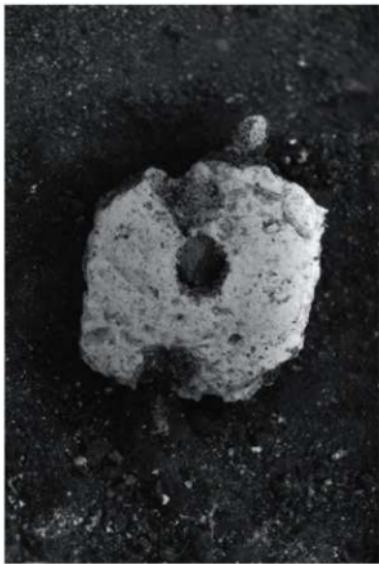
1 土層断面



2 溝状遺構



3 土坑



4 鰐石出土状况

Plate 4



1 濑戸頭B遺跡 旧石器時代調査風景



2 繩文時代草創期礫群検出状況



3 丸ノミ形石斧出土状況



4 VIIa層遺物出土状況



5 VIIb層遺物出土状況



6 VII層遺物出土状況



7 台形石器出土状況



8 完掘状況



1 VIIa 層砾群検出状況



2 早期土器出土状況



3 異形石器出土状況



4 VIIa 層遺物出土状況



5 縄文草創期土器出土状況



6 完掘状況



7 遺跡全景

Plate 6



1 土層断面



2 前平式土器出土状况



3 早期土器出土状况



4 纹文草創期土器出土状况



5 满状遺構



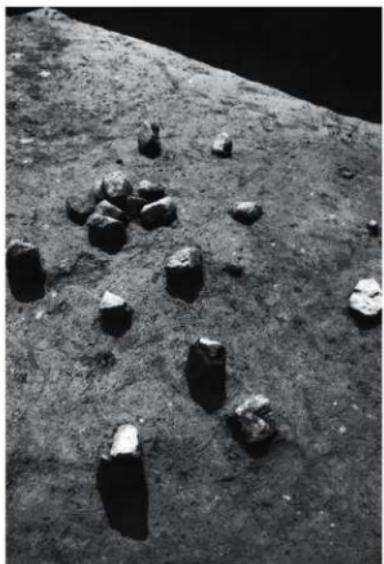
6 早期土器出土状况



1 瀬戸頭C遺跡調査風景



2 砕群と遺物出土状況



3 砕群検出状況



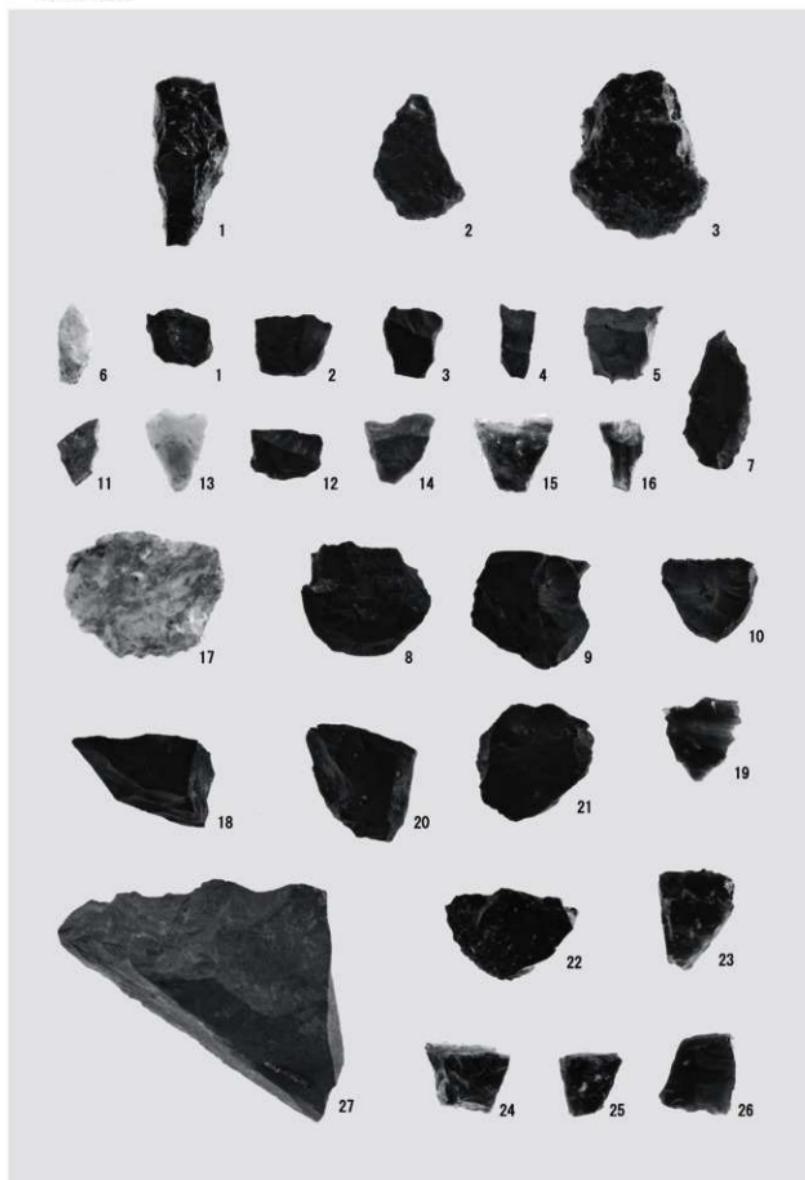
4 VII層ブロック検出状況



5 完成状況

Plate 8

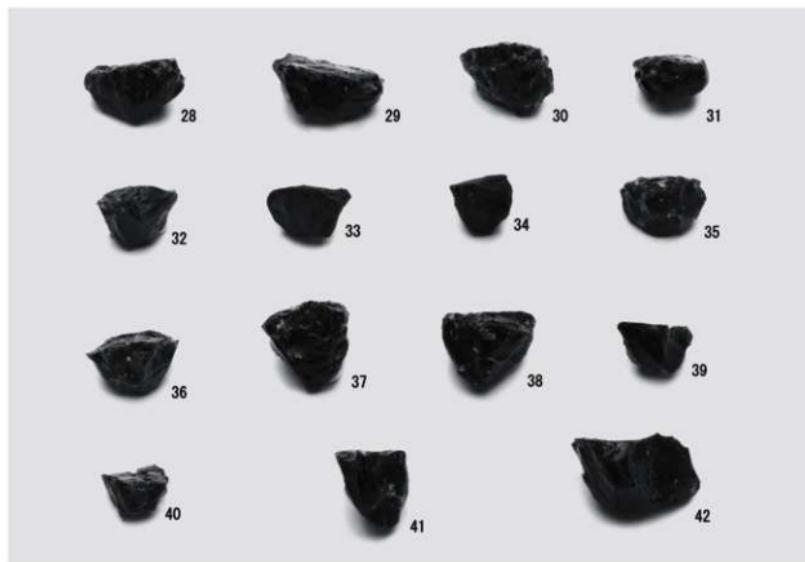
瀬戸頭 A 遺跡



VII層～VII b 層出土遺物



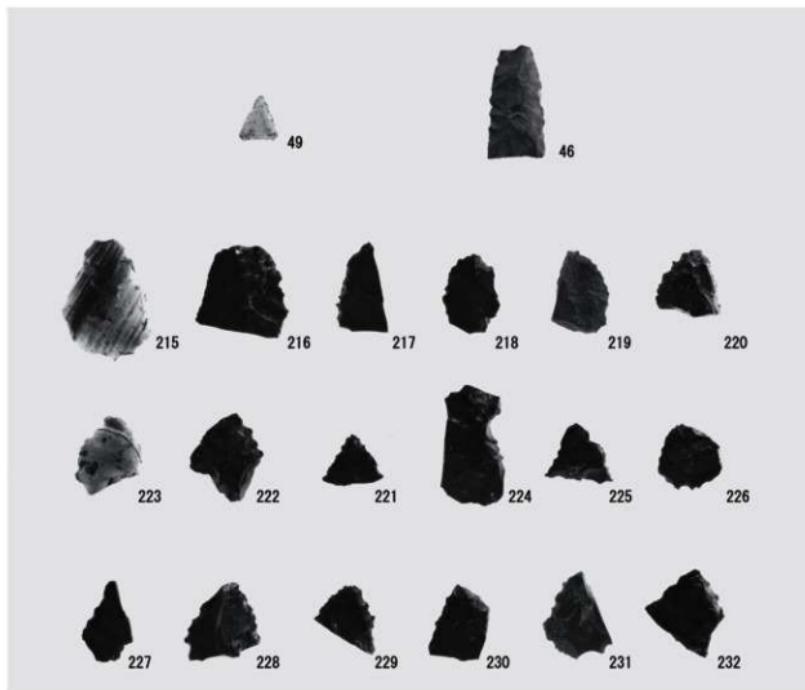
1 VII層接合資料



2 細石刃核



1 石斧·叩石



2 石鎌



復元された早期土器（1）



47



121



173



207



116

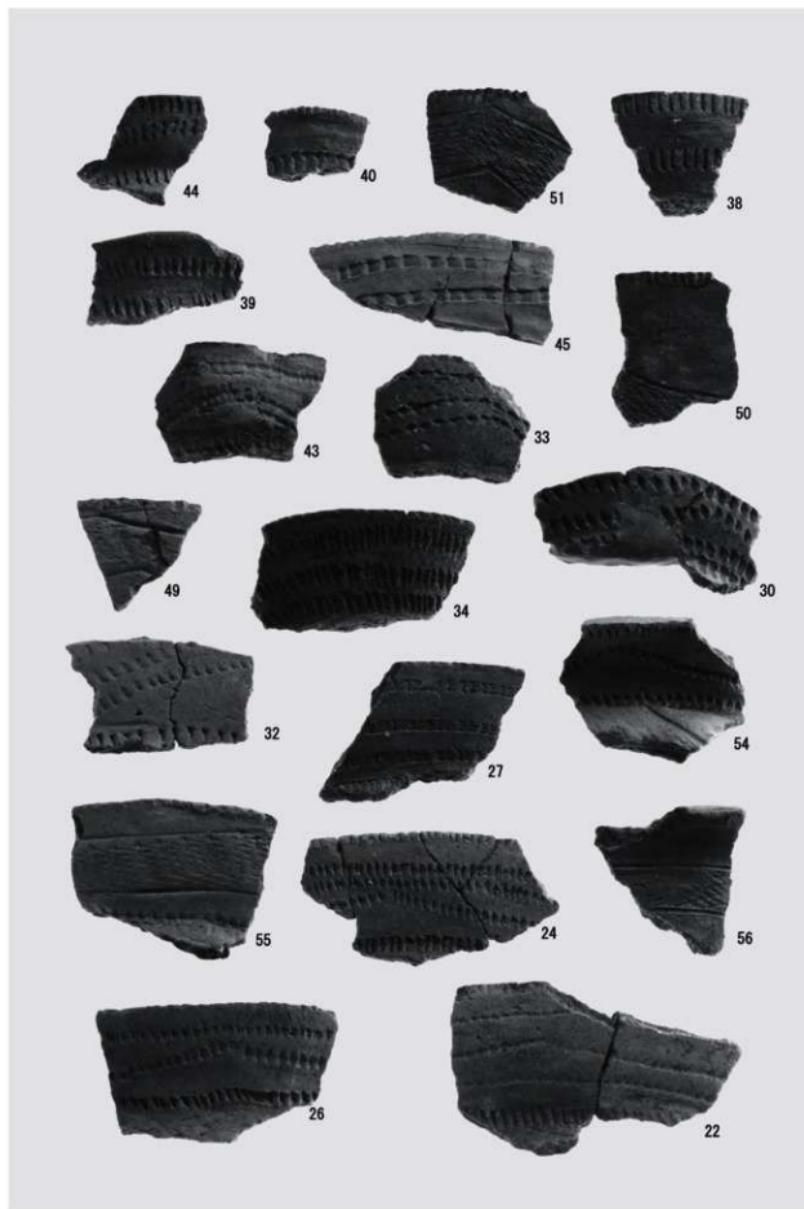


16

復元された早期土器 (2)



早期土器（Ⅱ・Ⅲ類）



IV類土器 (1)



25



21



19



17

IV類土器 (2)



IV-a 類土器

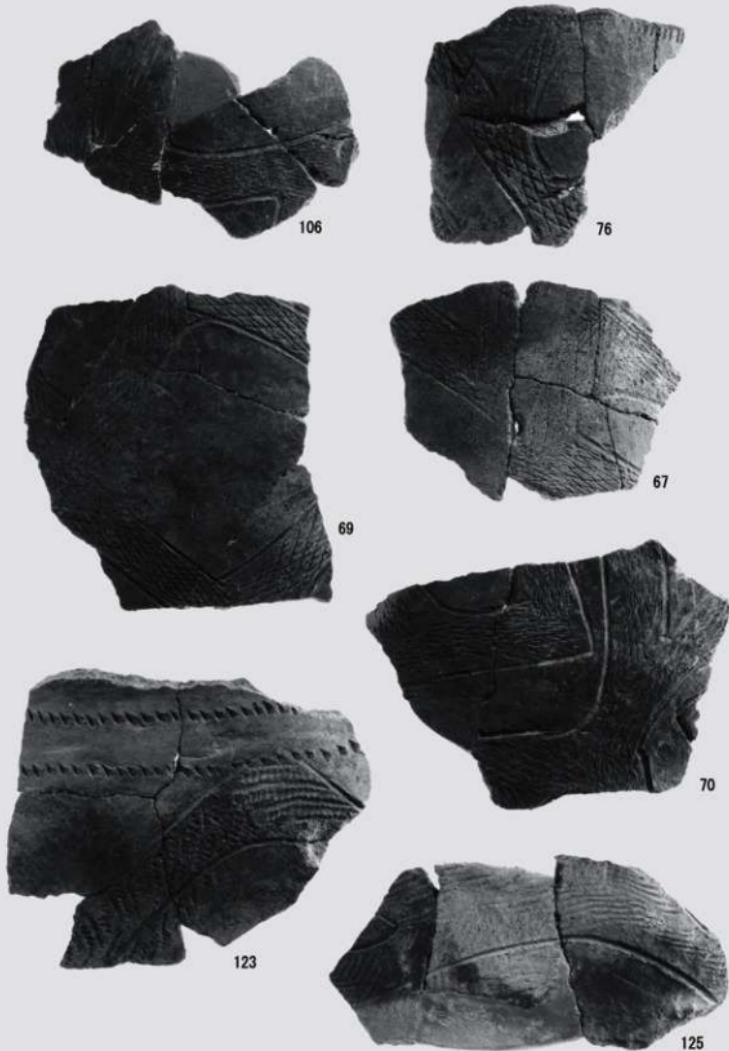


124

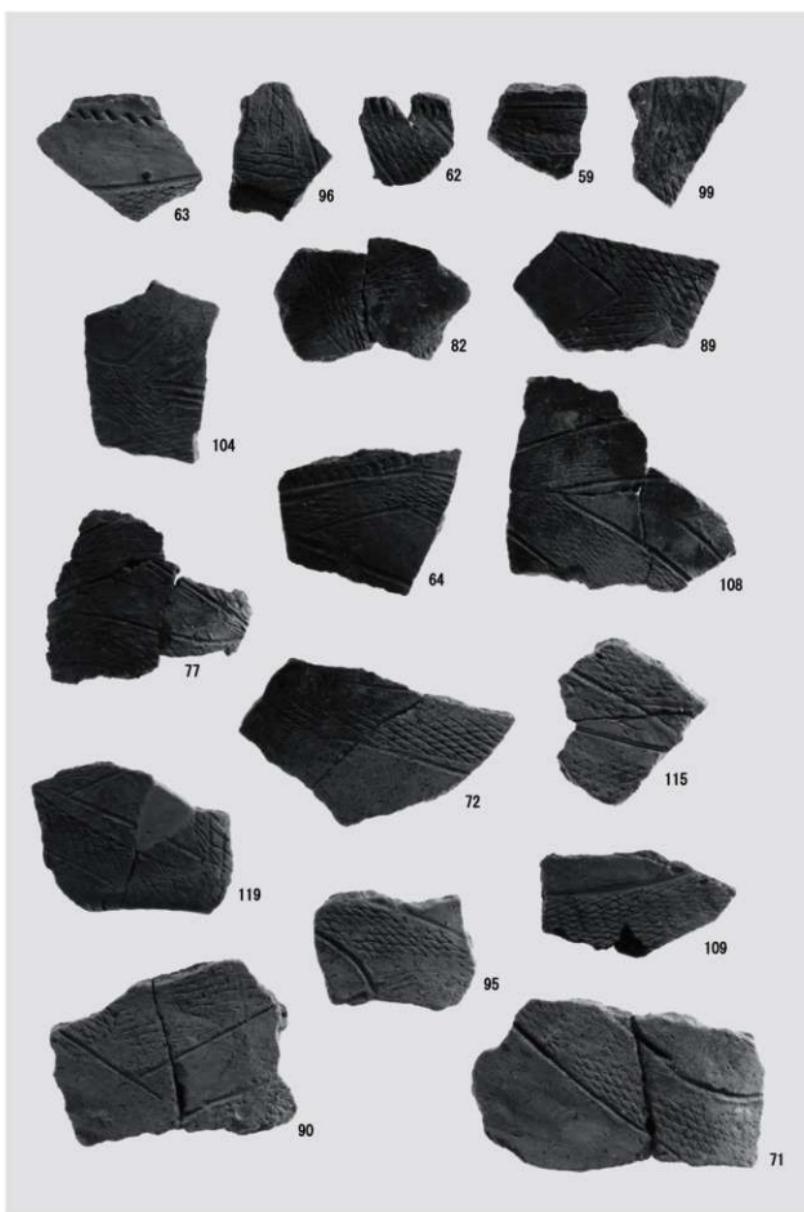


122

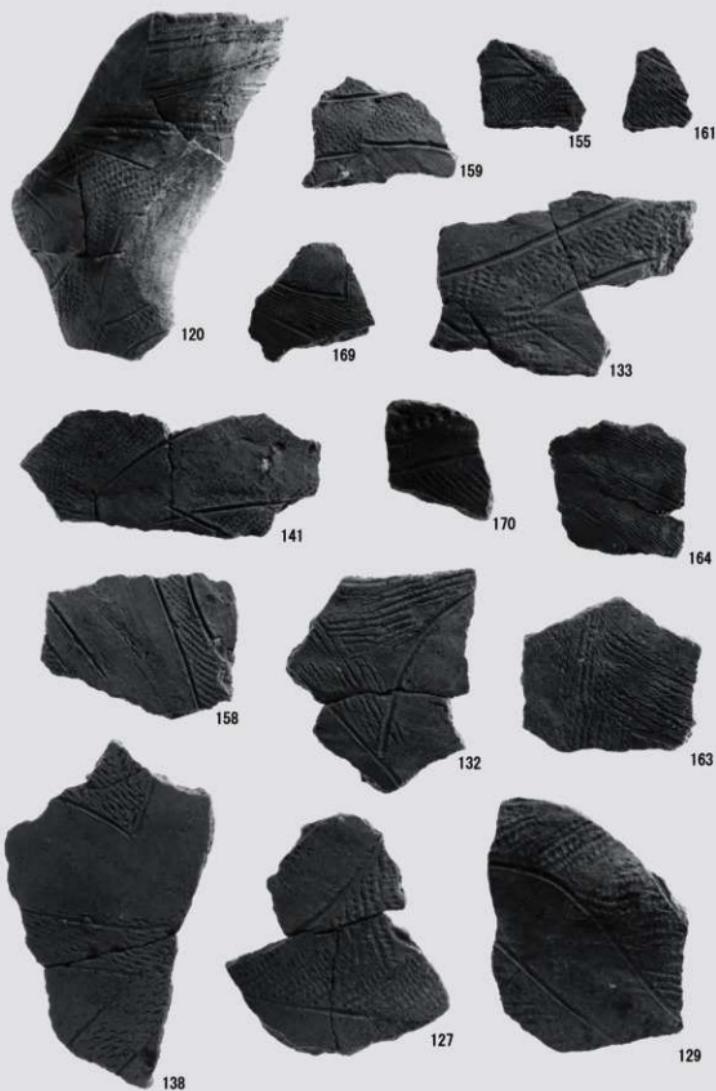
IV -b 類土器



IV類土器 (3)



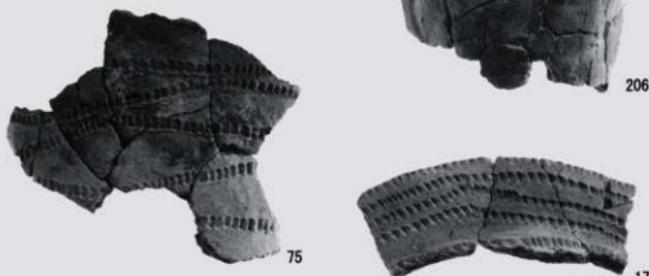
IV類土器 (4)



IV類土器 (5)



172



75

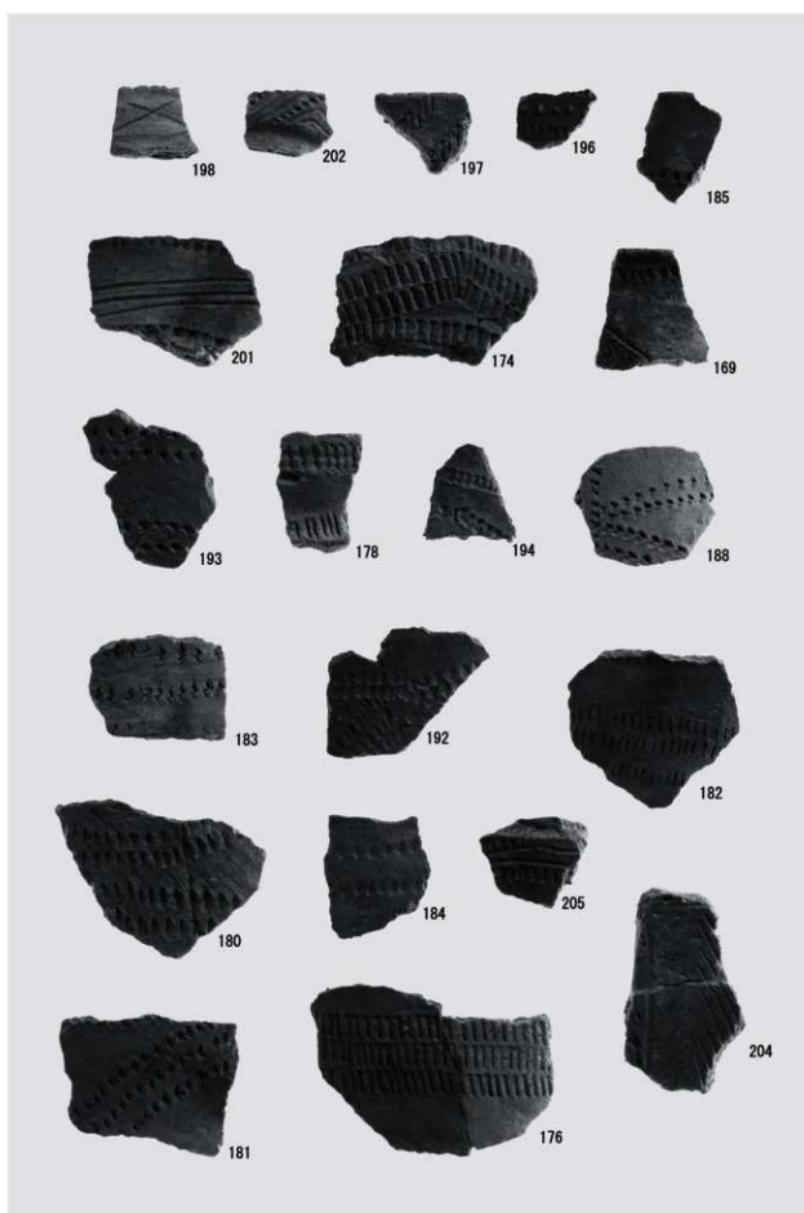
206

171

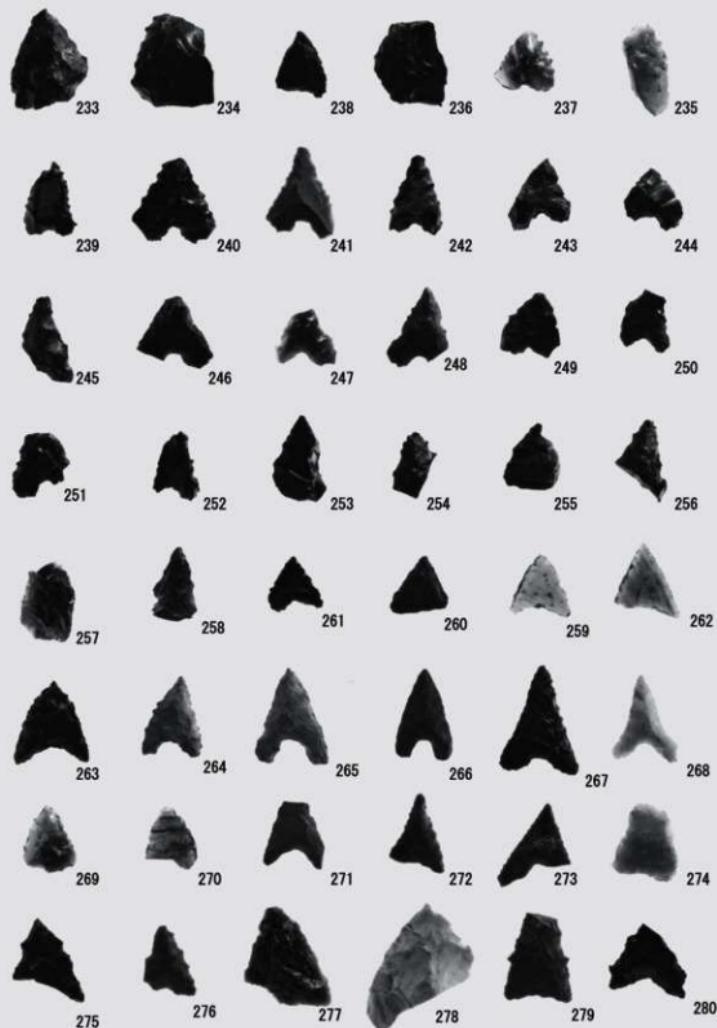


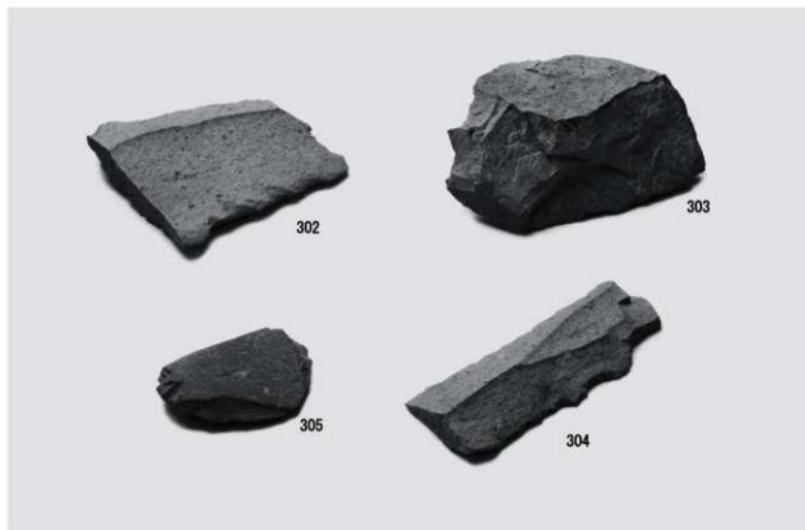
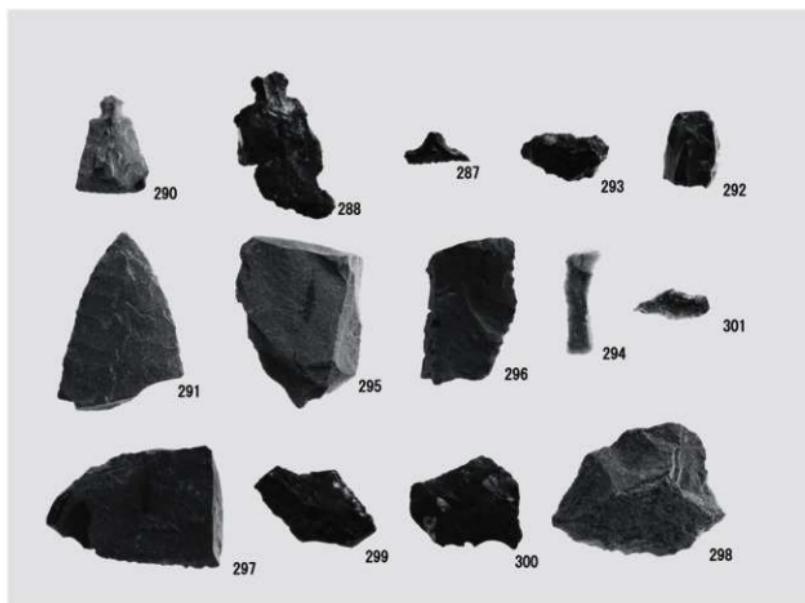
195

IV -c, IV -d, VI 類土器

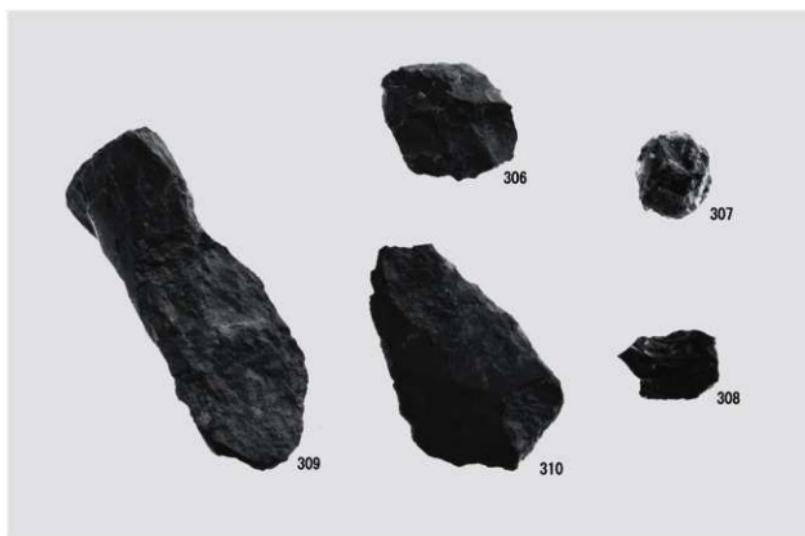


IV, V類土器 (9)

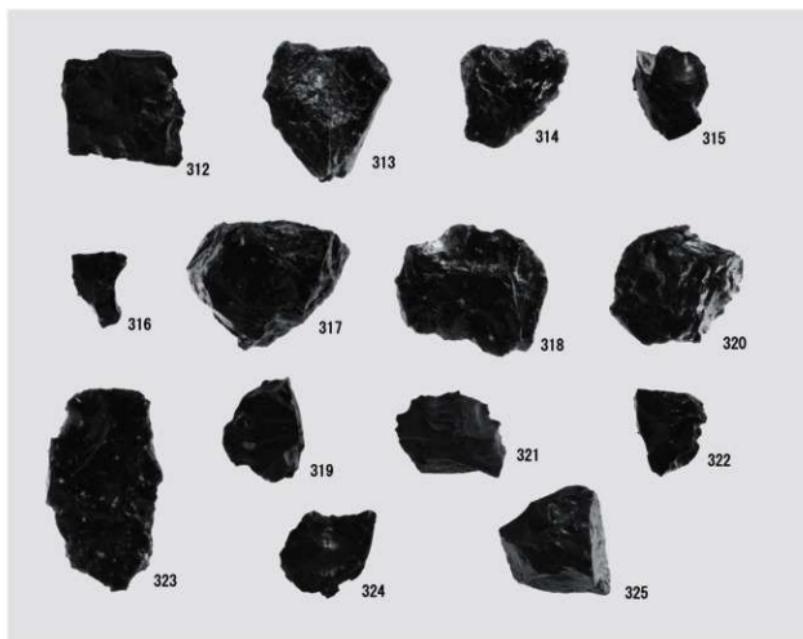




石匙、石槍、スクレイバー



石斧, スクレイバー, 石皿



石 核



328



329



333



336



335



337



332



338



339



330

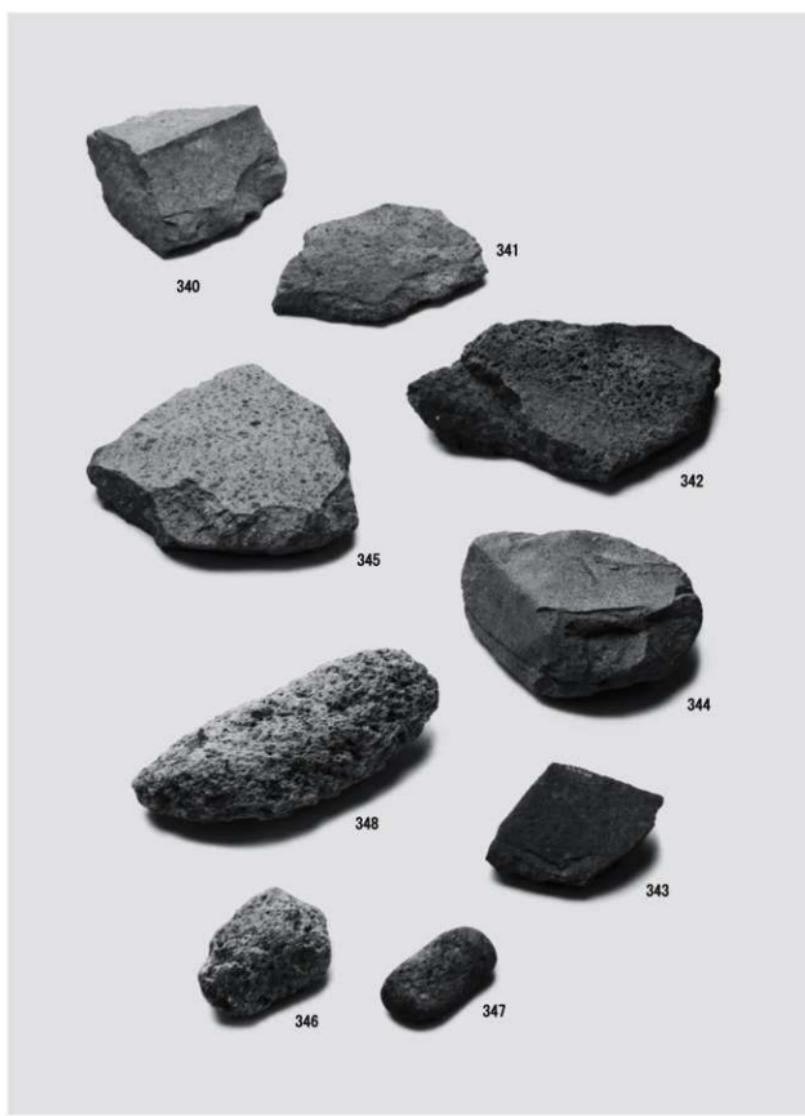


334

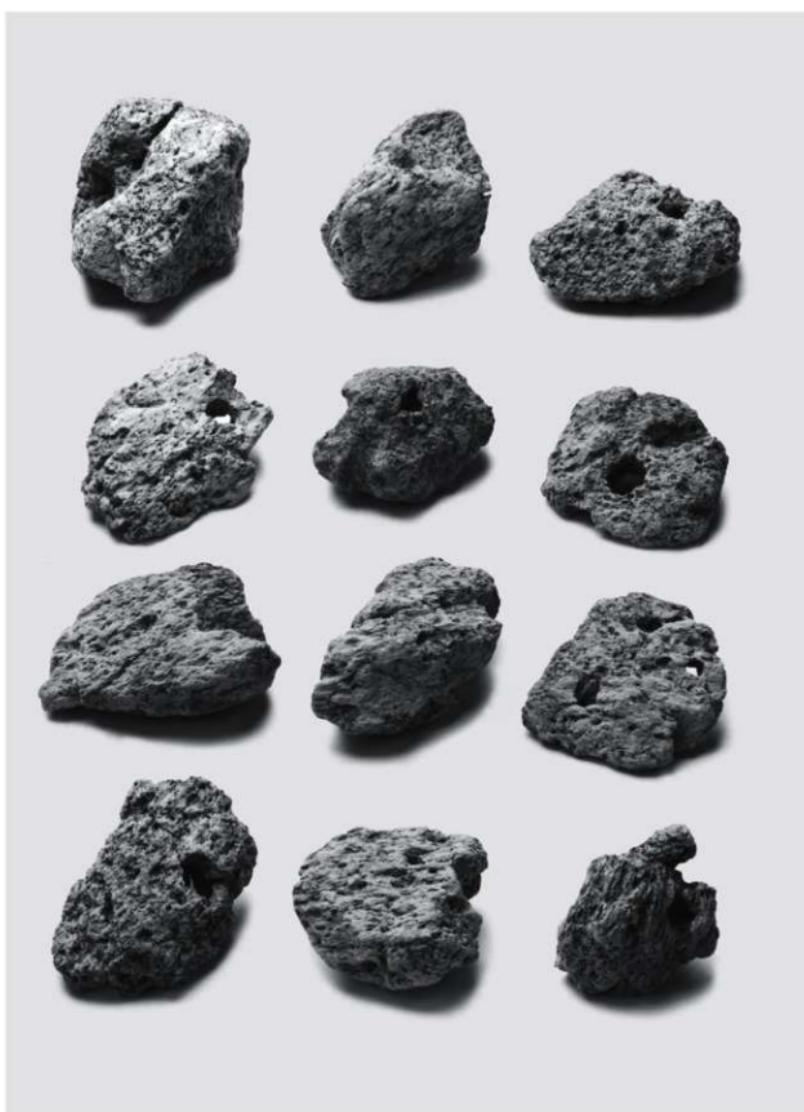


331

磨石，叩石，凹石



硃器、軽石製品



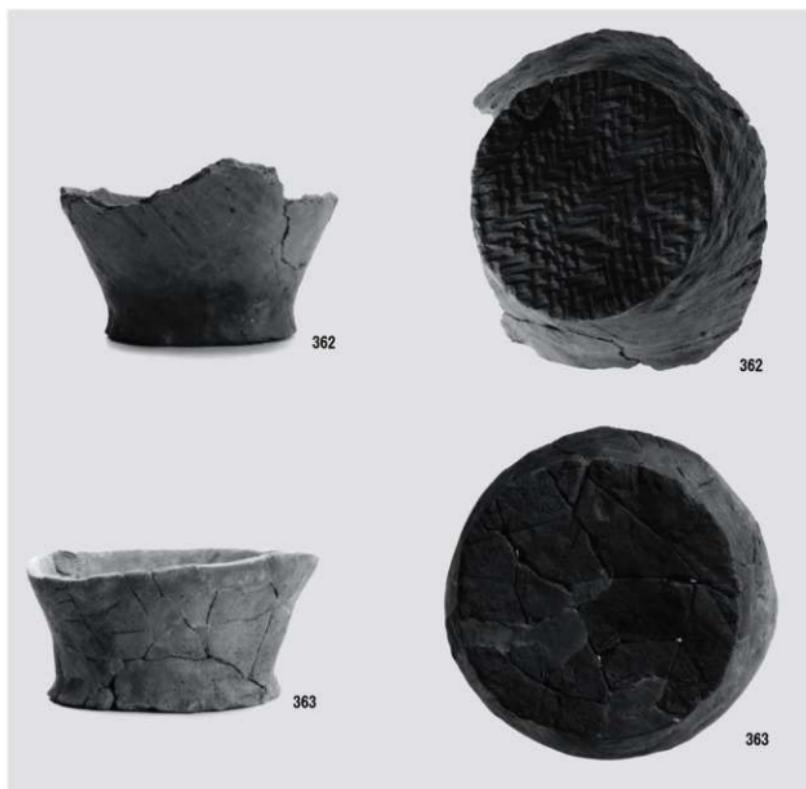
輕 石



IV, VII, VII類土器



縄文時代前～後期土器



1 縄文時代中～後期土器（底部）



2 土師器（墨書）

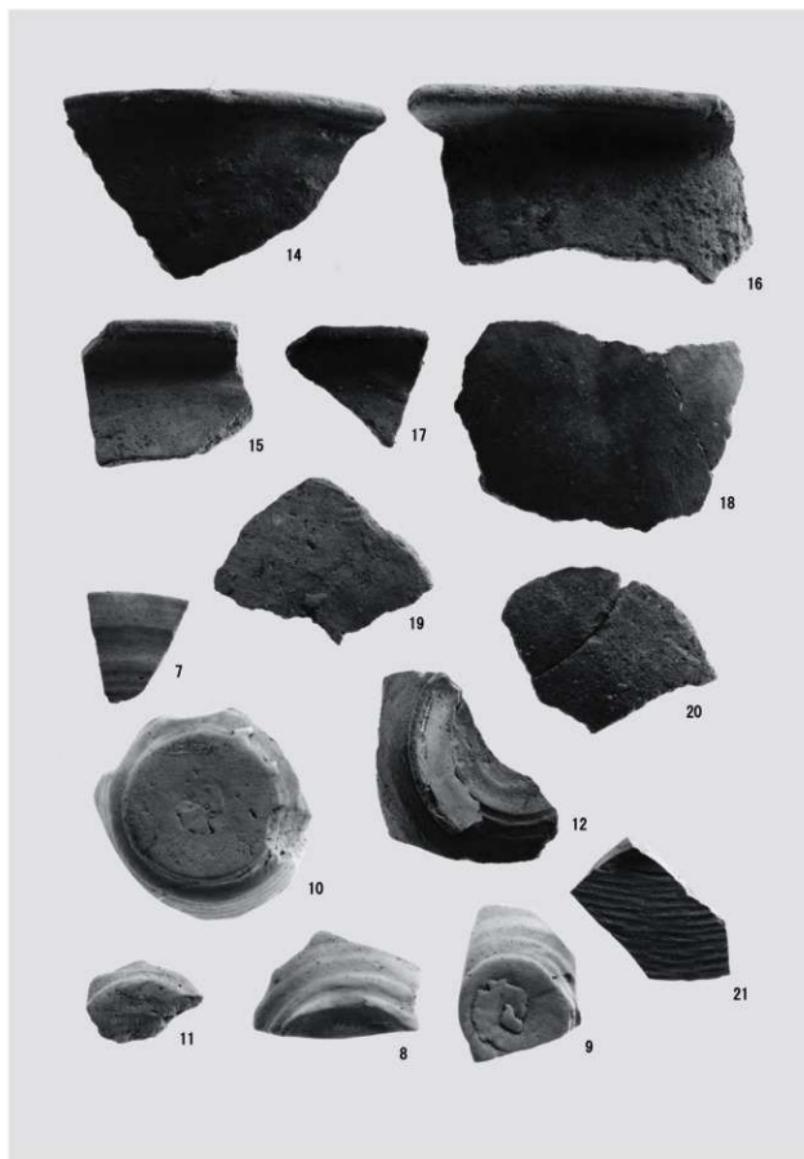


1

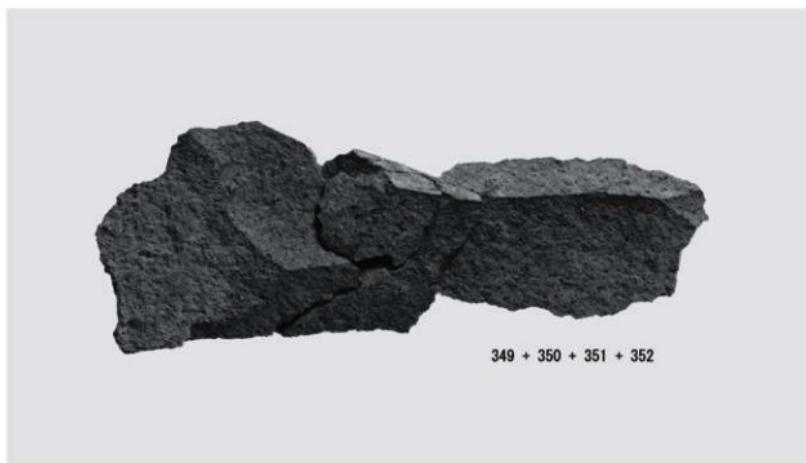


13

成川式土器・土師器



土器・須恵器



349 + 350 + 351 + 352

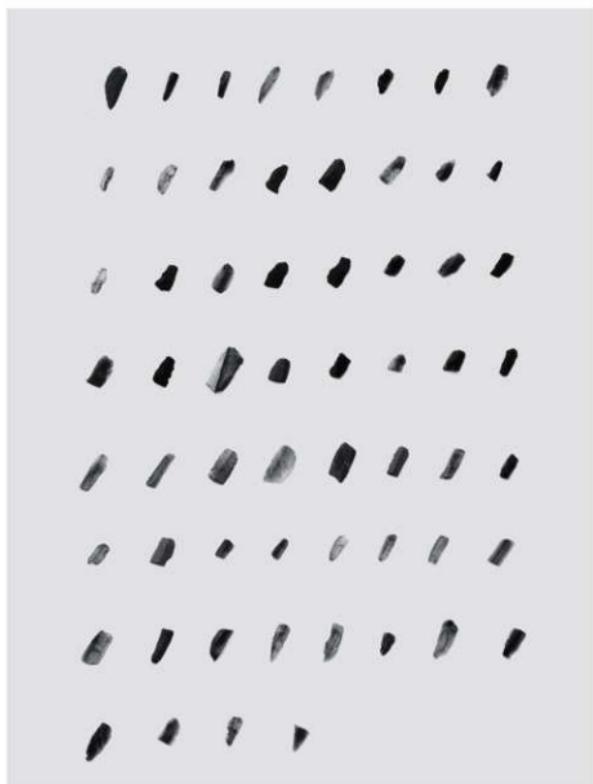
1 縄文時代早期接合石器



2 濱戸頭B遺跡ナイフ形石器

Plate 36

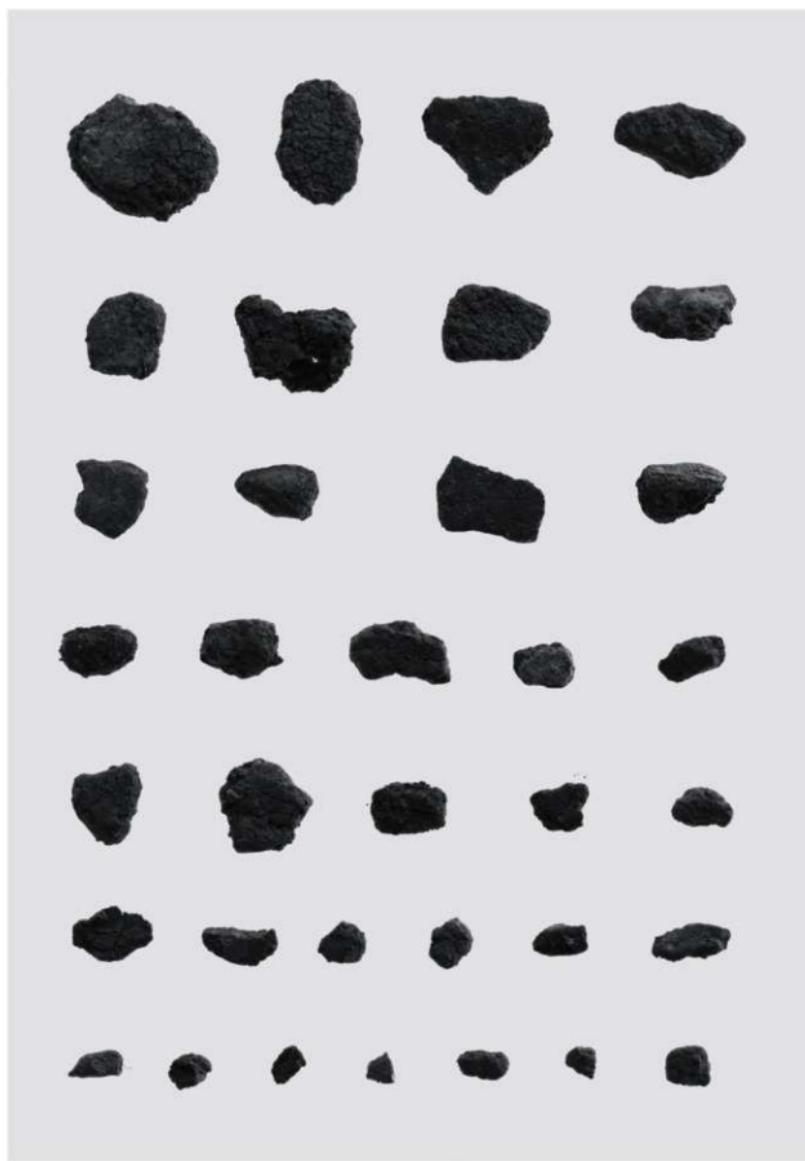
瀬戸頭B遺跡



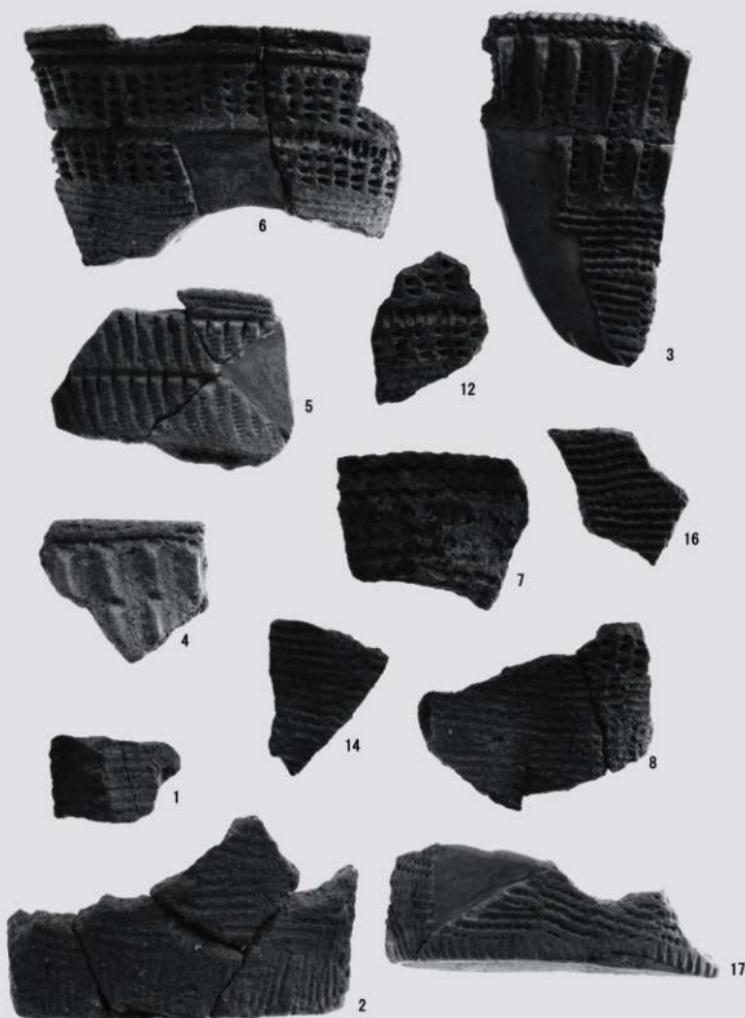
細石器



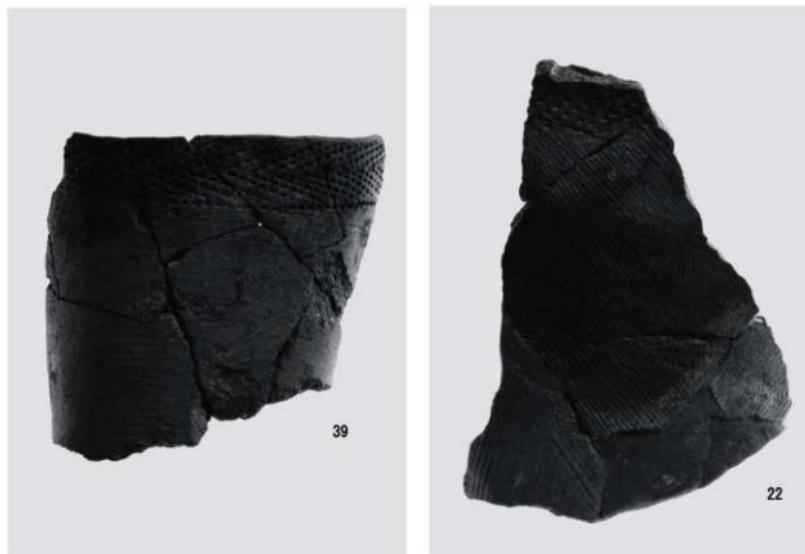
石錐、スクレイバー、叩石



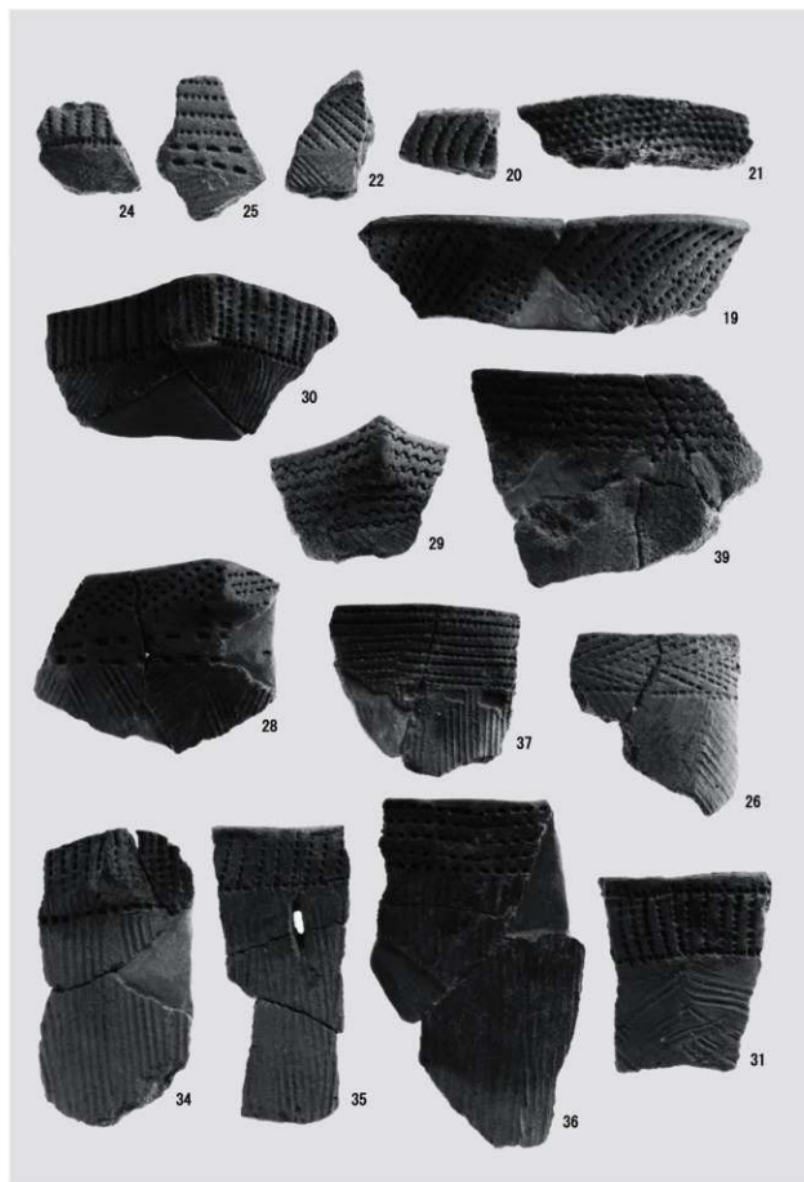
繩文草創期土器



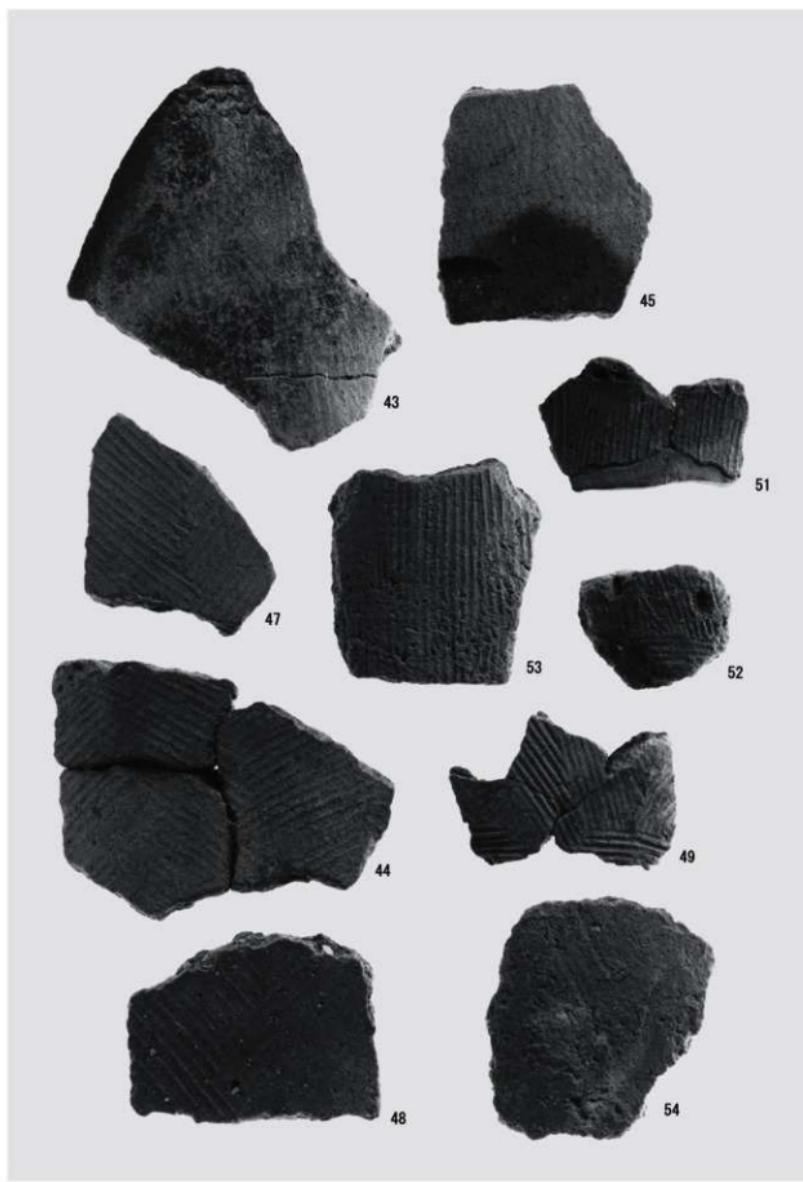
I, II類土器



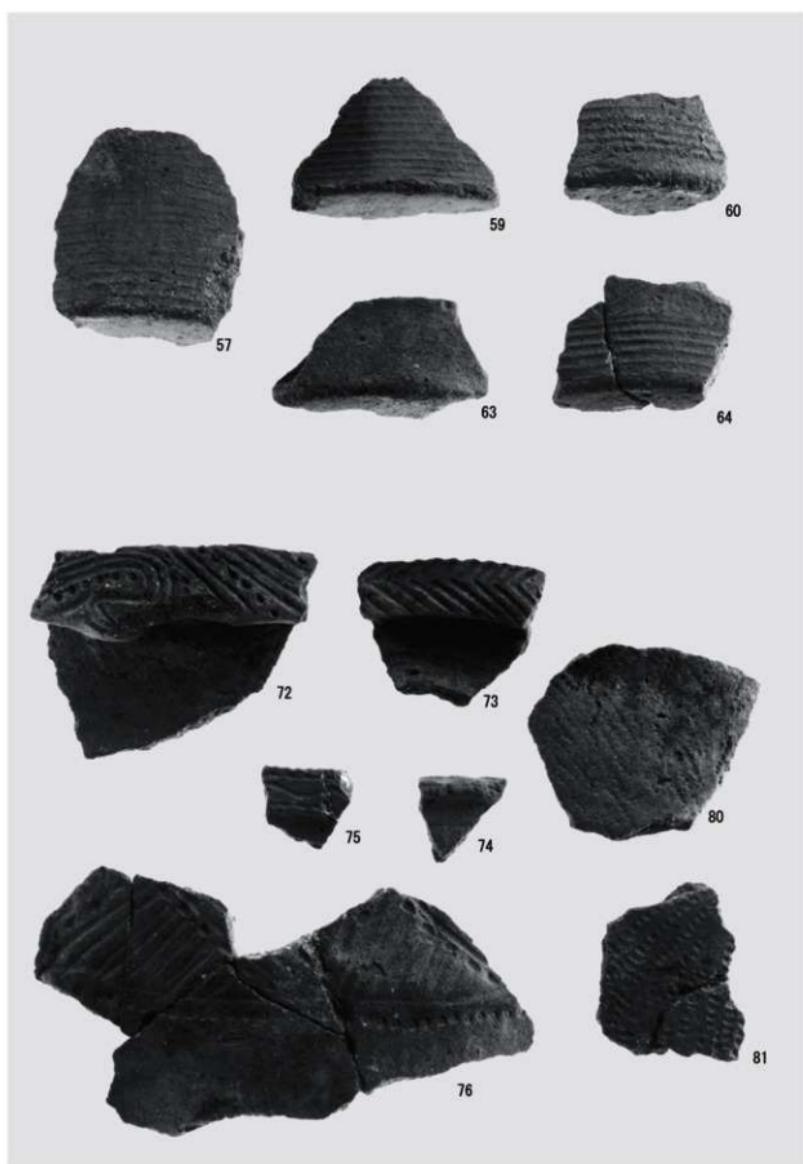
III類土器（1）



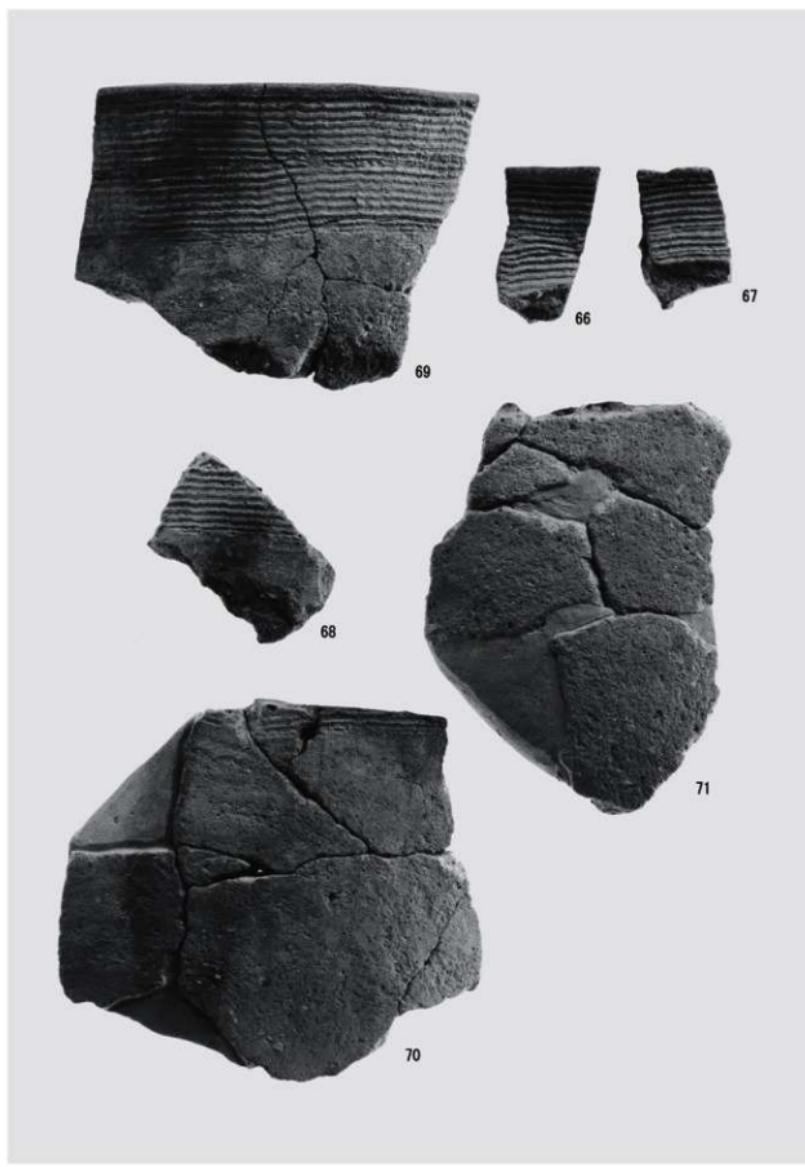
III類土器 (2)



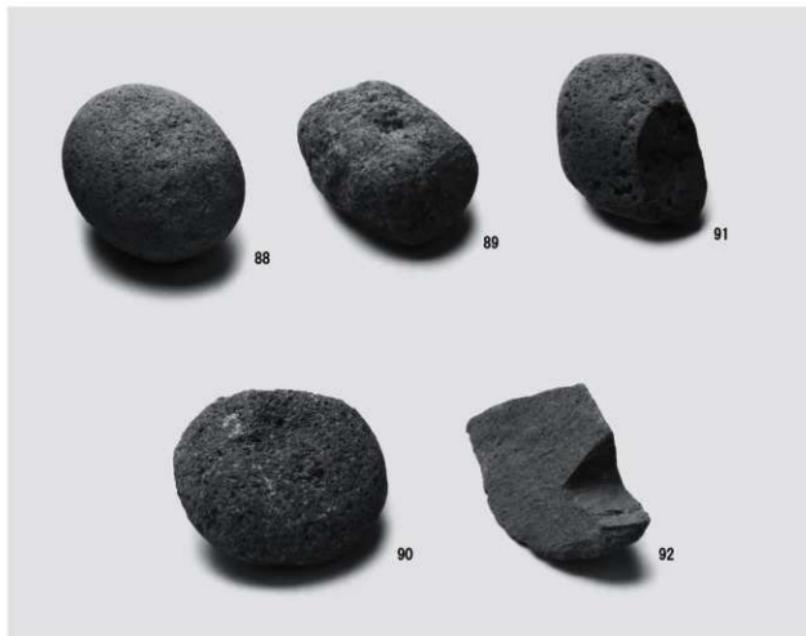
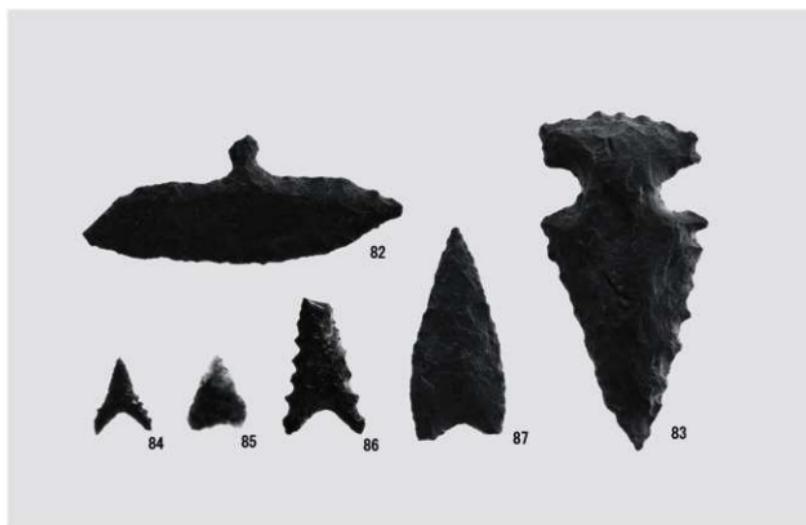
III類土器 (3)



III. V類土器



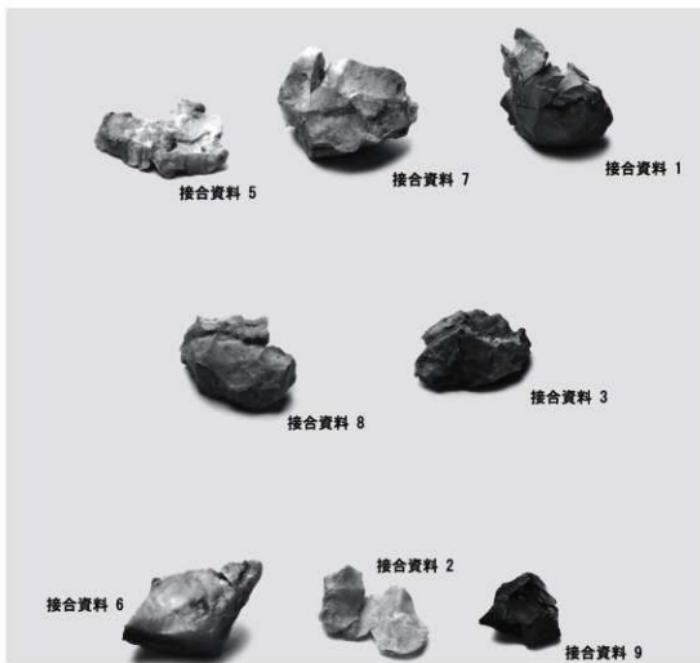
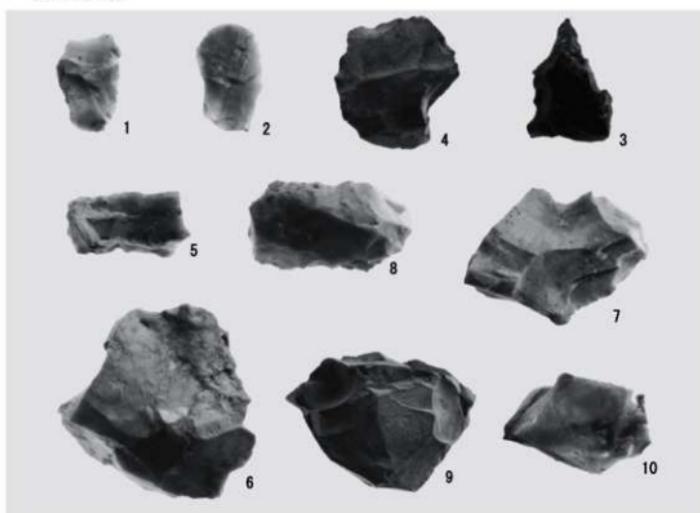
IV類土器



石匙，異形石器，叩石，礲器

Plate 46

瀬戸頭C遺跡



VII層出土遺物



1 発掘作業員



2 整理作業員

あとがき

整理作業に入って間もなく、発掘調査に参加していなかった自分にとって、初めて瀬戸頭A・B・C遺跡の実地調査をする機会がありました。遺跡があった場所は真新しい道路になっていました。その両脇には、切り立った土の壁が立ちはだかっています。遺跡が存在したのは、この道路の数m上になるのです。

瀬戸頭A・B・C遺跡は文字通り空中に消えてしまいました。そんな事を知ってか知らずか、車が通り過ぎていきます。旧石器時代から現代まで、多くの人がここを通り過ぎたことでしょう。報告書をつくる意味の重さを感じました。はたして、人々がのこしたものすべてを記録できたでしょうか。

この報告書がなんとか形になったのは、発掘調査から報告書刊行までに関わったすべての方々のご尽力によります。感謝を申し上げますとともに、皆様のご多幸をお祈りします。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第85集
—一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅱ)—
瀬戸頭(A・B・C) 遺跡

発行日 平成17年3月

発行者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1

Tel. 0995-48-5811

印刷 斯文堂株式会社

〒891-0122 鹿児島市南栄2-12-6

Tel. 099-268-8211